二　(一)　受信證ハ單一ノ電報ニ對シテハRノ次ニ受信電報ノ番號ヲ附シ之ヲ送ル例ヘバ「R 436」

(二)　受信證ハ爲替電報ニ關スルトキハ「R 436 mdt」ナル樣式ニ依リ之ヲ送ル

三　(一)　電報ノ連續ニ對シテハRノ次ニ受信電報ノ數竝ニ連續ノ最初及最終ノ番號ヲ送ル例ヘバ「R 5 157 980」

(二)　連續中ニ爲替電報ヲ包含スルトキハ受信證ハ爲替電報ノ番號ヲ表示シテ之ヲ補足ス卽「R 5 157 980 y compris 13 mdt 290 mdt」

四　傳送ガ繼續番號ヲ使用シテ爲サルルトキハ受信證ハ第四十條第一項第二節ニ規定スル場合ヲ留保シ同條第七項、第八項及第九項ニ規定スル樣式及條件ニ於テ之ヲ傳送ス

第四十六條　變異シタル電報ニ關スル手續

一　對手局ガ既ニ通過セシメタル電報ニ關スル校正及事項ノ問合ハ至急事務報(AD)ヲ以テ之ヲ爲ス

二　(一)　明瞭ナル變異ヲ包有スル電報ハ短時間內ニ校正ヲ爲スコトヲ得ザル場合ニ於テ之ヲ留置スルコトヲ得ズ該電報ハ額表ノ終尾ニ「CTE」ナル局用記事ヲ附シ遲滯ナク再送スルコトヲ要ス此ノ記事ハ校正ノ種類ニ關スル記事ヲ以テ之ヲ補足ス（例「CTE de」ハ四語目ガ校正セラルベキコトヲ示ス）電報ノ再送後直ニ至急事務報(AD)ヲ以テ其ノ校正ヲ請求ス

(二)　遲延シタル校正ハ明ニ至急事務報(AD)トシテ之ヲ指示スルコトヲ要ス

三　不通其ノ他一切ノ原因ニ因リ反覆又ハ受信證ヲ送リ又ハ受クルコトヲ得ザルコトアルモ此ノ事情ハ電報ヲ受信シタル局ニ於テ額表ノ終尾ニ「CTE」ナル局用記事ヲ附シ之ヲ通過セシムルコトヲ妨ゲズ但シ場合ニ依リ其ノ後ニ校正ヲ追送ス

四　不通ノ場合ニ於テ受信局ハ使用シ得ル他ノ直通線アルトキハ之ニ依リ然ラザルトキハ使用シ得ベキ最良ノ線路ニ依リ送達スル至急事務報(AD)ヲ以テ直ニ受信證ヲ送リ且場合ニ依リ未ダ終了セザル電報ノ補足ヲ請求ス

五　始メタル電報ノ取消ハ常ニ至急事務報(AD)ヲ以テ之ヲ請求シ又ハ通知スルコトヲ要ス

六　(一)　相當ノ時間內ニ電報ノ傳送ヲ完了シ得ザルトキ又ハ受信證ヲ受信セザルトキハ電報ハ爲替電報ニ關スル場合（第四十八條第三項第二節）ヲ除キ「Ampliation」ナル局用記事ヲ附シテ再ビ之ヲ傳送ス

(二)　右第二ノ傳送ガ電報ノ送達ニ付最初ニ用ヰタル線路以外ノ線路ニ依リ爲サルルトキハ此ノ重複傳送ノミヲ國際計算ニ算入ス此ノ場合ニ於テ送信局ハ國際計算ニ於ケル最初ノ電報ノ取消ノ爲事務報ニ依リ關係局ニ對シ必要ナル手續ヲ爲ス

〔海軍〕

第十一章　電報ノ送達

第四十七條　電報ノ經過線路

一　發信人ハ第二十七條第六項、第二十八條第三項ノ規定竝ニ左ノ第二項乃至第七項ノ規定ニ從ヒ其ノ電報ノ送達ニ對シ指圖ヲ爲スコトヲ得

二　電報ガ經過スルコトヲ得ル種種ノ線路ハ關係主管廳間ノ協定ヲ以テ決定セラレタル簡明ナル又ハ省略シタル指定ヲ以テ之ヲ指示ス斯ク決定セラレタル指定ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得任意ノ略語ハ之ヲ許サズ

三　經過線路ヲ指定セント欲スル發信人ハ其ノ類信紙ニ相當ノ指定ヲ記載ス發信人ハ經過線路ノ一部ノミヲ指定スルコトヲ得

四　發信人ガ經過線路ヲ指定シタルトキハ各局ハ其ノ指定ニ從フコトヲ要ス但シ指定セラレタル線路ガ不通ナルトキ又ハ著シク輻輳スルトキハ此ノ限ニ在ラズ此ノ場合ニ於テ發信人ハ他ノ線路ノ使用ニ對シ何等ノ異議ヲ申立ツルコトヲ得ズ

五　之ニ反シ發信人ガ何等ノ經過線路ヲ指定セザルトキハ線路ノ分岐點ニ在ル各局ハ電報ヲ傳送スベキ方向ヲ制定ス

六　電報ノ送達ガ同一主管廳ニ依リテ運用セラルル數箇ノ線路ニ依リ同一料金ヲ以テ行ハルルトキハ該主管廳ハ發信人ノ最良ノ利益ノ爲私報ヲ傳送スベキ方向ヲ判定ス此ノ場合ニ於テ發信人ハ特ニ此等線

〔陸軍〕

路ノ一ノ使用ヲ請求スルコトヲ得ズ

七　(一)　電報ノ送達ガ有線又ハ無線ニ依リ行ハレ得ルトキハ之ガ爲ニ使用セラルル線路ガ同一主管廳ニ依リ運用セラルルト否トヲ問ハズ發信人ハ電報ガ「有線」又ハ「無線」ニ依リ傳送セラルベキコトヲ之ニ關スル明瞭ナル記事ヲ類信紙ニ記載シテ請求スル權利ヲ有ス該記事ハ電信業務ニ於テハ之ヲ經過線路ノ指定（第四十一條(一)）ト看做ス此ノ記事ハ左ノ記事ノ一ヲ以テ額表ノ終尾ニ之ヲ傳送ス

「Sol」　發信人「有線」ニ依ル傳送ヲ請求スルトキ

「Anton」　發信人「無線」ニ依ル傳送ヲ請求スルトキ

課金吏員ハ右ノ記事ヲ電報類信紙ニ記載ス該記事ハ著信局迄之ヲ存置ス

(二)　「有線」ニ依ル傳送ヲ請求シタル官報ハ如何ナル場合ニ於テモ「無線」ニ依リ之ヲ傳送セズ但シ相當協議ノ上發信人ニ於テ「無線」ニ依ル傳送ヲ承認シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

(三)　「無線」ニ依ル傳送ヲ請求シタル官報ハ如何ナル場合ニ於テモ「有線」ニ依リ之ヲ傳送セズ但シ相當協議ノ上發信人ニ於テ「有線」ニ依ル傳送ヲ承認シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

(四)　「有線」ニ依ル傳送ヲ請求シタル其ノ他ノ電報ハ「有線」ガ不通トナリ近ク復舊ノ見込ナキ場合ニ非ザレバ「無線」ニ依リ之ヲ傳送セズ

（五）反對ニ「無線」ニ依ル傳送ヲ請求シタル其ノ他ノ電報ハ「無線電氣線路」ガ不通トナリ近ク復舊ノ見込ナキ場合ニ非ザレバ「有線」ニ依リ之ヲ傳送セズ

第十二章　電信通信ノ不通

第四十八條　迂回傳送、通則

一（一）電報ノ傳送中常用電信通信線路ニ不通ヲ生ズルトキハ以遠ニ不通ヲ生ジタル局又ハ一層後方ニ在ル局ニシテ迂回電信線路ヲ有スルモノハ直ニ此ノ線路ニ依リ（第八十六條第五項第三節及第六項）又然ラザルモノハ郵便（成ルベク書留書狀）若ハ別使ニ依リ電報ヲ發送ス電信ニ依ル傳送ノ費用以外ノ再送ノ費用ハ此ノ再送ヲ爲ス局ニ於テ之ヲ負擔ス郵便ニ依リ發送スル書狀ハ「Télégramme-exprès」ナル表記ヲ有スルコトヲ要ス

（二）例外ノ場合ニ於テ電報ノ電話傳送モ亦之ヲ許可ス尤モ右ハ關係主管廳間ニ於テ豫メ協定ヲ爲シタル後ニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

（三）本項ニ規定スル條件ニ於テ電信ニ依リ送達スル電報ニハ「dévié」ナル記事次ニ迂回傳送ヲ爲ス局名ヲ附スルコトヲ要ス此ノ記事ハ額表ノ終尾ニ又線路ノ指定アルトキハ該指定ノ次ニ之ヲ傳送ス

二（一）尤モ電報ハ不通ノ通知後最長二十四時間内ニ再送ヲ爲スベキ局ニ額信セラレ又ハ到著スルニ非ザレバ料金ノ一層高額ナル線路ニ依リ之ヲ再送セズ

（二）「dévié」ナル記事（第八十六條第五項）ヲ有スル最初ノ電報ノ傳送ハ之ヲ不通ノ正式ノ通告ト看做ス

三（一）電信以外ノ再送ノ方法ヲ使用スル局ハ事情ニ從ヒ電報ヲ再送スルコトヲ得ル第一ノ電信局若ハ著信局ニ宛テ又ハ此ノ再送ガ著信國ノ境域内ニ於テ爲サルルトキハ受信人ニ宛テ電報ヲ發送ス通信復舊スルトキハ直ニ電信線路ニ依リ再ビ電報ヲ傳送ス但シ先ニ受領ガ通知セラレタルトキ又ハ著シキ輻輳ニ因リ此ノ再送ガ明ニ業務ノ全般ヲ阻害スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ（第四十九條第七項）

（二）重複傳送ガ爲替電報ニ關スルトキハ該爲替電報ガ既ニ一度傳送セラレタルコトヲ通知シ且其ノ經過シタル線路ヲ指示スル事務報ニ依リ之ヲ爲ス

第四十九條　郵便ニ依ル迂回

一　原因ノ如何ヲ問ハズ郵便ニ依リ電信局ニ發送スル電報ニハ番號ヲ附シタル明細書ヲ添附ス此ノ發送ヲ爲ス局ハ又電信通信ガ許ストキハ之ヲ宛ツル局ニ發送シタル電報ノ數及發送ノ時刻ヲ指示スル事務報ニ依リ其ノ旨通知ス

二　郵便到著ノ際對手局ハ受領シタル電報數ガ通知セラレタル電報數ト一致スルヤヲ檢査ス此ノ場合ニ於テ對手局ハ明細書ニ受領ノ旨ヲ

〔海軍〕

認メ直ニ之ヲ發送局ニ反送ス電信通信ノ復舊後對手局ハ左ノ樣式ニ依ル事務報ヲ以テ此ノ受信證ヲ再送ス

「Reçu 63 télégrammes conformément au bordereau n°18 du 30 mars」

三　前項ノ規定ハ電信局ガ通知ヲ受クルコトナクシテ郵便ニ依リ電報ノ送付ヲ受ケタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

四　通知アリタル電報ノ送付ガ指示セラレタル便ニ依リ到著セザルトキハ直ニ發送局ニ其ノ旨通知スルコトヲ要ス發送局ハ事情ニ從ヒ電信通信ガ復舊シタルトキハ直ニ電報ヲ傳送シ又ハ何等カノ送達方法ニ依リ再度ノ送付ヲ爲スコトヲ要ス

五　第四十八條第三項第一節ニ規定スル場合ニ於テ電報ヲ直接ニ受信人ニ送達スルトキハ線路ノ不通ヲ示ス通知ヲ添附ス

六　既ニ郵便ニ依リ發送シタル電報ヲ電信ニ依リ再送スル局ハ電報ヲ宛テタル局ニ左ノ樣式ニ依リ記載シタル事務報ヲ以テ其ノ旨通知ス

「Berlin paris 15 1045（日附及時刻）＝Télégrammes n°s....réexpédiés par ampliation」

七　第四十八條第三項及本條第六項ニ掲グル重複ノ電信再送ハ額表ノ終尾ニ傳送スル「Ampliation」ナル局用記事ニ依リ之ヲ指示スルコトヲ要ス

八　右局用記事ハ再度傳送スル電報ノ額表中ニ之ヲ記載ス

第十三章　電報ノ取消

第五十條　傳送前又ハ送達中ノ取消

一　電報ノ發信人又ハ其ノ代理人ハ其ノ資格ヲ證明シ時機ニ遲レザルトキハ其ノ電報ノ傳送及交付ヲ停止スルコトヲ得

二　傳送開始前發信人ガ其ノ電報ヲ取消ストキハ料金ハ發信主管廳ノ利得ニ於テ最高限一「フラン」（一「フラン」）ノ料金ヲ控除シテ之ヲ還付ス

三　電報ガ發信局ニ依リ傳送セラレタルトキハ發信人ハ第八十條ニ規定スル條件ニ於テ發シ且著信局ニ宛テタル課金事務報ニ依ルニ非ザレバ其ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ズ發信人ハ其ノ選擇ニ從ヒ取消ノ事務報ニ對スル電信ノ回答又ハ郵便ノ回答ノ費用ヲ支拂フコトヲ要ス此ノ事務報ハ其ノ原電報ニ追達スル迄成ルベク原電報ヲ中繼シタル局ニ逐次之ヲ電送ス此ノ電報ガ受信人ニ交付セラレタル場合ニ於テハ課金事務報ニ反對ノ記事アルトキヲ除クノ外受信人ニ電報ノ取消ヲ通知ス

四　電報ヲ取消シ又ハ受信人ニ取消ノ通知ヲ交付スル局ハ發信局ニ其ノ旨通知ス此ノ通知ハ電報ガ配達前取消スコトヲ得タルヤ又ハ既ニ交付セラレタルヤニ從ヒ「annulé」又ハ「remis」ナル語辭ヲ以テ之ヲ指示ス此ノ通知ハ發信人ガ取消ノ事務報ニ對スル電信ノ回答ノ料金

〔海軍〕

ヲ支拂ヒタルトキハ電信ニ依リ之ヲ爲ス反對ノ場合ニ於テハ完納書狀トシテ郵便ニ依リ之ヲ送付ス

五　電報ガ著信局ニ到著スル前取消サルルトキハ發信局ハ原電報ノ料金、取消ノ事務報ノ料金及場合ニ依リ支拂ヒタル電信ノ回答ノ料金中ヨリ經過シタル區間ニ對スル原電報ノ料金、取消ノ事務報ノ料金及場合ニ依リ電信ノ回答ノ料金ヲ控除シテ之ヲ發信人ニ還付ス

第十四章　電報ノ停止

第五十一條　權限アル局、停止ノ通告

一　條約第二十六條ニ規定スル取締ハ極端又ハ中繼ノ電信局ニ於テ之ヲ爲ス但シ中央主管廳ニ經伺スルコトヲ得該主管廳ハ之ニ對シ最終ノ裁決ヲ爲ス

二　官報、人命ノ安全ニ關スル電報及局報ハ必ズ之ヲ傳送ス電信局ハ此等ノ電報ニ對シテハ何等ノ取締ヲ爲サズ

三　第三者ノ通信ヲシテ發信局ト終極ノ著信局トノ間ニ於ケル中間ノ再送ナキ傳送ニ對シ課セラルベキ料金ノ全額ノ支拂ヲ免レシムル目的ヲ以テ公然組織セラレタル電報再送業者ニ宛ツル電報ハ著信局ニ於テ必ズ之ヲ停止スルコトヲ要ス尤モ直ニ發信局ヘ其ノ旨通知スルコトヲ要ス

四　(一)　主管廳及私企業ハ其ノ各自ノ局ニ於テ線路（郵便、電信電話其ノ他）ノ如何ヲ問ハズ外國ヨリ受領シタル電報ニシテ該通信ノ全經過ニ對シ課セラルベキ全額ノ料金ノ支拂ヲ免ルル爲電信ニ依リ再送セラレントスルモノヲ該局ニ於テ停止スベキコトヲ約ス

(二)　停止ハ該電報ノ發信國ノ主管廳ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第十五章　名宛ヘノ交付

第五十二條　交付ノ各場合

一　電報ハ其ノ名宛ニ從ヒ住所（私宅、事務所、建物等）ニ又ハ郵便局留置（＝Gare＝）若ハ電信局留置（＝Poste＝）トシテ之ヲ交付ス電報ハ又第十五條第五項ニ規定スル場合ニ於テハ電話ニ依リ又ハ私設電信線ニ依ル傳送方法ヲ許ス主管廳ガ規定スル條件ニ於テ右私設電信線ニ依リ之ヲ受信人ニ傳送ス

二　電報ハ第七十六條第九項及第七十七條第十二項ニ揭グル場合ヲ除キ其ノ受信及其ノ先順位ノ順序ニ從ヒ之ヲ名宛ニ交付シ又ハ發送ス

三　(一)　電信局ノ受持ツ地方ニ於ケル住所ニ宛テタル電報ハ直ニ其ノ名宛ニ之ヲ送達ス尤モ＝Poste restante＝ナル課金指定ヲ有スル電報ハ夜間之ヲ配達セズ夜間受信シタル電報ハ＝Exprès＝ナル課金指定ヲ有スルトキニ限リ局ノ開局時間ノ範圍內ニ於テ直ニ之ヲ配達スルコトヲ要ス

(二)　主管廳ハ航海又ハ航空中ノ人命ノ安全ニ關スル電報及官報ヲ直ニ配達セシムルコトヲ要ス又主管廳ハ著信局ニ於テ至急ノ性質ヲ有スト認ムルトキハ＝Exprès＝ナル指定ヲ有セザル私報ヲ局ノ開局時間ノ範圍內ニ於テ直ニ配達セシムルコトヲ要ス

四　(一)　住所ニ送達シタル電報ハ受信人、其ノ成年ノ家族、其ノ一切ノ使用人、其ノ間借人若ハ家主又ハ旅館若ハ居宅ノ守衞ニ之ヲ交付スルコトヲ得但シ受信人ガ書面ヲ以テ特別ノ代理人ヲ指定シタルトキ又ハ發信人ガ名宛ノ前ニ「Mains Propres」若ハ＝MP＝ナル課金指定ヲ記載シテ交付ハ受信人ニ直渡スルノ外之ヲ爲サザルコトヲ請求シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ此ノ後ノ場合ニ於テ他ノ一切ノ交付方法（郵便、電話、私設電信線）ハ之ヲ使用セズ

(二)　「Mains Propres」ナル指定ハ著信局ニ於テ表書ニ全部文字ヲ以テ之ヲ記載ス該局ハ配達人ニ必要ナル指示ヲ與フ

五　發信人ハ又名宛ノ前ニ＝Ouvert＝ナル課金指定ヲ記載シテ無線ニテ電報ヲ交付スルコトヲ請求スルコトヲ得

六　「本人直渡」及「無線」ノ交付方法ハ之ヲ取扱ハザルコトヲ宣言スル主管廳ニ於テハ義務的ニ非ズ

七　「郵便局留置」トシテ寄託シ又ハ郵便ニ依リ發送スルコトヲ要スル電報ハ第六十二條ニ規定スル條件ニ於テ著信電信局ニ於テ直ニ之ヲ郵便ニ付ス

八　「郵便局留置」ト指定セラレ又ハ郵便ニ依リ交付スル電報ノ交付及保管期間ニ關シテハ郵便物ト同一ノ規則ニ從フ

九　著信局ノ屬スル主管廳ハ「郵便局留置」又ハ「電信局留置」トシテ交

間ノ範圍內ニ於テ直ニ配達セシムルコトヲ要ス

四　(一)　住所ニ送達シタル電報ハ受信人、其ノ成年ノ家族、其ノ一切ノ使用人、其ノ間借人若ハ家主又ハ旅館若ハ居宅ノ守衞ニ之ヲ交付スルコトヲ得但シ受信人ガ書面ヲ以テ特別ノ代理人ヲ指定シタルトキ又ハ發信人ガ名宛ノ前ニ「Mains Propres」若ハ＝MP＝ナル課金指定ヲ記載シテ交付ハ受信人ニ直渡スルノ外之ヲ爲サザルコトヲ請求シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ此ノ後ノ場合ニ於テ他ノ一切ノ交付方法（郵便、電話、私設電信線）ハ之ヲ使用セズ

(二)　「Mains Propres」ナル指定ハ著信局ニ於テ表書ニ全部文字ヲ以テ之ヲ記載ス該局ハ配達人ニ必要ナル指示ヲ與フ

五　發信人ハ又名宛ノ前ニ＝Ouvert＝ナル課金指定ヲ記載シテ無線ニテ電報ヲ交付スルコトヲ請求スルコトヲ得

六　「本人直渡」及「無線」ノ交付方法ハ之ヲ取扱ハザルコトヲ宣言スル主管廳ニ於テハ義務的ニ非ズ

七　「郵便局留置」トシテ寄託シ又ハ郵便ニ依リ發送スルコトヲ要スル電報ハ第六十二條ニ規定スル條件ニ於テ著信電信局ニ於テ直ニ之ヲ郵便ニ付ス

八　「郵便局留置」ト指定セラレ又ハ郵便ニ依リ交付スル電報ノ交付及保管期間ニ關シテハ郵便物ト同一ノ規則ニ從フ

九　著信局ノ屬スル主管廳ハ「郵便局留置」又ハ「電信局留置」トシテ交付スル電報ニ對シ配達ノ特別附加料金ヲ受信人ヨリ徵收スル權能ヲ有ス受信人ガ附加料金ヲ支拂フコトヲ拒絕スルトキハ郵便局ハ發信人ヨリ附加料金ヲ徵收スル爲電信局ニ其ノ旨通知シ電信局ハ發信局ニ之ヲ通知ス

【海軍】

十　電報ガ「電信局留置」ト指定セラルルトキハ電信局窓口ニ於テ受信人又ハ其ノ正當代理人ニ之ヲ交付ス此等ノ者ハ要求アルトキハ本人ニ相違ナキコトヲ證明スルコトヲ要ス

十一　船舶ノ入港後直ニ其ノ乘客ニ交付スベキ電報ハ成ルベク上陸前之ヲ配達ス之ヲ爲シ得ザルトキ又ハ此ノ交付ガ費用（例ヘバ乘船ノ）ヲ要スルトキハ電報ハ船舶所有者ノ代表者ニ之ヲ配達ス

第五十三條　不交付及遲延交付

一　(一)　電報ヲ交付スルコトヲ得ザルトキハ著信局ハ不交付ノ原因ヲ通知スル事務報ヲ速ニ發信局ニ送付ス其ノ本文ハ左ノ樣式ニ依リ之ヲ記載ス

＝625 quinze Delorme 212 rue Vain（受信シタル記事ト全然一致スル電報ノ番號、全部文字ニ於ケル日附及名宛）refusé, destinataire inconnu, parti（場合ニ依リ「réexpédié poste a....」（第六十條第三項）ナル記事ヲ附ス）décédé, pas arrivé, adresse plus enregistrée（又ハ adresse non enregistrée）等

必要ト認ムルトキハ事務報ニ反復セラレタル名宛ハ著信局ノ指示ヲ

包有ス場合ニ依リ此ノ事務報ハ拒絶ノ事由(第二十三條第一項)又ハ發信人ヨリ取立ツルコトヲ要スル費用(第五十九條及第六十二條)ノ指示ヲ以テ之ヲ補足ス

(二)「郵便局留置」又ハ「電信局留置」ト指定シタル電報ニシテ該電報ノ保管期間滿了迄ニ受信人ヨリ交付ノ請求ナキモノニ付テハ不交付ノ事務報ヲ發送セズ徴收スベキ料金アル電報ニ限リ完納普通書狀ヲ以テ前揭第一節ノ規定ニ依ル不交付ノ事務報ヲ發送ス

二 (一) 發信局ハ名宛ノ正否ヲ檢査ス名宛ガ變異シタルトキハ左ノ樣式ニ依リ記載スル事務報ヲ以テ直ニ之ヲ校正ス

「425 quinze (電報ノ番號及全部文字ニ於ケル日附) pour……(校正シタル名宛)」

(二) 場合ニ從ヒ此ノ事務報ハ爲サレタル誤謬ヲ訂正スルニ適當ナル「faites suivre à destination」又ハ「annulez télégramme」等ノ記事ヲ包有ス此ノ後ノ場合ニ於テハ取消ヲ請求シタル局ハ自ラ正當ナル名宛ニ電報ヲ傳送スルコトヲ要ス

(三) 不交付ノ事務報ガ最後ノ中繼局ニ到著シタル際發信局ガ閉局後ナルトキハ該中繼局ハ原電報ノ中繼原書ニ依リ名宛ノ正否ヲ檢査シ誤謬ヲ認メタルトキハ該局ハ第一節ニ指示スル樣式ニ依リ其ノ校正ヲ著信局ニ傳送ス此ノ場合ニ於テ該局ハ成ルベク速ニ發信局ニ其ノ旨及校正事務報ノ趣旨ヲ通知ス

三 (一) 名宛ガ變異セザリシトキハ發信局ハ成ルベク發信人ニ不交付ノ事務報ヲ通知ス

(二) 右事務報ヲ通知セザルコトアルモ之ニ因リ電報ニ對シ支拂ハレタル料金ノ還付請求權ヲ發生セズ

四 (一) 不交付ノ事務報ハ原電報ノ發信人ガ自己宛ノ電報ヲ電信ニ依リ自己ニ再送セラレンコトヲ請求シタルトキ(第六十條)ニ非ザレバ電信ニ依リ之ヲ再送セズ他ノ一切ノ場合ニ於テ發信人分明ナルトキハ再送ハ完納書狀トシテ郵便ニ依リ之ヲ爲ス

(二) 不交付ノ事務報ノ發信人ヘノ傳送ハ特別ノ送達方法ニ依ル交付(例ヘバ田舍ヘノ交付ニ關スルトキ)ガ取立ノ確實ナラザル費用ヲ伴フトキハ又郵便ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得

五 不交付ノ事務報ノ受信人ハ第八十條ニ規定スル條件ニ於テノミ原電報ノ名宛ヲ補足、校正又ハ確認スルコトヲ得

六 (一) 不交付ノ事務報ノ發送後受信人ガ電報ヲ請求スルトキ又ハ著信局ガ前揭第二項及第五項ニ規定スル校正ノ事務報ノ一ヲ受領スルコトナクシテ電報ヲ交付スルコトヲ得ルトキハ該局ハ左ノ樣式ニ依リ記載スル第二ノ事務報ヲ發信局ニ傳送ス

「29 onze」(番號及全部文字ニ於ケル日附) Mirane (受信人名) réclamé 又ハ remis」

(二) 此ノ第二ノ事務報ハ交付ガ電信受信報知ニ依リ通知セラルルトキハ之ヲ傳送セズ

(三) 發信人ガ不交付ノ通知ヲ受領シタルトキハ交付ノ事務報ハ之ヲ發信人ニ通知ス

七 指示セラレタル名宛ニ於テ門扉ガ開カレザルトキ又ハ配達人ガ受信人ニ代リ電報ヲ受領スルコトヲ承諾スル者ヲ發見セザルトキハ指示セラレタル住所ニ通知書ヲ殘シ置キ電報ハ受信人又ハ其ノ代理人ニ其ノ請求ニ依リ交付スル爲之ヲ局ニ持戻ル尤モ交付上特別ノ注意ヲ要セザル電報ハ受信人ノ住所ニ關シ何等ノ疑ナキトキハ受信人ノ書狀函ニ之ヲ投入ス

八 第七項ノ條件ニ於テ電報ノ到著ヲ通知セラレタル受信人ガ四十八時間內ニ其ノ交付ヲ請求セザルトキハ本條第一項ノ規定ニ從ヒ處理ス

九 著信局ニ於ケル受信ノ日ニ次グ四十二日ノ期間內ニ受信人ニ交付スルコトヲ得ザル一切ノ電報ハ第五十二條第八項、第六十五條第十項及第十一項ノ規定ノ留保ノ下ニ之ヲ棄却ス

十 不交付ノ事務報又ハ傳送中ノ電報ニ關スル事務報ノ記載ニ付テハ本規則附屬書第一號ノ略語ヲ使用スルヲ可トス

第十六章　特別電報

第五十四條　總則

一 例章ノ規定ハ本章ニ規定スル變更ヲ留保シ全部之ヲ特別電報ニ適用ス

二 本章各條ノ適用上至急電報、返信料前納、照校電報、受信報知、追尾電報、同文電報及線路以遠ニ於テ交付スベキ電報ニ付公衆ニ附與シタル利便ハ之ヲ結合スルコトヲ得

第五十五條　至急私報

一 (一) 私報ノ發信人ハ名宛ノ前ニ「Urgent」又ハ＝D＝ナル課金指定ヲ記載シ且同一經過ニ對スル同一ノ長サノ通常電報ノ料金ノ二倍ヲ支拂ヒ傳送及著信地ニ於ケル交付ノ先順位ヲ獲得スルコトヲ得

(二) 同樣ニ至急隱語電報ノ料金ハ同一經過ニ對スル同一ノ長サノ通常隱語電報ノ料金ノ二倍トス

二 至急私報ハ他ノ私報ニ對シ先順位ヲ有ス其ノ相互間ノ先順位ハ第三十六條第三項ニ規定スル條件ニ於テ之ヲ定ム

三 前諸項ノ規定ハ主管廳ニシテ其ノ通信線路ヲ經過スル電報ノ一部又ハ全部ニ之ヲ適用スルコトヲ得ザル旨ヲ宣言スルモノニ對シテハ義務的ニ非ズ

四 中繼ニ於テノミ至急私報ヲ受理スル主管廳ハ傳送ガ其ノ領土ヲ通ジテ直通ナル線條ニ於テ又ハ其ノ再送局ニ於テ同一地發同一地宛ノ電報中ニ之ヲ許スコトヲ要ス該主管廳ニ歸屬スル中繼料ハ經過ノ他ノ部分ニ對スル如ク之ヲ二倍ス

五 (一) 歐羅巴外制度ノ電報ニ於テ一部ノ經過ニ對スル至急ハ關係主

管廳ガ此ノ點ニ關シ協定ヲ爲シタルトキハ之ヲ許ス此ノ權能ヲ利用セントスル發信人ハ名宛ノ前ニ＝PU＝ナル課金指定ヲ記載シ且至急トシテ傳送スベキ經過ニ對シ二倍ノ料金ヲ支拂フ

(二)　一部至急隱語電報ノ料金ハ第二十六條第三項(イ)ノ規定ノ留保ノ下ニ同一ノ經過ニ對スル同一ノ長サノ一部至急私報ノ料金ノ十分ノ六ニ等シ

第五十六條　返信料前納電報、前納證券ノ使用又ハ料金還付

一　電報ノ發信人ハ名宛ノ前ニ「Réponse payée」又ハ ＝RP＝ナル課金指定ヲ記載シ返信ニ對シ支拂フ「フラン」及「サンチーム」ニ於ケル金額ノ記事ヲ以テ之ヲ補足シテ其ノ對手者ニ請求スル返信ノ料金ヲ納付スルコトヲ得〔「Réponse payée ....」又ハ ＝RPx＝(例＝RP 3,00＝, ＝RP 3,05＝, ＝RP 3,40＝)〕

二　著信地ニ於テ著信局ハ請求電報ニ指示セラルル價格ニ等シキ價格ノ前納證券ヲ受信人ニ交付ス此ノ前納證券ハ之ヲ發行シタル局ガ屬スル主管廳ノ何レノ局ヨリモ又移動局ニ宛テタル無線電報ニ付テハ該前納證券ヲ發行シタル局ヨリ其ノ價格ノ制限內ニ於テ何レノ著信地ヘモ特別業務ヲ伴ヒ又ハ伴ハザル電報ヲ發送スル權能ヲ附與ス

三　(一)　前納證券ヲ以テ料金ヲ納付スル電報ノ料金ガ此ノ證券ノ價格ヲ超過スルトキハ料金ノ超過額ハ證券ヲ使用スル發信人ニ於テ之ヲ支拂フコトヲ要ス反對ノ場合ニ於テハ前納證券ノ價格ト實際ノ所要料金額トノ差額ハ還付ノ請求ガ前納證券發行ノ日ヨリ六月ノ期間內ニ於テ爲サレ且該差額ガ少クトモ二「フラン」(二「フラン」)ニ等シキトキハ原電報ノ發信人ニ之ヲ還付ス

(二)　此ノ還付ハ原電報ノ著信主管廳ノ計算ニ於テ之ヲ爲ス但シ第八十三條ニ從ヒ簡易ナル手續ヲ適用スルコトヲ得ルトキハ此ノ限ニ在ラズ

(三)　前納證券ノ價格ガ之ヲ發行シタル主管廳ニ於テ第二十六條第三項(ロ)ノ規定ニ依リ課スルコトアルベキ電報ノ最低限料金ニ達セズ且返信電報ノ料金額ガ右最低限料金ニ達セザルトキハ返信ノ發信人ハ其ノ差額ヲ支拂フコトヲ要ス

四　前納證券ハ其ノ發行ノ日ニ次グ三月ノ期間內ニ限リ電報ノ料金納付ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得

五　受信人ガ前納證券ヲ拒絕シ又ハ何等カノ理由ニ依リ之ヲ使用セズ且該證券ガ局ニ返還セラレタル場合ニ於テハ此ノ前納證券ノ金額ハ電報ノ發信人又ハ受信人ヨリ證券ノ有效期間內ニ請求アルトキハ之ヲ發信人ニ還付ス

六　受信人ヲ發見スルコト能ハザル爲前納證券ヲ受信人ニ交付スルコト能ハザル場合ニ於テハ其ノ金額ハ有效期間滿了前ニ請求アルトキ之ヲ發信人ニ還付ス此ノ場合ニ於テハ著信局ハ前納證券ヲ取消シ電報ニハ其ノ旨ヲ附記シ規定ノ期間內之ヲ保存ス

〔海軍〕

第五十七條　照校電報

一　照校ハ傳送ノ正確ノ保證ヲ增大スルコトヲ目的トス照校ハ電報(額表ヲ含ム)ノ全部ノ反覆及此ノ反覆ト該電報ノ額表及內容トノ對照ヨリ成ル

二　(一)　電報ノ發信人ハ其ノ照校ヲ請求スル權能ヲ有ス之ガ爲發信人ハ同一著信地ニ對スル同一線路ニ依ル同一ノ長サノ通常電報ノ料金ノ二分ノ一ニ等シキ附加料金ヲ支拂ヒ名宛ノ前ニ「Collationnement」又ハ＝TC＝ナル課金指定ヲ記載ス

(二)　隱語電報ノ照校ニ對スル附加料金ハ通常隱語電報ノ料金ノ二分ノ一トス

三　暗語ヲ以テ記載シタル官報及局報ハ職權ヲ以テ且無料ニテ之ヲ照校ス(第七十八條第八項及第七十九條第十項)

四　照校ハ使用スル傳送ノ方式ニ從ヒ受信局又ハ送信局ヨリ之ヲ爲ス(第四十四條第一項、第二項及第三項)

五　照校ハ傳送ノ交番中ニ之ヲ加ヘズ

第五十八條　受信報知電報

一　發信局ニ於ケル手續

一　(一)　電報ノ發信人ハ其ノ電報ガ其ノ對手者ニ交付セラレタル日及時刻ヲ交付後直ニ電信又ハ郵便ニ依リ自己ニ通知セラルベキコトヲ請求スルコトヲ得

(二)　發信人ニ於テ通知ガ電報ニ依リ爲サルルコトヲ請求スルトキハ之ガ爲同一著信地ニ對スル同一線路ニ依ル六語ノ通常電報ノ料金ニ等シキ料金ヲ支拂フコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ發信人ハ名宛ノ前ニ「Accusé de réception」又ハ ＝PC＝ ナル課金指定ヲ記載ス隱語電報ノ受信報知ニハ一切ノ場合ニ於テ全額料金ヲ適用ス

(三)　發信人ニ於テ此ノ通知ガ郵便ニ依リ爲サルルコトヲ請求スルトキハ四十「サンチーム」(〇「フラン」四〇)ノ料金ヲ支拂ヒ名宛ノ前ニ「Accusé de réception postal」又ハ ＝PCP＝ ナル課金指定ヲ記載ス

二　電信又ハ郵便ノ受信報知ガ電報ノ發信局ニ到著シタルトキハ直ニ之ヲ該電報ノ發信人ニ通知ス

二　著信局ニ於ケル手續

三　受信報知ハ其ノ關係スル電報ノ種類ニ拘ラズ通常ノ局報トシテ之ヲ取扱フ

四　額表ハ發信番號、語數及賴信時刻ノ指示ヲ包有セズ受信報知ハ左ノ樣式ニ於テ之ヲ傳送ス

CR Paris Berne ＝ 469 vingtdeux Brown (原電報ノ番號、全部文字ニ於ケル日附、該電報ノ受信人名) remis vingtcinq 1025(全部文字ニ於ケル日附、時及分)

五　(一)　電報ガ郵便又ハ受信人ノ通常ノ住所ニ在ル人以外ノ媒介者ノ

〔海軍〕

氣傳ニ委託セラレタルトキハ受信報知ニ其ノ旨ヲ記載ス

例「Remis poste 又ハ Hotel 又ハ Gare 等 vingt-cinq 1925」

(二) 電報ガ郵便ニ依リ終極ノ著信地ニ發送セラレ、郵便局留置トシテ寄託セラレ、電話若ハ私設電信線ニ依リ交付セラレ又ハ媒介者ノ氣付ニ交付セラルルトキハ前ニ揭ゲタル通知ハ此ノ發送、寄託又ハ交付ノ日及時刻ヲ指示ス

(三) 無線電報又ハ信號電報ニ關スルトキハ海岸局又ハ信號局ニ於テ受信報知ヲ發送シ且移動局(無線電報ノ場合)又ハ船舶(信號電報ノ場合)ヘノ傳送ノ日及時刻ヲ指示ス

例「Transmis station mobile (又ハ navire) vingt-cinq 1925」

六 郵便受信報知ハ電信受信報知ト同一ノ事項ヲ包有ス郵便受信報知ハ電報ノ著信局ニ於テ「Accusé de réception」ナル表書ヲ有スル料金完納ノ封皮ニ納メ之ヲ發信局ニ送付ス

七 (一) 受信報知電報ヲ交付スルコトヲ得ザルトキハ通常電報ノ場合ノ如ク不交付ノ事務報ヲ發信局ニ送付ス受信報知ハ之ヲ作成セズ

(二) 爾後電報ノ保管期間(第五十三條第九項)內ニ受信人ニ電報ヲ交付シ得タルトキハ直ニ受信報知ヲ作成シ之ヲ傳送ス

(三) 電報ガ交付セラレザリシトキハ保管期間ノ滿了後電信受信報知ノ料金ハ發信人ニ其ノ請求ニ依リ之ヲ還付スルコトヲ得

(四) 郵便受信報知ノ料金ハ之ヲ還付セズ

第五十九條　發信人ノ指圖ニ依ル追尾電報

一 一切ノ發信人ハ名宛ノ前ニ「Faire suivre」又ハ =FS= ナル課金指定ヲ記載シ著信局ガ其ノ電報ヲ追送スルコトヲ請求スルコトヲ得

二 (一) 追尾電報ノ發信人ニハ電報ガ再送セラルルトキハ著信ノ際取立テラレザリシ再送ノ料金ヲ支拂フコトヲ要スル旨ヲ豫告スルコトヲ要ス

(二) =FTF= 又ハ =FC= ナル課金指定ノ一ヲ有スル追尾電報ヲ再送スルコトヲ要スルトキハ再送局ハ第六十條第五項ノ規定ヲ適用ス

三 電報ガ他ノ名宛記事ナクシテ =FC= ナル課金指定ヲ有スルトキハ著信局ハ場合ニ依リ第五項ニ規定スル條件ニ從ヒ受信人ノ住所ニ於テ指示セラルル新名宛ヲ記載シテ電報ヲ新著信地ニ追送ス電報ガ交付セラルル迄又ハ新名宛ガ指示セラレザルニ至ル迄同樣ニ處理ス

四 =FC= ナル課金指定ガ逐書シタル名宛ヲ伴フトキハ電報ハ指示セラレタル各名宛ニ必要アラバ其ノ最後ノ名宛迄之ヲ傳送シ最後ノ局ハ場合ニ依リ第六項ノ規定ニ從フ

五 (一) 再送セラルル電報ノ額表ニ指示スベキ發信地、續信ノ日附及時刻ハ最初ノ發信地、續信ノ日附及時刻トス著信地ハ電報ガ先ヅ發送セラルルコトヲ要スル宛地トス

(二) 名宛中住所ヘノ交付ノ記事ニシテ既ニ試ミタル送達ニ關聯ス

〔海軍〕

ルモノハ之ヲ削除シ =FC= ナル指定ノ次ニ電報ガ既ニ經由シタル各著信地名ノミヲ存置ス

例ヘバ發信ノ際 =FS= Haggis chez Dekeysers Londres=Hôtel Tarbet Tarbet =North British Hotel Edinbourg ト記載セラレタル電報ノ名宛ハ第二再送地ナル Tarbet ヨリハ左ノ樣式ニ依リ之ヲ記載ス

=FS= de Londres, Tarbet = Haggis North British Hotel Edinbourg.

(三) 再送毎ニ新ニ語數ヲ計算シ之ニ依リ額表ヲ變更ス

六 (一)(三) 交付ヲ爲シ得ザルトキ又ハ新名宛ガ指示セラレザルトキハ最後ノ著信局ハ第五十三條第一項ニ規定スル不交付ノ事務報ヲ發送ス此ノ事務報ハ受信人ヨリ取立ツルコトヲ得ザリシ再送ノ費用額ヲ通知スルコトヲ要ス事務報ハ左ノ樣式ニ依ル

「a35 vingtième Paris Julien (番號、全部文字ニ於ケル日附、最初ノ發信局名、受信人名) réexpédié p.... (新名宛) inconnu, refusé 等(不交付ノ事由) percevoir...(取立テラレザリシ料金額)」

(二) 此ノ事務報ハ最後ノ再送ヲ爲シタル局ガ場合ニ依リ必要ナル校正ヲ爲シ得ル爲之ヲ誂局ニ宛ツ傳送ガ正確ナルトキハ此ノ局ハ右事務報ヲ發信局ニ傳送ス發信局ハ電報ノ發信人ヨリ再送ノ料金額ヲ取立テ不交付ノ事務報ヲ之ニ通知ス

(三) 他方ニ於テ最後ノ著信局ハ第五十三條第九項ノ規定ニ從ヒ電報ヲ保管ス

七 (一) 追尾電報ニ對シ發信ノ際徵收スベキ料金ハ全部ノ名宛ヲ語數ニ算入シテ單ニ第一ノ經過ニ屬スル料金トス補足料金ハ受信人ヨリ之ヲ徵收ス該料金ハ各再送ノ際傳送スル語數ヲ考慮シテ之ヲ計算ス

(二) 追尾電報ガ =FC= ナル課金指定ヲ有スルトキハ照校ニ適用スル料金ハ各再送毎ニ他ノ再送ノ費用ト共ニ積算ス

(三) 受信人ガ再送ノ費用ノ支拂ヲ拒絕スルトキト雖電報ヲ交付シ事務報ヲ以テ發信局ヘ支拂拒絕ノ旨及發信人ヨリ取立ツベキ費用額ヲ通知ス

八 名宛ニ指示セラレタル第一ノ局及爾後ノ各局ニ於テハ第一以後ノ經過ニ對シ受信人ヨリ徵收スベキ料金ヲ各再送ノ際加算スルコトヲ要ス其ノ合計額ハ之ヲ額表ニ指示ス

九 (一) 右記事ハ之ヲ「Percevoir...」ト記載ス著信局ノ屬スル國ノ境域內ニ於テ再送ヲ爲ストキハ受信人ヨリ徵收スベキ補足料金ハ各再送ニ對シ此ノ國ノ內國料金表ニ從ヒ之ヲ計算ス此ノ境域外ニ再送ヲ爲ストキハ補足料金ハ各國際再送ヲ各別ノ電報ト看做シテ之ヲ計算ス各再送ニ對スル料金ハ再送スル國ト電報ガ再送セラルル國トノ間ニ交換スル通信ニ適用スル料金トス

(二)　電話電報ノ再送ノ料金ハ低減料金(第十條第四項)ヲ基礎トシテ之ヲ計算ス再送電話電報ニハ「CD」ナル局用記事ヲ存置ス

第六十條　受信人ノ指圖ニ依ル再送電報

一　何人タリトモ必要ナル證明ヲ爲シ自己ニ宛テ電信局ニ到著スル電報ガ其ノ指示スル新名宛ニ於ケル自己ニ電信ニ依リ再送スルコトヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ニ從ヒ之ヲ處理ス然レドモ名宛ノ前ニ「TC」ナル指定ヲ記載スル代リニ「Retardé de:…」(再送局名)ナル課金指定ヲ記載ス

二　再送ノ請求ハ書面、課金事務報又ハ郵便(第八十條第九項)ニ依リ之ヲ爲スコトヲ要ス該請求ハ受信人ニ於テ自ラ又ハ受信人ニ代リ電報ヲ受領スルコトヲ得ル者トシテ第五十二條第四項第一節ニ掲グル者ノ一ニ於テ受信人ノ名ヲ以テ之ヲ爲ス此ノ請求ヲ爲ス者ハ配達局ニ於テ取立ツルコトヲ得ザル料金ヲ支拂フコトヲ約ス

三　(一)　各主管廳ハ何等特別ノ指定ヲ記載セザル電報ヲ受信人ノ住所ニ於テ爲サレタル指示ニ從ヒ電信ニ依リ再送スル權能ヲ留保ス

(二)　「TC」ナル指定ヲ有セザル電報ノ受信人ノ住所ニ於テ電信ニ依リ再送スルコトノ指圖ヲ爲スコトナクシテ新名宛ガ指示セラルルトキハ主管廳ハ此ノ電報ノ謄寫ヲ郵便ニ依リ追送スルコトヲ要ス但シ該廳ガ之ヲ保管スルコトヲ請求セラレタルトキ又ハ該廳ガ職權ヲ以テ電信ニ依ル再送ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラズ

(三)　郵便ニ依ル再送ハ第六十二條ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲ス郵便ニ依リ謄寫ヲ追送スル電報ニ關シテハ通常ノ不交付ノ事務報(第五十三條)ヲ發送スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ「Réexpédié poste a:…(新著信地)」ナル記事ヲ不交付ノ事務報ニ附記ス

四　(一)　受信人ニ於テ電信ニ依リ再送シタル電報ノ再送ノ費用ノ支拂ヲ拒絕スルトキ又ハ他ノ事由ニ因リ之ヲ交付スルコトヲ得ザルトキハ最後ノ著信局ハ第五十三條第一項ニ規定スル不交付ノ事務報ヲ送付ス此ノ事務報ハ左ノ樣式ニ依ル

「ADS vinginet, Paris Julien (番號、全部文字ニ於ケル日附、最初ノ發信局名、受信人名) réexpédié a:… (新名宛) inconnu, refusé 等(不交付ノ事由)percevoir:… (取立テラレザル料金額)」

(二)　右事務報ハ各再送局ヲシテ場合ニ依リ必要ナル校正ヲ爲サシメ且電報ヲ受信シタルトキノ名宛ヲ附記セシムル爲先ヅ最後ノ再送ヲ爲シタル局ニ宛テ次ニ其ノ前ノ局ニ宛テ引續キ順次各再送局ニ之ヲ傳送ス

(三)　場合ニ依リ關係局ハ取立テラレザル料金ヲ再送ノ指圖ヲ爲シタル各實任者ヨリ徵收スルコトヲ要ス

(四)　事務報ハ發信人ニ通知スル爲最後ニ之ヲ發信局ニ傳送ス發信人ニ對シテハ再送ノ費用ヲ請求セズ

五　(一)　著信局ガ返信料前納ノ電報ヲ電信ニ依リ再送スルコトヲ要ス

(二)　又至急電報ハ受信人又ハ其ノ代理人ノ請求ニ依リ「D」ナル指定ヲ削除シタル後通常電報トシテ之ヲ再送スルコトヲ得

八　第七項第一節ニ規定スル場合ニ於テ又ハ第六項ニ掲グル權能ヲ行使スル場合ニ於テ第五十九條第九項ニ掲グル「Perseoir……」ナル記事ハ「Pays repris」ナル記事ヲ以テ之ニ代フ

第六十一條　同文電報

一　(一)　一切ノ電報ハ同一地方若ハ同一電信局ガ受持ツ諸地方ニ於ケル數多ノ受信人又ハ同一地方若ハ同一電信局ガ受持ツ諸地方ニ於ケル數多ノ住所ニ在ル同一受信人ニ之ヲ宛ツルコトヲ得之ガ爲發信人ハ名宛ノ前ニ「M nimes」又ハ「TEXTE」ナル課金指定ヲ記載ス著信局名ハ名宛ノ終尾ニ一回限リ之ヲ記載ス

(二)　數多ノ受信人ニ宛テタル電報ニ於テ取引所、停車場、市場等ノ如キ交付ノ場所ニ關スル記事ハ各受信人名ノ後ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス又數多ノ住所ニ在ル同一受信人ニ宛テタル電報ニ於テハ受信人名ハ各交付ノ場所ノ記事ノ前ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

二　課金指定ノ使用ハ第十四條第二項ノ規定ニ依ル

三　(一)　同文電報ハ一通ノ電報トシテ課金セラレ一切ノ名宛ハ語數ノ計算ニ之ヲ算入ス

(二)　尙一切ノ種類ノ同文電報ニ付テハ每語ノ料金ノ外ニ課金語五十語ヲ超過セザル各謄寫ノ作成ニ對シ一「フラン」(一「フラン」ノ料

ルトキハ該局ハ受信シタル通ニ「TC」ナル指定ヲ名宛ノ前ニ存置ス前納證券ヲ發行シタルトキハ之ヲ取消ス

(二)　返信ニ對シ支拂ハレタル料金ハ再送主管廳ニ於テ電報ガ再送セラルル主管廳ノ貸付ニ之ヲ記入ス

(三)　著信局ガ郵便ニ依リ返信料前納ノ電報ノ謄寫ヲ再送スルコトヲ要スルトキハ該局ハ該謄寫ニ前納證券ヲ添附ス(本條第三項第二節)

(四)　受信報知ガ再送電報ニ關スル場合ニ於テハ前納シタル料金額ハ電報ノ再送ヲ通知スル受信報知ニ之ヲ充當ス該受信報知ハ左ノ樣式ニ依リ之ヲ記載ス

「CB Madrid Taris=524 onze Regel Paris réexpédié Londres douze 0840)」

六　本條第一項、第二項及第七項第二節ニ規定スル場合ニ於テ電報ヲ追送スル者ハ電報ヲ唯一ノ地方ニ宛テ他ノ地方ヘノ再送ヲ指定セザルトキハ自ラ再送ノ料金ヲ支拂フ權能ヲ有ス

七　(一)　電報ヲ特定ノ一著信地ニ再送シ他ノ地方ヘノ再送ヲ指定セザルトキハ此ノ電報ヲ追送スルコトノ指圖ヲ爲ス者ハ至急ニテ再送ヲ爲スコトヲ請求スルコトヲ得然レドモ此ノ場合ニ於テハ同人ハ自ラ二倍ノ料金ヲ支拂フコトヲ要ス此ノ請求ニ應ズル局ハ追送スベキ電報ノ名宛ニ「D」ナル課金指定ヲ附記ス

金ヲ徴收ス

(三)　課金語五十語ヲ超過スル謄寫ニ付テハ料金ハ最初ノ五十語ニ對シ一「フラン」(一「フラン」)追加ノ毎五十語又ハ五十語ノ端數ニ對シ五十「サンチーム」(〇「フラン」五〇)トス

(四)　各謄寫ニ對スル料金ハ其ノ包有スベキ語數ヲ考慮シテ各別ニ之ヲ計算ス作成スベキ謄寫ノ數ハ名宛ノ數ニ等シ

四　(一)　同文電報ノ各通ハ之ニ專屬スル名宛ノミヲ記載スベク＝TMx＝ナル課金指定ハ之ニ記載セザルコトヲ要ス但シ發信人ガ反對ノ請求ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ此ノ請求ハ課金語數ニ算人シ且＝CTA＝ト記載スルコトヲ要ス

(二)　＝CTA＝ナル課金指定ヲ有スル謄寫ヲ電信ニ依リ再送スルコトヲ要スルトキハ該謄寫ニハ之ニ專屬スル名宛ノミヲ記載ス他ノ名宛ハ署名ノ次ニ又署名ヲ缺クトキハ本文ノ次ニ之ヲ傳送シ「reçu avec…… adresse (s)」ナル指示ヲ前置ス

五　謄寫ニ於テハ電報ノ額表中ニ示ス語數ハ各謄寫ノ包有スル語數ヲ考慮シテ之ヲ變更ス

第六十二條　別使又ハ郵便ニ依リ交付スベキ電報

一　通則

一　國際電氣通信線路ノ設備アル地方ニ宛ツル電報ハ當該地方ノ屬スル國ノ電信局ノミヨリ郵便ニ依リ之ヲ送達スルコトヲ得

二　(一)　國際電氣通信線路ノ設備ナキ地方ニ宛ツル電報ハ著信地ノ屬スル國ノ電信局ヨリ郵便ニ依リ又ハ別使若ハ航空郵便業務ガ存在スルトキハ之ニ依リ著信地ヘ交付スルコトヲ得

(二)　然レドモ右交付ハ著信國ガ國際電氣通信線系ニ接續セラレザル場合又ハ當該地方ガ著信國ノ電氣通信線系ニ依リ到達シ得ザル場合ニ於テハ他ノ國ノ電信局ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

二　別使ニ依リ交付スベキ電報

三　別使トハ電報ノ交付ガ其ノ無料配達區域外ニ於テ爲サルル場合ニ於テ郵便ヨリ一層迅速ナル一切ノ交付ノ方法ヲ指ス

四　電報ノ交付ニ對シ別使ニ依ル送達ノ業務ヲ組織シタル主管廳ハ發信ノ際支拂フベキ送達ノ費用額ヲ聯合事務局ノ媒介ニ依リ公表ス此ノ額ハ一國ヲ通ジ均一ノ定額料金ナルコトヲ要ス尤モ主管廳ヨリ要求アルトキハ或局ニ對シ別使ノ特別料金ヲ聯合事務局ノ局名錄中當該局名ノ部ニ之ヲ記載スルコトヲ得

五　(一)　別使ニ依ル送達ニ對シ公表セラレタル定額料金ヲ支拂ハント欲スル發信人ハ電報ノ名宛ノ前ニ「Exprès payé」又ハ＝XP＝ナル課金指定ヲ記載ス

(二)　發信人ニ於テ別使ノ費用ガ受信人ヨリ徴收セラルルコトヲ欲スルトキハ其ノ電報ニ＝Exprès＝ナル課金指定ヲ附ス

六　＝Exprès＝ナル課金指定ヲ有シ且一度配達ニ付シタル電報ガ交付セラレザルトキハ著信局ハ第五十三條第一項ニ規定スル不交付ノ事務報ニ「percevoir XP」(關係主管廳ガ公表シタル別使ノ費用ノ定額)ナル記事ヲ附記ス

三　郵便ニ依リ交付スベキ電報

七　國際通信線路以遠ノ地方ニ宛ツル電報ヲ郵便ニ依リ送達セント欲スル發信人ハ電報ノ名宛ノ前ニ左ノ課金指定ヲ記載スルコトヲ要ス

＝Poste＝　電報ヲ普通書狀トシテ送達スルトキ

＝P R＝　電報ヲ書留書狀トシテ送達スルトキ

＝PAV＝　電報ヲ航空郵便ニ依リ送達スルトキ

八　其ノ局以遠ニ電報ヲ郵便ニ依リテ送達スルコトヲ要スル電信局ノ名稱ハ終極ノ著信地名ノ直後ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス例ヘバ「Poste(又ハ＝PR＝)Lorenzini Poggiovalle Teramo」ナル名宛ハ電報ガ「Teramo」電信局ヨリ郵便ニ依リ電信設備ナキ地方タル「Poggiovalle」ニ於ケル受信人ニ再送セラルルコトヲ示ス

九　郵便ニ依リ交付スベキ電報ニハ左ニ掲グル附加料金ヲ課ス

(イ)　著信國ノ境域内ニ於テ配達スベキ電報

第一　＝Poste＝ナル課金指定ヲ有スル電報　附加料金ナシ

第二　＝P R＝ナル課金指定ヲ有スル電報　四十「サンチーム」(〇「フラン」四〇)

第三　＝PAV＝ナル課金指定ヲ有スル電報　普通書狀ノ空輸ニ對スル附加料金

第四　＝PR＝及＝PAV＝ナル課金指定ヲ有スル電報　四十「サンチーム」(〇「フラン」四〇)及普通書狀ノ空輸ニ對スル附加料金

(ロ)　電信上ノ著信國以外ノ國ニ再送スベキ電報(第六十二條)

第一　＝Poste＝ナル課金指定ヲ有スル電報　四十「サンチーム」(〇「フラン」四〇)

第二　＝PR＝ナル課金指定ヲ有スル電報　八十「サンチーム」(〇「フラン」八〇)

第三　＝PAV＝ナル課金指定ヲ有スル電報　四十「サンチーム」(〇「フラン」四〇)及普通書狀ノ空輸ニ對スル附加料金

第四　＝PR＝及＝PAV＝ナル課金指定ヲ有スル電報　八十「サンチーム」(〇「フラン」八〇)及普通書狀ノ空輸ニ對スル附加料金

〔海軍〕

十　著信電信局ハ左ノ場合ニ於テ郵便ヲ使用スルコトヲ得

(イ)(イ)　電報ニ於テ使用スベキ送達方法ノ指定ヲ缺クトキ

(ロ)　指示セラレタル方法ガ著信主管廳ニ於テ採用シ且公表シタル方法ト異ルトキ

(ハ)　別使ニ依ル送達ノ使用ヲ支拂フコトヲ嘗テ拒絶シタル受信人ニ於テ支拂フベキ別使ニ依ル送達ニ關スルトキ

十一　左ノ場合ニ於テハ著信局ニ於テ郵便ヲ使用スル義務アリ

(イ)(一)　發信人(第七項)又ハ受信人(第六十條)ニ於テ明ニ其ノ請求ヲ爲シタルトキ

(二)　尤モ著信局ハ受信人ガ別使ニ依リ其ノ電報ヲ受領スルノ意思ヲ表示シタルトキハ「Poste」ナル指定ヲ有スル電報ニ對シテモ別使ヲ使用スルコトヲ得

(ロ)　著信局ガ一層迅速ナル方法ヲ有セザルトキ

十二　郵便ニ依リ宛名ニ送達スルコトヲ要ス且著信電信局ニ於テ郵便ニ付スル電報ハ左ノ規定ニ從ヒ之ヲ取扱フ

(イ)　著信國ノ境域内ニ於テ配達スベキ電報

第一　=Poste= 若ハ =GP= ナル課金指定ヲ有スルモノ又ハ郵便ニ依ル送付ニ關シ何等ノ課金指定ヲ有セザルモノハ發信人又ハ受信人ノ孰ニモ費用ヲ課スルコトナク普通書狀トシテ之ヲ郵便ニ付ス尤モ郵便局留置電報ニハ配達ノ特別附加料金ヲ課ス(第五十二條第九項)

第二　=PR= 又ハ =GPR= ナル課金指定ヲ有シテ到著スルモノハ必要アラバ正當ニ料金ヲ納付シタル書留書狀トシテ之ヲ郵便ニ付ス

第三　=PAV= ナル課金指定ヲ有シテ到著スルモノハ飛行機ニ依リテ送達スベキ普通書狀ニ適用セラルル附加料金額ニ相當スル郵便切手ヲ貼付シ之ヲ航空郵便業務ニ交付ス

(ロ)　郵便ニ依リ電信上ノ著信國以外ノ國ニ再送スベキ電報

第一　郵便ノ費用ガ豫メ正當ニ徴收セラレタルトキハ電報ハ場合ニ從ヒ普通又ハ書留ノ完納書狀トシテ之ヲ郵便ニ付ス前納郵便料ハ =PAV= ナル課金指定ヲ有スル電報ニ付テハ飛行機ニ依ル送達ニ對スル附加料金ヲモ包含スルコトヲ要ス

第二　郵便ノ費用ノ徴收ナカリシ場合ニ於テハ電報ハ料金未納普通書狀トシテ之ヲ郵便ニ付ス郵便料ハ受信人ノ負擔トス

十三　書留書狀ニ依リ發送スベキ電報ガ郵便ノ出發ヲ利用スルコトヲ得ルモ直ニ之ヲ書留ノ手續ニ付スコトヲ得ザルトキハ先ヅ普通書狀トシテ郵便ニ付シ副本ヲ書留書狀トシテ成ルベク速ニ送付ス

第六十三條　儀禮電報

一　(一)　聯合ノ諸國間ニ於テ隨意的ニ儀禮電報ノ業務ヲ許可ス

(二)　右業務ノ組織ハ關係主管廳間ノ特別協定ニ依ル右業務ニ對シ徴收セラルルコトアルベキ附加料金ハ國際計算ニ之ヲ算入セズ

二　儀禮電報ニ付テハ發信人ハ名宛ノ前ニ =LX= ナル課金指定ヲ記載スルコトヲ要ス

第十七章　寫眞電報

第六十四條　寫眞電報

〔海軍〕

一　寫眞電報ノ隨意的業務ハ之ヲ組織スルコトヲ欲スル旨ヲ宣言シタル主管廳間ニ之ヲ許可ス

二　寫眞電報ニ關スル料金及規定ハ關係主管廳間ノ直接ノ協定ニ依リ之ヲ定ム

第十八章　信號電報

第六十五條　信號電報

一　信號局ニ依リ交換スル電報ハ之ヲ信號電報ト稱ス

二　信號電報ハ名宛ノ前ニ =SEM= ナル課金指定ヲ有スルコトヲ要ス

三　海上船舶ニ宛ツル信號電報ノ名宛ハ左ノモノヲ包有スルコトヲ要ス

(イ)(イ)　受信人名　場合ニ依リ補足事項ヲ之ニ添フ

(ロ)　船舶名　同名ノ場合ニ於テハ國籍及必要アラバ國際通信書ノ符字ヲ以テ之ヲ補足ス

(ハ)　信號局名　局名錄ニ掲載アル通記載ス

四　信號電報ハ之ヲ信號スベキ信號局ノ存スル國ノ國語ニ於テ又ハ國際通信書ノ文字ノ集合ニ依リ之ヲ記載スルコトヲ要ス

五　海上船舶ヨリ發送スル信號電報ニ付テハ司令者ノ信號符字ヲ以テ印章ニ代フ

六　海上船舶ヨリ發スル信號電報ニ付テハ額表ニ於テ發信局名ノ指示ハ受信信號局名次ニ船舶名ヲ以テス賴信ノ時刻ハ船舶ト通信スル受信信號局ニ於ケル電報受信ノ時刻トス

七　信號局ノ媒介ニ依リ海上船舶ト交換スベキ電報ノ料金ハ一語ニ付二十「サンチーム」(〇「フラン」二〇)ト定ム此ノ料金ハ一般ノ規則ニ從ヒ計算スル電送ノ料金ニ加算ス總額ハ海上船舶ニ宛ツル電報ニ付テハ發信人ヨリ又船舶ヨリ發スル電報ニ付テハ受信人ヨリ之ヲ徴收ス(第三十二條第一項)此ノ後ノ場合ニ於テハ額表ハ「Percevoir……」ナル記事ヲ包有スルコトヲ要ス

八　海上船舶ヨリ發スル電報ハ發信船舶ノ請求アルトキハ國際通信書ノ符號ヲ以テ之ヲ著信地ニ傳送ス

九　此ノ請求ナカリシ場合ニ於テハ電報ハ信號局ノ吏員ニ於テ之ヲ普通ノ國語ニ翻譯シ著信地ニ傳送ス

十　(一)　海上船舶ニ宛ツル信號電報ノ發信人ハ信號局ニ於テ船舶ノ爲此ノ電報ヲ保管スルコトヲ要スル日數ヲ定ムルコトヲ得

(二)　此ノ場合ニ於テハ發信人ハ名宛ノ前ニ電報賴信ノ日ヲ包含スル右日數ヲ指示スル「x jours」又ハ =Jx= ナル課金指定ヲ記載ス

十一　(一)　海上船舶ニ宛ツル電報ヲ發信人ノ指定シタル期間内又斯カル指定ヲ缺ク場合ニ於テ賴信ノ日ニ次グ第二十九日ノ朝迄ニ該船舶ニ傳送スルコトヲ得ザルトキハ信號局ハ其ノ旨發信局ニ通知シ發信局ハ之ヲ發信人ニ通知ス

〔海軍〕

(二)　發信人ハ信號局ニ宛ツル電信又ハ郵便ノ課金事務報ヲ以テ其ノ電報ヲ船舶ニ傳送スル爲三十日ノ新期間之ヲ保管スルコトヲ引續キ何回ニテモ請求スル權能ヲ有ス斯カル請求ヲ缺クトキハ電報ハ第三十日(頼信ノ日ヲ包含セズ)ノ終ニ於テ之ヲ廢棄ス

(三)　尤モ信號局ガ船舶ニ電報ヲ傳送スルコトヲ得ル前船舶ガ其ノ通信圏ヲ出デタルコトヲ確知スルトキハ其ノ旨發信局ニ通知シ發信局ハ之ヲ發信人ニ通知ス

十三　左ノモノハ信號電報トシテ之ヲ許サズ

(イ)　返信料前納電報　但シ海上船舶ニ宛ツル電報ヲ除ク

(ロ)　爲替電報

(ハ)　照校電報

(ニ)　電信又ハ郵便受信報知電報　但シ海上船舶ニ宛ツル電報ニ對スルモノノ電信系ノ通信線路上ノ經過ニ關スルモノヲ除ク

(ホ)　追尾電報

(ヘ)　課金事務報　但シ電信系ノ通信線路上ノ經過ニ關スルモノヲ除ク

(ト)　至急電報　但シ電信系ノ通信線路上ノ經過ニ關スルモノヲ除ク

(チ)　別使又ハ郵便ニ依リ交付スベキ電報

(リ)　後廻電報

(ヌ)　書信電報

(ル)　祝賀電報

第十九章　無線電報

第六十六條　無線電報

無線電報ノ業務ハ無線通信規則ノ規定ニ從ヒ之ヲ行フ

第二十章　爲替電報

第六十七條　爲替電報

一　爲替電報ノ振出、本文ノ書法及拂渡ハ特別ノ國際條約ニ依リ規定セラル

二　拂渡郵便局ノ在ル地方ニ電信局ノ設備ナキトキハ爲替電報ハ拂渡郵便局ノ指示及受持電信局ノ指示ヲ伴フコトヲ要ス

三　(一)　爲替電報ハ第七十五條ノ規定ヲ適用スルモノトシテ後廻電報ノ料金ニテ之ヲ許可ス該電報ハ＝LC＝ナル課金指定ヲ伴フ

(二)　後廻電報ノ書法ニ對シ定メラレタル條件ハ後廻爲替電報ニ於テハ爲替受取人ニ宛テラレタル通信文ニ對シテノミ之ヲ遵守スルコトヲ要ス

四　爲替電報ノ傳送ハ此ノ傳送ガ關係主管廳間ニ許サルルトキハ第四十條第八項、第四十四條第一項、第二項、第三項及第四十五條第三項第二節ニ定ムル規定ノ留保ノ下ニ他ノ種類ノ電報ト同一ノ規則ニ從フ

第二十一章　新聞電報

第六十八條　許可ノ條件

一　本文ガ新聞紙其ノ他ノ定期刊行物ニ掲載セラルベキ政治、商業等ノ報道及新聞事項ニ依リ構成セラルル電報ハ低減料金ニ於ケル新聞電報トシテ之ヲ許ス此等ノ電報ハ必ズ名宛ノ前ニ發信人ノ記載スル＝Presse＝ナル課金指定ヲ有ス

二　新聞電報ハ特別ノ證票ノ呈示アルニ非ザレバ發信ノ際之ヲ受理セズ該證票ハ其ノ使用セラルル國ノ主管廳ニ於テ之ヲ作成シ且新聞紙、定期刊行物又ハ通信社ノ通信員ニ之ヲ交付ス尤モ發信主管廳ガ別段ノ規定ヲ爲ストキハ證票ヲ呈示スル義務ナシ

三　新聞電報ハ新聞紙、定期刊行物又ハ通信社ニ宛テ且新聞紙、刊行物又ハ通信社ノ名稱ノミニ之ヲ宛ツルコトヲ要シ何等カノ名義ヲ以テ新聞紙、刊行物又ハ通信社ノ理事部ニ關係スル人名ニ之ヲ宛ツルコトヲ得ズ新聞電報ハ公表セラルベキ事項及該電報ノ公表ニ關スル指圖ノミヲ包有スルコトヲ要ス此ノ後ノ指圖文句ハ括弧ヲ以テ之ヲ圍ミ本文ノ始又ハ終ニ記載スルコトヲ要ス一通ノ電報ニ關スル指圖文句ノ語數ハ本文ノ課金語數ノ百分ノ五ニ達スルコトヲ得但シ十語ヲ超過スルコトヲ得ズ括弧ハ之ニ課金ス本規則ニ定ムル一切ノ條件ニ從フコトヲ約シテ新聞電報ノ受領ヲ許可セラレタル新聞紙、刊行物又ハ通信社ノ表ヲ主管廳ニ於テ作成シタルトキハ聯合事務局ノ媒介ニ依リ他ノ主管廳ニ該表ヲ通知スルコトヲ要ス

四　登記シタル略號名宛ノ使用ハ之ヲ許可ス

五　新聞電報ハ＝Presse＝ナル課金指定ノ外ニハ至急電報及同文電報ニ關スルモノ以外ノ他ノ課金指定ヲ有スルコトヲ得ズ

六　聯合ノ主管廳間ニ交換スル通常新聞電報ニ適用スベキ首尾料及中繼料ハ歐羅巴制度ニ於テハ百分ノ五十其ノ他ノ關係ニ於テハ少クトモ百分ノ五十ヲ低減シタル通常私報ノ料金トス

七　至急新聞電報ニ對シ徴收スベキ一語料金ハ同一ノ經過ニ對スル通常私報ノ料金トス

八　同文新聞電報ノ謄寫料ハ同文通常私報ノ謄寫料トス

九　通常電報ニ付料金ノ最低限(第二十六條第三項(ロ))ヲ徴收スル主管廳ハ新聞電報ニ付同一ノ最低限ヲ徴收ス

十　(一)　低減料金ニ於ケル新聞電報(通常又ハ至急)ヲ許可セザル主管廳ハ之ヲ中繼ニ於テ受理スルコトヲ要ス

(二)　右主管廳ニ屬スル中繼料ハ通常新聞電報又ハ至急新聞電報ニ關スルヤニ從ヒ本條第六項又ハ第七項ノ規定ノ適用ヨリ生ズル中繼料トス

第六十九條　新聞電報ノ書法

一　(一)　新聞電報ハ國際電信ニ許可セラレタル國語ノ一ニシテ左ノ國語ヨリ選擇セラレタルモノニ於ケル普通語ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ要ス

(イ)　佛蘭西語

(ロ)　受信新聞紙ノ記載セラルル國語

(ハ)　關係主管廳ノ指定シタル發信國又ハ著信國ノ國語ノ一箇又ハ數箇

(ニ)　場合ニ依リ發信主管廳又ハ著信主管廳ニ於テ其ノ屬スル國ノ領域內ニ於テ使用セラルルモノトシテ指定シタル追加國語ノ一箇又ハ數箇

(二)　前記(ロ)ニ從ヒ記載シタル新聞電報ノ發信人ニ對シテハ其ノ選擇シタル國語ヲ以テ刊行セラルル新聞紙ガ電報ノ著信國ニ存在スルコトノ證據ヲ提出セシムルコトヲ得

二　前記第一項ニ揭グル國語ハ引用文トシテ之ヲ電報ガ記載セラレタル國語ト混用スルコトヲ得

三　第六十八條第三項ニ規定スル例外ヲ除キ新聞電報ハ私用通信ノ性質ヲ有スル何等ノ章句、廣告若ハ通信又ハ右償ニテ揭載セラルル何等ノ廣告若ハ通信ヲ包有スルコトヲ得ズ又無償ニテ揭載セラルル何等ノ廣告ヲ包有スルコトヲ得ズ

四　取引所及市場ノ相場及競技ノ結果ハ說明文ノ有無ニ拘ラズ低減料金ニ於ケル新聞電報中ニ之ヲ許ス發信局ハ疑アル場合ニ於テハ右電報ニ記載セラルル數字ノ集合ガ確ニ取引所及市場ノ相場又ハ競技ノ結果ヲ表示スルカヲ發信人ニ就キ確ムルコトヲ要ス發信人ハ之ヲ證明スルコトヲ要ス

第七十條　新聞電報ニ對スル通常料金ノ適用

一　新聞電報トシテ呈示セラレタル電報ガ前條ニ揭グル條件ヲ充サザルトキハ一ワードナル指定ヲ抹消シ該電報ハ其ノ屬スル種類(通常又ハ至急)ノ料金ニ從ヒ之ニ課金ス

二　私報ノ通常ノ料金(通常又ハ至急)ハ受信新聞紙又ハ定期刊行物ノ紙上ニ揭載スル目的以外ノ目的ニ使用セラルル一切ノ新聞電報卽左ノモノニ對シテモ亦之ヲ適用ス

(イ)　受信新聞紙又ハ定期刊行物ニ公表セラレザル電報(十分ナル說明アルトキハ此ノ限ニ在ラズ)又ハ受信人ガ公表前個人ニ若ハ俱樂部、珈琲店、旅館、取引所等ノ如キモノニ通知シタル電報

(ロ)　未ダ公表セラレザル電報ニシテ受信新聞紙又ハ定期刊行物ガ之ヲ公表スル前他ノ新聞紙ノ紙上ニ揭載スル爲該新聞紙ニ賣却、配布又ハ通知シタルモノ尤モ新聞電報ハ同時ニ公表スル爲之ヲ賣却、配布又ハ通知スルコトヲ得

(ハ)　通信社ニ宛テタル電報ニシテ新聞紙ニ公表セラレザルモノ(十分ナル說明アルトキハ此ノ限ニ在ラズ)又ハ新聞紙ニ公表セラル

(海軍)

ル前第三者ニ通知シタルモノ

三　第二項ニ規定スル場合ニ於テ料金ノ補足額ハ著信主管廳ノ利得ニ於テ受信人ヨリ之ヲ徵收ス

第七十一條　新聞電報ノ傳送及交付

新聞電報ハ其ノ屬スル種類(通常又ハ至急)ニ從ヒ傳送及交付ニ於テ通常私報又ハ至急私報中ニ列ス

第七十二條　雜則

一　第六十八條乃至第七十一條及本條ニ規定セラレザル一切ノ事項ニ付テハ新聞電報ハ本規則及主管廳間ニ締結シタル特別條約ノ規定ニ從フ

二　新聞電報ニ關スル規定ハ之ヲ適用スルコトヲ得ザル旨ヲ宣言スル主管廳ニ對シテハ中繼ニ於ケル新聞電報ノ受理ニ關シテノミ義務的トス傳送ノ條件ハ關係主管廳ノ協定ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

第二十二章　氣象電報

第七十三條　氣象電報

一　(一)　氣象電報トハ公ノ氣象業務又ハ斯ノ如キ業務ト公ノ關係ニ在ル局ヨリ發シ右ノ業務又ハ局ニ宛テ專ラ氣象觀測又ハ氣象報ヲ包含スル電報ヲ謂フ

(二)　右電報ハ名宛ノ始ニ必ズ=OMB=ナル課金指定ヲ包有ス

二　前項ニ揭グル氣象電報ニ適用スベキ首尾料及中繼料ハ一切ノ關係

三　發信人ハ受付吏員ノ要求アルトキハ其ノ電報ノ本文ガ第一項第一節ニ定ムル條件ニ適合スルコトヲ宣言スルコトヲ要ス

第二十三章　同報無線通信

第七十四條　同報無線通信

一　(一)　主管廳ハ無線電信又ハ無線電話ニ依リ同報無線通信ノ傳送ノ業務ヲ組織スル機能ヲ留保ス

(二)　前記ノ業務ハ關係主管廳ガ特ニ定メタル規定及條件ヲ充タス發信人及受信人ニ限リ之ヲ利用セシム

(三)　右無線通信ハ政治、商業等ノ報道及新聞事項ニ依リ構成セラルルコトヲ要シ私的性質ヲ有スル何等ノ章句、廣告又ハ通信ヲ包有スルコトヲ得ズ

二　(一)　發信人ハ發信國主管廳ニ受信人ノ名宛ヲ通知スルコトヲ要ス該主管廳ハ他ノ主管廳ニ對シ其ノ領土ニ在ル受信人ノ名宛ヲ通知ス發信國主管廳ハ尙此等ノ各受信人ニ關シ最初ノ受信ニ付定メタル日附竝ニ發射局名及發信人ノ名宛ヲ通知ス諸主管廳ハ發信人及受信人ノ數及名宛ノ異動ヲ相互ニ通知ス

(二)　發信人ノ指定シタル受信人ニ對シ無線通信ノ受領ヲ許否スルコトハ受信國主管廳ニ屬ス該主管廳ハ發信國主管廳ニ必要ナル通知ヲ爲ス

(三)　各主管廳ハ右特別通信業務ニ付許可セラレタル局ニ限リ該無線通信ニシテ自局ニ宛テラレタルモノノミヲ利用スルコトヲ確保スル爲成ルベク適當ナル手段ヲ執ル條約第二十四條ノ電氣通信ノ祕密ニ關スル規定ハ右無線通信ニ之ヲ適用ス

三　(一)　右無線通信ハ一定時刻ニ送信セラレ且名宛トシテ本文ノ直前ニ一箇ノ略號ヲ有ス

(二)　右通信ハ發信國及著信國主管廳ノ決定ニ從ヒ普通語又ハ暗語ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ得關係主管廳間ニ特別ノ協定アル場合ヲ除クノ外普通語トシテ許可スル國語ハ佛蘭西語、發信國ノ指定スル國語ノ一箇又ハ受信國中ノ一國ノ國語ノ一箇ニ限ル發信國及著信國主管廳ハ使用セラルル暗語書ノ寄託ヲ請求スル權利ヲ留保ス

四　(一)　發信人ヨリ徵收スベキ料金ハ發信國主管廳之ヲ定ム

(二)　右無線通信ノ受信人ニ對シテハ其ノ國ノ主管廳ハ私設受信局ノ設置及經營ニ關シ定メタル賦課ノ外該主管廳ノ定ムル金額及形式ニ依リ電信料又ハ電話料ヲ課スルコトヲ得

(三)　右無線通信ノ料金ハ之ヲ國際計算ニ算入セズ

第二十四章　低減料金ノ電報

第七十五條　後廻電報

一　私報ノ發信人ハ一方ニ於テ歐羅巴制度ノ諸國ト他方ニ於テ歐羅巴外制度ノ諸國トノ間ニ於テ其ノ電報ガ通常私報及通常新聞電報ノ後ニ於テノミ傳送セラルル條件ノ下ニ百分ノ五十ノ料金低減ノ利益ヲ受クルコトヲ得同樣ノ條件ニ於テ同樣ノ利益ハ歐羅巴外制度ノ二國間ニ交換スル電報ニ對シテモ通常私報ノ料金ガ一語ニ付一「フラン」(一「フラン」)ヲ下ラザルトキハ之ヲ附與ス

二　(一)　後廻電報ノ本文ハ普通語トシテ許可セラルル國語(第九條)中ノ一箇ノ國語ニ於テ全部普通語ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ要ス

(二)　普通語電報タル性質ヲ變ゼザルモノトシテ第九條第二項ニ指定セラレタル文句ハ後廻電報中ニ之ヲ許可ス

(三)　尙本文中ニ挿入シタル固有名詞、會社名、商品又ハ商品ノ型ヲ示ス文句ハ電報ガ記載セラレタル國語以外ノ國語ニ於テ例外トシテ之ヲ許可ス

(四)　又後廻爲替電報ニ於テ爲替金額ハ職權ニ依リ暗語ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

(五)　後廻電報ニ付テハ發信人ハ名宛ノ前ニ＝LC＝ナル課金指定ヲ記載スルコトヲ要ス

三　無線電報及信號電報ハ後廻電報トシテ之ヲ許サズ

四　聯絡シタル意義ナキ數、名稱又ハ語辭ヲ包有スル一切ノ電報竝ニ通則トシテ電報自體ニ於テ電信業務ガ了解シ得ベキ意義ヲ有セザル一切ノ電報ハ低減料金ノ利益ヲ受クルコトヲ得ズ

五　(一)　暗號名宛ハ本文ニ依リ暗號名宛ナルコト明ナル場合ニ限リ之ヲ許可ス

(二)　數字ヲ以テ記載シタル數、商標及略語ガ本文中ニ使用セラルルトキハ課金ノ規定ニ從ヒ計算セラルル此等ノ語又ハ集合ノ數ハ署名ヲ含ム本文ノ課金語數ノ三分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ズ右三分ノ一ノ計算ノ結果トシテ語辭ノ端數ヲ生ズルトキハ該數ハ直上ノ整數ニ之ヲ切上グ

(三)　尤モ後廻爲替電報ニ於テハ此ノ制限ハ場合ニ依リ本來ノ爲替文ニ附記セラルルコトアルベキ私用通信文ニ對シテノミ之ヲ適用ス

(四)　中華民國ニ發著スル後廻電報ニ於テハ例外トシテ本文ハ全部中華民國主管廳ノ公定電信辭書ニ依ル數字四箇ノ集合ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ得

六　(一)　發信人ハ本文ガ全部普通語ヲ以テ記載セラレ其ノ字義以外ノ意義ヲ包有セザルコトヲ賴信紙上ニ正式ニ明記スル宣言ニ署名スルコトヲ要ス該宣言ニハ電報ガ記載セラレタル國語ヲ指示ス

(二)　後廻爲替電報ニ付テハ爲替文ニ私用通信文ヲ附記スル場合ニ限リ右宣言ヲ要ス

七　(一)　後廻電報ハ至急及一部至急ニ關スル課金指定ヲ除クノ外一切ノ課金指定ヲ包有スルコトヲ得

(二)　後廻電報ニ關シ發信人ノ請求スル種種ノ特別業務(課金事務報、交附ノ條件、照校等)ニ適用スベキ料金ハ通常電報ニ對スルモノト同一トス然レドモ追尾電報ハ再送主管廳ト新著信主管廳トノ間ニ後廻電報ヲ許ストキハ後廻電報ノ低減料金ニ於テ之ヲ再送スルコトヲ得相當課金指定ニハ低減料金ヲ課ス

八　後廻電報ハ通常電報ノ後ニ之ヲ交付スルコトヲ得

九　後廻電報ノ傳送ニ關與スル一切ノ主管廳及私企業(發信、中繼及著信)ノ料金ハ均一ニ百分ノ五十ヲ低減ス

十　後廻電報ノ業務ハ隨意トス後廻電報ヲ許可スルコトヲ宣言スル主管廳及私企業ハ同樣ノ宣言ヲ爲シタル他ノ一切ノ主管廳及私企業トノ此ノ電報ノ交換ニ於テ一切ノ前揭ノ規定ヲ適用スルコトヲ要ス

第七十六條　書信電報

一　歐羅巴制度ノ諸國間ニ於テ書信電報ヲ許可ス其ノ一語料金ハ全額料金ノ通常電報ニ對スル料金ノ百分ノ五十トス此ノ通信ハ名宛ノ前ニ記載スル＝ELT＝ナル課金指定ニ依リ區別セラレ受付、傳送及交付ニ付テハ本條第三項以下ノ規定ニ從フ

二　(一)　一方ニ於テ歐羅巴制度ノ諸國ト他方ニ於テ歐羅巴外制度ノ諸國トノ間及歐羅巴外制度ノ諸國相互間ニ於テ名宛ノ前ニ記載スル左ノ課金指定ノ一ニ依リ區別セラルル書信電報ヲ許可ス

＝NLT＝

＝DLT＝

(二)　右通信ハ全額料金ノ通常電報ノ一語料金ニ對スル三分ノ二ノ

料金低減ヲ享ク

(三) 右通信ハ受付、傳送及交付ニ付本條第三項以下ニ定ムル制限ニ從フ

三 (一) ELT、NLT 及 DLT 書信電報ノ許可ハ隨意トス書信電報ノ一種又ハ一切ノ種類ヲ許可スルヤ否ハ各主管廳ノ自由トス

(二) 發信及著信ニ於テ書信電報又ハ前記書信電報ノ何レカ一種ヲ許可セザル主管廳及私企業ハ中繼ニ於テ之ヲ許可スルコトヲ要ス該主管廳及私企業ハ ELT 書信電報ニ付テハ全額料金ノ通常電報ノ料金又 NLT 及 DLT 書信電報ニ付テハ該主管廳及私企業ガ後廻電報ヲ許可スルトキハ該電報ノ料金然ラザルトキハ全額料金ノ通常電報ノ料金ヲ請求スル權利ヲ有ス

四 ELT、NLT 及 DLT 書信電報ノ受付ハ日曜日ニ於テハ隨意トス

五 無線電報、信號電報及爲替電報ハ書信電報トシテ之ヲ許サズ

六 略號名宛又ハ暗號名宛ノ使用ハ第十五條第九項ニ規定スル條件ニ依リ書信電報ノ名宛中ニ之ヲ許可ス

七 (一) 書信電報ニ於テハ次ノ特別業務即返信料前納、郵便局留置、電信局留置、儀禮電報及受信人ノ指圖ニ依ル電信再送ニ限リ之ヲ許可ス相當課金指定(=RPx=、=GP=、=TR=、=LX=及=Réexpédié de……=)ニハ低減料金ヲ課ス

(二) 電信再送ハ再送國ト著信國トノ間ニ於テ施行スル料金及許可スル業務ノ種類ニ從ヒ場合ニ依リ=ELT=、=NLT=又ハ=DLT=ナル指定ヲ抹消シ又ハ改正シタル後之ヲ行フ

八 書信電報ニ對スル課金ノ最低限語數ハ之ヲ二十五トス

九 (一) 書信電報ノ交付ハ左ノ如ク之ヲ行フコトヲ要ス

ELT及NLT 書信電報ニ付テハ　頼信日ノ翌朝

DLT 書信電報ニ付テハ　頼信日ノ翌翌朝

(二) ELT、NLT 及 DLT 書信電報ノ交付ハ日曜日ニ於テハ隨意トス

十 書信電報ノ交付ハ著信局ノ屬スル主管廳ノ決定ニ從ヒ郵便、特別配達人、電話又ハ他ノ一切ノ方法ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得

十一 (一) 歐羅巴制度ノ書信電報ニ付テハ料金ノ還付ハ第八十一條第一項(イ)、(ル)及(カ)ニ規定スル場合ニ限リ之ヲ許可ス

(二) 歐羅巴外制度ノ書信電報ニ付テハ料金ノ還付ハ第八十一條第一項(イ)、(ニ)(一)第三、(ル)及(カ)ニ規定スル場合ニ限リ之ヲ許可ス

十二 書信電報ニ對シテハ第二十三條第八項、第三十六條第一項、第七十五條第二項第一節、第二節、第三節、第四項、第五項第一節、第二節、第四節及第六項ノ規定竝ニ第八十條ノ規定ヲ適用ス

十三 數字ヲ以テ記載シタル數、商標及略語(第七十五條第五項第二節)ニ對スル許容數ノ決定上書信電報ハ實際ノ語數ガ二十五未滿ノ場合ト雖常ニ二十五語ヲ包有スルモノト看做ス

〔海軍〕

十四 書信電報ノ計算ハ第八項ニ定ムル最低限料金ヲ考慮シ成規ノ規定ニ從フ

第七十七條　祝賀電報

一 「クリスマス」及新年ヲ祝賀スル電報(祝賀電報)ノ隨意的業務ハ十二月十四日ヨリ一月六日ニ至ル期間之ヲ許可ス

二 祝賀電報ノ發信人ハ名宛ノ前ニ=XLT=ナル課金指定ヲ記載スルコトヲ要ス

三 略號名宛又ハ暗號名宛ノ使用ハ第十五條第九項ニ定ムル條件ニ於テ祝賀電報ノ名宛ニ之ヲ許可ス

四 (一) 祝賀電報ノ本文ハ祝賀文ノミヲ包有スルコトヲ要ス

(二) 發信人ハ本文ヲ任意ニ(任意本文)又ハ關係主管廳ノ決定スル樣式ニ從ヒ(例文本文)記載スルコトヲ得

(三) 歐羅巴制度ニ於テハ任意本文ノミヲ許可ス

(四) 歐羅巴外制度ニ於テハ關係主管廳ハ例文本文ヲモ採用スルコトヲ得

(五) 任意本文ノ場合ニ於テ本文ノ書法ニ付テハ第七十五條第二項第一節、第四項及第五項第一節、第二節、第四節ノ規定竝ニ第七十六條第十三項ノ精神ニ從フコトヲ要ス

五 任意本文ノ祝賀電報ニ付テハ發信人ハ第七十五條第六項第一節ニ規定スル宣言ニ署名シ且本文ガ祝賀文ノミヲ包有スルコトヲ明記スルコトヲ要ス

六 歐羅巴外制度ノ例文本文ノ祝賀電報ニ於テハ署名ハ三語ヲ超ユルコトヲ得ズ

七 (一) 歐羅巴制度ノ祝賀電報ハ通常私報ノ料金ニ對スル百分ノ五十ノ料金低減ノ利益ヲ享ク

(二) 歐羅巴外制度ノ祝賀電報ノ料金ノ低減ハ關係主管廳及私企業間ノ協定ニ依ル

八 任意本文ノ祝賀電報ノ課金語數ノ最低限ハ二制度ニ於テ之ヲ十語ト定ム

九 (一) 祝賀電報ニ於テハ次ノ特別業務即返信料前納、郵便局留置、電信局留置及儀禮電報ニ限リ之ヲ許可ス尤モ儀禮電報ノ特別業務ハ此ノ業務ヲ組織シタル國ノ間ニ於テノミ之ヲ許可ス

(二) 相當課金指定=RPx=、=GP=、=TR=及=LX=ニハ低減料金ヲ課ス

十 信號電報及爲替電報ハ祝賀電報トシテ之ヲ許サズ祝賀無線電報ハ關係主管廳及私企業間ノ特別協定ニ依リテノミ之ヲ許可ス

十一 祝賀電報ハ第三十六條第一項ニ揭グル順序ニ依リ之ヲ傳送ス

十二 祝賀電報ノ交付ハ著信主管廳ノ定ムル條件ニ從ヒ之ヲ行フ

十三 祝賀電報ノ料金ノ還付ハ第七十六條第十一項ニ規定スル場合ニ於テ之ヲ行フ尤モ第八十一條第一項(ニ)(一)第三ニ規定スル期間ハ左ノ

〔海軍〕

期日ヨリ之ヲ計算ス

十二月十四日乃至十二月二十四日ニ頒信セラレタル祝賀電報ニ付テハ　十二月二十四日

十二月二十五日乃至十二月三十一日ニ頒信セラレタル祝賀電報ニ付テハ　十二月三十一日

十二月三十一日後ニ頒信セラレタル祝賀電報ニ付テハ　頒信ノ日

(一)　二制度ニ於ケル任意本文ノ祝賀電報ノ計算ハ第八項ニ定ムル最低限ヲ考慮シ成規ノ規定ニ從フ

(二)　歐羅巴外制度ノ例文本文ノ祝賀電報ノ計算ハ關係主管廳及私企業間ノ協定ニ依ル

第二十五章　官報

第七十八條　官報ニ對スル特別規定

一　官報ハ之ヲ發送スル官廳ノ印章ヲ有スルコトヲ要ス此ノ條件ハ電報ノ有權ナルコト何等ノ疑ナキトキハ之ヲ要セズ

二　官報トシテ返信ヲ發送スル權利ハ原官報ノ呈示ニ依リ之ヲ證明ス

三　商業ニ從事スル領事官ノ電報ハ官吏ニ宛テ且事務上ノ事項ニ關スルトキニ非ザレバ之ヲ官報ト認メズ尤モ此ノ後ノ條件ヲ充サザル電報ト雖局ハ之ヲ受付ケ且官報トシテ傳送ス但シ該局ハ直ニ其ノ屬スル主管廳ニ之ヲ通知ス

四　一方ニ於テ國際聯盟理事會議長又ハ事務總長ト他方ニ於テ政府ノ一員タル大臣、國際聯盟理事會理事又ハ理事會ノ派遣シタル使節ノ一員トノ間ニ於テ戰爭ノ危險アル場合ニ交換セラルル國際聯盟規約第十五條及第十六條ノ適用ニ關スル電報ハ例外トシテ先順位ヲ有スル官報ニ與ヘラルル先順位ニ優先スル先順位ヲ享有ス右官報ハ頒表ニ「TS Priorité Nations」ナル記事ヲ有シ且發信人ハ名宛ノ前ニ「‖ Priorité Nations ‖」ト記載スルコトヲ要ス此ノ指定ハ之ヲ二語ニ課金ス右電報ハ前記ノ者自身ノ許可ノ證ヲ附シアルニ非ザレバ之ヲ受付ケズ

五　官報ノ發信人ハ條約第三十條ニ定ムル傳送ノ先順位ヲ拋棄スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ電報ノ頒信紙ハ發信人ノ記載スル「Ordre Priorité」ナル記事ヲ有スルコトヲ要ス此ノ電報ハ傳送ノ順位ニ於テハ通常私報トシテ之ヲ取扱フ

六　官報ハ第九條、第十條及第十一條ニ揭グル條件ヲ充サザル場合ト雖之ヲ拒絕セズ然レドモ該電報ハ其ノ違例ヲ認ムル局ニ於テ其ノ屬スル主管廳ニ之ヲ通知ス

七　(一)　官報ハ「Urgent」ナル局用記事ヲ有ス此ノ記事ハ發信局ニ於テ職權ヲ以テ頒表ノ終ニ之ヲ附ス

(二)　‖CDT‖ ナル記事ヲ有スル官報ハ傳送ノ先順位ノ利益ヲ保有シ低減料金ニ於テ之ヲ許可ス

【海軍】

八　普通語ヲ以テ記載シタル官報ハ必ズ一部ノ反覆ヲ爲スコトヲ要ス全部又ハ一部暗語ヲ以テ記載シタルモノ(條約第三十一條)ハ使用セラルル傳送ノ方式ニ從ヒ受信局又ハ送信局ニ於テ全部職權ニ依リ之ヲ反覆スルコトヲ要ス(第四十四條)

第二十六章　本局報及事務報

第七十九條　本局報及事務報

一　通則

一　局報ハ之ヲ本局報及事務報ニ區別ス

二　局報ハ之ヲ至急ノ性質ヲ有スル場合ニ限定シ且最簡明ナル樣式ニ依リ之ヲ記載スルコトヲ要ス主管廳及電信局ハ成ルベク局報ノ通數及語數ヲ減少スル爲必要ナル處置ヲ執ル

三　局報ハ關係主管廳ガ他ノ國語ノ使用ニ付協定セザルトキハ佛蘭西語ヲ以テ之ヲ記載ス電報ノ傳送ニ伴フ事務上ノ記事ニ付テモ亦同ジ

四　局報ハ第七項及第八十條ニ揭グル場合ヲ除クノ外一切ノ關係ニ於テ無料ニテ之ヲ傳送ス

五　局報ノ種類ハ第四十一條(一)ニ定ムル局用記事ノ一ニ依リ之ヲ指示ス

六　絕對ノ必要ノ場合ニ於テハ本局報及事務報ハ電話ニ依リ之ヲ傳送スルコトヲ得

七　本條ノ規定ハ專ラ電信業務ニ關スル局報ノ移動無線電信局ニ依ル使用ス(第三十七條第十一項)

【海軍】

無料傳送、專ラ移動局ノ業務ニ關スル局報ノ電信線系ニ依ル無料傳送又ハ戰爭私企業ニ關スル局報ノ一切ノ私企業ニ依ル無料傳送ヲ許スモノト看做スコトヲ得ズ

二　本局報

八　(一)　本局報ハ主管廳及之ヲ交換スルコトヲ許可セラレタル吏員ノ間ニ於テ之ヲ交換ス

(二)　右電報ハ頒表ニ頒信ノ日附ヲ記載シ署名ヲ附セズ名宛ハ下ノ如ク之ヲ記載ス「…(發信人)…」

例　「Central à Burinterna Berne」

九　主管廳ハ相互間ニ交換スル本局報ニ對シ略號名宛ヲ使用スルコトヲ要ス

十　本局報ノ本文ハ一切ノ關係ニ於テ暗語ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ得全部又ハ一部暗語ヲ以テ記載シタル局報ハ傳送ノ機器ニ從ヒ受信局又ハ送信局ニ於テ全部職權ニ依リ之ヲ反覆ス(第四十四條第一項、第二項及第三項)

三　事務報

十一　(一)　事務報ハ業務上ノ事故ニ關シ又ハ線路、無線電氣局及傳送ノ業務ニ關ス事務報ハ電信局ノ間ニ之ヲ交換シ名宛及署名ヲ附セス

(二)　事務報ノ書法ニ付テハ成ルベク本規則附屬書第一號ノ略語ヲ使用ス(第三十七條第十一項)

(三) 事務報ノ著信局及發信局ハ額表中ニノミ之ヲ指示ス

額表ハ左ノ如ク之ヲ記載ス

「A Lyon Lilienfeld 15 1045 (額信ノ日附及時刻) 次ニ發信局ノ本文」

(四) 主要ナル局ハ發信局名ニ事務報ヲ發スル業務ノ名稱ヲ略號ヲ以テ附記スルコトヲ得例ヘバ「A Paris Berlin Nr (Nachforschungsstelle 調査業務) 15 1045 (額信ノ日附及時刻)」此ノ附記ハ返信ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

例「A Berlin Nr. Paris 15 1345」

十三 (一) 先ニ傳送シタル電報ニ關スル事務報ニハ該電報ノ搜索ヲ容易ナラシムベキ一切ノ事項殊ニ發信番號若ハ連續番號又ハ此ノ二箇ノ番號ガ原電報ノ額表ニ記載セラルルトキハ其ノ變方、全部文字ヲ以テ記載シタル日附(月名ハ疑アルトキニ限リ之ヲ指示ス)、原電報ニ記載シタル經過線路、受信人名及必要アラバ完全ナル名宛ヲ記載ス

原電報ガ連續番號ノミヲ有スルトキハ關係局ハ事務報ガ著信國ヘ到著ノトキ右ノ番號ヲ發信番號ニ變更スル樣注意スルコトヲ要ス

(二) 二電信局間ニ數箇ノ直通通信線路存スルトキハ成ルベク何時如何ナル線路ニ依リ原電報ヲ傳送シタルカヲ指示スルコトヲ要ス事務報ハ成ルベク同一ノ線路ニ依リ之ヲ發送ス

(三) 原電報ノ經路ニ線路ノ障碍生ジタルトキハ再送局ハ事務報ニ

「Dérangé」ナル記事ヲ附ス尙事務報ハ原電報ノ傳送ニ關スル事項ヲ記載シタル記事ヲ以テ之ヲ補足スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ返信事務報ハ往信事務報ト同一ノ線路ヲ經過スルコトヲ要ス

(四) 中繼局ニ於テ事務報ニ應答スルニ必要ナル資料ヲ遲滯ナク求ムルコトヲ得ザルトキハ該局ハ直ニ該事務報ヲ以遠ヘ傳送スルコトヲ要ス

(五) 尤モ中繼局ハ此ノ事務報ヲ直ニ再送シタル後有用ナル調査ヲ行ヒ且場合ニ依リ必要ナル處置ヲ執ルコトヲ要ス

十四 中繼局ガ不便又ハ遲延ヲ生ズルコトナク事務報ニ應答スルニ必要ナル資料ヲ蒐集スルコトヲ得ルトキハ無用ナル再送ヲ避ケルニ適當ナル處置ヲ執ル其ノ他一切ノ場合ニ於テ中繼局ハ該事務報ヲ其ノ著信局ニ向ケ發送ス

第八十條　課金事務報

一 (一) 第八十九條ニ規定スル文書保存ノ最低限ノ期間內ニ於テ傳送濟又ハ傳送中ノ一切ノ電報ノ發信人及受信人又ハ二者ノ一ノ代理人ハ必要ナルトキハ豫メ其ノ資格及本人タルコトヲ證明シタル上此ノ電報ニ關シ電信ニ依リ事項ヲ問合サシメ又ハ指圖ヲ與ヘシムルコトヲ得

(二) 前記ノ者ハ左ノ金額ヲ寄託スルコトヲ要ス

第一　請求ヲ記載スル電報ノ料金(全額料金)

〔海軍〕

第二　必要アルトキハ(第四項)返信電報ノ料金(全額料金)

(三) 前記ノ者ハ又其ノ發送又ハ受領シタル電報ヲ校正ノ爲著信局、發信局又ハ中繼局ヲシテ全部又ハ一部反覆セシムルコトヲ得

(四) 右電報(往信及返信)ハ之ヲ課金事務報ト稱ス

二 (一)(四) 受信人ノ請求スル反覆ニ關シテハ受信人ハ反覆スベキ各語辭ニ對シテノミ規定ノ料金ヲ支拂フコトヲ要ス此ノ料金ハ電報ノ種類(CDE、D、PC等)ヲ考慮シ一切ノ場合ニ於テ全額料金トス

(二) 右料金ニハ往信及返信ニ對スル全部ノ費用ヲ包含ス徵收ノ最低限ハ一「フラン」五十「サンチーム」(一「フラン」五〇)トス

(三) 尤モ主管廳ハ料金ヲ徵收セザルコト又ハ規定ノ料金ニ達セザルモノヲ徵收スルコトノ自由ヲ有ス

三 校正、補足又ハ取消ノ電報及傳送濟又ハ傳送中ノ電報ニ關スル他ノ一切ノ通信ハ之ヲ電信局ニ宛ツルトキハ發信人又ハ受信人ノ計算ニ於テ課金事務報トシテ局ノ間ニノミ之ヲ交換スルコトヲ要ス

四 (一) 課金事務報ハ「フ」ナル符號ヲ以テ之ヲ指示ス課金事務報ハ成ルベク其ノ關係スル電報ト同一ノ線路ニ依リ之ヲ發送ス誤謬アリト思料スル傳送ヲ反覆セシムル爲受信人ノ請求ニ依リ發送スルモノハ常ニ電信ニ依ル返信ヲ伴フ但シ「フ」ナル課金指定ヲ記載スルコトヲ要セズ電信ニ依ル返信ヲ請求スル其ノ他ノ場合ニ於テハ此ノ課

(イ) 名宛ヲ校正又ハ補足スルトキ

「ST Paris Bruxelles 365 (課金事務報ノ番號) 5 (語數) 17 (日附)=315 douze François (原電報ノ番號、全部文字ニ於ケル日附、受信人名) remettez (又ハ lisez): (校正ヲ指定ス)」

(ロ) 本文ヲ校正又ハ補足スルトキ

「ST Paris Vienne 26 (課金事務報ノ番號) 8 (語數) 18 (日附)=235 treize Kriechbaum=(校正スベキ電報ノ番號、全部文字ニ於ケル日附、受信人名) remplacez trois (本文ノ語辭) 20 par 2000」

(ハ) 本文ノ一部又ハ全部ノ反覆ヲ請求スルトキ

「SST Calcutta Londres 88（課金事務報ノ番號）6（語數）17（日附）via Empiradio ＝439 quinze Brown（一部又ハ全部反覆スベキ電報ノ番號、全部文字ニ於ケル日附、受信人名）且、quatre,neuf（反覆スベキ原電報ノ本文ノ語辭ニシテ某數ヲ以テ示シ且文字ヲ以テ記載ス）」又ハ「mot(若ハ：mots)après：」若ハ「texte」

(ニ)　電報ヲ取消シ且電信ニ依ル返信ヲ請求スルトキ

「SST Paris Berlin 126（課金事務報ノ番號）5（語數）17（日附）＝RPx＝285 seize Grunewald（關係電報ノ番號、全部文字ニ於ケル日附、受信人名）annulés」

(ホ)　電信ニ依リ通知セラルルコトヲ要スル事項ヲ問合ストキ

「SST Londres Berlin M4 40（課金事務報ノ番號）7（語數）17（日附）＝RPx＝760 vingtain Robinson（關係電報ノ番號、全部文字ニ於ケル報信ノ日附、受信人名）confirmes remise expéditeur sans réponse informes destinataire」

(ヘ)　郵便ニ依リ通知セラルルコトヲ要スル事項ヲ問合ストキ

「SST Londres Lisbonne 50（課金事務報ノ番號）6（語數）11（日附）＝Lettre＝645 treize Emile（關係電報ノ番號、全部文字ニ於ケル報信ノ日附、受信人名）confirmes remise」

(ト)　課金事務報ノ返信ハ「RST」ナル局用記事ヲ以テ之ヲ指示ス返信ノ本文ハ往信課金事務報ノ番號、往信課金事務報ノ日附（全部文字ヲ以テ記載ス）原電報ノ受信人名次ニ之ニ殆ツル通信ヲ包含ス例ヘバ(ハ)及(ニ)ノ例ニ揭グル課金事務報ニ對スル返信ハ左ノ樣式ニ依ル

「RST Londres Calcutta 40（返信課金事務報ノ番號）6（語數）17（日附）via Empiradio ＝88（往信課金事務報ノ日附）Brown（受信人名）（全部文字ニ於ケル往信課金事務報ノ日附）Brown（受信人名）Albatros scrutiny commune（反覆ガ請求セラレタル原電報ノ三語）」

「RST Berlin Paris 53（返信課金事務報ノ番號）＝（語數）17（日附）＝126（往信課金事務報ノ番號）dissept（全部文字ニ於ケル日附）Grunewald（受信人名）annulé」

「RST Berlin Paris 53（返信課金事務報ノ番號）6（語數）17（日附）＝126（往信課金事務報ノ番號）dissept（全部文字ニ於ケル日附）Grunewald（受信人名）dépêche remis」

六　電報中反覆又ハ校正スベキ語辭ハ課金ノ規定ニ依ラズ該語辭ガ其ノ電報ノ本文ニ於テ占ムル順序ニ依リ全部文字ヲ以テ記載スル基數ヲ以テ之ヲ指示ス

七　反覆ノ請求アル語辭ガ疑ハシキ字體ニテ記載セラレタルトキハ發信局ハ兼メ之ヲ發信人ニ問合ス發信人ヲ發見スルコト能ハザルトキハ發信局ハ反覆ニ「Ecriture douteuse」ナル記事ヲ附記ス

〔裏〕

八　(一)　反覆ガ電話又ハ私設電信線ニ依リ發信局ニ到著シタル電報ニ關スルトキハ該局ハ先ヅ當該語辭ノ反覆ヲ發信人ニ請求ス直ニ發信人ニ問合スコトヲ得ザルトキハ發信原書ニ從ヒ假反覆ヲ發送ス假反覆ニハ本文ノ末尾ニ「CTTSN」（必要アラバ訂正追送ス）ナル特別記事ヲ附ス

(二)　發信人ニ問合セタル場合ニ於テ反覆シタル一語又ハ數語ガ電報ニ記載セラルル通ニ非ザルトキハ局ハ爲サレタル訂正ヲ考慮シ請求セラレタル反覆ヲ爲ス然レドモ事務報ノ本文ノ次ニ CTP（支拂ヒタル料金ヲ保有スベシ）ナル記事及發信人ニ於テ校正シ料金ヲ還付スルコトヲ要セザル語辭ノ數ヲ全部文字ヲ以テ記載スル記事ヲ附スルコトヲ得

例　「CTP 25」、「CTP deux」等

九　(一)　本條ニ揭グル傳送濟電報ニ關スル各種ノ通信ハ郵便ニ依リ發信又ハ著信電信局ノ媒介ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得

(二)　右通信ハ常ニ之ヲ作成シタル局ノ印章ヲ有ス該通信ハ請求者ノ費用ニ於テ其ノ請求ニ從ヒ普通書狀又ハ書留トシテ之ヲ發送ス請求者ガ郵便ニ依ル返信ヲ請求スルトキハ尙其ノ費用ヲ支拂フコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ著信主管廳ハ返信ノ料金ヲ完納ス

十　本條ニ規定スル事務報ノ料金ハ第八十一條ニ定ムル條件ニ於テ之ヲ還付ス

第二十七章　料金免除及還付

第八十一條　料金還付ノ場合

一　左ノ料金ハ第七十六條第十一項及第七十七條第十三項ノ規定ノ留保ノ下ニ還付ノ請求又ハ業務ノ施行ニ關スル申告ニ依リ之ヲ支拂ヒタル者ニ還付ス

(イ)　電信業務上ノ事故ニ因リ著信地ニ到著セザリシ一切ノ電報ノ全料金

(ロ)　傳送中發信局名ガ變改シタルニ因リ其ノ目的ヲ達スルコトヲ得ザリシ一切ノ電報ノ料金

(ハ)　線路ノ不通ニ因リ傳送中停止セラレタル一切ノ電報ニシテ其ノ發信人ガ之ガ爲取消ヲ請求シタルモノノ全料金

(ニ)　(一)　電信業務上ノ過失ニ因リ郵便ニテ到達シ得ベキ時日ヨリ遲レテ到達シ又ハ一切ノ場合ニ於テ左ノ期間後ニ至リテ受信人ニ交付セラレタル一切ノ電報ノ全料金

第一　隣接シ又ハ直通有線通信線路ニ依リ接續セラルル歐羅巴ノ二國間ニ交換スル電報ニ關スルトキハ八時間

第二　其ノ他ノ歐羅巴（「アルジェリー」及歐羅巴制度ニ列スル國ヲ含ム）ノ二國間、隣接シ若ハ直通有線通信線路ニ依リ接續セラルル歐羅巴外ノ二國間又ハ有線直通通信線路ニ依リ接續セラルル歐羅巴ノ一國ト歐羅巴外ノ一國トノ間ニ交換スル全額料金ノ電報（國語電報及新聞電報ヲ含ム）ニ關スルトキハ十

入時間

第三　後廻電報、歐羅巴外制度ニ於ケル書信電報又ハ祝賀電報ニ關スルトキハ七十二時間、書信電報ニ付テハ右ノ期間ハ書信電報ガ第七十六條第九項ノ規定ニ依リ通常交付セラルベキ時ヨリ之ヲ起算ス祝賀電報ニ付テハ期間ハ第七十七條第十三項ニ掲グル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第四　他ノ一切ノ場合ニ於テハ三十六時間

(ニ)　閉局中ノ期間ガ遲延ノ原因ナルトキハ該期間、別使ニ依ル送達ノ期間、無線電報ノ海上又ハ空中傳送及信號電報ノ海上傳送ノ爲要シタル期間並ニ此ノ電報ノ陸上局、移動局又ハ信號局ニ於ケル淹留期間ハ前記期間ニ之ヲ算入セズ

(三)　前掲第二及第四ニ掲グル期間ハ條約第三十條ニ規定スル利益ヲ拋棄セザリシ官報、至急電報及課金事務報ニ付テハ之ヲ半減ス

(ホ)　電報ノ傳送中脫落シタル一語又ハ數語ノ料金ガ二「フラン」(二「フラン」ヒ)ニ等シキトキ又ハ之ヲ超過スルトキハ該料金但シ(トノ適用ニ依リ本文ノ一部ノ料金還付ガ許與セラルルトキ又ハ課金事務報ニ依リ誤謬ヲ訂正シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

(ヘ)　一語又ハ數語ノ脫落ニ因リ普通語電報ノ意義ガ變ジ又ハ此ノ過誤ニ因リ該電報ノ意義ガ了解セラレザルニ至リタルトキハ該電報ノ全料金

(ト)　照校暗語電報又ハ普通語電報ノ本文中傳送上ノ誤謬又ハ脫落ニ因リ明ニ目的ヲ達スルコトヲ得ザリシ一切ノ部分ニ對スル料金ニシテ其ノ金額ガ二「フラン」(二「フラン」ヒ)ニ等シキカ又ハ之ヲ超過スルトキハ該料金但シ課金事務報ニ依リ誤謬又ハ脫落ヲ訂正シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

(チ)　施行セザリシ特別業務ニ適用スベキ附屬料金及相當課金指定ノ料金

(リ)　(一)　誤謬アリト想像セラレタル章句ノ反覆ガ最初ノ傳送ニ符合セザルトキハ該反覆ヲ請求スル課金事務報ニ對シ支拂ヒタル金額但シ原電報ニ於テ或語辭ガ正確ニ他ノ語辭ガ不正確ニ傳送セラレタル場合ニ於テハ最初正確ニ傳送セラレタル語辭ノ料金ハ之ヲ還付セズ一「フラン」五〇ノ徵收ノ最低限(第八十條第二項第二節)ヲ適用シ又ハ課金事務報ニ對シ異リタル料金制度(第八十條第二項第三節)ヲ適用スルトキハ還付ハ徵收シタル料金ヲ基礎トシ正確ニ傳送セラレタル語辭ノ數ノ割合ニ從ヒ之ヲ計算ス

(二)　尤モ關係主管廳ニ於テ變異ガ變異セザリシ語辭ノ意義ヲ了解スルコトヲ妨ゲタリト認ムルトキハ電報ヲ記載シタル語ノ何タルヲ問ハズ正確ニ傳送セラレタル語辭ノ料金ハ之ヲ還付スルコトヲ要ス

(ヌ)　他ノ一切ノ電信又ハ郵便ノ課金事務報ニシテ其ノ送付ガ業務上ノ過誤ニ基因シタルモノノ全料金

(ル)　受信人ガ前納證券ヲ使用セズ又ハ之ヲ拒絕シ且此ノ前納證券ガ之ヲ交付シタル業務ニ於テ保管セラレ又ハ其ノ發行ノ日ニ次グ三月ノ期間滿了前此ノ業務ニ返還セラルルトキハ返信ノ爲前納シタル一切ノ金額ノ全部

(ヲ)　電信線路ノ不通ニ因リ郵便其ノ他ノ方法ニ依リ電報ヲ其ノ著信地ニ送達シタルトキハ未濟ノ電氣經過ニ屬スル料金尤モ何等カノ送達方法ヲ以テ原電信線路ニ代フル爲支出シタル費用ハ還付スベキ金額ヨリ之ヲ控除ス

(ワ)　返信ニ對シ支拂ヒタル料金ノ還付ヲ正當トスル業務上ノ違例ニ因リ明ニ目的ヲ達スルコトヲ得ザリシ一切ノ返信料前納電報ノ全料金並ニ原電報ノ料金ノ還付ヲ正當トスル業務上ノ違例ニ因リ明ニ目的ヲ達スルコトヲ得ザリシ一切ノ前納返信ノ全料金

(カ)　返信料前納證券ノ價格ト此ノ前納證券ニ依リ支拂ヒタル電報ノ料金額トノ間ノ差額ガ少クトモ二「フラン」(二「フラン」ヒ)ニ等シキトキハ該差額(第五十六條第三項)

(ヨ)　條約第二十六條及第二十七條ノ規定ノ適用ニ依リ停止シタル一切ノ電報ノ全料金

(タ)　取消シタル一切ノ電報ニ對シ還付スベキ料金(第五十條第二項、第三項、第四項及第五項)

二　第一項(イ)、(ロ)、(ハ)、(ニ)、(ホ)、(ヘ)、(ト)及(ヲ)ニ規定スル場合ニ於テ還付ハ使用セザリシ附屬料金ヲ包含シ到著セザリシ電報又ハ取消、遲延若ハ變異シタル電報ニ限リ之ヲ適用シ不交付、遲延又ハ變異ニ因リ生ジ又ハ不用トナリタル通信ニハ之ヲ適用セズ

三　(一)　陸上局ガ無線電報ヲ著信移動局ニ傳送スルコトヲ得ザルコトヲ發信局ニ通知シタルトキハ發信國ノ主管廳ハ直ニ發信人ニ對シ該無線電報ニ關スル陸上局料及移動局料ノ還付ヲ爲ス

(二)　陸上局ガ無線電信以外ノ通信方法ニ依リ無線電報ヲ移動局ニ送達シタルトキ(無線通信規則ノ規定ニ從ヒ)ハ陸上局料ハ陸上局ノ屬スル主管廳ニ於テ之ヲ收得シ移動局料ノミヲ發信局ノ屬スル主管廳ノ媒介ニ依リ發信人ニ還付ス

(三)　無線電報ノ受信證ガ該電報ヲ傳送シタル局ニ著セザル場合ニ於テハ該無線電報ガ料金還付ヲ要スルコト確定シタルトキニ限リ其ノ料金ヲ還付ス

四　同文電報ノ料金ノ一部還付ノ場合ニ於テハ徵收シタル總料金ヲ名宛ノ數ニテ除シ得タル商ヲ以テ各謄寫ニ屬スル料金トス

五　電信業務ノ實ニ鑄スベキ誤謬ガ第一項(二)ニ規定スル期間內(原電報ノ額信ノ時ヨリ起算ス)ニ課金事務報ニ依リ訂正セラレタルトキハ還付ハ此ノ事務報ノ料金ノミニ關ス此ノ事務報ガ關係スル電報ニ對シテハ何等ノ還付ヲ爲サズ

六　課金事務報(第八十條)トシテ局ヨリ局ニ交換スル代リニ發信人ト受信人トノ間ニ直接ニ交換シタル校正電報ニ對シテハ何等ノ還付ヲ許與セズ

七　(一)　本條ノ規定ハ還付ノ義務ヲ負フコトヲ拒絶スル非加入主管廳ノ線路ヲ經過スル電報ニ之ヲ適用セズ

(二)　尤モ第八十三條第一項第一節ニ規定スル場合ヲ除クノ外還付ニ對スル權利確定スルトキハ傳送ニ關與シタル加入主管廳ハ其ノ料金ノ取分ヲ拋棄ス

第八十二條　料金還付ニ適用スベキ手續

一　第八十一條第一項(ル)ニ規定スル場合ヲ除クノ外料金還付ノ一切ノ請求ハ電報頼信ノ日ニ次グ六月ノ期間滿了前之ヲ提出スルコトヲ要ス然ラザレバ此ノ權利ヲ失フ

二　(一)　一切ノ請求ハ之ヲ發信主管廳ニ提出シ且之ニ證據書類卽電報ガ遲延シ又ハ到達セザリシトキハ著信局又ハ受信人ノ宣言書、變異又ハ脫落ニ關スルトキハ受信人ニ交付セラレタル謄寫ヲ添附スルコトヲ要ス遲延ノ場合ニ於テ受信人ニ交付セラレタル謄寫ハ遲延ガ右ノ謄寫ニ依リ明カナルトキハ之ヲ宣言書ニ代フルコトヲ得

(二)　尤モ請求ハ受信人ヨリ著信主管廳ニ之ヲ提出スルコトヲ得該主管廳ハ之ヲ受理スルコトヲ要スルヤ又ハ之ヲ發信主管廳ニ提出セシムルコトヲ要スルヤヲ判斷ス

三　還付請求ノ提出ノ際最高限一「フラン」(一「フラン」)ノ均一請求料ヲ請求者ヨリ徵收スルコトヲ得

四　關係主管廳ニ於テ請求ヲ正當ト認メタルトキハ電報ノ料金ハ發信主管廳ニ於テ之ヲ還付シ且請求料ヲ徵收シタル場合ニ於テハ該請求料ハ之ヲ請求者ニ還付ス

五　還付ニ對スル權利ハ發信人ニ還付ヲ許與シタルコトヲ通知スル書面ノ日附ニ次グ六月ノ期間經過シタルトキハ時效ニ因リ消滅ス

六　發信人ニシテ其ノ電報ヲ頼信シタル國內ニ居住セザル者ハ他ノ主管廳ノ媒介ニ依リ發信主管廳ニ其ノ請求ヲ提出セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ請求ヲ受理シタル主管廳ハ場合ニ依リ還付ノ執行ニ當ル

七　主管廳ヨリ主管廳ニ通知スル請求ハ書類全部ヲ添ヘテ之ヲ送付ス卽該請求ハ之ニ關係スル一切ノ書類又ハ書面(原本、抄本又ハ謄本)ヲ包有ス此ノ書類ハ佛蘭西語又ハ一切ノ關係主管廳ニ於テ了解スル國語ヲ以テ記載セラレザルトキハ佛蘭西語ヲ以テ之ヲ摘記スルコトヲ要ス

八　返信ニ對シ支拂ヒタル料金ノ還付ノ請求ヲ受理シタル主管廳ハ前納證券ヲ發行シタル主管廳ニ直接ニ該請求ヲ送付スルコトヲ得此ノ後ノ主管廳ハ諸媒介主管廳ヲ經由シ金額ヲ自廳ノ債務ト爲スコトノ

〔海軍〕

許可ヲ與ヘ又ハ還付スベキ金額ヲ郵便爲替ニ依リ發信主管廳ニ直接ニ送付シテ此ノ料金ノ還付ヲ爲ス

第八十三條　各場合ニ於テ料金ノ還付ヲ負擔スベキ主管廳

一　(一)　料金ノ還付ガ電信業務上ノ過誤ニ因ル一切ノ場合ニ於テハ還付スベキ金額ガ全額料金ノ電報ニ付テハ五「フラン」(五「フラン」)低減料金ノ電報ニ付テハ二「フラン」(二「フラン」)ヲ超過セザルトキハ發信主管廳ニ於テ之ヲ負擔ス

(二)　還付スベキ金額ガ場合ニ從ヒ五「フラン」(五「フラン」)又ハ二「フラン」(二「フラン」)ヲ超過スル一切ノ場合ニ於テ還付ハ電報ノ送達ニ關與セル諸主管廳ニ於テ之ニ歸屬シタル料金又ハ料金ノ部分ヲ拋棄シテ之ヲ負擔ス

(三)　五「フラン」及二「フラン」ノ各制限ノ計算ニ付テハ原電報ノ一語料金ノミヲ考慮シ特別業務(=RPx=、=XP=等)ニ對スル料金ハ之ヲ除外ス

二　(一)　發信主管廳ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ調査ヲ爲スコトナク料金ヲ還付ス

(イ)　不交付ノ場合ニ於テ發信人ガ電報ノ到著セザリシコトヲ證明スル著信局ノ宣言書ヲ提出スル場合

(ロ)　遲延又ハ變異ノ場合ニ於テ發信人ガ受信人ニ交付セラレタル電報又右ノ電報ノ認證謄本若ハ寫眞謄本ヲ提出シテ該遲延又ハ該變異ヲ明確ニ證明スル場合

(ハ)　返信料前納證券未使用ノ場合ニ於テ發信人ガ前記證券ヲ提出スル場合

(二)　本規則ニ從ヒ還付ヲ爲シタルトキハ還付スル主管廳ノ決定ハ最終ノモノトス

三　傳送ニ關與シタル諸主管廳ニ於テ還付ノ負擔ヲ爲スコトヲ要スルトキハ發信主管廳ハ第一項第二節ノ規定ヲ適用スル爲關係主管廳ニ請求書ヲ廻付ス又發信主管廳ハ業務ノ利益ノ爲調査ノ必要ヲ認メタルトキハ一切ノ請求ヲ廻付スル權能ヲ留保ス

四　施行セザリシ特別業務ニ適用スベキ附屬料金ノ還付ハ第一項第一節ニ規定スル場合ヲ除クノ外該附屬料金ガ其ノ利得ニ歸屬シタル主管廳ノ負擔トス

五　證券ヲ使用セザリシ場合ニ於テ返信ニ對シ支拂ヒタル料金ノ還付ハ還付スベキ金額ガ五「フラン」(五「フラン」)ヲ超過セザルトキハ發信主管廳ニ於テ之ヲ負擔ス

六　第一項第二節ニ規定スル場合ニ於テ請求ガ第八十二條第一項ニ規定スル期間內ニ提出且廻送セラレ決定ガ文書ノ保存ニ付規定シタル最低限ノ期間內ニ通告セラレザルトキハ請求ヲ受理シタル主管廳ハ請求アリタル料金ヲ還付ス還付ハ送達ニ關與シタル諸主管廳ニ於テ之ヲ負擔ス

〔海軍〕

スル取分ヲ各別ニ記載シテ支拂ハルベキ料金ノ計算書ヲ作成ス計算書ヲ作成シタル主管廳ハ該計算書ニ對シ電報ヲ傳送シタル主管廳ノ承認ヲ經タル後其ノ謄本一部ヲ各中繼主管廳ニ送付ス

七　課金事務報ノ料金ノ還付ハ此ノ料金ヲ徵收シタル主管廳ニ於テ之ヲ負擔ス

第八十四條　電報停止ノ場合ニ於テ料金ノ還付ヲ負擔スベキ主管廳

(一)　條約第二十六條及第二十七條ニ依リ停止シタル一切ノ電報ノ料金ノ還付ハ電報ヲ停止シタル主管廳ノ負擔トス

(二)　尤モ此ノ主管廳ガ條約第二十七條ニ依リ或種類ノ通信ノ停止ヲ通告シタルトキハ此ノ種類ノ電報ノ料金ノ還付ハ通告ガ發信主管廳ニ到達シタル日ノ翌日ヨリ該主管廳ニ於テ之ヲ負擔ス

第二十八章　計　算

第八十五條　計算書ヲ作成スベキ主管廳

一　條約第三十二條ニ規定スル金「フラン」ヲ以テ國際計算書作成上ノ貨幣單位トス

二　(一)　反對ノ協定ナキ限リ各主管廳ハ直接通信ヲ爲ス主管廳ヨリ受信スル一切ノ電報ニ對シ自廳ニ歸屬スル料金ノ取分及場合ニ依リ其ノ領土以遠ノ經過ニ對スル料金ノ取分ヲ發信シタル主管廳ノ借方ニ記入ス但シ或線上ニ於テ官報ニ許與セラレタル低減ハ之ヲ考慮セズ此ノ低減ニ付テハ關係主管廳間ニ特別ノ決算ヲ爲ス

(二)　隣接セザル二國間ノ直通有線ニ依ル通信ニ關シテハ電報ヲ受信シタル主管廳ハ著信地迄ノ一切ノ經過ニ對シ各關係主管廳ニ歸屬

(イ)　場合ニ依リ或附屬料金

(ロ)　歐羅巴外制度ノ隱語電報ニ適用セラルル徵收最低限

(ハ)　二制度ノ書信電報及祝賀電報ニ適用セラルル徵收最低限

(二)　隱語電報ニ付テハ先ヅ總語數ヲ乘ジタル全額料金ニ第十條第四項ニ定ムル係數ヲ適用ス

二　諸主管廳間ノ分配ノ基礎トナル料金ハ關係諸主管廳間ニ於テ決定シタル料金率ノ正確ナル適用ニ基ク料金トス發生スルコトアルベキ

【海算】

課金ノ過誤ハ之ヲ考慮セズ

三　發信局ガ通知シタル語數ヲ以テ料金適用ノ基礎トス但シ語數ガ傳送上ノ誤謬ニ因リ發信局ト對手局トノ間ノ協定ニ依リ校正セラレタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

四　附屬料金(次節ニ揭グルモノヲ除ク)及著信局ニ於テ取立テズ他ノ局ニ於テ徵收シタル料金ハ計算ヨリ之ヲ除外ス課金事務報ニ關スル料金及本規則ノ規定ニ從ヒ發信局又ハ再送局ニ於テ料金ヲ收納セザリシ電報ニ關スル料金モ亦之ヲ計算ヨリ除外ス右規定ハ二制度ニ於テ左ノ例外ヲ有ス

(イ)　電報ノ照校ニ對スル特別料金ハ計算ニ之ヲ組入レ且關係主管廳間ニ其ノ通常ノ取分ニ比例シテ之ヲ分配ス

(ロ)　前納返信料トシテ徵收シタル料金ハ之ヲ計算ニ組入レ且返信料前納電報ノ著信主管廳ニ全部歸屬ス前納返信證券ヲ以テ全部又ハ一部支拂ハレタル電報ノ料金ハ之ヲ計算ニ組入レ且該料金ガ通貨ヲ以テ支拂ハレタルトキト同樣關係主管廳ニ之ヲ分配ス尤モ返報、ガ課金事務報(Ⅱ-no 5-Ⅱ)ヲ以テ要求セラレタルトキハ此ノ前納返信料ハ國際計算ニ之ヲ算入セズ該料金ハ一般課金事務報ノ料金ト同樣之ヲ徵收シタル主管廳ニ全部歸屬ス

(ハ)　別使ニ依ル送達又ハ飛行機ニ依ル送達ニ對スル料金ハ計算ニ組入レ且著信電信局ノ屬スル主管廳ニ全部歸屬ス

五　(一)　傳送ガ料金率決定ノ基礎トナリタル線路ヨリ離ルルトキハ此ノ線路ヲ離レタル地點ヨリノ處分シ得ベキ料金ハ電報ノ傳送ニ關與シタル諸主管廳(迂回傳送ヲ爲シタル主管廳及關係私企業ヲ含ム)間ニ之ヲ分配ス此ノ分配ハ左ノ如ク之ヲ行フ

(イ)(ロ)(ハ)　首尾料ハ之ヲ變ゼズ

迂回傳送ヲ知ラザル主管廳及私企業ノ中繼料モ亦之ヲ變ゼズ

迂回傳送ヲ知ル主管廳及私企業ノ中繼料ハ其ノ減額セラレタル料金ノ總額ガ通常線路ノ此ノ部分ニ對スル中繼料ノ總額ト同額トナル樣之ヲ比例的ニ減額ス

(二)　電話線路ニ依リ例外トシテ傳送シタル電報ハ電信計算ニ之ヲ算入ス

(三)　前揭ノ規定ハ第四十八條第二項ニ揭グル條件ニ於テ料金ノ一層高額ナル線路ニ依リ傳送シタル電報ニモ亦之ヲ適用ス

(四)　此ノ後ノ場合ニ於テ如何ナル主管廳ト雖迂回傳送ニ因リ電報ガ不通トナリタル線路ニ依リ傳送セラレタル場合ニ受領スベカリシ料金ニ超過スル料金ヲ受領スルコトヲ得ズ實際經過シタル線路ノ料金ガ一層高額ナルトキハ前ニ揭グルガ如ク比例的ニ分配スベキ料金ノ總額ニ入ルルコトヲ要スルモノハ通常徵收スベカリシ料金トス

六　隣接關間ニ交換スル電報ガ迂回線路ヲ經過スルトキハ電報ヲ受信シタル主管廳ハ特別ノ協定アルニ非ザレバ第八十五條ニ規定スル條

件ニ於テ通常料金額ヲ電報ヲ傳送シタル主管廳ノ貸方ニ記入ス

第八十七條　歐羅巴制度ニ於テケル平均ニ依ル計算書ノ作成

一　歐羅巴制度ニ於テ主管廳ハ協定ノ上國境ヲ通過シタル電報ノ通數ニ從ヒ計算ヲ整理スルコトヲ得各電報ハ雙方對照シテ作成スル統計ニ基ク平均語數ヲ包含スルモノト之ヲ看做ス

二　第一項ニ規定スル場合ニ於テハ通常電報、至急電報（各至急電報ハ之ヲ二通ノ電報ト計算ス）及料金前納ノ返信ノミヲ考慮ス

三　每電報ノ平均語數ヲ決定スベキ統計ハ二十八日ノ二倍ノ期間即二月ノ最初ノ二十八日間及八月ノ最初ノ二十八日間ニ付之ヲ爲ス前掲二期間ノ一ニ於テ發生シタル特別ノ事件アル場合ニ於テハ關係諸主管廳ハ他ノ時期ニ於テ新計算ヲ爲ス爲協定スルコトヲ得

四　(一)　每電報ノ平均語數ヲ決定スル爲前掲期間中且各關係ニ於テ交換シタル電報ノ通數ヲ以テ同一關係ニ於テ交換シタル語辭ノ總數ヲ除ス料金前納ノ返信ノ平均價格ヲ決定スル爲同一ノ處置ヲ執ル

(二)　此ノ平均ハ小數點以下二位ニ於テ之ヲ全數ト爲ス該平均ハ二方向ニ於テ又ハ各方向ニ於テ各別ニ交換シタル電報ニ對シ之ヲ決定スルコトヲ得

五　斯ク決定シタル平均ハ改正アル迄計算書作成ニ之ヲ使用ス改正ハ少クトモ二年ヲ經過スルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

六　直通ノ局ハ通信ヲ各關別ニ分類シ交換シタル電報ノ通數ヲ每日計

七　電報ノ通數ニ平均語數ヲ乘ジ當該月ニ於ケル總語數ヲ求メ之ニ相當ノ百尾料又ハ中繼料ノ取分額ヲ乘ズルコトヲ要ス借方ニ記入スベキ料金前納ノ返信ニ對スル料金額ヲ決定スル爲同一ノ處置ヲ執ル

八　場合ニ依リ交換局ハ每日種類別ニ前日發送シタル電報ノ通數ヲ相互ニ通知スヨウメートナル課金指定ヲ有スル電報ノ通數モ亦之ヲ指示ス

九　關係二主管廳間ノ協定ニ依リ決定シタル最高限ヲ超過スル差異ニ付テノミ檢査ヲ爲スコトヲ要ス此ノ最高限ハ一月間ニ交換シタル電報ノ通常通數ニ依リ之ヲ決定ス

第八十八條　計算書ノ交換及檢査、差額ノ支拂

一　相互ノ計算書ハ每月之ヲ作成シ月次計算書ハ其ノ關係スル月ニ次グ第三月ノ滿了前ニ之ヲ交換スルコトヲ要ス

二　計算書ノ承認又ハ之ニ關スル注意ノ通告ハ計算ノ關係スル月ニ次グ第六月ノ滿了前ニ之ヲ爲ス此ノ期間內ニ校正ノ注意ヲ受領セザリシ主管廳ハ月次計算書ガ當然確認セラレタルモノト看做ス

三　(一)　月次計算書ハ貸方主管廳ノ計算書ノ金額ガ十萬「フラン」（一〇〇〇〇〇「フラン」）ヲ超過セザル場合ニ於テ關係二主管廳ノ作成シタル計算書間ノ差異ガ二十五「フラン」（二五「フラン」）ヲ超過セズ又ハ貸方主管廳ノ計算書ノ金額ノ百分ノ一ヲ超過セザルトキハ訂正ヲ爲スコトナクシテ之ヲ承認ス貸方主管廳ノ作成シタル計算書ノ金額ガ十萬「フラン」（一〇〇〇〇〇「フラン」）ヲ超過スル場合ニ於テ

〔海軍〕

ハ右差異ハ左ノ金額ヨリ成ル合計額ヲ超過セザルコトヲ要ス

第一　計算書ノ金額ノ最初ノ十萬「フラン」（一〇〇〇〇〇「フラン」）ノ百分ノ一

第二　超過額ノ百分ノ〇・五

(二)　關係二主管廳間ノ注意ノ交換ニ因リ差異ガ第一節ニ定ムル最高限ヲ超過セザル値ニ下リタルトキハ訂正ハ之ヲ中止ス

四　(一)　三箇月期ノ最後ノ月ニ屬スル計算書ノ承認後貸方主管廳ハ關係二主管廳間ニ反對ノ協定アルニ非ザレバ直ニ三箇月期ノ全體ニ對スル精算差額ヲ示ス三箇月期ノ計算書ヲ作成シ其ノ二通ヲ借方主管廳ニ送付ス借方主管廳ハ之ヲ檢査シタル後二通ノ內一通ニ承認ノ旨ヲ記載シ之ヲ返送ス

(二)　同一三箇月期ノ月次計算書ノ何レカガ該計算ノ關係スル三箇月期ニ次グ第六月ノ滿了前ニ承認ナカリシ場合ト雖貸方主管廳ハ假精算ヲ爲ス爲三箇月期ノ計算書ヲ作成スルコトヲ得借方主管廳ハ第五項ニ規定スル條件ニ於テ右ノ假精算ヲ爲ス義務アリ

(三)　爾後必要ナリト認メラレタル訂正ハ次ノ三箇月期ノ精算ニ於テ之ヲ爲ス

五　每三箇月期ノ計算書ハ借方主管廳ガ之ヲ受領シタル日ヨリ起算シ六週日ノ期間內ニ之ヲ檢査シ且其ノ金額ヲ支拂フコトヲ要ス此ノ期間ヲ經過スルトキハ一主管廳ヨリ他ノ主管廳ニ支拂フベキ金額ハ該期間滿了ノ日ノ翌日ヨリ起算シ年六分ノ割合ニ於テ利子ヲ生ズ

六　(一)　反對ノ協定アルニ非ザレバ三箇月期ノ精算差額ハ借方主管廳ヨリ貸方主管廳ニ金ヲ以テ又ハ金「フラン」ニテ表示スル精算差額ノ價値ニ相當スル額ニ對シ作成シタル小切手又ハ一覽拂ノ手形ヲ以テ之ヲ支拂フ

(二)　小切手又ハ手形ヲ以テ支拂ヲ爲ス場合ニ於テ此等ノ證券ハ中央發行銀行又ハ他ノ公立發行機關ガ法令又ハ政府ト、ノ協定ニ依リ決定シタル一定ノ率ニテ自國貨幣ト引換ニ金又ハ金證券ヲ賣買スル國ノ貨幣ヲ以テ之ヲ表示ス

(三)　數國ノ貨幣ガ此ノ條件ニ適合スルトキハ貸方主管廳ハ自國ニ便宜ナル貨幣ヲ指示ス換算ハ金貨ノ純分比價ニ依リ之ヲ爲ス

(四)　貸方國ノ貨幣ガ第二節ニ規定スル條件ニ適合セザル場合ニ於テ二國間ニ之ニ關スル協定アルトキハ小切手又ハ手形ハ亦貸方國ノ貨幣ヲ以テ之ヲ表示スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ精算差額ハ金貨ノ純分比價ニ依リ之ヲ前記ノ條件ニ適合スル國ノ貨幣ニ換算ス次ニ其ノ得タル結果ハ小切手又ハ手形買入註文日ニ於ケル借方國ノ首府又ハ商業地ノ取引相場ニ依リ之ヲ借方國ノ貨幣ニ換算シ更ニ貸方國ノ貨幣ニ換算ス

七　支拂ノ費用ハ借方主管廳ニ於テ之ヲ負擔ス

第八十九條　文書保存ノ期間

主管廳ニ於テ保管スル電報ノ原書及關係書類ハ祕密ヲ保護スル爲必要ナル一切ノ用意ヲ以テ關係計算ノ精算迄又一切ノ場合ニ於テ其ノ電報ノ續信ノ月ニ次グ月ヨリ起算シ少クトモ十月間之ヲ保存ス

第九十條　電報原書ノ閱覽、電報ノ謄本ノ交付

一　(一)　條約第二十四條第二項ニ規定スル例外ヲ除キ電報ノ原書又ハ謄寫ハ發信人若ハ受信人ニ其ノ本人タルコトノ確認ノ後又ハ二者ノ一ノ代理人ニ對シテノミ之ヲ示スコトヲ得

(二)　此ノ閱覽ニ對シ一「フラン」(一「フラン」ハ最高限料金ヲ徵收スルコトヲ得

二　文書ノ保存ニ付定メラレタル最低限ノ期間內ニ於テ電報ノ發信人及受信人又ハ其ノ代理人ハ左ノモノノ認證謄本又ハ寫眞ノ交付ヲ受クル權利ヲ有ス

(イ)　當該電報

(ロ)　著信ノ謄寫　但シ該謄寫又ハ其ノ副本ガ著信主管廳ニ保存セラルル場合ニ限ル

三　(一)　本條ニ從ヒ交付スル一切ノ謄本ニ對シテハ百語ヲ超過セザル電報一通ニ付一「フラン」五十「サンチーム」(一「フラン」ハ五〇)ノ一定料金ヲ徵收ス百語ヲ超過スルトキハ此ノ料金ハ五十語ノ一連續又ハ其ノ端數ニ付五十「サンチーム」(一「フラン」ハ五〇)ヲ增加ス

(二)　原書又ハ謄寫ノ寫眞ノ料金ハ寫眞ヲ交付スル主管廳ニ於テ之ヲ定ム

四　主管廳ハ發信人、受信人又ハ其ノ代理人ガ其ノ請求ニ關係スル電報ヲ發見スルニ必要ナル事項ヲ示スニ非ザレバ前揭ノ書類ヲ示シ又ハ其ノ謄本若ハ寫眞ヲ交付スルコトヲ要セズ

第三十章　聯合事務局、相互ノ通信、國際電信諮問委員會

第九十一條　聯合事務局ノ費用

(一)　電信業務及電話業務ニ對スル聯合事務局ノ共同費用ハ一年二十萬金「フラン」(二〇〇〇〇〇「フラン」)ノ金額ヲ超過スルコトヲ得ズ

(二)　尤モ一年間ニ印刷又ハ文書ニ例外的ニ多額ノ經費ヲ生ジ且同一年間ニ之ニ相當スル收入ヲ得ザリシトキハ事務局ハ右ノ場合ニ限リ規定ノ經費ノ最高限額ヲ超ユルコトヲ許可セラル但シ次年度ニ對スル經費ノ最高限額ハ右超過額ニ等シキ額ヲ減額スルコトヲ條件トス

(三)　二十萬金「フラン」(二〇〇〇〇〇「フラン」)ノ金額ハ一切ノ締約當事者ノ同意ヲ得テ之ヲ變更スルコトヲ得

第九十二條　聯合事務局ノ媒介ニ依ル主管廳相互間ノ關係

一　聯合ノ主管廳ハ其ノ國內制度ニ關スル重要ナル書類ヲ相互ニ送付シ且之ニ採用シタル重要ナル改良ヲ相互ニ通告ス

二　通則トシテ此等ノ通告ハ聯合事務局ノ媒介ニ依ル

三　前揭主管廳ハ內國及國際料金率ノ構成及變更、國際業務ニ關係ア

ル限リ新通信線路ノ開通及現存線路ノ廢止竝ニ局ノ業務ノ開始、廢止及變更ニ關スル一切ノ處置ノ通告ヲ郵便ニ依ル場合ハ完納書狀ヲ以テ又ハ至急ノ場合ハ電報ヲ以テ聯合事務局ニ送付ス主管廳ニ於テ之ニ關シ印刷又ハ複寫シタル書類ハ其ノ頒布ノ日ニ又ハ遲クトモ此ノ日ニ次グ月ノ一日ニ聯合事務局ニ之ヲ發送ス

四　前揭主管廳ハ又國際通信ニ關係アル通信線路ノ一切ノ不通又ハ復舊ノ通知ヲ電信ニ依リ事務局ニ發送ス

五　諸主管廳ハ聯合事務局ノ指示ニ從ヒ成ルベク完全ニ作成シタル統計表ヲ每年始ニ該局ニ送付ス該局ハ之ガ爲準備シタル式紙ヲ頒布ス

六　諸主管廳ハ又其ノ發行スル諸刊行物ニシテ聯合ノ他ノ主管廳ニ關係アリト認ムルモノヲ二部聯合事務局ニ送付ス

第九十三條　聯合事務局ノ事務

一　聯合事務局ハ料金表ヲ整理及刊行ス該局ハ之ニ關スル一切ノ事項殊ニ第九十二條第三項ニ揭グルモノヲ遲滯ナク諸主管廳ニ通知ス至急ヲ要スルトキ殊ニ第九十二條第四項ニ規定スル場合ニ於テハ此ノ通知ハ電信ニ依リ之ヲ傳送ス料金率ノ變更ニ關スル通告ニ付テハ事務局ハ此ノ變更ガ料金表ノ本文中ニ直ニ揭載セラルルコトヲ得ル樣適當ナル樣式ニ依リ之ヲ爲ス

二　聯合事務局ハ一般統計表ヲ作成ス

三　聯合事務局ハ國際電氣通信線路ノ公定地圖ヲ作成刊行シ且之ヲ定期ニ改訂ス

四　(一)　聯合事務局ハ無線電信陸上局ヲ包含スル國際業務ヲ取扱フ電信局名錄竝ニ之ニ加フルコトヲ要スル追加及變更ヲ通知スル定期附錄ヲ作成刊行ス

(二)　右局名錄ノ記載事項ノ正確ヲ確保スル爲主管廳ハ其ノ局ノ名稱ト同時ニ地方區劃(縣、州、聯邦、郡等)ノ名稱ヲ局名錄第二欄中國名ノ後ニ挿入スル爲聯合事務局ニ通知スルコトヲ要ス小國ノ主管廳ニ限リ此ノ義務ヨリ免除セラル

五　聯合事務局ハ尙固定地點間無線通信ノ線路名錄ヲ刊行ス

六　聯合事務局ノ印刷スル書類ハ條約第十七條ニ從フ分擔單位數ノ割合ニ於テ聯合ノ主管廳ニ之ヲ頒布ス主管廳ガ請求スルコトアルベキ追加書類ニ付テハ其ノ實費ニ從ヒ別ニ支拂ヲ爲ス聯合ニ加入セザル國ノ主管廳及私企業者ニ於テ請求スル書類ニ付テモ亦同ジ

七　此ノ種ノ請求ハ更ニ別段ノ通知ヲ爲ス迄將來ニ對シ一回ノミ之ヲ爲シ且之ニ依リ聯合事務局ニ於テ印刷ヲ調整スル時日アル樣之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十四條　國際電信諮問委員會(C.C.I.T.)

一　國際電信諮問委員會ハ國際電信ニ關係アル技術上ノ問題及通信線路ノ運用方法ニ關スル問題ニシテ主管廳及私企業ヨリ付議セラルル

モノヲ研究スルコトヲ任務トス

二 (一) 諮問委員會ハ其ノ議事ニ參加セント欲スル旨ヲ宣言シ且其ノ會合ノ共同費用ヲ平等ノ割合ヲ以テ分擔スルコトヲ約スル主管廳及私企業ノ專門家ヲ以テ之ヲ組織ス右宣言ハ前同ノ主管廳會議ヲ開催シタル國ノ主管廳ニ之ヲ宛ツ

(二) 各主管廳及私企業ハ各自其ノ專門家ノ個人的經費ヲ負擔ス

三 原則トシテ國際電信諮問委員會ノ會合ハ二年毎ニ之ヲ開催ス尤モ定メラレタル會合ハ十箇ノ參加主管廳ノ請求アリ且審議スベキ問題ノ數及性質ガ之ヲ正當トスルトキハ該會合ヲ招集シタル主管廳ニ於テ之ヲ繰上ゲ又ハ繰下グルコトヲ得

四 (一) 總會、委員會及小委員會ニ於テ使用セラルル國語及投票方法ハ前同ノ全權委員ノ會議又ハ主管廳會議ニ依リ採用セラレタル國語及方法トス

(二) 尤モ一國ガ主管廳ノ代表ヲ派遣セザルトキハ此ノ國ノ私企業ノ專門家ハ其ノ全體ノ爲ニ且其ノ數ヲ問ハズ一箇ノ表決權ヲ有ス

五 聯合事務局ノ長又ハ其ノ代表者及他ノ國際諮問委員會卽國際電話諮問委員會及國際無線通信諮問委員會ノ代表者ハ表決ニ加ハラザルモ發言ヲ爲シ得ルモノトシテ國際電信諮問委員會ニ參加スル權利ヲ有ス

六 國際電信諮問委員會ノ內部組織ハ本規則附屬書第二號ノ規定ニ依

ル

第三十一章　加入、非加入主管廳トノ關係

第九十五條　協定料金適用ノ拒絕

條約第四條ニ規定スル加入ノ場合ニ於テ締約政府ノ主管廳ハ主管廳ニシテ其ノ料金ヲ關係諸國ノ料金ニ一致セシムルコトナクシテ加入セゾコトヲ請求スルモノニ對シ其ノ協定料金ノ利益ヲ拒絕スルコトヲ得

第九十六條　私企業ニ關スル規定

一 一箇又ハ數箇ノ締約國ノ境域內ニ於テ國際業務ニ參加シテ業務ヲ行フ私企業ハ右國際業務ニ關シテハ之ヲ此等ノ國ノ電信系ノ一部ヲ形成スルモノト看做ス

二 其ノ他ノ私企業ハ條約及本規則ノ一切ノ義務的條款ニ對スル加入ニ依リ且其ノ經營ヲ特許又ハ許可シタル國ノ通告ニ依リ條約及本規則ニ規定スル利益ヲ享有ス此ノ通告ハ條約第三條及第四條ニ從ヒ之ヲ爲ス

三 二箇又ハ數箇ノ締約國ヲ連結スル私企業ガ此ノ關係ニ於テ特許ヲ附與シタル國ノ規定シタル義務ニ從フベキコトヲ其ノ特許契約ニ依リ約スル限リ該私企業ニ對シ前項ノ加入ヲ課スルコトヲ要ス

四 締約國中ノ一國ニ對シ該國ノ線系ニ電氣通信線路ヲ接續スルコトノ許可ヲ請求スル私企業ハ其ノ料金額ヲ特許ヲ附與スル國ノ承認ニ付スルコト並ニ第二十九條ニ規定スル期間ノ後ニ於テノミ實施セラ

〔海軍〕

ルル聯合事務局ノ通告ニ依ルニ非ザレバ料金率ニ變更ヲ加ヘザルコトヲ正式ニ約束スル場合ニ限リ其ノ許可ヲ受クルコトヲ得

五 第九十五條ニ規定スル留保ハ前揭企業ニ之ヲ適用ス

第九十七條　非加入國トノ關係

一 電信關係ガ非加入國又ハ本規則ノ義務的規定ニ對スル加入ヲ爲サザル私企業ト開始セラルルトキト雖締約國又ハ加入國ノ領土ノ經過ノ部分ニ於テハ右規定ヲ通信ニ適用ス

二 關係主管廳ハ右經過ノ部分ニ適用スベキ料金ヲ定ム此ノ料金ハ第二十八條ノ範圍內ニ於テ之ヲ定メ非加入主管廳ノ料金ニ之ヲ加算ス

、

第三十二章　最終規定

第九十八條　規則ノ施行

本規則ハ千九百三十四年一月一日ヨリ之ヲ施行スベシ

右證據トシテ各全權委員ハ西班牙國政府ノ記錄ニ寄託保存セラルベキ本規則ノ一通ニ署名シタリ其ノ謄本一通ハ各政府ニ交付セラルベシ

千九百三十二年十二月十日「マドリッド」ニ於テ之ヲ作成ス

（各國全權委員記名省略）

〔海軍〕

附屬書第一號（第三十七條第十一項及第七十九條第十一項第二節參照）

事務報ニ使用スベキ隱語及運用ニ使用スベキ略語ノ表

番號	略語	譯文
		一　不交付ノ事務報
一	RAFIS	配達不能　請求ナシ
二	RAFUJ	配達不能　受信人不在
三	RAFYZ	配達不能　受信人出發後
四	RAHOT	配達不能　受信人出發後、、、、、、、、ヘ郵便ニ依リ再送ス
五	RAJAJ	配達不能　受信人不明
六	RAJEV	配達不能　受信人、、、、、、、、ヘ向ケ出發後
七	RAJFU	配達不能　受信人行先ヲ示サズ出發後

八	RAJGO	配達不能　受信人未著
九	RAJIF	配達不能　受信人旅館ニ宿泊シ居ラズ
一〇	REGAD	配達不能　同名ノ者數人アリ(同名異人)
一一	REJAB	配達不能　船舶ハ到達シ得ザル所ニ在リ
一二	REKEG	配達不能　名宛不十分
一三	RESIN	配達不能　家ノ番號ノ記載ナク名宛不十分
一四	RICOD	配達不能　最早名宛ノ登記ナシ
一五	RIHUB	配達不能　旅館不明
一六	RIJAG	配達不能　名宛登記ナシ
一七	RIKEN	配達不能　場所不明
一八	RISOB	配達不能　家ノ番號存在セズ
一九	ROCOG	配達不能　街路(廣場)不明
二〇	ROFER	配達不能　船舶出發後
二一	ROFJO	配達不能　船舶ヨリ通報ナシ
二二	RUCMU	配達不能　名宛ニ記載シタル電話番號ハ受信人名ト符合セズ
二三	RUCOS	配達不能　旅館、家、商會等最早存在セズ
二四	RUCXO	配達不能　電報ガ受信人ニ關係ナシトテ拒絕セラル
二五	RUCYD	配達不能　列車中ノ呼出效ナシ

二六	RUCZA	配達不能　列車出發後
二七	RUFAJ	配達不能　船舶出發後、無線ニ依レバ再送可能
二八	RUFKU	配達不能　船舶未著
二九	RUFMO	配達不能　受信人下船後
三〇	RACYB	常ニ配達不能
三一	DADRO	二　運用ニ關スル事務報
三二	TIBOH	、、、線(又ハ、、、「セクター」)ニ依リ應答アレ　此處ハ輻輳中
		、、、、、、ニ轉用シ得ザルヤ
		三　其ノ他ノ事務報
三三	NEDIB	著信地數多アリ不完全　通知アレ
三四	NEKLO	發信地局名錄ニナシ　通知アレ
三五	NEMYD	著信地不明　、、、ヘ向ケ傳送ス　必要アラバ訂正アレ
三六	NIGYC	二回受信ス　一方ヲ取消シタリ
三七	OFBIN	電信受信報知(CR)未著
三八	PASCA	二回傳送ス　第二回ノ分取消アレ
三九	PYSAT	其ノ後配達ス(又ハ請求アリ)不交付ノ通知取消アレ
四〇	WEJYV	參照事項ニ誤アリ　番號、日附、願信時刻通知アレ　何何線ニ依リ傳送シタルヤ通知アレ
四一	WEFXU	我カ事務報ニ對スル回答ヲ待ツ
四二	WEJOD	著信地局名錄ニナシ　通知アレ

四三	XESCU	汝ハ何時何線ニテ關係電報ヲ受信シタレヤ
四四	XESLA	汝ハ何時何線ニテ關係電報ヲ傳送シタルヤ
		四　運用上使用スベキ略語
四五	BQ	請求ノ表示
四六	BQ	BQニ對スル回答
四七	AL	汝カ傳送シタルモノヲ全部反覆アレ
四八	LR	汝ハ何レノ點（語辭又ハ電報）迄受信シタルヤ　我ハ、、、、、、迄受信シタリ
四九	OK	同意ス　一切正當ナリ
五〇	SX	單信
五一	DX	二重
五二	DF	我ハ通信連絡ヲ取ル
五三	ANH	報機

附屬書第二號（第九十四條參照）

國際電信諮問委員會內部規則

第一條　管理主管廳

管理主管廳トハ國際電信諮問委員會ノ會合ヲ組織スルコトヲ任務トスル主管廳ヲ謂フ管理主管廳ハ前回ノ會合ノ閉會ヨリ五月後ニ諮問委員會ノ事務ヲ行フコトヲ開始ス該主管廳ノ職務ハ其ノ組織シタル會合ノ閉會ヨリ五月後ニ滿了ス

第二條　會合

管理主管廳ハ其ノ組織ヲ委任セラレタル會合ノ場所及確定期日ヲ定ム管理主管廳ハ右期日ノ少クトモ六月前ニ諸主管廳ニ對シテノミ右會合ニ對スル招請狀ヲ發ス右主管廳ハ之ヲ私企業及右會合ニ關係ヲ有スベキ他ノ機關（第十條）ニ通知ス私企業及右機關ノ回答又ハ希望ハ當該主管廳ノ紹介ニ依リ管理主管廳ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第三條　總會、委員會

一　管理主管廳ニ依リ招集セラレタル總會ハ議長及數人ノ副議長ヲ指名ス

二　議長ハ閉會及閉會ノ會議ヲ主宰シ且總會ノ一般的指揮ヲ爲ス

三　審議スベキ問題ハ之ヲ種類ニ從ヒ分配シ委員會ノ會議ニ於テ討議ス通常各委員會ハ總會ノ指名スル副議長之ヲ指揮ス

第四條　書記局

會合ノ書記局ハ聯合事務局ト協力シ管理主管廳ニ於テ之ヲ確保ス

第五條　議事錄及報告

原則トシテ議事錄及報告ハ代表委員ノ陳述ヲ其ノ要點ノミニ付採錄ス尤モ各代表委員ハ遲クトモ會議終了ノ翌朝迄ニ正文ヲ提出スルコトヲ條件トシテ其ノ爲シタル一切ノ陳述ノ摘要又ハ全部ヲ議事錄又ハ報告ニ揭載スルコトヲ請求スル權利ヲ有ス

第六條　投票

一　重大ナル故障アル場合ニ於テハ代表部ハ文書ヲ以テ其ノ表決權ヲ他ノ代表部ニ委任スルコトヲ得尤モ如何ナル代表部ト雖二箇ヲ超ユル表決權ヲ行使スルコトヲ得ズ

二　提案ハ爲サレタル投票ノ絕對多數ヲ得タル場合ニ限リ之ヲ採擇ス賛否同數ノ場合ニ於テハ提案ハ之ヲ棄却ス議事錄ニハ提案ニ賛成投票ヲ爲シタル代表部ノ數及反對投票ヲ爲シタル代表部ノ數ヲ記載ス

三　投票ハ擧手ニ依リ又ハ一代表部ノ請求アルトキハ國ノ佛關西語名ノ「アルファベット」順ニ於ケル指名點呼ニ依リ之ヲ行フ指名點呼ノ場合ニ於テ議事錄ニハ提案ニ賛成投票ヲ爲シタル代表部及反對投票ヲ爲シタル代表部ヲ記載ス

第七條　委員會ノ機能

一　總會ニ依リ設置セラレタル委員會ハ之ヲ小委員會ニ又小委員會ハ之ヲ小小委員會ニ分ツコトヲ得

二　各委員會ノ議長ハ各小委員會及各小小委員會ノ議長ノ選任ヲ所屬委員會ノ承認ニ付ス各委員會、小委員會及小小委員會ハ各自其ノ報告者ヲ任命ス

三　各委員會ノ發表スル意見ニハ該意見ガ投票者ノ全部ノ一致ヲ以テ發セラレタルトキハ「全部ノ一致ヲ以テ」ナル用語ヲ附シ又該意見ガ多數決ヲ以テ採擇セラレタルトキハ「多數決ヲ以テ」ナル用語ヲ附スルコトヲ要ス

第八條　聯合事務局ノ參加

一　聯合事務局ハ主管廳ノ用ニ供スル一般的文書ノ集中及刊行ノ爲國際電信諮問委員會ノ各種ノ議事ニ參加ス

二　國際電信諮問委員會ノ會合ニ關スル文書ノ刊行ハ豫メ總會ノ許可ヲ受タルコトヲ要ス

第九條　審議スベキ問題

國際電信諮問委員會ノ總會ハ十分ニ研究セラレ且會合ノ少クトモ三月前ニ聯合事務局ノ媒介ニ依リ諸主管廳ニ付議セラレタル問題ニ限リ之ヲ審議スルコトヲ得

第十條　團體又ハ機關ノ代表者ノ許可

一　機器製造業者ノ代表者ハ總會ニ出席スルコトヲ得ズ

二　其ノ他ノ種類ノ團體又ハ機關ニシテ之ニ對スル諮問又ハ其ノ協力ガ有用ト認メラルルモノノ代表者ハ權限アル委員會ノ議長ノ決定ニ依リ一定ノ委員會又ハ會議ノ議事ニ其ノ參加スルコトヲ招請セラルルコトヲ得尤モ該代表者ハ總會ノ會議ニ參加スルコトヲ得ズ

第十一條　報告者委員會

一　諸主管廳ノ專門家ヲ以テ組織シ且二會期間ニ於テ問題ノ研究ヲ爲スコト及國際電信諮問委員會ニ付議スベキ意見ノ準備ヲ爲スコトヲ任務トスル報告者委員會ヲ設置ス各報告者委員會ハ主任報告者ヲ選任ス主任報告者ハ報告者委員會ノ議事ヲ指揮シ且其ノ主管廳ノ許可ヲ受ケテ其ノ委員會ノ報告者ヲ招集スル權能ヲ有ス

二　問題ハ能ヲ限リ通信ニ依リ之ヲ解決スルコトヲ要ス主任報告者ハ之ガ爲該委員會ノ他ノ報告者ト文書ヲ以テ直接通信スルコトヲ得然レドモ右ニ依リ問題ノ完全ナル解決ヲ得ルコト能ハザルトキハ主任報告者ハ研究問題ヲ口頭ヲ以テ討議スルコトヲ得ル爲適當ナル場所ニ於ケル會合ヲ提議スル權利ヲ有ス

三　報告者委員會ハ私企業ノ代表者及私工業ノ專門家ニ對シ其ノ協力ガ有用ナリト認メラルルトキハ該委員會ノ一定ノ研究及討議ニ其ノ參加スルコトヲ招請スルコトヲ得

四　管理主管廳ニ依リ設置セラレタル書記局ノ局長ハ右會合ニ參加スルコトヲ得ル爲主任報告者ヨリ其ノ時期及場所ノ通知ヲ受ク

五　報告者委員會ノ報告ハ其ノ意見案ト共ニ聯合事務局ニ之ヲ送付シ該局ハ之ヲ複製シテ國際電信諮問委員會ノ參加者及他ノ關係者ニ配布ス

第十二條　閉會ノ會議

一　閉會ノ會議ニ於テ總會ハ委員會ニ於テ可決セラレタル意見ヲ採擇若ハ否決又ハ研究ニ付シ且新問題又ハ未決問題ノ表ヲ作成ス總會ハ次回會合迄ニ該問題ヲ研究スベキ報告者委員會ヲ指名シ且各報告者委員會ニ代表ヲ出スコトヲ希望スル主管廳ノ表ヲ作成ス

二　會合ノ書記局ハ意見ヲ聯合事務局ニ送付シ該局ハ之ヲ聯合ノ諸主管廳ニ通知ス

三　右會議ニ於テ國際電信諮問委員會ハ次回會合ヲ開催スベキ概略ノ期日ヲ定メ且次回會合ノ管理主管廳ヲ指定ス該諮問委員會ハ新問題及未決問題ヲ指示ス該問題ノ全部ハ次回會合ノ日程ニ記載セラル

第十三條　新問題ノ研究

一　會合ノ終了後總會ノ豫定セザリシ一切ノ新問題ニシテ國際電信諮問委員會ニ付議スベキモノハ之ヲ新管理主管廳ニ送付ス該主管廳ハ第九條ノ規定ノ留保ノ下ニ該問題ヲ次回會合ノ日程ニ記載ス

二　新提案ノ複製及配布ノ爲管理主管廳ハ之ヲ聯合事務局ニ送付スルコトヲ得(第十一條第五項)

第十四條　二會合間ニ於ケル國際電信諮問委員會ノ管理

一　國際電信諮問委員會ノ閉會ニ次グ五月ノ間ハ前管理主管廳(前回ノ會合ヲ開催シタル國ノ主管廳)ノ書記局ハ主管廳、私企業及製造業者トノ連絡ヲ維持シ且殊ニ通信連絡ヲ繼續ス

二　最後ニ管理ノ任務ヲ有シタル主管廳ハ新書記局ニ一切ノ關係事務ヲ直接引繼グ

第十五條　管理主管廳ト他ノ主管廳、私企業及機關トノ間ノ關係

管理主管廳ハ國際電信諮問委員會ノ事務ニ協力シ得ベキ主管廳、私企業及機關ト直接通信スルコトヲ得管理主管廳ハ書類ノ謄本少クトモ一通ヲ聯合事務局ニ送付ス

(備考)

國際電氣通信條約附屬電信規則

目次

第一章　無線通信運用ニ對スル效力……(頁參考)九〇七
第一條　無線通信ニ對スル電信規則ノ適用……九〇七
第二十九類　國際電氣通信條約

第二章　國際線系……九〇七
第二條　線系ノ組織……九〇七
第三條　通信線路ノ利用……九〇七
第四條　通信線路ノ維持……九〇七
第三章　局ノ執務ノ種類及範圍……九〇八
第五條　執務ノ開始、時間及終了、標準時……九〇八
第六條　局ノ執務ノ種類及範圍ヲ示ス記號……九〇八
第四章　通信ニ關スル總則……九〇八
第七條　發信人又ハ受信人ノ本人タルコトノ證明……九〇八
第五章　電報ノ書法及類信……九〇九
第八條　普通語及暗語、其ノ受理……九〇九
第九條　普通語……九〇九
第十條　隱語……九〇九
第十一條　祕語……九一〇
第十二條　電報ノ書法、使用シ得ベキ文字……九一〇
第十三條　電報ノ各部分配列ノ順序……九一一
第十四條　課金指定ノ記載方……九一一
第十五條　名宛ノ記載方……九一三
第十六條　本文ノ記載方……九一四
第十七條　署名ノ記載方、證明……九一四
第六章　語數ノ計算……九一四

第十八條　電報ノ一切ノ部分ニ適用スベキ規定……九一四
第十九條　名宛ノ語數ノ計算……九一六
第二十條　本文ノ語數ノ計算……九一六
第二十一條　署名ノ語數ノ計算……九一七
第二十二條　額表ニ於ケル語數ノ表示……九一七
第二十三條　語數計算ノ違例、過誤ノ訂正……九一七
第二十四條　語數ノ計算ノ例……九一八
第七章　料金及課金……九二二
第二十五條　歐羅巴制度及歐羅巴外制度……九二二
第二十六條　料金ノ構成……九二二
第二十七條　歐羅巴制度ノ基本料金ノ決定……九二三
第二十八條　歐羅巴外制度ノ基本料金ノ決定……九二四
第二十九條　新料金適用ノ時期……九二五
第三十條　料金ヲ全數ト爲ス權能……九二五
第三十一條　貨幣相當額ノ決定……九二五
第八章　料金ノ徵收……九二五
第三十二條　發信ノ際ニ於ケル徵收、著信ノ際ニ於ケル徵收……九二五
第三十三條　割引許與ノ禁止、制裁……九二六
第三十四條　徵收ノ錯誤……九二六
第九章　傳送字號……九二六
第三十五條　第一及第二國際電信「アルファベット」ノ傳送字號、「モールス」字號、「ヒューズ」、機及「シーメンス」機ノ字號……九二六
第十章　電報ノ傳送……九三七
第三十六條　傳送ノ順位……九三七
第三十七條　傳送上ノ一般規則……九三八
第三十八條　電報一通毎ノ交番傳送……九四〇
第三十九條　連續ニ依ル交番傳送及連續ニ依ル繼續傳送……九四一
第四十條　繼續番號ヲ用ウル傳送……九四一
第四十一條　額表ノ傳送……九四二
第四十二條　電報ノ他ノ部分ノ傳送……九四四
第四十三條　傳送語數ノ檢查……九四四
第四十四條　職權ニ依ル反覆、照校……九四五
第四十五條　受信證……九四五
第四十六條　變異シタル電報ニ關スル手續……九四六
第十一章　電報ノ送達……九四七
第四十七條　電報ノ經過線路……九四七
第十二章　電信通信ノ不通……九四八
第四十八條　迂回傳送、通則……九四八
第四十九條　郵便ニ依ル迂回……九四八

〔海事〕

第十三章　電報ノ取消……九四九
第五十條　傳送前又ハ送達中ノ取消……九四九
第十四章　電報ノ停止……九五〇
第五十一條　權限アル局、停止ノ通告……九五〇
第十五章　名宛ヘノ交付……九五〇
第五十二條　交付ノ各場合……九五〇
第五十三條　不交付及還惡交付……九五一
第十六章　特別電報……九五三
第五十四條　總則……九五三
第五十五條　至急私報……九五三
第五十六條　返信料前納電報、前納證券ノ使用又ハ料金還付……九五四
第五十七條　照校電報……九五五
第五十八條　受信報知電報……九五五
第五十九條　發信人ノ指圖ニ依ル追尾電報……九五六
第六十條　受信人ノ指圖ニ依ル再送電報……九五八
第六十一條　同文電報……九五九
第六十二條　別使又ハ郵便ニ依リ交付スベキ電報……九六〇
第六十三條　儀證電報……九六二
第十七章　官眞電報……九六二

〔海事〕

第六十四條　官眞電報……九六二
第十八章　信號電報……九六三
第六十五條　信號電報……九六三
第十九章　無線電報……九六四
第六十六條　無線電報……九六四
第二十章　爲替電報……九六四
第六十七條　爲替電報……九六四
第二十一章　新聞電報……九六五
第六十八條　許可ノ條件……九六五
第六十九條　新聞電報ノ書法……九六五
第七十條　新聞電報ニ對スル通常料金ノ適用……九六六
第七十一條　新聞電報ノ傳送及交付……九六七
第七十二條　雜　則……九六七
第二十二章　氣象電報……九六七
第七十三條　氣象電報……九六七
第二十三章　同報無線通信……九六七
第七十四條　同報無線通信……九六七
第二十四章　低減料金ノ電報……九六八
第七十五條　後廻電報……九六八
第七十六條　著信電報……九六九
第七十七條　祝賀電報……九七一

第二十五章　官　報……九七一
第七十八條　官報ニ對スル特別規定……九七二
第二十六章　本局報及事務報……九七三
第七十九條　本局報及事務報……九七三
第八十條　課金事務報……九七四
第二十七章　料金免除及還付……九七七
第八十一條　料金還付ノ場合……九七七
第八十二條　料金還付ニ適用スベキ手續……九八〇
第八十三條　各場合ニ於テ料金ノ還付ヲ負擔スベキ主管廳……九八一
第八十四條　電報停止ノ場合ニ於テ料金ノ還付ヲ負擔スベキ主管廳……九八二
第二十八章　計　算……九八二
第八十五條　計算書ヲ作成スベキ主管廳……九八二
第八十六條　計算書ノ作成……九八二
第八十七條　歐羅巴制度ニ於ケル平均ニ依ル計算書ノ作成……九八四
第八十八條　計算書ノ交換及檢査、差額ノ支拂……九八四
第二十九章　文　書……九八五
第八十九條　文書保存ノ期間……九八六
第九十條　電報原書ノ閱覽、電報ノ謄本ノ交付……九八六
第三十章　聯合事務局、相互ノ通信、國際電信諮問委員會……九八六
第九十一條　聯合事務局ノ費用……九八六
第九十二條　聯合事務局ノ媒介ニ依ル主管廳相互間ノ關係……九八六
第九十三條　聯合事務局ノ事務……九八七
第九十四條　國際電信諮問委員會（C.C.I.F.）……九八七
第三十一章　加入、非加入主管廳トノ關係……九八八
第九十五條　協定料金適用ノ拒絕……九八八
第九十六條　私企業ニ關スル規定……九八八
第九十七條　非加入國トノ關係……九八九
第三十二章　最終規定……九八九
第九十八條　規則ノ施行……九八九
附屬書第一號　事務報ニ使用スベキ隱語及運用ニ使用スベキ略語ノ表……九八九
附屬書第二號　國際電信諮問委員會內部規則……九九二

最終議定書

國際電氣通信條約附屬電信規則ニ署名スルニ際シ下ニ署名スル全權委員ハ右規則ノ至急電報（第五十五條）及書信電報（第七十六條）ニ關スル規定ヲ千九百三十三年四月一日ヨリ施行スルコトニ協定セリ

下ニ署名スル全權委員ハ左ノ宣言ヲ承認ス

〔海軍〕

一

「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國ノ全權委員ハ國際電氣通信條約附屬電信規則ノ署名ニ依リ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國ガ右規則第二十六條第二項（料金ノ構成）又ハ第三十一條（貨幣相當額ノ決定）ニ關スル何等ノ義務ヲ受諾スルモノニ非ザルコトヲ正式ニ宣言ス

二

「オーストラリア」聯邦ノ全權委員ハ國際電氣通信條約附屬電信規則ノ署名ニ依リ「オーストラリア」聯邦ガ右規則第二十六條第二項（料金ノ構成）又ハ第三十一條（貨幣相當額ノ決定）ニ關スル何等ノ義務ヲ受諾スルモノニ非ザルコトヲ正式ニ宣言ス

三

「ニュー、ジーランド」ノ全權委員ハ國際電氣通信條約附屬電信規則ノ署名ニ依リ「ニュー、ジーランド」ガ右規則第二十六條第二項（料金ノ構成）又ハ第三十一條（貨幣相當額ノ決定）ニ關スル何等ノ義務ヲ受諾スルモノニ非ザルコトヲ正式ニ宣言ス

四

下ニ揭グル國ノ全權委員ハ國際電氣通信條約附屬電信規則ノ署名ニ依リ其ノ政府ガ右規則第二十六條第二項（料金ノ構成）又ハ第三十一條（貨幣相當額ノ決定）ニ關スル何等ノ義務ヲ受諾スルモノニ非ザルコトヲ正式ニ宣言ス

南「アフリカ」聯邦
獨逸國
「アルゼンティン」共和國
墺地利國
白耳義國
「ブラジル」國
中華民國
「コロンビア」國
白耳義領「コンゴー」
「キュバ」國
「ドミニカ」共和國
「エヂプト」國
西班牙國
「フィンランド」國
佛蘭西國
佛領殖民地
「ハンガリー」國
英領印度
伊太利國、伊太利領殖民地及「エーゲ」海ノ伊太利領諸島

〔海軍〕

日本國、朝鮮、臺灣、樺太、關東州租借地及日本國ノ委任統治ノ下ニ在ル南洋群島
「リスアニア」國
「ルクセンブルグ」國
「モロッコ」國
「ポーランド」國
「ポルトガル」國
「ポルトガル」領殖民地
「ルーマニア」國
「チエッコスロヴァキア」國
「テュニス」國
「ヴェネズエラ」國
「ユーゴースラヴィア」國

右證據トシテ下ノ全權委員ハ本議定書ヲ作成シ西班牙國政府ノ記錄ニ保存セラルベキ右議定書ノ一通ニ署名シタリ其ノ謄本一通ハ前記規則ノ各署名政府ニ交付セラルベシ

千九百三十二年十二月十日「マドリッド」ニ於テ之ヲ作成ス

（各國全權委員署名省略）

●國際電氣通信條約附屬電話規則

昭和八年十二月二十八日
遞信省告示第二千九百二十二號

昭和八年十二月十二日條約第十號「マドリッド」締結國際電氣通信條約附屬電話規則左ノ如シ

國際電氣通信條約附屬電話規則

第一章　規則ノ適用

第一條　規則ノ適用、制度

一　(一)　本規則ノ規定ハ歐羅巴制度ノ國際電話業務ノミニ之ヲ適用ス

(二)　歐羅巴制度ハ歐羅巴ノ一切ノ國及當該主管廳ガ此ノ制度ニ屬スルコトヲ宣言スル歐羅巴外ニ在ル國ヲ包含ス

二　電話通信ガ歐羅巴制度ニ屬スル國ノ通信線路ノミヲ經過スルトキハ歐羅巴制度ノ規定ニ從フ

三　歐羅巴外ノ各電話業務ニ關スル規定ハ關係主管廳又ハ私企業間ノ協定ニ依リ之ヲ定ム

四　電信規則ノ規定ニシテ本規則ノ規定ニ牴觸セズ且本規則ト同一ノ事項ニ關スルモノハ電話業務ニ之ヲ適用ス

第二章　定義

第二條　定義

（海軍）

左ノ定義ハ條約ニ揭グル定義ヲ補足ス

電話中央局　電話通信ヲ設定スルコトヲ得シムル設備

電話回線　二箇ノ電話中央局間ニ兩方向ノ電話通信ヲ設定スルコトヲ得シムル電氣的通路

國際電話回線　異リタル二國ニ在ル二箇ノ電話中央局ヲ接續スル電話回線

線路官部局　國際回線ニ依リ直接ニ接續セラルル局

中繼直通回線　一箇又ハ數箇ノ中繼國ヲ通過シ且中繼電話中央局ヲ包含セザル國際電話回線

直通通信　一箇ノ國際電話回線ニ依リ設定セラルル電話通信

中繼通信　二箇以上ノ國際電話回線ニ依リ設定セラルル電話通信

通信ノ請求　國際電話通信ヲ得ル爲利用者ガ爲シタル最初ノ要求

通話　請求電話ト被請求電話トノ間ニ通信ガ設定セラレタル場合ニ於ケル通信ノ請求ノ成果

通話ノ拒絕　通話ガ提供セラレタルトキ請求電話又ハ被請求電話ノ一方ニ在ル者ガ之ヲ爲スコト能ハズ又ハ之ヲ爲スコトヲ欲セザル旨ヲ直ニ表示シタル場合ノ拒絕セラレタル通話

通常線路　特定ノ關係ニ於テ電話通話ノ疏通ノ爲第一位ニ選定セラルベキ線路

補助線路　通常線路以外ノ線路ニシテ通常線路ト同一ノ國ヲ通過スルモノ

（海軍）

第三章　國際線路

第三條　線路ノ組織及利用

一　(一)　關係主管廳又ハ私企業ハ相互間ニ協定ノ上國際電話通話ノ疏通ヲ確保スルニ必要ナル回線ヲ組織ス

(二)　各中繼主管廳又ハ私企業ハ其ノ施設ヲ爲ス地域ヲ通過スルコトヲ要スル國際回線ノ區間ヲ提供ス

(三)　中繼主管廳又ハ私企業ノ施設ヲ爲ス地域ニ建設スベキ各區間ハ成ルベク一切ノ種類ノ困難ヲ考慮シ國際回線ノ入點及出點間ノ最短路ニ依リ之ヲ建設ス

二　(一)　國際電話通話ノ疏通ニ充ツル回線及之ニ關スル技術的設備ハ良好ナル聽取竝ニ正確且迅速ナル業務ヲ確保スル樣之ヲ組織及維持ス

(二)　之ガ爲主管廳及私企業ハ線路及設備ノ組織及維持ニ關シ成ルベク國際電話諮問委員會ノ作成スル原則上ノ勸告ニ從フ

三　(一)　關係主管廳又ハ私企業ハ開始スベキ關係ヲ協議ヲ遂ゲ決定ス

比ノ關係ハ一定線条ニ止メズ之ヲ大ナル地理的區域ニ擴張スル模勢ヒ

(二) 各關係ニ對シ關係主管廳又ハ私企業ハ協議ヲ遂ゲ左ノ事項ヲ決定ス

(イ) 一箇又ハ數箇ノ通常線路

(ロ) 場合ニ依リ業務ノ迅速ノ見地ヨリ補助線路ノ使用ヲ利益トスル各場合ニ於テ使用スベキ補助線路

(ハ) 場合ニ依リ通常線路ノ全部不通又ハ重大ナル障碍ノ場合ニ於テ使用スベキ豫備線路

(三) 通常線路ハ聽取ノ質、中繼局ノ數、使用スベキ回線ノ長サ及通話ヲ考慮シテ之ヲ決定ス尤モ聽取ノ質ニハ最大ノ重要性ヲ認ムベシ

四　國際回線ノ用途ハ關係主管廳又ハ私企業間ノ協定ニ依リテノミ之ヲ變更スルコトヲ得

五　障碍ノ場合ニ於テハ缺陷アル一切ノ國際回線（又ハ國際回線ノ區間）ハ成ルベク速ニ修理セラルルコトヲ要シ且修理セラルル迄ハ能フ限リ且遲滯ナク代用セラルルコトヲ要ス

六　(一) 關係主管廳又ハ私企業ハ各自ノ地域ニ建設セラルル國際回線ノ區間ノ構成ヲ相互ニ通知シ且此ノ構成上ノ一切ノ重要ナル變更ヲ相互ニ通知ス

(二) 聯合事務局ハ國際電話回線名錄ヲ常ニ現行ナラシム

第四章　回線ノ維持

一　協議ヲ遂ゲ定メタル時刻ニ於テ線路首部局ハ毎日呼出及聽取ノ試驗ニ依リ國際回線ノ狀態ヲ確ム障碍ハ之ヲ記錄ス

二　關係主管廳又ハ私企業ハ線路首部局及中繼所ガ國際回線ニ於ケル維持ノ定期的測定ヲ行フベキ日程表ヲ協議ヲ遂ゲ作成ス此ノ測定ハ電話通話ノ疏通ヲ妨ゲザル時刻ニ於テ之ヲ行フコトヲ要ス

第四章　執務時間、標準時

第五條　執務時間

一　(一) 各主管廳又ハ私企業ハ其ノ局ノ執務時間ヲ決定ス

(二) 關係主管廳及私企業ハ國境ノ兩側ニ在リ且相互ニ連續的關係ヲ有スル局ノ執務ノ時間ヲ成ルベク一致セシム

二　無休ノ執務ヲ爲サザル局ハ現ニ行ハルル通話及既ニ準備シタル通信ノ爲執務ヲ規定時間ヨリ十二分時延長スルコトヲ要ス

第六條　標準時

(一) 局ノ時ハ常ニ其ノ國ノ標準時タルコトヲ要ス

(二) 一國ノ標準時ニ對スル一切ノ變更ハ該國ノ主管廳又ハ私企業ヨリ他ノ關係主管廳及私企業ニ之ヲ豫告ス

第五章　加入者名簿

第七條　名簿ノ作成

（裏）

一　各主管廳又ハ私企業ハ線条別ニ公定加入者名簿ヲ刊行ス

二　線条ノ配列ガ「ABC」順ニ依ラザルトキハ各名簿ハ索出ヲ容易ナラシムル爲「ABC」順ノ線条ノ再錄表ヲ包含ス

三　少クトモ執務ガ無休ニ非ザル中央局ニ付テハ執務時間ハ右名簿中ニ「アラビア」數字ヲ以テ之ヲ指示ス

第八條　名簿ノ供給

一　各主管廳又ハ私企業ハ其ノ公定名簿ノ十分ナル部數ヲ無料ニテ電話關係ノ存スル諸國ノ主管廳又ハ私企業ニ交付ス新名簿ヲ受領シタルトキハ舊名簿ハ之ヲ破棄ス

二　主管廳及私企業ハ外國ノ公定名簿ヲ各自國ノ公衆ニ販賣スル爲必要ナル處置ヲ採ル

第六章　通話ノ種別

第九條　通常私用通話

通常私用通話トハ課金通話ニシテ何等ノ先順位ヲ享有セザルモノヲ謂フ

第十條　至急私用通話

通常私用通話ニ對シ先順位ヲ有スル至急私用通話ハ關係主管廳又ハ私企業間ノ協定ニ依リ之ヲ許スコトヲ得

第十一條　特急通話

至急官用通話ヲ除ク他ノ一切ノ通話ニ對シ先順位ヲ有スル特急通話ハ

關係主管廳又ハ私企業間ノ協定ニ依リ之ヲ許スコトヲ得

（裏）

第七章　豫約通話

一　(一) 豫約通話トハ豫メ定ムル同一時刻ニ於テ同一時間同一電話間ニ毎日又ハ毎就業日行ハルベキモノト豫定セラルル通話ニシテ少クトモ全一月ニ付請求セラレタルモノトス

(二) 尤モ豫約名義人ハ豫約約定ニ指示セラレタル以外ノ電話ナルモ豫約約定ニ指示セラレタルモノト同一ノ線条ニ屬スルモノニ對シ又ハ之ヨリ其ノ通話ヲ交換スルコトヲ例外的ニ許可セラルルコトヲ得

二　豫約通話ハ關係主管廳又ハ私企業間ノ特別ノ協定ニ依リ之ヲ許ス

三　豫約通話ハ專ラ通信者ノ個人的用件又ハ其ノ事業ノ用件ニ關スルコトヲ要ス

四　(一) 豫約通話ハ請求者ヨリ豫約約定ノ申込ヲ爲スコトヲ要ス豫約ハ何レノ日ヨリモ之ヲ契約スルコトヲ得然レドモ一月ノ期間ハ每月一日ニ於テノミ之ヲ開始ス最初ノ一月ノ期間ニ對スル豫約料金額ニハ場合ニ依リ施行ノ日ト一月ノ期間ノ開始ノ日トノ間ニ包含セラルル期間ニ相當スル該豫約料金額ノ部分ヲ附加ス

(二) 豫約ハ一方又ハ他方ヨリ當該一月ノ期間滿了ノ少クトモ八日前ニ之ヲ解除セザルトキハ連月繼續ス尤モ關係主管廳又ハ私企業間ノ特別ノ協定ニ依リ最初ノ一月ノ期間ノ終了前八

日ノ兼告ヲ以テ期限前ノ解除ヲ許與スルコトヲ得

五　兼約通話ノ時刻及時間ハ利用者ノ要求及業務ノ可能性ヲ考慮シ關係局之ヲ定ム關係局ハ兼約約定ニ定メタル通話ノ時刻及時間ヲ文書ヲ以テ確認ス

六　兼約約定ニ定メタル時刻ニ關係線路官部局間ニ何等ノ通話行ハレズ且何等ノ至急官用通信又ハ特急通信ノ請求（又ハ至急官用通話ヲ許サザル關係ニ於テハ何等ノ通常官用通信ノ請求）モ現ニ存セザル回線アルトキハ通信ハ豫定時刻ニ設定セラルル反對ノ場合ニ於テ通信ハ豫定時刻後右條件ヲ充ス最初ノ回線ニ依リ成ルベク速ニ設定セラル

七　兼約通信ハ各兼約通話ニ對シ許與セラレタル時間ノ滿了前請求者ガ通話終了ノ信號ヲ與フルトキハ確定的ニ切斷セラル該時間ノ滿了ノ時請求者ガ通話終了ノ信號ヲ與ヘザルトキハ通信ハ職權ヲ以テ切斷セラル但シ請求者ガ通話ヲ繼續スルコトヲ欲スル旨通告シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ此ノ場合ニ於テ請求者ハ通話時間ノ制限ニ關シ規定セラレタル留保ノ下ニ通話ヲ繼續スルコトヲ許可セラルルコトヲ得

第十三條　定時通話

一　定時通話トハ通話ノ請求ニ特定ノ通話設定時刻ヲ指示スル通話トス

二　定時通話ハ關係主管廳又ハ私企業間ノ協定ニ依リ之ヲ許ス

三　定時通話ノ設定ノ爲ニ定メラレタル時刻ニ於テ關係線路官部局間ニ何等ノ通話行ハレズ且何等ノ至急官用通信又ハ特急通信ノ請求（又ハ至急官用通話ヲ許サザル關係ニ於テハ何等ノ通常官用通信ノ請求）モ現ニ存セザル回線アルトキハ通信ハ請求者ニ依リ指示セラレタル時刻ニ設定セラル反對ノ場合ニ於テ通信ハ指示セラレタル時刻後右條件ヲ充ス最初ノ回線ニ依リ成ルベク速ニ設定セラル

第十四條　官用通話

一　(一)　官用通話トハ左ノ者ヨリ官用通話トシテ請求スル通話トス

(イ)　國ノ元首

(ロ)　政府ノ一員タル大臣

(ハ)　締約政府ノ殖民地、保護領、海外領土又ハ主權、權力若ハ委任統治ノ下ニ在ル地域ノ長官

(ニ)　陸軍、海軍又ハ空軍ノ司令長官

(ホ)　締約政府ノ外交官又ハ專任領事官

(ヘ)　國際聯盟事務總長

(ト)　(ニ)ニ揭グル以外ノ領事官ヨリ請求スル通話ハ前記第一節ニ揭グル機關ト交換スル場合ニ限リ之ヲ官用通話ト看做ス

二　官用通話ノ請求者ハ要求セラレタルトキハ其ノ氏名及資格又第一項第二節ノ場合ニ於テハ被請求者ノ氏名及資格ヲモ通告スルコトヲ

要ス

三　官用通話ハ至急官用通話及通常官用通話ヲ包含ス

四　至急私用通話ヲ許サザル關係ニ於テモ至急官用通話ハ之ヲ許スコトヲ得

第十五條　局用通話

一　(一)　局用通話トハ專ラ國際電話業務ノ施行ニ關スル通話ニシテ該業務ノ關係主管廳又ハ私企業間ニ無料ニテ交換セラルルコトヲ得ルモノトス

(二)　各所屬ノ主管廳又ハ私企業ニ依リ許可セラレタル吏員ハ右權能ノ行使ノ請求ニ際シ其ノ氏名及資格ヲ通告スルコトヲ要ス

二　局用通話ハ成ルベク最繁忙時間外ニ於テ之ヲ請求スルコトヲ要ス右通話ハ通常私用通話ニ列ス然レドモ重要且至急ノ場合ニ於テハ此ノ通話ハ何時ニテモ之ヲ請求スルコトヲ得ベク且之ヲ至急私用通話ニ對シ先順位ヲ有スル至急局用通話ト看做スコトヲ得

第十六條　取引所通話

一　(一)　取引所通話トハ一切ノ取引所會員又ハ取引員ノ用ニ供セラレ且關係國ノ主管廳又ハ私企業ニ依リ施設セラルル電話室ヲ有スル取引所ヨリ發シ又ハ之ニ著スル通話トス

(二)　「取引所局」トハ此等ノ電話室及場合ニ依リ之ヲ接續スル交換機ノ總體ヲ謂フ

二　取引所通話ハ本規則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外國際電話通話ニ適用スル一般的規定ニ從フ

三　「取引所局」ニ宛ツル通信ノ請求ハ豫告又ハ呼出通知ヲ伴フコトヲ得ズ

第十七條　豫告附通話

一　(一)　一切ノ通信ノ請求ハ豫告ヲ包含スルコトヲ得豫告ハ通信ノ請求者ガ氏名又ハ他ノ一切ノ方法ニ依リ指示シタル對手者又ハ特定ノ電話ト通話ノ交換ヲ欲スル旨ヲ豫メ關係加入電話ニ通告スルコトヲ目的トス

(二)　豫告ハ關係主管廳又ハ私企業間ノ協定ニ依リ之ヲ許ス

二　豫告ニ次グ通話ハ之ヲ「豫告附通話」ト稱シ本規則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外國際電話通話ニ適用スル一般的規定ニ從フ

三　豫告附通信ノ請求ハ關係局ノ一ノ閉鎖時刻ニ其ノ效力ヲ失フ尤モ豫告ノ有效期間ハ通話ガ翌日概定ノ時刻ニ行ハレ得ベキコトヲ請求者ニ通知セラレタルトキハ請求者ノ要求ニ依リ之ヲ二十四時間延長スルコトヲ得

第十八條　呼出通知附通話

一　(一)　一切ノ通信ノ請求ハ呼出通知ヲ包含スルコトヲ得呼出通知ハ通話ヲ交換スル爲公衆通話所ヲシテ對手者又ハ之ト同一家屋ニ居住スル代人ヲ呼出サシムルコトヲ目的トス

(二)　呼出通知ハ關係主管廳又ハ私企業間ノ協定ニ依リ之ヲ許ス

二　呼出通知ニ次グ通話ハ之ヲ「呼出通知附通話」ト稱シ本規則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外國際電話通話ニ適用スル一般的規定ニ從フ

三　呼出通知附通信ノ請求ハ請求ヲ爲シタル日ニ次グ全一日間效力ヲ有ス

四　理由ノ何タルヲ問ハズ呼出通知ノ交付ヲ爲スコトヲ得ザルトキハ其ノ旨ヲ請求者ニ通知シ通信ノ請求ハ之ヲ取消ス

第十九條　事項ノ問合

一　事項ノ問合トハ通信ノ請求ヲ伴ハザル要求ニシテ左ノ事項ヲ知ル爲利用者ノ爲スモノトス

(イ)　氏名及完全ナル宛所ヲ以テ指示セラレタル者ガ電話加入者ナリヤ否ヤ及肯定ノ場合ニ於テハ其ノ電話番號ハ何番ナリヤ

(ロ)　特定ノ電話線系ニ於ケル或ル電話番號ガ何人ニ該當スルヤ

二　事項ノ問合ハ關係主管廳又ハ私企業間ノ協定ニ依リ之ヲ許ス

第七章　通信ノ請求

第二十條　請求ノ樣式

一　通信ノ請求ニ於テハ被請求加入電話ハ著信線系ノ名稱及當該國ノ公定加入者名簿ニ揭載セラルル通ノ電話番號ニ依リ之ヲ指示ス尤モ被請求者ヲ識別スルニ必要ナル補足的記事ヲ伴フ被請求者ノ氏名ノミヲ包含スル請求ハ之ヲ許ス

二　「取引所局」ヨリ發シ又ハ之ニ著スル通信ノ請求ニ於テハ關係取引所ノ名稱、關係取引所會員又ハ取引員ノ氏名及場合ニ依リ被請求取引所會員又ハ取引員ノ代理人ノ氏名又ハ資格ヲ指示ス

第二十一條　請求ノ效力

(一)　當日分トシテ記錄セラレタル通信ノ請求ニシテ通信ノ設定セラルルニ至ラザルモノノ效力ハ左ノ時ニ於テ消滅ス

(イ)　執務ガ無休ニ非ザル局ニ於テハ當日ノ終ニ於ケル執務ノ閉鎖ノ時

(ロ)　無休執務ノ局ニ於テ通信ガ當日ノ二十二時以前ニ請求セラレタルモノナルトキハ夜半

(二)　二十二時乃至二十四時ノ間ニ於テ請求セラレタル通信ノ效力ハ翌日ノ八時ニ消滅ス

第二十二條　請求ノ制限

同一通信者ヨリ發シ同一線系ニ著スル通信ノ請求ノ數ハ關係主管廳又ハ私企業間ニ協議ヲ遂ゲ之ヲ制限スルコトヲ得

第二十三條　設定時刻ノ指定

請求者ハ其ノ通信ノ請求ニ際シ通信ノ請求ノ效力ニ關スル前記規定(第二十一條)ノ留保ノ下ニ通信ガ其ノ指示スル時刻後ニ於テノミ設定セラルルコト又ハ其ノ指示スル特定ノ時間中設定セラレザルコトヲ指

〔海軍〕

定スルコトヲ得

第二十四條　請求ノ變更

一　一切ノ通信ノ請求ニ對シ且通信ノ請求ノ效力ニ關スル第二十一條ノ規定ノ留保ノ下ニ請求者ハ其ノ局ヨリ通話交換ノ爲呼出サルルニ至ル迄ノ間左ノコトヲ爲スコトヲ得

(イ)　通信ガ特定ノ時間中設定セラレザルコトヲ指定スルコト

(ロ)　通信ガ特定ノ時刻後ニ於テノミ設定セラルルコトヲ指定スルコト

(ハ)　請求電話ノ番號又ハ被請求電話ノ番號ヲ其ノ電話ノ屬スル線系ノ範圍內ニ於テ變更スルコト

(ニ)　通常通信ノ請求ヲ至急通信ノ請求ニ又ハ其ノ反對ニ變更スルコト

(ホ)　通常通信ノ請求ヲ廣告又ハ呼出通知附通信ノ請求ニ變更スルコト

(ヘ)　廣告附通信ノ請求ヲ呼出通知附通信ノ請求ニ又ハ其ノ反對ニ變更スルコト

(ト)　呼出通知附通信ノ請求又ハ取引所通信ノ請求ノ受信人ノ指示ヲ同一線系ノ範圍內ニ於テ變更スルコト

二　(一)　通信ノ請求ノ變更ハ無料ニテ之ヲ許與スル尤モ發信主管廳又ハ私企業ノ記錄ノ附加的事務ノ增加トシテ且國際計算ニハ算入セラレザル特別料金ヲ徵收スルコトヲ得

(二)　廣告附通信ノ請求ヲ呼出通知附通信ノ請求ニ若ハ其ノ反對ニ變更シ、一切ノ通信ノ請求ヲ呼出通知附通信ノ請求ニ變更シ又ハ呼出通知附通信ノ請求若ハ取引所通信ノ請求ノ受信人ノ指示ヲ變更シタル場合ニ於テ著信主管廳又ハ私企業ハ請求セラレタル變更ニ依リ使者ヲ出スコトヲ必要トスルトキハ之ニ關スル料金ヲ受ク

第八章　通話ノ先順位、通信ノ設定及切斷、通話時間ノ制限

第二十五條　通話ノ先順位

一　國際通話(國境ノ隣接線系ヲ接續スル國際回線ノミニ依ルモノヲ除ク)ハ同種ノ內國通話ニ對シ先順位ヲ享有ス

二　國際通常通話ハ極端國ノ內國至急私用通話ニ對シ先順位ヲ享有ス尤モ關係主管廳又ハ私企業ハ此ノ先順位ヲ特定ノ長サヲ超ユル長サノ國際回線ニ依ル國際通話ニ制限スル爲協定スルコトヲ得

三　(一)　通話ハ左ノ順位ニ於テ之ヲ交換ス

(イ)　至急官用通話
(ロ)　特急通話
(ハ)　至急局用通話
(ニ)　至急私用通話
(ホ)　通常官用通話
(ヘ)　通常私用通話及通常局用通話

〔海軍〕

(二)　尤モ至急官用通話ヲ許サザル關係ニ於テハ通常官用通話ハ至急局用通話ニ對シ先順位ヲ有ス

四　(一)　通信ガ一箇ノ國際回線ノミニ依ル關係ニ於テハ通信ノ請求ハ請求者側ノ線路首部局ニ於テ該回線上ニ於ケル順位ヲ定ム

(二)　通信ガ二箇以上ノ國際回線ニ依ル關係ニ於テハ直ニ應答スルコトヲ要ス相當ハ私企業ハ通信ノ請求ノ順位ヲ定ムベキ回線及此等ノ請求ヲ分類スベキ線路首部局ヲ決定スル爲協定ス原則トシテ通信ノ請求ノ順位ヲ定ムベキ回線ハ長サ及負荷ノ見地ヨリ最重要ナル回線トス

(三)　通信ノ請求ヲ分類スベキ國際線路首部局ニ於テハ此等ノ請求ハ其ノ種別及該局ノ受信時刻ニ從ヒ其ノ順位ヲ定ム

第二十六條　通信ノ設定及切斷

一　一切ノ通信ノ請求、請求ノ變更及取消ノ通知ハ能フ限リ速ニ通信ノ請求ヲ分類スベキ線路首部局ニ之ヲ傳送ス

二　同種ノ通話ハ交番ニ之ヲ設定ス關係線路首部局ハ通話ノ疏通上利益ト認ムルトキハ協議ヲ遂ゲ交番ノ條件ヲ臨時變更スルコトヲ得相互間ヲ數箇ノ國際回線ニ依リ接續セラルル線路首部局ハ右ト同一ノ目的ヲ以テ協議ヲ遂ゲ中繼通信ノ設定又ハ單一方向ノ通話疏通ノ爲此等ノ回線中ヨリ一定ノ回線ヲ指定スルコトヲ得

三　(一)　少クトモ一通信ハ現ニ行ハルル通話ノ終了前ニ之ヲ準備スルコトヲ要ス

(二)　準備ハ請求及被請求二電話ガ何等ノ時間ノ空過ナク通信セシメラルルニ必要ナル一切ノ手續ヨリ成ル

四　既ニ準備シタル通信ハ上級ノ通信ノ爲ニ之ヲ遲延セシムルコトヲ得ズ

五　國際回線上ニ於ケル呼出ニ對シテハ直ニ應答スルコトヲ要ス相當ノ呼出時間ノ後被呼局ガ應答ヲ爲サザルトキハ他ノ電話回線ニ依リ又ハ場合ニ依リ電信ニ依リ該回線ニ於ケル業務ノ再開ヲ求ム

六　(一)　線路首部局ハ通信者間ノ聽取ガ十分ナルヤヲ檢査ス該局ハ通信設定竝ニ通話終了ノ時刻又ハ該通話ノ時間ヲ記錄ス尙場合ニ依リ該局ハ聽取ガ不十分ナリシ時間ヲ記錄ス

(二)　通信ノ始ヨリ關係線路首部局ガ聽取狀態十分ナラザルベキコトヲ認メタルトキハ通信ハ他ノ通信ノ設定ニ對スル一切ノ遲延ヲ避クル爲之ヲ切斷ス

七　國際回線ノ線路首部局ハ業務上ノ事故及國際計算書ノ作成ニ必要ナル事項ヲ記錄ス

八　通信ノ準備、設定及切斷ニ付テハ國語ノ異ル主管廳又ハ私企業間ニ於テハ佛蘭西語ヲ使用ス但シ他ノ國語ノ使用ニ關シ特別ノ協定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十七條　通話時間ノ制限

一　(一)　通則トシテ私用通話ノ時間ハ之ヲ制限セズ

〔海軍〕

(二)　尤モ關係主管廳又ハ私企業ハ特定ノ關係ニ於テ私用通話ノ時間ヲ十二分時又ハ單ニ六分時ニ制限スル爲協定スルコトヲ得

(三)　尙一切ノ關係ニ於テ輻輳又ハ障碍ノ場合ニハ關係線路首部局ハ私用通話ノ時間ヲ臨時十二分時又ハ單ニ六分時ニ制限スル爲協定スルコトヲ得

(四)　一切ノ關係ニ於テ私用通話ノ時間ハ現ニ存スル上級ノ通信ノ請求ヲ充ス爲必要ナルトキハ之ヲ十二分時ニ制限スルコトヲ得

二　(一)　官用通話ノ時間ハ之ヲ制限セズ

(二)　尤モ中繼主管廳又ハ私企業ハ官用通話ガ所屬局ノ一ニ依リ中繼セラルルトキハ官用通話ノ時間ヲ十二分時ニ制限スル權利ヲ有ス

三　通話ノ時間ガ制限セラルル場合ニ於テハ可能ナラバ通信設定ノ直前ニ其ノ旨ヲ請求者ニ豫告ス尙通信者ハ通信ノ戰權ニ依ル切斷ノ數秒前ニ通告セラル

第九章　料金及課金、料金免除及還付

第二十八條　通話ノ課金時間

一　加入者間ノ通話ノ課金時間ハ請求電話及被請求電話ガ呼出ニ應答シタル後ニ電話間ニ通信ガ設定セラレタル時ニ始マル

二　通信ガ公衆通話所ヨリ發シ加入電話ニ著スルトキハ通話ノ課金時間ハ加入電話ガ呼出ニ應答シ請求者ガ右加入電話ト接續セラレタル時ニ始マル

三　通信ガ公衆通話所ニ著スルトキハ通話ノ課金時間ハ關係二電話ガ呼出ニ應答シ場合ニ從ヒ公衆通話所ニ於ケル請求者又ハ請求加入電話ガ被請求者又ハ其ノ代理人ト接續セラレタル時ニ始マル

四　通話ノ課金時間ハ一切ノ場合ニ於テ通信ガ正確ニ設定セラレタル後呼出ニ應答ヲ爲ス者ノ何人タルヲ問ハズ加入電話ガ呼出ニ應答シタル時ニ始マル

五　通話ノ課金時間ハ請求電話ガ通話終了ノ信號ヲ與フル時ニ終ル

六　(一)　各通話ノ後ニ關係線路首部局ノ通信吏員ハ該通話ノ課金時間ヲ決定スル爲協議シ且通常私用通話ノ場合ヲ除クノ外該通話ノ課金時間ノ指示ヲ確認ス

(二)　通話中ニ聽取ノ困難又ハ事故發生シタルトキハ關係線路首部局ノ通信吏員ハ該通話ノ課金時間ヲ決定スル爲協議ス

(三)　通話ノ課金時間ニ關シ線路首部局間ニ異見アルトキハ請求者側ノ線路首部局ノ意見ニ依ル

第二十九條　料金、通則

一　料金ノ單位ノ金額ハ金「フラン」ヲ基礎トシ關係主管廳又ハ私企業間ノ協定ニ依リ之ヲ定ム

二　通話ノ料金ハ首尾料及場合ニ依リ一箇又ハ數箇ノ中繼料ヨリ成ル

三　(一)　首尾料ノ決定ニ付主管廳及私企業ノ地域ハ之ヲ地帶ニ分割スルコトヲ得

(二) 各主管廳又ハ私企業ハ他ノ各主管廳及私企業トノ關係ニ對シ地帶ノ數及範圍ヲ定ム

(三) 同一ノ地帶ニ對シテハ均一ノ首尾料ヲ定ム

四 各中繼主管廳又ハ私企業ハ其ノ中繼料ヲ定ム中繼ノ條件同一ナルトキハ同一ノ主管廳又ハ私企業ハ同一ノ中繼料ヲ適用ス

五 特定ノ關係ニ於テ最初ノ中繼直通回線ヲ供給スル主管廳又ハ私企業ハ該直通回線ニ依リ每就業日ニ交換セラルル通話ノ課金分時ノ平均數ガ特定ノ最低限數ヲ超過スルニ至ル迄ハ其ノ中繼料中ニ中繼局運用ノ經費ヲ含マシムル權能ヲ有ス此ノ最低限數ハ關係主管廳又ハ私企業間ノ協定ニ依リ之ヲ定ム

六 特定ノ關係ニ於ケル料金ノ單位ハ該關係ニ於ケル通信ノ設定ニ使用スル線路(通常、補助、豫備)ノ如何ヲ問ハズ常ニ同一トス

七 (一) 三分時又ハ之ニ達セザル時間ノ一切ノ通話ハ三分時トシテ之ニ課金ス

(二) 通話時間ガ三分時ヲ超ユルトキハ課金ノ最初ノ三分時ヲ超ユル時間ニ對シテハ一分時每ニ之ヲ徵ス一分時ノ一切ノ端數ハ一分時トシテ之ニ課金ス一分時ノ料金ハ三分時ニ對シ適用スル料金ノ三分ノ一トス

(三) 尤モ國境ノ隣接線系間ノ關係ニ於テハ料金ハ三分時ノ不可分時間ニ付之ヲ徵收ス關係主管廳又ハ私企業ハ協議ヲ遂ゲ此ノ關係ヲ定ム

八 通話ノ多キ時間及通話ノ少キ時間ニ亙ル通話ハ左ノ如ク之ニ課金ス

(イ) 通話時間ガ三分時以內ナルトキ　通話ガ通話ノ多キ時間中ニ始リタルヤ又ハ通話ノ少キ時間中ニ始リタルヤニ從ヒ通話ノ多キ時間又ハ通話ノ少キ時間ニ對スル發信主管廳又ハ私企業ノ現行料金ヲ適用ス

(ロ) 通話時間ガ三分時ヲ超ユルトキ　最初ノ三分時ハ該通話ガ始マル時ニ對スル發信主管廳又ハ私企業ノ現行料金ニ依リ附加分時ハ該分時ノ各ガ始マル時ニ對スル右主管廳又ハ私企業ノ現行料金ニ依リ之ニ課金ス

九 線路首部局ノ各通信吏員ハ其ノ發信通話ニ關シ通話ノ多キ時間ヨリ通話ノ少キ時間ヘ又ハ其ノ反對ヘノ經過ノ時刻ヲ對手者ニ通告ス

十 料金ハ場合ニ從ヒ通信ヲ請求シタル加入電話名義人又ハ公衆通話所ヨリ通信ヲ請求シタル者ヨリ之ヲ徵收ス

第三十條　各種ノ通話ニ適用スベキ料金

一 (一) 一切ノ通話ニ對シ通話ノ少キ時間ニ適用スル料金ハ最高限ニ於テ通話ノ多キ時間ニ該通話ニ適用セラルベキ料金ノ五分ノ三トス

(二) 通話ノ少キ時間ハ關係主管廳又ハ私企業間ノ協定ニ依リ之ヲ

二 至急通話ニ適用スル料金ハ料金ノ同一ナル時間中ニ交換セラルル同一時間ノ通常通話ニ對スル料金ノ二倍トス

三 特急通話ニ適用スル料金ハ料金ノ同一ナル時間中ニ交換セラルル同一時間ノ通常通話ニ對スル料金ノ二倍トス

四 官用通話ハ同種ノ私用通話ト同樣ニ之ニ課金ス

五 (一) 豫約通話ニハ左ノ料金ヲ課ス

(イ) 通話ノ多キ時間中　此ノ時間中ニ交換セラルル同一時間ノ通常通話ニ對スル料金ノ二倍

(ロ) 通話ノ少キ時間中　最高限ニ於テ通話ノ多キ時間中ニ交換セラルル同一時間ノ通常通話ニ對スル料金ニ該豫告ニ依ル通話ノ始ト料金ノ同一ナル時間中ニ交換セラルル通常通話ノ一分時ノ料金ノ二分ノ一

(二) 通話ノ多キ時間中(最輻輳時間ヲ除ク)ニハ豫約通話ハ關係主管廳又ハ私企業間ノ協定ニ依リ通常通話ノ料金ニ依リ之ヲ許スコトヲ得

六 豫約通話ニ總ク附加通話ハ該附加通話ガ交換セラルル料金時間中ノ豫約通話ニ適用スベキ料金ニ依リ一分時每ニ之ニ課金ス

七 (一) 豫約ノ月額料金ハ三十日ヲ基礎トシ之ヲ計算ス

(二) 尤モ豫約ノ月額料金ハ名義人ガ日曜日及其ノ本國ニ於テ日曜日ニ準ゼラルル祭日ニ豫約ノ使用ヲ拋棄スルトキハ二十五日ヲ基礎トシ之ヲ計算スルコトヲ得

八 通話ノ多キ時間中ニ交換セラルル定時通話ニ適用スル料金ハ料金ノ同一ナル時間中ニ交換セラルル同一時間ノ通常通話ニ對スル料金ノ二倍ニ通話ノ多キ時間中ノ通常通話ノ一分時ノ料金ニ等シキ附加料金ヲ加ヘタルモノトス該附加料金ノ最低限ハ五十「サンチーム」(〇「フラン」五〇)トス

九 通話ノ少キ時間中ニ交換セラルル定時通話ニ適用スル料金ハ通話ノ少キ時間中ニ交換セラルル同一時間ノ通常通話ノ一分時ノ料金ニ等シキ附加料金ヲ加ヘタルモノトス

十 (一) 豫告附通話ニ適用スル料金ハ料金ノ同一ナル時間中ニ交換セラルル同種及同一時間ノ通話ニ對スル料金ニ該豫告ニ依ル通話ノ始ト料金ノ同一ナル時間中ニ交換セラルル通常通話ノ一分時ノ料金ニ等シキ附加料金ヲ加ヘタルモノトス該附加料金ノ最低限ハ五十「サンチーム」(〇「フラン」五〇)トス

(二) 特別ノ事情ニ關シ本規則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外通話ヲ伴ハザル豫告ニハ請求者側ノ線路首部局ガ豫告ヲ傳送シタル料金時間中ニ交換セラルル三分時ノ通常通話ニ適用スベキ料金ノ三分ノ一ノ料金ヲ課ス該料金ノ最低限ハ五十「サンチーム」(〇「フラン」五〇)トス

(十一) (一) 呼出通知附通話ニ適用スル料金ハ料金ノ同一ナル時間中ニ交換セラルル同種及同一時間ノ通話ニ對スル料金ニ呼出通知ニ依ル通

話ノ始ト料金ノ同一ナル時間中ニ交換セラルル通常通話ノ一分時ノ料金ニ等シキ附加料金ヲ加ヘタルモノトス該附加料金ノ最低限ハ五十「サンチーム」(〇「フラン」五〇)トス

(二)　特別ノ事情ニ關シ本規則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外通話ヲ伴ハザル呼出通知ニハ請求者側ノ線路首部局ガ呼出通知ヲ傳送シタル料金時間中ニ交換セラルル三分時ノ通常通話ニ適用スベキ料金ノ三分ノ一ノ料金ヲ課ス該料金ノ最低限ハ五十「サンチーム」(〇「フラン」五〇)トス

(三)　呼出通知ガ電報ノ無料配達區域外ニ居住スル受信人ニ交付セラレタルトキハ電信業務ニ於テ別使ニ對シ請求スル料金ニ等シキ別使料ト稱スル補足的附加料金ヲ課ス該別使料ハ國際計算上全部著信主管廳又ハ私企業ノ貸方ニ之ヲ記入ス

(三)(五)　局用通話ハ之ヲ無料トス

(五)　事項ノ問合ハ國際業務ニ於テハ國際電話回線ノ使用ヲ必要トシタルトキニ限リ之ニ課金ス此ノ場合ニ於テハ事項ノ問合ニ適用スル料金ハ請求者側ノ線路首部局ガ事項ノ問合ヲ傳送シタル料金時間中ニ事項ノ問合ヲ爲ス者ト事項ノ問合ノ關スル者トノ間ニ交換セラルベキ三分時ノ通常通話ニ對スル料金ノ三分ノ一トス該料金ノ最低限ハ五十「サンチーム」(〇「フラン」五〇)トス

(六)　取引所通話ニ適用スル料金ハ同種及同一時間ノ通話ニ對スル料金

ニ關係主管廳又ハ私企業間ノ協定ニ依リ料金ノ單位ノ三分ノ一ノ附加料金ヲ加ヘタルモノトス

第三十一條　特殊ノ場合ニ於ケル課金、料金免除及還付

一　電話業務上ノ事故ニ因リ通信ノ請求ガ請求及被請求電話間ノ通信設定ヲ伴ハザルトキハ何等ノ料金ヲ徵收セズ料金額ガ支拂ハレタルトキハ之ヲ還付ス

二　通信設定ノ時ヨリ聽取狀態十分ナラザルコトヲ認メタルトキハ何等ノ料金ヲ徵收セズ

三　(一)　通話中ニ通信者ガ電話業務上ノ事故ニ因リ困難ヲ感ジタルトキハ通話ノ課金時間ハ通話狀態十分ナリシ總時間ニ之ヲ減少ス此ノ總時間ガ三分時ニ達セザルトキハ何等ノ料金ヲ徵收セズ

(二)　通信ノ請求者ハ生ジタル困難ノ確認ヲ通話中ニ中央局又ハ場合ニ依リ關係公衆通話所ニ求メタルトキニ限リ右規定ノ適用ヲ請求スルコトヲ得

四　(一)　關係局間ニ通話ノ課金時間ニ關スル協定成立後爲サレタル一切ノ申告ハ發信局ニ於テ之ヲ調査ス線路首部局ハ調査ニ必要ナルベキ事項ヲ蒐集スル爲相互ニ直接ニ通信ス

(二)　料金免除ハ發信主管廳又ハ私企業ニ於テ之ヲ許與シ且負擔ス

五　(一)　通信ノ請求ハ請求者ガ通話交換ノ爲呼出サルル迄何等ノ料金ノ徵收ナク之ヲ取消スコトヲ得

(二)　尤モ豫告附通信ノ請求、呼出通知附通信ノ請求又ハ定時通信ノ請求ニ關シテハ取消ノ時請求者側ノ線路首部局ガ豫告若ハ呼出通知ノ事項又ハ定時通話ニ關スル事項ノ傳送ヲ既ニ開始シタルトキハ豫告、呼出通知又ハ定時通信ノ請求ニ對スル附加料金ハ之ヲ徵收ス

(三)　又取引所通話ニ對シ附加料金ヲ課スル關係ニ於ケル「取引所局」著通信ノ請求ノ取消ニ關シテハ該附加料金ハ取消ノ時請求者側ノ線路首部局ガ被請求取引所會員又ハ取引員ニ關スル事項ノ傳送ヲ既ニ開始シタルトキハ之ヲ徵收ス

(四)　呼出通知附通信ノ請求ノ場合請求者ニ於テ受信人ガ其ノ住居ニ於テ取消ノ通知ヲ受クルコトヲ欲スルトキハ更ニ呼出通知ニ對スル附加料金及場合ニ依リ別使ノ附加料金ヲ徵收ス

(五)　呼出通知及前納別使料附通信ノ請求ノ場合著信局ニ於テ取消ノ通知ヲ受ケタル時未ダ使者ガ出發セザルトキハ別使ノ附加料金ハ之ヲ徵收セズ

六　(一)　通信者ノ事故ニ因リ豫約通話ガ爲サレザルトキ又ハ許與セラレタル時間爲サレザルトキハ何等ノ補給又ハ還付ヲ爲サズ

(二)　電話業務上ノ事故ニ因リ豫約通話ガ爲サレザルトキ又ハ許與セラレタル時間爲サレザルトキハ該通話ハ不使用ノ時間ニ等シキ時間ノ通話ニシテ料金ノ同一ナル時間ノ終了前ニ交換スベキモノヲ以テ誡ルベク之ニ代ヘ又ハ之ヲ補給ス料金ノ同一ナル時間中ニ通話ノ代替ヲ爲シ又ハ補給ヲ爲スコトヲ得ザルトキハ使用シタル時間ニ對スル料金ノミヲ國際計算ニ算入ス使用時間ガ三分時ニ達セザルトキハ何等ノ料金ヲ計算ニ算入セズ使用シタル時間ニ對スル該料金ノ算出ニ付テハ全豫約通話ニ對シ許與セラレタル時間ニ相當スル料金ヲ基礎トス該基礎料金ハ何レノ月タルヲ問ハズ豫約月額ノ二十五分ノ一又ハ三十分ノ一トス

七　(一)　豫約通話以外ノ一切ノ通話ニ對シテハ請求電話又ハ被請求電話ガ拒絕シタル場合ニ於テハ拒絕ガ爲サレタル料金時間中ニ關係二電話間ニ交換セラルル通常通話ノ一分時ニ對スル料金ヲ徵收ス其ノ最低限ハ五十「サンチーム」(〇「フラン」五〇)トス

(二)　定時通話ニ關シテハ請求電話又ハ被請求電話ガ拒絕シタル場合ニ於テハ拒絕ガ爲サレタル料金時間中ニ關係二電話間ニ交換セラルル通常通話ノ一分時ニ對スル料金ノミヲ徵收ス其ノ最低限ハ五十「サンチーム」(〇「フラン」五〇)トス

(三)　豫告又ハ呼出通知附通話ガ請求電話又ハ受信人若ハ其ノ代理人ノ拒絕ニ因リ爲サレ得ザルトキハ豫告又ハ呼出通知ニ對スル附加料金及場合ニ依リ別使ノ附加料金ノミヲ徵收ス

(四)　取引所通話ニ附加料金ヲ課スル關係ニ於ケル「取引所局」著通話ガ請求者又ハ受信人ノ拒絕又ハ不在ニ因リ通話交換ノ爲呼出サレタル時ニ爲サレ得ザルトキハ取引所通話ノ請求ニ對スル附加料金ノ

ミヲ徴收ス

(五) 關係主管廳又ハ私企業間ノ協定ニ依リ拒絶ノ場合ニ適用スル料金ニ等シキ料金ハ通話交換ノ爲呼出サレタル時請求當話ガ應答セザル場合又ハ豫告ヲ受信スル爲若ハ豫告附通話ヲ交換スル爲呼出サレタル時被請求當話ガ應答セザル場合ニ於テ豫約通話以外ノ一切ノ通話ニ對シ之ヲ適用スルコトヲ得

第十章　計　算

第三十二條　計算書ノ作成

一 (一) 關係主管廳又ハ私企業ガ交換セラレタル通話ノ分時ヲ毎日對照セザルコトヲ決定シタル場合ヲ除クノ外諸回線ノ線路首部局ハ料金ヲ國際計算ニ算入スベキ分時ノ數ヲ毎日相互間ニ電話ヲ以テ決定ス

(二) 毎日ノ對照ハ二線路首部局間ノ諸回線ニ付且各料金時間ニ付各種ノ課金分時數ヲ明カナラシムルコトヲ要ス豫備線路ニ依リ疏通シタル通話ハ之ヲ區別ス各料金時間ニ付テハ分時ハ國及料金地帶毎ニ之ヲ集計ス

(三) 分時數ノ每日ノ對照ハ業務書類ノ檢査後ニ於テ之ヲ行フコトヲ要ス對照ハ遲クトモ當該日ノ翌々日迄ニ終了スルコトヲ要シ且通話ノ疏通ヲ妨ゲザル樣之ヲ行フコトヲ要ス

二 電話料金ハ著信國ノ主管廳又ハ私企業ニ於テ作成スル月次計算書ニ之ヲ記入ス該計算書ハ各料金時間ニ付著信地帶別ニ集計シタル各種ノ課金分時數ヲ示ス樣之ヲ作成ス尙通話ガ異リタル線路ニ依リ疏通セラレタルトキハ各線路ニ依リ疏通セラレタル通話ヲ區別シテ記數シ場合ニ依リ豫備線路ニ依ルモノヲ指示ス

三 (一) 月次計算書ハ國際電話通話ニ對スル一切ノ料金及附加料金ヲ含ム但シ本規則ノ別段ノ規定ニ依ルモノハ此ノ限ニ在ラズ

(二) 國際計算ニ算入スル附加料金ハ通話料金ト同一ノ割合ヲ以テ關係主管廳又ハ私企業間ニ之ヲ分配ス

第三十三條　計算書ノ交換及承認

一 著信主管廳又ハ私企業ハ發信主管廳又ハ私企業ニ對シ月次計算書ヲ著信國ヲ含ム關係國數ニ相當スル通數ニ於テ送付ス發信主管廳又ハ私企業ハ計算書ノ承認後其ノ一切ノ通數ヲ一通ヲ除キ著信主管廳又ハ私企業ニ返送ス著信主管廳又ハ私企業ハ各關係中繼國ニ一通ヲ送付ス

二 各月次計算書ハ其ノ關係スル月ニ次グ第三月ノ滿了前ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス

三 計算書ノ承認又ハ之ニ關スル注意ノ通告ハ計算ノ關係スル月ニ次グ第六月ノ滿了前ニ之ヲ爲ス此ノ期間內ニ校正ノ注意ヲ受領セザリシ主管廳又ハ私企業ハ月次計算書ガ當然確認セラレタルモノト看做ス

〔海軍〕

四 (一) 月次計算書ハ貸方主管廳又ハ私企業ノ計算書ノ金額ガ十萬「フラン」(一〇〇〇〇〇「フラン」)ヲ超過セザル場合ニ於テ關係二主管廳又ハ私企業ノ作成シタル計算書間ノ差異ガ貸方主管廳又ハ私企業ノ計算書ノ金額ノ百分ノ一ヲ超過セザルトキハ訂正ヲ爲スコトナクシテ之ヲ承認ス貸方主管廳又ハ私企業ノ作成シタル計算書ノ金額ガ十萬「フラン」(一〇〇〇〇〇「フラン」)ヲ超過スル場合ニ於テハ右差異ハ左ノ金額ヨリ成ル合計額ヲ超過セザルコトヲ要ス

第一　計算書ノ金額ノ最初ノ十萬「フラン」(一〇〇〇〇〇「フラン」)ノ百分ノ一

第二　超過額ノ百分ノ〇・五

(二) 尤モ差異ガ二十五「フラン」(二五「フラン」)ヲ超過セザルトキハ計算ハ之ヲ承認スルコトヲ要ス

(三) 關係主管廳又ハ私企業間ノ注意ノ交換ニ因リ差異ガ本項第一節ニ定ムル最高限ヲ超過セザル値ニ下リタルトキハ訂正ハ之ヲ中止ス

五 (一) 三箇月期ノ最後ノ月ニ屬スル計算書ノ承認後貸方主管廳又ハ私企業ハ關係主管廳又ハ私企業間ニ反對ノ協定アルニ非ザレバ直ニ三箇月期ノ全體ニ對スル精算差額ヲ示ス三箇月期ノ計算書ヲ作成シ其ノ二通ヲ借方主管廳又ハ私企業ニ送付ス借方主管廳又ハ私企業ハ之ヲ檢査シタル後二通ノ內一通ニ承認ノ旨ヲ記載シ之ヲ返送ス

(二) 同一三箇月期ノ月次計算書ノ何レカガ該計算ノ關係スル三箇月期ニ次グ第六月ノ滿了前ニ承認ナカリシ場合ト雖貸方主管廳又ハ私企業ハ假精算ヲ爲ス爲三箇月期ノ計算書ヲ作成スルコトヲ得借方主管廳又ハ私企業ハ第三十五條第一項ノ條件ニ於テ右ノ假精算ヲ爲ス義務アリ爾後必要ナリト認メラレタル訂正ハ次ノ三箇月期ノ精算ニ於テ之ヲ爲ス

第三十四條　明細書ノ保存

國際電話計算書ノ作成ニ使用シタル明細書ハ其ノ關係スル計算ノ精算迄且一切ノ場合ニ於テ少クトモ十月間之ヲ保存ス

第三十五條　精　算

一 每三箇月期ノ計算書ハ借方主管廳又ハ私企業ガ之ヲ受領シタル日ヨリ起算シ六週日ノ期間內ニ之ヲ檢査シ且其ノ金額ヲ支拂フコトヲ要ス此ノ期間ヲ經過スルトキハ一主管廳又ハ私企業ヨリ他ノ主管廳又ハ私企業ニ支拂フベキ金額ニハ該期間滿了ノ日ノ翌日ヨリ起算シ年六分ノ割合ニ於テ利子ヲ生ズ

二 (一) 反對ノ協定アルニ非ザレバ三箇月期ノ精算差額ハ借方主管廳又ハ私企業ヨリ貸方主管廳又ハ私企業ニ金ヲ以テ又ハ金「フラン」ニテ表示スル精算差額ノ價値ニ相當スル額ニ對シ作成シタル小切手又ハ一覽拂ノ手形ヲ以テ之ヲ支拂フ

(二) 小切手又ハ手形ヲ以テ支拂ヲ爲ス場合ニ於テ此等ノ證券ハ中

央發行銀行又ハ他ノ公立發行機關ガ法令又ハ政府トノ協定ニ依リ決定シタル一定ノ率ニテ自國貨幣ト引換ニ金又ハ金證券ヲ賣買スル國ノ貨幣ヲ以テ之ヲ表示ス

(三) 數國ノ貨幣ガ此ノ條件ニ適合スルトキハ貸方主管廳又ハ私企業ハ自國ニ便宜ナル貨幣ヲ指示ス換算ハ金貨ノ純分比價ニ依リ之ヲ爲ス

(四) 貸方國ノ貨幣ガ前記第二節ニ規定スル條件ニ適合セザル場合ニ於テ二國間ニ之ニ關スル協定アルトキハ小切手又ハ手形ハ亦貸方國ノ貨幣ヲ以テ之ヲ表示スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ精算差額ハ金貨ノ純分比價ニ依リ之ヲ前記ノ條件ニ適合スル國ノ貨幣ニ換算ス次ニ其ノ得タル結果ハ小切手又ハ手形ノ買入註文日ニ於ケル借方國ノ首府又ハ商業地ノ取引相場ニ依リ之ヲ借方國ノ貨幣ニ換算シ更ニ貸方國ノ貨幣ニ換算ス

三　支拂ノ費用ハ借方主管廳又ハ私企業ニ於テ之ヲ負擔ス

第十一章　聯合事務局、國際電話諮問委員會

第三十六條　聯合事務局ノ刊行スル書類

聯合事務局ハ國際電話ニ關スル左ノ書類ヲ國際電話諮問委員會ノ之ニ關シ爲ス勸告ヲ考慮シテ刊行ス

電話ノ一般統計表

國際電話回線名簿

國際關係ニ關スル公定地圖

第三十七條　國際電話諮問委員會（C.C.I.T.）

一　國際電話諮問委員會ハ國際電話ニ關係アル技術、運用及料金ノ問題ニシテ主管廳及私企業ヨリ付議セラルルモノヲ研究スルコトヲ任務トス

二　(一) 諮問委員會ハ其ノ議事ニ參加センコトヲ欲スル旨ヲ宣言スル主管廳及私企業ノ專門家ヲ以テ之ヲ組織ス右宣言ハ前回ノ主管廳會議ヲ開催シタル國ノ主管廳ニ之ヲ宛ツ

(二) 國際電話諮問委員會ノ費用ハ參加國ニ於テ全部之ヲ負擔シ且聯合事務局ノ費用割當ニ關シ採用セラルルモノト同樣ノ方法ニ依リ各國間ニ之ヲ割當ツ

(三) 一國ガ主管廳ノ代表ヲ派遣セズ一箇又ハ數箇ノ私企業ガ代表者ヲ派遣スルトキハ該國ノ經費分擔部分ハ該國ヲ代表スル一箇又ハ數箇ノ私企業ノ負擔トス私企業ハ該國ノ經費分擔部分ヲ各自ノ間ニ割當ツル爲協定スベシ協定ヲ缺クトキハ該經費分擔部分ハ之ヲ平等部分ニ分割シテ此等私企業ニ負擔セシム

(四) 各主管廳又ハ私企業ハ各自其ノ專門家ノ個人的經費ヲ負擔ス

三　原則トシテ國際電話諮問委員會ノ會合ハ二年毎ニ之ヲ開催ス尤モ定メラレタル會合ハ十箇ノ參加主管廳ノ請求アリ且審議スベキ問題ノ數及性質ガ之ヲ正當トスルトキハ該會合ヲ招集シタル主管廳ニ於テ之ヲ繰上ゲ又ハ繰下グルコトヲ得

四　(一) 總會、委員會及小委員會ニ於テ使用セラルル國語及投票方法ハ前回ノ全權委員ノ會議又ハ主管廳會議ニ依リ採用セラレタル國語及方法トス

(二) 尤モ一國ガ主管廳ノ代表ヲ派遣セザルトキハ此ノ國ノ私企業ノ專門家ハ全體ノ爲ニ且其ノ數ヲ問ハズ一箇ノ表決權ヲ有ス

五　聯合事務局ノ長又ハ其ノ代表者及他ノ國際諮問委員會即國際無線通信諮問委員會及國際電信諮問委員會ノ代表者ハ表決ニ加ハラザルモ發言ヲ爲シ得ルモノトシテ國際電話諮問委員會ノ會合ニ參加スル權利ヲ有ス

六　國際電話諮問委員會ノ組織及機能ニ關スル前諸項ノ規定ハ內部業務規則ヲ以テ之ヲ補足ス內部業務規則ノ主要ナル規定ハ本規則附屬書ニ之ヲ掲グ

第十二章　補足規定

第三十八條　補足規定

主管廳又ハ私企業ハ本規則ニ含マザル國際電話業務ニ關スル一切ノ規定ヲ決定スル爲協定ス主管廳又ハ私企業ハ右ニ付國際電話諮問委員會ノ發スル意見ヲ考慮ス

第十三章　最終規定

第三十九條　規則ノ施行

本規則ハ千九百三十四年一月一日ヨリ之ヲ施行スベシ

右證據トシテ各全權委員ハ西班牙國政府ノ記錄ニ寄託保存セラルベキ本規則ノ一通ニ署名シタリ其ノ謄本一通ハ各政府ニ交付セラルベシ

千九百三十二年十二月十日「マドリッド」ニ於テ之ヲ作成ス

（各國全權委員記名省略）

附屬書（第三十七條參照）

國際電話諮問委員會內部規則

主要規定

第一條　組織

國際電話諮問委員會ハ左ノ四機關ヨリ成ル

(イ) 總會

(ロ) 報告者委員會

(ハ) 電話傳送參考試驗局巴基本方式研究所

(ニ) 書記局

第二條　總會

一　總會ノ職務ハ報告者委員會ノ提出スル報告及意見案ヲ可決、否決又ハ修正シ且參加主管廳及私企業ヨリ付議セラルル新問題ヲ研究スルコトヲ決定スルモノトス

二　各總會ハ前回總會ノ定メタル都市及時期ニ於テ會合ス

三　總會ノ第一回會議ハ總會ヲ開催スル國ノ代表之ヲ開會ス該會議ニ

【海軍】
【海軍】

於テ議長、數人ノ副議長及書記ヲ選任ス

四　國際電話ニ關係アルベキ問題ヲ取扱フ團體又ハ機關ハ表決ニ加ハラザルモ發言ヲ爲シ得ルモノトシテ一定ノ會合ニ參加スルコトヲ招請セラルルコトヲ得機器製作業者ノ代表者ハ總會ノ會議ニ出席スルコトヲ得ズ總會ハ國際電話ニ關係アルベキ問題ヲ取扱フ機關ノ會合ニ國際電話諮問委員會ノ代表者ヲ派遣スルコトヲ決定ス

五　總會ハ研究ニ附シタル問題ヲ取扱フニ必要ナル報告者委員會ヲ設ク

六　總會ハ書記局長ノ作成スル年次豫算案竝ニ前年度會計ヲ檢査スベキ三人ノ會計檢査員ヲ指名ス總會ハ前回總會以後ノ期間ニ對スル檢査員ノ報告ヲ審査ス

七　總會ノ採擇スル意見ニハ該意見ガ投票者ノ全部ノ一致ヲ以テ採擇セラレタルトキハ「全部ノ一致ヲ以テ」ナル用語ヲ附シ又ハ該意見ガ多數決ヲ以テ採擇セラレタルトキハ「多數決ヲ以テ」ナル用語ヲ附スルコトヲ要ス

八　國際電話諮問委員會ハ其ノ發表スル意見ヲ聯合事務局ニ送付シ該局ノ刊行スル雜誌ニ揭載スルヲ最利益トスル意見又ハ意見ノ部分ヲ指示ス

第三編　報告者委員會

一　報告者委員會ノ職務ハ新問題ヲ慎重ニ研究シ各問題ニ付意見案ヲ

以テ補足シタル詳細ナル報告ヲ次回總會ニ提出スルモノトス

二　(一)　各報告者委員會ハ主任報告者ヲ選任ス主任報告者ハ報告者委員會ノ議事ヲ指揮シ且其ノ主管廳ノ許可ヲ受ケ其ノ委員會ノ報告者ヲ招集スル權能ヲ有ス

(二)　問題ハ能フ限リ通信ニ依リ之ヲ解決スルコトヲ要ス主任報告者ハ之ガ爲該委員會ノ他ノ報告者ト文書ヲ以テ直接通信スルコトヲ得然レドモ右ニ依リ問題ノ完全ナル解決ヲ得ルコト能ハザルトキハ主任報告者ハ研究問題ヲ口頭ヲ以テ討議スルコトヲ得ル爲適當ナル場所ニ於ケル會合ヲ提議スル權利ヲ有ス

(三)　選擧ニ依リ旅行シ又ハ長期滯在スルコトヲ避クル爲同一員ノ委員會ハ書記局長ノ作成シ且關係主管廳ノ承認シタル全體的計畫ニ從ヒ同一都市及同一時期ニ於テ其ノ會合ヲ開催ス

三　報告者委員會ハ機器製作業者ノ代表者ノ協力ガ有用ナリト認メラルルトキハ該委員會ノ一定ノ研究及討議ニ該代表者ノ參加スルコトヲ招請スルコトヲ得

第四編　電話傳送參考歐羅巴基本方式研究所

一　電話傳送參考歐羅巴基本方式ハ一切ノ歐羅巴諸國ニ於テ利用セラルル電話方式ニ關スル傳送ノ測定及傳送條件ノ整理ノ基礎ヲ成ス

二　(一)　電話傳送參考歐羅巴基本方式研究所ハ國際電話諮問委員會ニ參加シ又ハ參加セザル主管廳及私企業ノ請求ニ依リ且其ノ費用ニ於テ電話機器ノ檢定ヲ行フ

(二)　右研究所ハ總會ガ研究ニ附シタル新問題ノ解決ヲ容易ナラシムル爲ノ實驗及試驗ヲ總會又ハ報告者委員會ノ請求ニ依リ行フ

第五編　書記局

一　(一)　書記局長ハ總會之ヲ選任ス其ノ俸給ハ國際電話諮問委員會ノ豫算ヨリ之ヲ支拂ヒ且總會之ヲ定ム

(二)　書記局長ハ國際電話諮問委員會ノ全部ノ通信ニ當ル

(三)　書記局長ハ事務取扱ノ爲國際電話諮問委員會ノ豫算ニ依リ維持セラルル事務局ヲ有ス書記局長ハ該局ノ職員及研究所ノ職員ノ採用及監督ヲ行フ

二　(一)　書記局長ハ表決ニ加ハラザルモ發言ヲ爲シ得ルモノトシテ總會ノ會議及報告者委員會ノ會合ニ參加ス

(二)　書記局長ハ總會ノ次回會合ノ準備ヲ爲シ報告者委員會ノ提出スル報告表ニ從ヒ該會合ノ日程ヲ作成ス

(三)　書記局長ハ前回總會後ニ於ケル國際電話諮問委員會ノ活動ヲ總會ニ報告ス

(備考)

國際電氣通信條約附屬電話規則

目次

第一章　規則ノ適用、制度
第二章　定義
第三章　國際線系
第三條　線系ノ組織及利用
第四條　回線ノ維持
第四章　執務時間、標準時
第五條　執務時間
第六條　標準時
第五章　加入者名簿
第七條　名簿ノ作成
第八條　名簿ノ供給
第六章　通話ノ種別
第九條　通常私用通話
第十條　至急私用通話
第十一條　特急通話
第十二條　豫約通話
第十三條　定時通話
第十四條　官用通話
第十五條　局用通話

【裏】

第一章　規則ノ適用

第一條

第十六條　取引所通話
第十七條　豫告附通話
第十八條　呼出通知附通話
第十九條　事項ノ問合
第七章　通信ノ請求
第二十條　請求ノ樣式
第二十一條　請求ノ效力
第二十二條　請求ノ制限
第二十三條　設定時刻ノ指定
第二十四條　請求ノ變更
第八章　通話ノ先順位、通信ノ設定及切斷、通話時間ノ制限
第二十五條　通話ノ先順位
第二十六條　通信ノ設定及切斷
第二十七條　通話時間ノ制限
第九章　料金及課金、料金免除及還付
第二十八條　通話ノ課金時間
第二十九條　料金、通則
第三十條　各種ノ通話ニ適用スベキ料金
第三十一條　特殊ノ場合ニ於ケル課金、料金免除及還付
第十章　計算
第三十二條　計算書ノ作成
第三十三條　計算書ノ交換及承認
第三十四條　明細書ノ保存
第三十五條　精算
第十一章　聯合事務局、國際電話諮問委員會
第三十六條　聯合事務局ノ刊行スル書類
第三十七條　國際電話諮問委員會（C.C.I.F.）
第十二章　補足規定
第三十八條　補足規定
第十三章　最終規定
第三十九條　規則ノ施行
附屬書　國際電話諮問委員會內部規則
第一條　組織
第二條　總會
第三條　報告者委員會
第四條　電話傳送參考歐羅巴基本方式研究所
第五條　書記局

●國際電氣通信條約附屬一般無線通信規則

昭和八年十二月二十八日
遞信省告示第二千九百二十三號

昭和八年十二月二十八日條約第十號「マドリッド」締結國際電氣通信條約附屬一般無線通信規則及同規則最終議定書左ノ如シ

國際電氣通信條約附屬一般無線通信規則

第一條　定義

左ノ定義ハ條約ニ揭グル定義ヲ補足ス

固定局　位置ヲ變ズルコトヲ得ザル局ニシテ同樣ニ設置セラレタル一箇又ハ數箇ノ局ト無線通信ノ方法ニ依リ通信スルモノ

陸上局　位置ヲ變ズルコトヲ得ザル局ニシテ移動業務ヲ行フモノ

海岸局　船舶局トノ業務ヲ行フ陸上局　右ハ船舶局トノ通信ニモ充テラルル固定局タルコトヲ得此ノ場合ニ於テ該局ハ船舶局トノ通信時間中ノミ之ヲ海岸局ト看做ス

航空局　航空機局トノ業務ヲ行フ陸上局　右ハ航空機局トノ通信ニモ充テラルル固定局タルコトヲ得此ノ場合ニ於テ該局ハ航空機局トノ通信時間中ノミ之ヲ航空局ト看做ス

移動局　位置ヲ變ズルコトヲ得且位置ヲ變ズルコトヲ常トスル局

航行局　恆久的ニ繫留セラレザル船舶上又ハ航空機上ノ局

船舶局　恆久的ニ繫留セラレザル船舶上ノ局

航空機局　一切ノ空輸機上ノ局

無線標識局　其ノ發射ガ航行局ヲシテ無線標識局ヨリノ方位若ハ方向又場合ニ依リ無線標識局ヨリノ距離ヲ決定スルコトヲ得シムル爲メノ特別局

無線羅針局　他局ノ發射ノ方向ヲ決定スル爲ノ特別機器ヲ設備スル局

無線電話放送局　無線電話放送業務ヲ行フ局

無線可視放送局　無線可視放送業務ヲ行フ局

素人局　素人即金錢上ノ利益ノ爲ニスルニ非ズシテ專ラ個人的ニ無線電氣技術ニ興味ヲ有シ成規ニ依リ許可ヲ受ケタル者ノ使用スル局

私設實驗局　無線電氣ノ技術又ハ科學ノ發達ヲ目的トスル實驗ニ充テラルル私設局

私設無線通信局　公衆通信ヲ取扱ハザル私設局ニシテ專ラ他ノ「私設無線通信局」ト被許可者ノ個人的事項ニ關スル通信ヲ交換スルコトヲ許可セラルルモノ

局ニ割當テラレタル周波數　局ニ割當テラレタル周波數トハ局ガ働作スルコトヲ許可セラレタル周波數帶ノ中央ヲ占ムル周波數ヲ謂フ一般ニ此ノ周波數ハ搬送波ノ周波數トス

發射周波數帶　發射ノ周波數帶トハ使用セラルル傳送ノ型式及信號ノ速度ニ付發射ガ實際ニ占有スル周波數帶ヲ謂フ

周波數ノ許容偏差　周波數ノ許容偏差トハ局ニ割當テラレタル周波數ト實際發射周波數トノ間ニ許容セラルル偏差ノ最大限ヲ謂フ

無線電氣送信機ノ電力　無線電氣送信機ノ電力トハ空中線ニ供給セラルル電力ヲ謂フ

變調波ノ送信機ノ場合ニ於テ空中線電力ハ一ハ空中線ニ供給セラルル搬送波ノ電力ノ値他ハ採用セラルル實際ノ最大變調率ヲ示ス二箇ノ數ニ依リ之ヲ表示ス

電信　方式ヲ問ハズ電信信號ニ依ル電氣通信　「電報」ナル語ハ又「無線電報」ヲ含ムモノトス但シ條文ガ斯ノ如キ意義ヲ明ニ除外スル場合ヲ除ク

電話　方式ヲ問ハズ電話信號ニ依ル電氣通信

一般ノ電氣通信線路系　公衆業務ヲ取扱フ現存電氣通信線路ノ總體但シ移動業務ノ無線電信線路ヲ除ク

航空業務　航空機局ト陸上局トノ間及航空機局相互間ニ行ハルル無線通信業務　此ノ語ハ又航空ノ安全ヲ確保スル爲ノ無線通信ノ固定及特別業務ニ之ヲ適用ス

固定業務　固定地點間ニ於テ一切ノ種類ノ無線電氣通信ヲ行フ業務但シ無線放送業務及特別業務ヲ除ク

特別業務　一定ノ公共ノ利益ノ爲特ニ運用セラルル電氣通信業務ニシテ公衆通信ヲ取扱ハザルモノ例ヘバ無線標識、無線羅針、報時信號、

定時氣象通報、航行者ヘノ通報、各局宛新聞報、醫事通報（無線診察）、標準周波數、科學上ノ目的ノ爲ニスル發射等ノ業務

無線電話放送業務　主トシテ一般公衆ニ依リ受信セラルル爲ノ無線電話發射ノ放送ヲ行フ業務

無線可視放送業務　主トシテ一般公衆ニ依リ受信セラルル爲ノ靜止又ハ可動ノ可視影像ノ放送ヲ行フ業務

第二條　無線通信ノ祕密

主管廳ハ左ノ事項ヲ禁止及防遏スル爲必要ナル處置ヲ執ルコトヲ約ス

(イ) 公衆ノ一般的利用ヲ目的トセザル無線通信ヲ許可ナクシテ傍受スルコト

(ロ) 故意又ハ故意ニ因ラズシテ傍受スルコトアルベキ無線通信ノ內容又ハ單ニ其ノ存在ヲ漏洩シ又ハ該無線通信ヲ許可ナクシテ公表若ハ利用スルコト

第三條　許可書

一 (一) 送信局ハ該局ノ屬スル國ノ政府ノ交付スル特別ノ許可書ナク個人又ハ何レノ企業ニ於テモ之ヲ設置又ハ經營スルコトヲ得ズ

(二) 殖民地、主權又ハ委任統治ノ下ニ在ル地域、海外領土又ハ保護領ニ船舶港又ハ定置場ヲ有スル移動局ハ許可書ノ交付ニ關シテハ該殖民地、地域、領土又ハ保護領ノ管轄ニ屬スルモノト看做スコトヲ得

〔海軍〕

二　許可書ヲ有スル者ハ條約第二十四條ニ規定スル如ク電氣通信ノ祕密ヲ確保スル義務ヲ負フ尙許可書ニハ局ガ受信スルコトヲ許可セラレタル無線通信以外ノモノノ受信ヲ禁ジ尙斯ノ如キ通信ガ偶然受信セラレタル場合ニ於テ之ヲ複寫シ、第三者ニ之ヲ通知シ又ハ如何ナル目的ニモ之ヲ使用スルコトヲ得ズ又其ノ存在ヲモ漏洩スルコトヲ得ザルコトヲ記載スルコトヲ要ス

三　移動局ニ交付シタル許可書ノ檢査ヲ容易ナラシムル爲自國語ヲ以テ記載シタル本文ニハ場合ニ依リ國際關係ニ於テ廣ク使用セラルル國語ヲ以テ譯文ヲ附スル樣勸告ス

四　移動局ニ許可書ヲ交付スル政府ハ國際公衆通信上ヨリ分類セラルル該局所屬ノ種別ヲ之ニ記載ス

第四條　機器ノ選擇

一　局ニ於テ使用スル無線電氣ノ機器及裝置ノ選擇ハ自由トス但シ發射電波ハ本規則ノ規定ニ適合スルコトヲ要ス

二　尤モ經濟的要求ト兩立シ得ル限度內ニ於テ發射、受信及測定ノ機器ノ選擇ハ特ニ國際無線通信諸問委員會ノ意見中ニ揭グル如キ最近ノ技術ノ進步ヲ考慮スルコトヲ要ス

第五條　發射ノ種別

一　發射ヲ左ノ二種ニ分ツ

A　持續電波

B　減幅電波

其ノ定義左ノ如シ

A種　逐次ノ振動ガ永續ノ狀態ニ於テ同一ナル電波

B種　振幅ガ最大ニ達シタル後漸次低減スル振動ノ逐次ノ列ヨリ成ル電波

二　左ノ型式ノ電波ハA種ノ電波ニ包含セラル

型式A一　振幅又ハ周波數ガ電信操作ニ依リ變化スル持續電波

型式A二　振幅又ハ周波數ガ電信操作ト結合シタル可聽周波數ノ週期的法則ニ從ヒ變化スル持續電波

型式A三　振幅又ハ周波數ガ可聽周波數ノ複雜ニシテ可變的ナル法則ニ從ヒ變化スル持續電波　本型式ノ例ハ無線電話トス

型式A四　振幅又ハ周波數ガ可聽周波數ヨリモ大ナル周波數ノ何レカノ法則ニ從ヒ變化スル持續電波　本型式ノ例ハ電視トス

三　前記A一、A二、A三及A四ノ電波ノ種別ハ型式A一、A二、A三及A四ノ定義ニ該當セザル方法ニ依リ變調又ハ操作セラレタル電波ヲ關係主管廳ノ定ムル條件ニ於テ使用スルコトヲ妨ゲズ

四　右定義ハ發射機器ノ方式ニ關係ナシ

五　電波ハ初ニ一秒時ノ「キロサイクル」（kc/s）ニ於ケル周波數ヲ以テ之

〔海軍〕

ヲ表示ス此ノ表示ノ次ニメートルニ於ケル近似波長ヲ括弧内ニ示ス
本規則ニ於テメートルニ於ケル波長ノ近似値ハ一秒時ノ「キロサイクル」ニ依リ表示シタル周波數ヲ以テ三〇〇〇〇ナル數ヲ除シタル商トス

第六條　發射ノ質

一　局ノ發射スル電波ハ許可セラレタル周波數ニ於テ技術ノ現狀ノ許ス限リ正確ニ保持セラルルコトヲ要シ且其ノ幅射ハ行ハルル通信ノ型式ニ必要ナラザル一切ノ發射ヲ實行上能フ限リ伴ハザルコトヲ要ス

二　(一)　主管廳ハ運用ノ各種ノ場合ニ付發射ノ性質ニ關スル特性殊ニ發射電波ノ周波數ノ確度及安定度、高調波ノ基準、占有セラルル全周波數帶ノ幅等ヲ技術ノ進歩ニ適合スル樣定ム

(二)　主管廳ハ別表（附錄第一號周波數許容偏差及不安定度表、附錄第二號發射ニ依リ占有セラルル周波數帶ノ幅ノ表）ヲ各種ノ場合ニ付能フ限リ遵守スベキ限度ヲ示ス指針ト看做スコトニ同意ス

(三)　發射ニ依リ占有セラルル周波數帶ノ幅ハ實行上左ノ條件ヲ考慮スルコトヲ要ス

第一　附錄第二號中ニ示サレタル周波數帶ノ幅

第二　搬送波ノ周波數ノ變化

第三　補足的技術條件例ヘバ發信機及受信機ニ對スル濾波回路ノ特性ノ樣式ニ關スル技術的可能性

三　(一)　主管廳ハ其ノ管轄ニ屬スル局ノ發射電波ガ本規則ノ規定ニ適合スルヤヲ屢檢査スベシ

(二)　右ニ關シテハ國際的協力ヲ得ル樣努ムベシ

四　六〇〇〇kc/sヲ超ユル周波數（五〇m未滿ノ波長）帶ニ於ケル混信ヲ減少スル爲業務ノ種類ガ許ストキハ指向性空中線方式ヲ使用スルコトヲ勸告ス

第七條　周波數（波長）及發射型式ノ分配及使用

一　第五項第五節ノ規定ノ留保ノ下ニ締約國主管廳ハ他國ノ如何ナル業務トモ混信ヲ生ゼザルコトヲ唯一ノ條件トシテ其ノ管下ノ一切ノ無線電氣局ニ如何ナル周波數及如何ナル電波ノ型式ヲモ割當ツルコトヲ得

二　尤モ主管廳ハ局ノ性質上甚シキ國際的混信ヲ生ジ易キモノニ對シテハ次ニ揭グル電波ノ割當及使用ノ規定ニ從ヒ周波數及電波ノ型式ヲ割當ツルコトニ同意ス

三　主管廳ハ又右局ニ對シ其ノ業務ノ種類ニ應ジ周波數分配表（次ノ表參照）ニ從ヒ周波數ヲ割當ツルコトヲ約ス

四　周波數帶ガ一定ノ業務ニ割當テラレタル場合ニ於テ該業務ノ局ハ隣接周波數帶ガ割當テラレタル業務ノ局ノ通信ニ妨害トナル混信ヲ生ゼザル樣該周波帶ノ兩端ヨリ十分隔リタル周波數ヲ使用スルコトヲ要ス

五　(一)　一切ノ固定局、陸上局及無線放送局ニ對シ主管廳ガ割當テタル周波數竝ニ定メタル電力ノ最高限ハ該局ガ常時ノ業務ヲ行ヒ且國際的混信ヲ生ジ易キトキハ公表ノ爲聯合事務局ニ之ヲ通告スルコトヲ要ス安定シタル送信機ヲ使用スル船舶局ト特定ノ業務ヲ行フ爲海岸局ガ受信ニ用ウル周波數モ亦公表ノ爲聯合事務局ニ之ヲ通告スルコトヲ要ス周波數ハ締約國ニ屬スル國際業務ニシテ既ニ聯合事務局ニ通告シタル周波數ヲ使用スル現存局ガ行フモノニ混信スルコトヲ能フ限リ避クル樣之ヲ選定スルコトヲ要ス右通告ハ周波數ノ使用開始前ニ於テ且主管廳ガ其ノ業務ノ良好ナル施行ヲ確保スル爲必要ト認ムル一切ノ措置ヲ執ルニ十分ナル時期ニ於テ第十五條第一項(ロ)及附錄第六號ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス

(二)　(イ)　尤モ主管廳ニ於テ局ニ割當テントスル周波數ガ本規則ニ依リ當該業務ニ對シ許可セラレタル周波數帶外ノ周波數ナルトキハ該主管廳ハ特別ノ通知ニ依リ該周波數ノ使用開始ノ少クトモ六月前ニ於テ又緊急ノ場合ニハ右開始期日ノ少クトモ三月前ニ於テ前節ニ定ムル通告ヲ爲スベシ

(ロ)　主管廳ガ既ニ許可周波數帶外ニ於テ働作スル局ノ電力ヲ增大センドスルトキ又ハ之ヲ增大スルコト若ハ輻射ノ條件ヲ變更スルコトヲ許可セントスルトキハ使用周波數ガ同一ナル場合ト雖均シク右通告手續ヲ遵守スベシ

(ハ)　本規則施行ノ際許可周波數帶外ニ於テ働作スル局ニ關シテハ使用周波數及使用電力ハ同樣ノ通告ヲ既ニ爲シ居ラザル限リ公表ノ爲直ニ聯合事務局ニ通告スベシ

(三)　(イ)　關係主管廳ハ必要アラバ右局ニ割當ツベキ電波ノ決定及斯ノ如ク割當テラレタル電波ノ使用條件ノ決定ニ關シ協議ス

(ロ)　如何ナル地域ノ主管廳ト雖條約第十三條ニ從ヒ地域的協定ヲ締結シ之ニ參加スル國ノ業務ニ對スル周波數帶又ハ此等ノ國ノ局ニ對スル周波數ノ割當及斯ノ如ク割當テラレタル電波ノ使用條件ヲ定ムルコトヲ得第一項、第五項第一節及第二節ノ規定ハ此ノ種ノ一切ノ協定ニ之ヲ適用ス

(四)　關係主管廳ハ混信ヲ避クルニ必要ナル協定ヲ爲シ且必要アラバ之ガ爲雙方的又ハ地域的協定ニ依リ相互間ニ協定セラルベキ手續ニ從ヒ鑑定機關又ハ鑑定和協機關ニ付託スベシ混信ヲ避クル爲ノ協定成立スルニ至ラザルトキハ條約第十五條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

(五)　(イ)　歐羅巴ノ無線放送ニ關シテハ本規則ニ依リ歐羅巴外ノ主管廳ニ屬スル一切ノ權利ノ留保ノ下ニ第一項ニ揭グル原則ノ適用上左ノ方法ヲ採用ス該方法ハ歐羅巴ノ主管廳間ノ協定ニ依リ隨業又ハ修正シ得ルモ前記第二節ノ規定ヲ何等變更セズ

(ロ)　歐羅巴ノ締約國主管廳間ニ隨メ協定ナキトキハ第一項ニ規定スル權能ハ歐羅巴地域ノ境域內ニ於テハ本規則ニ依リ許可セラレタル周波數帶外ニ於テ一五〇〇kc/s未滿ノ周波數（二〇〇mヲ超ユ

ル波長）ニ依リ無線放送業務ヲ行フ爲之ヲ行使スルコトヲ得ズ

（ハ）右ノ如キ業務ヲ開設シ又ハ右ノ如キ業務ニ關スル既往ノ協定ニ依リ定ムル條件（周波數、電力、地理的位置等）ヲ變更セントスル主管廳ハ聯合事務局ノ媒介ニ依リ歐羅巴ノ主管廳ニ其ノ旨ヲ通知ス右通知ノ受領後六週日ノ期間內ニ回答セザリシ一切ノ主管廳ハ同意ヲ與ヘタルモノト看做ス

（ニ）許可周波數帶外ニ於テ働作スル歐羅巴ノ無線放送局ニ於テ前ニ聯合事務局ニ通告シタル特性ニ變更ヲ加ヘントシ且此ノ變更ガ國際的混信ノ條件ニ影響スル虞アルトキ亦其ノ都度遽メ右ノ如キ協定ヲ爲スノ必要アルコトヲ了解ス

六（一）原則トシテ無線放送局ノ電力ハ當該國ノ境域內ニ於テ有效且良好ナル國內業務ヲ經濟的ニ確保スルコトヲ得シムル値ヲ超エザルコトヲ要ス

（二）原則トシテ強力ナル無線放送局殊ニ無線放送ニ留保セラレタル周波數帶ノ限界附近ニ於テ働作スル此等ノ局ノ位置ハ他國ノ無線放送業務又ハ隣接周波數ヲ以テ働作スル他ノ業務ニ及ボス妨害ヲ成ルベク避クル樣之ヲ選定スルコトヲ要ス

七　左表ハ各種業務ニ對スル周波數（近似波長）ノ分配ヲ示ス

一〇乃至六〇〇〇〇 kc/s（三〇〇〇〇乃至五 m）ノ周波數帶ノ分配

周波數 kc/s	波長 m	業務 一般	業務 協定	業務 地域的 地域（※）歐羅巴地域	業務 地域的 其ノ他ノ地域
一〇―一〇〇	三〇〇〇〇―三〇〇〇	固定			
一〇〇―一一〇	三〇〇〇―二七二七	(イ)固定 (ロ)移動			
一一〇―一二五	二七二七―二四〇〇	移動			
一二五―一五〇	二四〇〇―二〇〇〇	(海上移動 (公衆通信ノミヲ取扱フモノ)			

〔海軍〕

一五〇―一六〇	二〇〇〇―一八七五	移動			
一六〇―二四〇（一八七五―一二五〇）（註三）	（一八七五―一九四六）（註三）	(イ)固定	(イ)固定 (ロ)移動	(ロ)移動 二四〇―一九四 二八五―一五四	(イ)航空 六―一〇五三
無線放送 二四〇―二五五	(一二五―一七六)	(イ)公衆通信ヲ取扱ハザルモノ	(ロ)固定 公衆通信ヲ取扱ハザルモノ	(ハ)移動 商用船舶局ヲ除ク	
(一六〇―一八五)（註四）	一八七五―一〇五三	(註二)(註三)	(註二)(註三)		
(一八五―一九〇)（註五）	一〇五三―一〇三四	(ロ)無線放送 二六五―二八五	(イ)航空		
(一九〇―二一五)（註五）	一〇三四―九五二 無線標識	(二一三―一〇五三)	(註二)(註三)		
(二一五―二一〇)（註五）	九五二―九三八	航空	航空	無線標識	
三一〇―三二五	九三八―九二三				
三二五―三四五（註六）	九二三―八七〇 航空				
三四五―三六五	八七〇―八二二				

〔海軍〕

三六五―三八五	八二二―七七九	(イ)無線羅針	
		(ロ)移動　無線羅針ヲ妨害セザルコトヲ條件トスB電波ヲ使用スル海岸局ヲ除ク。	
三八五―四〇〇	七七九―七五〇		公衆通信ヲ取扱ハザルモノ　移動
四〇〇―四六〇	七五〇―六五二	移動	
四六〇―四八五	六五二―六一九	移動　A一及A二ニ限ル	
四八五―五一五(註七)	六一九―五八三	移動(遭難、呼出等)	
五一五―五五〇(註八)	五八三―五四五	公衆通信ヲ取扱ハザルモノA一及A二ニ限ル	
五五〇―一五〇〇(註九)	五四五―二〇〇	(イ)無線放送 (ロ)A一、A二及Bノ一三六kc/s(二二〇m)ノ電波ハ移動業務ニ限ル(註十)	
一五〇〇―一六〇〇(註十一)(註十四)	二〇〇―一七四・九		

一五〇〇―一五三〇(二〇〇―一九六・一)	(イ)固定		
	(ロ)移動		
一五三〇―一六三〇(一九〇―一八七)(註十二)	(ロ)移動　A一及A二ニ限ル		
一六三〇―一七〇〇(一八〇―一七一)(註十三)	海上移動ノ呼出電波(A三ニ限ル)		
一七〇〇―一七一五(一七一・六―一七四・九)	海上移動(A三ニ限ル)		
一七一五―一九二五(一七四・九―一五五・八)	(イ)素人		
	(ロ)固定		
	(ハ)移動		
一九二五―二〇〇〇(一五五・八―一五〇〇)	(イ)素人		
	(ロ)海上移動(A三ニ限ル)		

一七一五―二〇〇〇	一七四・九―一五〇		

(※)　歐羅巴地域ノ定義　歐羅巴地域ハ北及西ハ歐羅巴ノ自然的境界ニ依ル境界、東ハ「グリニッヂ」東經四十度ノ子午線、南ハ北緯三十度ノ緯度線ニ依リ區劃シ「ソヴィエト」聯邦ノ西部及地中海沿岸地域ヲ含マシムルモノトス但シ右ノ區域中ニ含マルル「アラビア」及「ヘヂアーズ」ノ部分ヲ除ク

(註一)　一四三 kc/s (二一〇〇m)ノ電波ハ持續長波ヲ使用スル移動局ノ呼出電波トス

(註二)　歐羅巴ノ主管廳ハ無線放送局ニシテ其ノ地理的位置ニ因リ公衆通信ヲ取扱ハザル業務及航空業務ヲ妨害セザルモノヲ二四〇乃至二六五 kc/s (一二五〇乃至一一三二m)ノ周波數帶内ニ置ク爲相互間ニ協議ヲ爲スベシ尚此等ノ業務ハ右ノ如ク選定セラレタル無線

放送局ノ受信ヲ該局ノ自國領域內ニ於テ妨害セザル樣之ヲ組織スベシ

（註三）公衆通信ヲ取扱フ業務ハ第七條第一項ノ場合ト雖一六〇乃至二六五 kc/s（一八七五乃至一一三二m）ニ含マルル無線放送ニ充ツル周波數帶內ニ於テハ之ヲ許サズ

（註四）一六〇乃至二六五 kc/s（一八七五乃至一一三二m）ノ周波數帶ハ又地域的割當トシテ「オーストラリア」及「ニユー、ジーランド」ニ對シ無線放送ノ爲ニ之ヲ割當ツ此等二國ノ主管廳ハ該周波數帶ニ於テ發射スル局ヲ他ノ地方ニ於ケル他ノ業務トノ混信ヲ避クル樣設置スルコトニ同意ス

（註五）二八五乃至三二〇 kc/s（一〇五三乃至九三八m）ノ範圍內ニ包含セラル幅三〇 kc/s ノ周波數帶ハ各地域ニ於テ無線標識業務ニ之ヲ割當ツ歐羅巴地域ニ於テハ該周波數帶ハ海上無線標識ニ對シテノミ之ヲ留保ス

（註六）三三三 kc/s（九〇〇m）ノ電波ハ航空業務ノ國際呼出電波トス

（註七）五〇〇 kc/s（六〇〇m）ノ電波ハ國際ノ呼出及遭難電波トス此ノ電波ノ使用ハ第十九條、第二十二條及第三十條ニ之ヲ規定ス

（註八）歐羅巴ノ主管廳ハ無線放送局ニシテ其ノ地理的位置ニ因リ四八五乃至五一五 kc/s（六一九乃至五八三m）ノ周波數帶內ノ移動業務又ハ五一五乃至五五〇 kc/s（五八三乃至五四五m）ノ周波數帶內ノ公衆通信ヲ取扱ハザル業務ヲ妨害セザルモノヲ五四〇乃至五五〇 kc/s（五五六乃至五四五m）ノ周波數帶內ニ置ク爲相互ニ協議ヲ爲スベシ

尙公衆通信ヲ取扱ハザル業務ハ右ノ如ク選定セラレタル無線放送局ノ受信ヲ該局ノ自國領域內ニ於テ妨害セザル樣之ヲ組織スベシ

（註九）移動業務ハ五五〇乃至一三〇〇 kc/s（五四五乃至二三〇・八m）ノ周波數帶ヲ使用スルコトヲ得但シ右周波數帶ヲ專ラ無線放送ニ對シ使用スル國ノ業務ニ混信ヲ與ヘザルコトヲ條件トス

（註十）一三六四 kc/s（二二〇m）ノ周波數ニ於テハ型式Bノ電波ハ其ノ使用ガ無線放送ニ混信ヲ生ジ易キ一切ノ地域ニ於テ地方時十八時乃至二十三時ノ間之ヲ禁ズ尤モ北「アメリカ」地域ニ於テハ右時間中型式A一ノ電波ニ限リ之ヲ許可ス

（註十一）一六五〇 kc/s（一八二m）ノ周波數ハ小電力ノ船舶局トノ無線電話ノ移動業務ニ對スル呼出電波トス右呼出電波ハ義務的ニ非ズ該電波ガ各國ニ對シ義務的トナル期日ハ國內規則ニ依リ之ヲ定ムベシ

〔海軍〕

（註十二）原則トシテ此ノ周波數帶ハ小電力ノ船舶局トノ電話業務ニ之ヲ留保ス歐羅巴ノ諸國ニシテ其ノ船舶ガ右通信型式ヲ使用セザルモノハ右電話業務ノ行ハルル地域ノ隣接地域ニ於テ成ルベク該周波數帶內ニ於ケル電信ノ使用ヲ避クベシ

（註十三）一六三〇乃至一六七〇 kc/s（一八四・〇乃至一七九・六m）ノ周波數帶內ニ於テハ如何ナル通信ヲモ爲スコトヲ得ズ一六五〇 kc/s（一八二m）ノ電波ニ依ル呼出ハ義務的ニ非ズ各國ニ於ケル其ノ施行ハ國內規則ニ依リ之ヲ定ムベシ

（註十四）歐羅巴ノ內部ニ於テハ一五三〇乃至一六三〇 kc/s 及一六七〇乃至一七一五 kc/s（一九六・一乃至一八四・〇m及一七九・六乃至一七四・九m）ノ周波數帶ハ短距離ノ固定業務ニ之ヲ使用スルコトヲ得但シ移動業務ニ混信ヲ及ボサザルコトヲ條件トス

備考　本規則ノ施行前ニ開催セラルベキ歐羅巴會議ハ地域的周波數帶ニ付決定スルコトアルベキ一定ノ除外例ニシテ之ニ掲載スルコトヲ要スト認ムルモノヲ其ノ議定書ニ附屬セシムルコトヲ例外トシテ決定スルコトヲ得右除外例ハ前記ノ表ニ關スル註ニ規定セラレタル除外例ニ追加セラル

周波數 kc/s	波長 m	業務 一般割當
二〇〇〇——三五〇〇	一五〇——八五・七一	（イ）固定 （ロ）移動
三五〇〇——四〇〇〇	八五・七一——七五	（イ）素人 （ロ）固定 （ハ）移動
四〇〇〇——五五〇〇	七五——五四・五五	（イ）固定 （ロ）移動

〔海軍〕

五五〇〇―五七〇〇	五四・五五―五二・六三	移動
五七〇〇―六〇〇〇	五二・六三―五〇	固定
六〇〇〇―六一五〇	五〇―四八・七八	無線放送
六一五〇―六六七五	四八・七八―四四・九四	移動
六六七五―七〇〇〇	四四・九四―四二・八六	固定
七〇〇〇―七三〇〇	四二・八六―四一・一〇	素人
七三〇〇―八二〇〇	四一・一〇―三六・五九	固定
八二〇〇―八五五〇	三六・五九―三五・〇九	移動
八五五〇―八九〇〇	三五・〇九―三三・七一	(イ)固定 (ロ)移動
八九〇〇―九五〇〇	三三・七一―三一・五八	固定
九五〇〇―九六〇〇	三一・五八―三一・二五	無線放送
九六〇〇―一一〇〇〇	三一・二五―二七・二七	固定
一一〇〇〇―一一四〇〇	二七・二七―二六・三二	移動
一一四〇〇―一一七〇〇	二六・三二―二五・六四	固定
一一七〇〇―一一九〇〇	二五・六四―二五・二一	無線放送
一一九〇〇―一二三〇〇	二五・二一―二四・三九	固定

一二三〇〇―一二八二五	二四・三九―二三・三九	移動
一二八二五―一三三五〇	二三・三九―二二・四七	(イ)固定 (ロ)移動
一三三五〇―一四〇〇〇	二二・四七―二一・四三	固定
一四〇〇〇―一四四〇〇	二一・四三―二〇・八三	素人
一四四〇〇―一五一〇〇	二〇・八三―一九・八七	固定
一五一〇〇―一五三五〇	一九・八七―一九・五四	移動
一五三五〇―一六四〇〇	一九・五四―一八・二九	固定
一六四〇〇―一七一〇〇	一八・二九―一七・五四	移動
一七一〇〇―一七七五〇	一七・五四―一六・九〇	(イ)固定 (ロ)移動
一七七五〇―一七八〇〇	一六・九〇―一六・八五	無線放送
一七八〇〇―二一四五〇	一六・八五―一三・九九	固定
二一四五〇―二一五五〇	一三・九九―一三・九二	無線放送
二一五五〇―二二三〇〇	一三・九二―一三・四五	移動
二二三〇〇―二四六〇〇	一三・四五―一二・二〇	(イ)固定 (ロ)移動
二四六〇〇―二五六〇〇	一二・二〇―一一・七二	移動

二五六〇〇―二六六〇〇	一一・七二―一一・二八	無線放送	
二六六〇〇―二八〇〇〇	一一・二八―一〇・七一	固定	
二八〇〇〇―三〇〇〇〇	一〇・七一―一〇	(イ)素人 (ロ)實驗	
三〇〇〇〇―五六〇〇〇	一〇――五・三五七	留保ナシ	
五六〇〇〇―六〇〇〇〇	五・三五七―五	(イ)素人 (ロ)實驗	

八　(一)　型式Bノ電波ノ使用ハ左ノ周波數ヲ除キ一切ノ周波數ニ對シ之ヲ禁ズ

三七五kc/s(八〇〇m)
四一〇kc/s(七三〇m)
四二五kc/s(七〇五m)
四五四kc/s(六六〇m)
五〇〇kc/s(六〇〇m)
一三六四kc/s(二二〇m)(※)

(※)　周波數分配表ノ註(十)參照

(二)　型式Bノ電波ノ發射機ハ該發射機ガ全常力ヲ以テ通信ヲ行フ場合可聽周波數ニ於ケル電源タル變壓器ノ入力ニ於テ測定シ三〇〇「ワット」未滿ノ場合ヲ除キ船舶又ハ航空機上ニ新ニ設備スルコトヲ得ズ

(三)　一切ノ周波數ノ型式Bノ電波ノ使用ハ發射機ガ前記第二節ニ示ス電力ノ條件ヲ充ス場合ヲ除キ千九百四十年一月一日ヨリ之ヲ禁ズ

(四)　型式Bノ電波ノ發射機ハ陸上局又ハ固定局ニ新ニ之ヲ設備スルコトヲ得ズ此ノ型式ノ電波ハ千九百三十五年一月一日ヨリ一切ノ陸上局ニ對シ之ヲ禁ズ

(五)　主管廳ハ五〇〇kc/s(六〇〇m)ノ電波ヲ除クノ外型式Bノ電波

〔後掲〕

ヲ成ルベク速ニ廢止スルコトニ努ムベシ

九　一〇〇乃至一六〇kc/s(三〇〇〇乃至一八七五m)ニ於テハ型式A一ノ電波使用ニ限リ之ヲ許可ス右規定ニ對スル唯一ノ例外ハ專ラ報時信號ニ對シ一〇〇乃至一二五kc/s(三〇〇〇乃至二四〇〇〇m)ノ周波數帶内ニ於テ使用セラレ得ベキ型式A二ノ電波ニ關スルモノトス

十　四六〇乃至五五〇kc/s(六五二乃至五四五m)ノ周波數帶ニ於テハ五〇〇kc/s(六〇〇m)ニテ發射スル遭難、警急、安全又ハ緊急ノ信號ヲ無效ナラシムル虞アル發射ノ型式ハ之ヲ許サズ

十一(一)　三二五乃至三四五kc/s(九二三乃至八七〇m)ノ周波數帶ニ於テハ遭難、安全又ハ緊急ノ信號ヲ無效ナラシムル虞アル發射ノ型式ハ之ヲ許サズ

(二)　右規定ハ特別銘定ニ依リ別段ノ規定アル地域ニ之ヲ適用セズ

十二(一)　一一〇kc/s未滿ノ周波數(二七二七m)ヲ超ユル波長ノ電波ヲ以テ固定地點間ノ業務ヲ行フ一切ノ局ハ同時ニ操作シ得ル該局ノ各發射機ニ對シ原則トシテ右業務ニ割當テラレタル周波數帶(前記第七項)ノ中ヨリ選定シタル唯一ノ周波數ヲ使用スルコトヲ要ス

(二)　局ハ固定地點間ノ業務ニ對シ前記ノ如ク割當テラレタル以外ノ周波數ヲ使用スルコトヲ得ズ

十三　原則トシテ局ハ一方的方法ニ依ル通信ノ傳送ニ對シ其ノ通常業務ニ對スルモノト同一ノ周波數及同一ノ發射型式ヲ使用スル尤モ關係局ヲ此ノ規定ニ從フコトヨリ免除スル目的ヲ以テ地域的協定ヲ爲スコトヲ得

十四　固定局ハ二次的業務トシテ左ノ條件ニ於テ其ノ通常通信周波數ヲ以テ移動局宛發射ヲ行フコトヲ得

(イ)　關係主管廳ニ於テ右特別通信方法ヲ使用スル必要アリト認ムルコト

(ロ)　右ノ結果何等ノ混信ヲ增加セザルコト

十五　歐羅巴地域ニ於テ氣象概況報ノ交換ヲ容易ナラシムル爲四一・六kc/s及八九・五kc/s(七二一〇m及三三五二m)ノ周波數ヲ此ノ業務ニ割當ツ

十六　犯罪ノ發見及犯罪者ノ訴追ニ有用ナル情報ノ迅速ナル傳送及頒布ヲ容易ナラシムル爲三七・五乃至一〇〇kc/s(八〇〇〇乃至三〇〇〇m)ニ於テ一ノ周波數ヲ地域的協定ニ依リ此ノ目的ノ爲ニ留保ス

十七　各主管廳ハ分配表(前記第七項)ニ從ヒ周波數帶ヲ素人局ニ割當ツルコトヲ得

十八　移動業務ニ依リ使用セラルル四〇〇〇kc/sヲ超ユル周波數(七五m未滿ノ波長)帶ニ於ケル混信ヲ減少スル爲殊ニ此ノ業務ノ長距離電話通信ニ對スル妨害ヲ避クル爲主管廳ハ現時ノ技術ノ進歩ヲ考慮シ成ルベク左ノ規定ヲ採用スルコトニ同意ス

(一)　(イ)　專ラ移動業務ニ割當テラレタル五五〇〇kc/sヲ超ユル周波

〔後掲〕

數(五四・五五 m 未滿ノ波長ノ帶ニ於テ商用ノ船舶局ニ依リ使用セラルベキ周波數(波長)ハ周波數ノ低キ(電波ノ長キ)側ニ關シ且特ニ左ニ揭グル高調波帶ノ範圍內ニ在ルベシ

五五〇〇乃至五五五〇 kc/s (五四・五五乃至五四・〇五 m)
六一七〇乃至六二五〇 kc/s (四八・六二乃至四八・〇〇 m)
八二三〇乃至八三三〇 kc/s (三六・四五乃至三六・〇一 m)
一一〇〇〇乃至一一一〇〇 kc/s (二七・二七乃至二七・〇三 m)
一二三四〇乃至一二五〇〇 kc/s (二四・三一乃至二四・〇〇 m)
一六四六〇乃至一六六六〇 kc/s (一八・二三乃至一八・〇一 m)
二二〇〇〇乃至二二二〇〇 kc/s (一三・六四乃至一三・五一 m)

註　主管廳ハ第一節(ハ)ニ定メラルル電波中何ヲ以テ聽取スルヤヲ海岸局ノ周波數ノ通告ト同時ニ指示スルコトニ同意ス

(二)(イ)　商用ノ船舶局ハ其ノ發射ガ第六條第二項第二節ニ於テ陸上局ニ對シ特ニ定メラルル周波數ノ許容偏差ニ適合スルニ非ザレバ四〇〇〇 kc/s ヲ超ユル(七五 m 未滿ノ波長ニ共用周波數帶ヲ使用スベカラズ此ノ場合使用周波數ハ共用周波數帶內ノ周波數ノ高キ(電波ノ短キ)側ニ於テ殊ニ左ノ高調波帶ノ範圍內ニ於テ之ヲ選定スルコトヲ要ス

四四〇〇乃至四四五〇 kc/s (六八・一八乃至六七・四二 m)
八八〇〇乃至八九〇〇 kc/s (三四・〇九乃至三三・七一 m)

四一四〇 kc/s (七二・四六 m)
五五二〇 kc/s (五四・三五 m)
六二一〇 kc/s (四八・三一 m)
八二八〇 kc/s (三六・二三 m)
一一〇四〇 kc/s (二七・一七 m)
一二四二〇 kc/s (二四・一五 m)
一六五六〇 kc/s (一八・一二 m)
二二〇八〇 kc/s (一三・五九 m)

註　主管廳ハ第一節(ハ)ニ定メラルル電波中何ヲ以テ聽取スルヤヲ海岸局ノ周波數ノ通告ト同時ニ指示スルコトニ同意ス

(二)(イ)　商用ノ船舶局ハ其ノ發射ガ第六條第二項第二節ニ於テ陸上局ニ對シ特ニ定メラルル周波數ノ許容偏差ニ適合スルニ非ザレバ四〇〇〇 kc/s ヲ超ユル(七五 m 未滿ノ波長ニ共用周波數帶ヲ使用スベカラズ此ノ場合使用周波數ハ共用周波數帶內ノ周波數ノ高キ(電波ノ短キ)側ニ於テ殊ニ左ノ高調波帶ノ範圍內ニ於テ之ヲ選定スルコトヲ要ス

四四〇〇乃至四四五〇 kc/s (六八・一八乃至六七・四二 m)
八八〇〇乃至八九〇〇 kc/s (三四・〇九乃至三三・七一 m)

〔海軍〕

一三二〇〇乃至一三三五〇 kc/s (二二・七三乃至二二・四七 m)
一七六〇〇乃至一七七五〇 kc/s (一七・〇五乃至一六・九〇 m)
二二九〇〇乃至二三〇〇〇 kc/s (一三・一〇乃至一三・〇四 m)

(ロ)　移動業務ニ留保セラレタル周波數帶中前記ノ周波數帶ト高調波ノ關係ニ在ル六六〇〇乃至六六七五 kc/s (四五・四五乃至四四・九四 m)ノ部分ニ於テ選定セラレタル周波數モ亦之ヲ使用スルコトヲ得

(ハ)　第二節(イ)ノ規定ハ共用周波數帶中一切ノ商用ノ船舶局ガ使用シ得ベキ四一一五乃至四一六五 kc/s (七二・九〇乃至七二・〇三 m)ノ部分ニ對シテハ之ヲ適用セズ

(三)　主管廳ハ新設ノ固定局及海岸局ノ周波數ノ選定ニ付テハ第一節(イ)、第二節(イ)、(ロ)及(ハ)ニ定メル周波數帶內ノ周波數ノ使用ヲ避クベシ

十九(一)　六〇〇〇乃至三〇〇〇〇 kc/s (五〇乃至一〇 m)ノ周波數ハ長距離通信ニ對シ大ニ有效ナルコトヲ認ム

(二)　主管廳ハ右周波數帶ノ周波數ヲ此ノ目的ノ爲ニ能フ限リ留保スルコトニ努ムベシ但シ短距離又ハ中距離通信ニ對シ之ヲ使用スルモ長距離通信ヲ妨害スル虞ナキ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

二十　歐羅巴、「アフリカ」、亞細亞ニ於テハ小電力ノ指向性無線標識ニシテ其ノ通達距離約五十粁ヲ超エザルモノハ一六三〇乃至一六七〇 kc/s (一八四乃至一八〇 m)ノ波長ノ保護周波數帶ヲ除クノ外一五〇〇乃至三五〇〇 kc/s (二〇〇乃至八五・七一 m ノ波長)ノ周波數帶內ノ一切ノ周波數ヲ使用スルコトヲ得但シ混信ヲ受クル虞アル業務ノ爲スル諸國ノ合意ヲ留保ス

〔海軍〕

第八節　素人局及私設實驗局

一　異リタル國ノ素人局間及私設實驗局間ニ於ケル通信ノ交換ハ關係國ノ一ノ主管廳ガ此ノ交換ニ對シ反對ナルコトヲ通告シタルトキハ之ヲ禁ズ

二　(一)　右交換ガ許可セラルル場合ニ於テ通信ハ普通語ヲ以テ之ヲ行ヒ且實驗ニ關スル通報竝ニ重要ナラザル爲公衆電信業務ヲ利用スルノ要ナキ個人的性質ノ事項ニ限定スルコトヲ要ス素人局ノ所有者ガ第三者ヨリ發スル國際通信ヲ傳送スルコトハ絕對ニ之ヲ禁ズ

(二)　右規定ハ關係國間ノ特別協定ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

三　發射ヲ行フコトヲ許可セラレタル素人局又ハ私設實驗局ニ於テ自己又ハ他人ノ爲ニ機器ヲ操縱スル者ハ「モールス」字號ニ於ケル本文ヲ傳送シ且斯ノ如ク傳送セラレタル本文ノ普變無線電信ノ受信ヲ爲シ得ルコトヲ兼メ證明スルコトヲ要ス右ノ者ハ同樣ノ技術ヲ有シ許可ヲ受ケタル者ヲ以テノミ代フルコトヲ得

四　主管廳ハ機器ヲ操縱スル者ニ付技術的見地ヨリ資格ヲ檢スル爲必要ト認ムル處置ヲ執ル

五　(一)　素人局及私設實驗局ガ使用シ得ル最大電力ハ通信士ノ技術的能力及該局ガ運用セラルルコトヲ要スル條件ヲ考慮シ關係主管廳之ヲ定ム

(二)　條約及本規則中ニ規定シタル一切ノ一般的規定ハ素人局及私設實驗局ニ之ヲ適用ス殊ニ發射電波ノ周波數ハ技術ノ現狀ノ許ス限リ安定ニシテ且高調波ナキモノナルコトヲ要ス

(三)　右局ハ其ノ發射中短キ間隔ヲ置キ其ノ呼出符號又ハ未ダ呼出符號ヲ有セザル私設實驗局ノ場合ニハ其ノ名稱ヲ傳送スルコトヲ要ス

第九條　移動局ノ具備スベキ條件

イ　通則

一　(一)　移動局ハ電波ノ周波數及型式ニ關シテハ第七條ニ規定スル一般ノ規定ニ適合スル樣之ヲ設置スルコトヲ要ス

(二)　尙型式B ノ電波ノ發射機ハ該發射機ガ全電力ヲ以テ通信ヲ行フ場合可聽周波數ニ於ケル電源タル變壓器ノ入力ニ於テ測定シ三〇〇「ワット」未滿ノ場合ヲ除キ移動局ニ於テ新ニ之ヲ設備スルコトヲ得ズ

(三)　又一切ノ周波數ノ型式B ノ電波ノ使用ハ發射機ガ前節ニ示ス電力ノ條件ヲ充ス場合ヲ除キ千九百四十年一月一日ヨリ之ヲ禁ズ

二　移動局ノ發射周波數ハ其ノ屬スル檢査業務ニ於テ成ルベク頻繁ニ之ヲ檢査スベシ

三　受信機ハ之ニ因リ空中線ニ誘發スル電流ガ成ルベク少ク且附近ノ局ヲ妨害セザル如キモノタルコトヲ要ス

四　一切ノ移動局ノ送信機及受信機ニ於ケル周波數ノ變更ハ能フ限リ速ニ之ヲ行ヒ得ルコトヲ要ス一切ノ設備ハ通信連絡成リタルトキ送信ヨリ受信（又受信ヨリ送信ヘノ切替ニ要スル時間ノ能フ限リ短キモノナルコトヲ要ス

ロ　船舶局

五　(一)　三六五乃至五一五kc/s（八二二乃至五八三m）ノ許可周波數帶ノ型式A 二又ハB ノ電波ヲ以テ通信ヲ行フ船舶局ニ於テ使用スル送信機ハ容易ニ其ノ電力ヲ著シク減少シ得ル裝置ヲ有スルコトヲ要ス

(二)　右規定ハ發射眞空管ノ「プレート」（型式A 二ノ發射）ニ於テ又ハ可聽周波數ノ電源タル變壓器ノ入力（型式B ノ發射）ニ於テ全負荷ニテ測定シ電力三〇〇「ワット」ヲ超エザル送信機ニ對シ之ヲ適用セズ

(三)　一〇〇乃至一六〇kc/s（三〇〇〇乃至一八七五m）ノ周波數帶內ノ周波數及四〇〇〇kc/sヲ超ユル周波數（七五m未滿ノ波長）ヲ以テ發射スル一切ノ船舶局ハ少クトモ千分ノ五ノ確度ヲ有スル電波計又ハ之ニ相當スル裝置ヲ設備スルコトヲ要ス

六　國際協定ニ依リ無線電氣機ヲ義務的ニ設備シタル船舶上ニ裝置セラレタル一切ノ局ハ五〇〇kc/s（六〇〇m）型式A 二又ハB ノ電波ヲ以テ

【海軍】

テ及三六五乃至四八五kc/s（八二二乃至六一九m）ノ許可周波數帶內ノ型式A 二又ハB ノ少クトモ他ノ一電波ヲ以テ送信及受信ヲ爲シ得ルコトヲ要ス

七　(一)　型式A 一、A 二又ハA 三ノ電波ノ發射ニ對スル裝置ヲ有スル船舶局ハ前記ノ電波ノ外尙第七條ニ於テ許可セラレタル電波ヲ使用スルコトヲ得

(二)　型式B ノ電波ノ使用ハ左ノ周波數ヲ除キ一切ノ周波數ニ對シ之ヲ禁ズ

三七五kc/s（八〇〇m）
四一〇kc/s（七三〇m）
四二五kc/s（七〇五m）
四五四kc/s（六六〇m）
五〇〇kc/s（六〇〇m）
一三六四kc/s（二二〇m）（※）

八　一〇〇乃至一六〇kc/s（三〇〇〇乃至一八七五m）ノ許可周波數帶ノ型式A 一ノ電波ノ傳送ニ對シ船舶局ニ設備セラレタル一切ノ機器ハ一四三kc/s（二一〇〇m）ノ周波數ノ外尙右周波數帶內ヨリ選定シタル少クトモ二箇ノ周波數ヲ使用シ得ルコトヲ要ス

九　(一)　無線電信機ヲ義務的ニ設備スル船舶上ノ一切ノ局ハ五〇〇kc/s（六〇〇m）ノ電波及其ノ取扱フ業務ノ遂行ニ必要ナル一切ノ電波ヲ受信シ得ルコトヲ要ス

(二)　船舶局ハ之ニ因リ空中線ニ誘發スル電流ガ成ルベク少ク且附近ノ局ヲ妨害セザル如キモノタルコトヲ要ス

(三)　一切ノ船舶局ノ送信機及受信機ニ於ケル周波數ノ變更ハ能フ限リ速ニ之ヲ行ヒ得ルコトヲ要ス一切ノ設備ハ通信連絡成リタルトキ送信ヨリ受信（又受信ヨリ送信ヘノ切替ニ要スル時間ノ能フ限リ短キモノナルコトヲ要ス

ハ　航空機局

十　(一)　(イ)　國際協定ニ依リ無線電氣機ヲ義務的ニ設備シタル海上ノ航行ヲ爲ス航空機上ニ裝置セラレタル一切ノ局ハ五〇〇kc/s（六〇〇m）ノ型式A 二又ハB ノ電波ヲ以テ送信及受信ヲ爲シ得ルコトヲ要ス

(ロ)　型式B ノ電波ノ使用ニ關スル制限ニ關シテハ本條ロ第七項第二節ヲ參照スベシ

(二)　(イ)　一切ノ航空機局ハ型式A 二又ハA 三ノ三三三kc/s（九〇〇m）ノ電波ヲ以テ送信及受信ヲ爲シ得ルコトヲ要ス

(ロ)　本規定ハ別段ノ規定アル地域的協定ガ施行セラルル地域ノ上ヲ航行スル航空機局ニ對シテハ之ヲ適用セズ

（※）　周波數分配表ノ註（十）參照

第十條　通信士ノ證明書

イ　總則

一　(一)　無線電信又ハ無線電話ノ一切ノ移動局ノ業務ハ該局ノ屬スル政府ノ交付シタル證明書ヲ有スル無線電信通信士ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ要ス尤モ小電力（第七項第四節ニ規定スル地域的協定ノ

【海軍】

場合ヲ除キ空中線ニ於ケル搬送波ノ電力ニシテ一〇〇「ワット」ヲ超エザルモノ）ノ無線電氣設備ヲ有スル移動局ニ於テハ該設備ガ電話ノミニ使用セラルル場合業務ハ無線電話通信士ノ證明書ヲ有スル通信士ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

(二) 航海、航空又ハ通行ノ中途ニ於テ通信士ヲ絕對ニ得ルコト能ハザル場合ハ指揮者又ハ移動局ノ責任者ハ他ノ締約政府ノ交付シタル證明書ヲ有スル通信士ガ無線電氣業務ヲ行フコトヲ單ニ臨時トシテ許可スルコトヲ得旅規ノ證明書ヲ有セザル者ヲ臨時ニ通信士トシテ使用スル必要生ジタルトキハ右ノ者ノ執務ハ緊急ノ場合ニ限ル如何ナル場合ト雖右通信士又ハ前記ノ者ハ前記第一項第一節ニ規定スル證明書ヲ有スル通信士ヲ以テ成ルベク速ニ之ニ代フルコトヲ要ス

二 各主管廳ハ通信士ヲシテ通信ノ祕密ヲ守ル義務ニ服セシムル爲又能フ限リ證明書ノ詐欺的行使ヲ防止スル爲必要ナル處置ヲ執ル

三 (一) 證明書ハ無線電信通信士ニ對シテハ二階級ノ證明書及特別證明書トシ無線電話通信士ニ對シテハ二種ノ證明書（一般及制限）トス

(二) 右證明書ノ取得ニ要スル條件ハ左ノ諸項ニ之ヲ定ム此等ノ條件ハ最低限ノモノトス

(三) 各政府ハ前記證明書ヲ附與スルニ必要ト認ムル試驗ノ數ヲ決定スル自由ヲ有ス

(四) 第一級無線電信通信士ノ證明書ヲ有スル者竝ニ第二級無線電信通信士及無線電話通信士ノ證明書ヲ有スル者ハ一切ノ移動局ニ於ケル無線電話業務ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二級無線電信通信士及無線電話通信士ノ二箇ノ證明書ハ之ヲ併合スルコトヲ得

ロ 第一級無線電信通信士證明書

四 第一級證明書ハ左ニ揭グル技術上及職務上ノ知識及技倆ヲ證明シタル通信士ニ之ヲ交付ス

(イ) 電氣ノ一般原理、無線電信及無線電話ノ理論ノ知識竝ニ移動業務ニ於テ使用スル型式ノ機器ノ調整及實地運用ノ知識

(ロ) (イ)ニ揭グル機器ノ運用及調整ノ爲ニ使用スル電動發電機、蓄電池等附屬機器ノ運用ニ關スル理論及實地ノ知識

(ハ) 航行中機器ニ起ルコトアルベキ障碍ノ修理ヲ備付ノ器具材料ヲ以テ行フニ必要ナル實地ノ知識

(ニ) 一分時ニ付二十集合ノ速度ニ於ケル暗語（文字、數字及句讀點ノ混合）ノ集合及一分時ニ付二十五語ノ速度ニ於ケル普通語ノ本文ノ正確ナル傳送及正確ナル普覺受信ノ技倆　暗語ノ各集合ハ各數字又ハ句讀點ヲ二字ト計算シ五字ヨリ成ルコトヲ要ス普通語ノ本文ノ一語ハ平均五字ヨリ成ルコトヲ要ス

(ホ) 電話ノ正確ナル送信及正確ナル受信ノ技倆

(ヘ) 無線通信ノ交換ニ適用スル規則ノ詳細ナル知識、無線通信ノ料

〔海軍〕

金ニ關スル書類ノ知識、海上ニ於ケル人命ノ安全ニ關スル條約中ノ無線電信ニ關スル部分ノ知識及航空ニ付テハ航空無線電氣業務ニ關スル特別規定ノ知識此ノ最後ノ場合ニ於テ證明書ニハ其ノ所有者ガ右規定ニ關スル試驗ニ合格シタルコトヲ記載ス

(ト) 一般世界地理殊ニ證明書ノ種類ニ從ヒ主ナル航路又ハ航空路竝ニ最重要ナル電氣通信線路ノ知識

ハ 第二級無線電信通信士證明書

五 第二級證明書ハ左ニ揭グル技術上及職務上ノ知識及技倆ヲ證明シタル通信士ニ之ヲ交付ス

(イ) 電氣及無線電信ノ初歩ノ理論及實地ノ知識竝ニ移動無線電信業務ニ於テ使用スル型式ノ機器ノ調整及實地運用ノ知識

(ロ) (イ)ニ揭グル機器ノ運用及調整ノ爲ニ使用スル電動發電機、蓄電池等附屬機器ノ運用ニ關スル初歩ノ理論及實地ノ知識

(ハ)(ニ) 機器ニ障碍ヲ生ジタル場合小修理ヲ行フニ足ル實地ノ知識

(ニ) 一分時ニ付十六集合ノ速度ニ於ケル暗語（文字、數字及句讀點ノ混合）ノ集合ノ正確ナル傳送及正確ナル普覺受信ノ技倆　暗語ノ各集合ハ各數字又ハ句讀點ヲ二字ト計算シ五字ヨリ成ルコトヲ要ス

(ホ) 無線電話通信士ニ適用スル規則ノ知識、無線通信ノ料金ニ關スル書類ノ知識、海上ニ於ケル人命ノ安全ニ關スル條約中無線電信ニ關スル部分ノ知識及航空ニ付テハ航空無線電氣業務ニ關スル特別規定ノ知識此ノ最後ノ場合ニ於テ證明書ニハ其ノ所有者ガ右規定ニ關スル試驗ニ合格シタルコトヲ記載ス

(ヘ) 一般世界地理殊ニ證明書ノ種類ニ從ヒ主ナル航路又ハ航空路竝ニ最重要ナル電氣通信線路ノ知識

ニ 無線電信通信士特別證明書

六 (一) (イ) 國際協定ニ依リ無線電信設備ヲ强制セラレザル船舶、航空機及他ノ一切ノ運轉機ノ無線電信業務ハ無線電信通信士特別證明書ヲ有スル通信士ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得此ノ證明書ハ第二級無線電信通信士證明書ノ取得ノ爲定ムル送信及受信ノ速度ニ於テ無線通信ヲ行フコトヲ得ル通信士ニ之ヲ交付ス

(ロ) 右證明書ノ取得ニ付他ノ條件ヲ定ムルコトハ各關係政府ニ屬ス

(二) 「ニュー、ジーランド」ノ海岸ヨリ遠ク航行セズ且制限セラレタル方法ニ於テノミ公衆通信ノ國際業務及移動局ノ一般業務ニ從事スル同國ノ小船舶ノ通信士ニ對シ同政府ガ特別ノ證明書ヲ交付スルコトヲ例外トシテ暫行的ニ承認ス右特別證明書ノ取得ノ條件ハ該政府之ヲ定ム

ホ 無線電話通信士證明書

七 (一) 無線電話通信士一般證明書ハ左ニ揭グル職務上ノ知識及技倆ヲ證明シタル通信士ニ之ヲ交付ス（第三項第四節參照）

〔海軍〕

(イ)　無線電話ノ實地ノ知識殊ニ混信ヲ避クル爲ノ知識
(ロ)　無線電話ノ機器ノ調整及運用ノ知識
(ハ)　電話ノ正確ナル送信及正確ナル受信ノ技術
(ニ)　無線電話通信ノ交換ニ適用スル規則及無線通信規則中ノ人命ノ安全ニ關スル部分ノ知識

(二)　空中線ニ於ケル搬送波ノ電力五〇「ワット」ヲ超エザル無線電話局ニ對シテハ各關係政府ニ於テ自ラ無線電話通信士證明書（無線電話通信士制限證明書）ノ取得ノ條件ヲ定ムルコトヲ得

(三)　無線電話通信士證明書ニハ該證明書ガ一般證明書又ハ制限證明書ナル旨ヲ指示スルコトヲ要ス

(四)　特別ノ必要ヲ充ス爲地域的協定ニ依リ一定ノ技術的條件及一定ノ運用條件ヲ充ス無線電話局ニ於テ使用セラルル無線電話通信士ノ證明書ノ取得ノ爲具備スベキ條件ヲ定ムルコトヲ得此等ノ通信士ニ交付スル證明書ニハ該條件及該協定ヲ記載ス右協定ハ國際業務ニ混信ヲ生ゼシメザルコトノ留保ノ下ニ之ヲ許可ス

(五)　通信士ニ對シ既ニ交付セラレタル無線電話通信士證明書ニシテ華盛頓一般規則（千九百二十七年）ニ依リ決定セラレタル條件ニ適合スルモノハ其ノ效力ヲ保有シ之ヲ無線電話通信士一般證明書ト看做ス

〈　職務上ノ實習

(一)　第一種船舶局（第二十三條第三項）ノ長ト成ル爲ニハ其ノ以前ニ於テ第一級通信士ハ船舶局又ハ海岸局ニ於テ通信士トシテ少クトモ一年ノ實務ヲ經ルコトヲ要ス

(二)　第二種船舶局（第二十三條第三項）ノ長ト成ル爲ニハ第一級通信士ハ船舶局又ハ海岸局ニ於テ通信士トシテ少クトモ六月ノ實務ヲ經ルコトヲ要ス

(三)　(イ)　第二級證明書ヲ有スル通信士ハ第三種船舶局（第二十三條第三項）ノ長トシテ乘組ムコトヲ許可セラル

(ロ)　船舶局ニ於テ六月間業務ニ從事シタル後右通信士ハ第二種船舶局ノ長トシテ乘組ムコトヲ得

(四)　證明書ヲ交付スル政府ハ通信士ガ他ノ條件（例ヘバ一定ノ航空時間中航空移動業務ニ從事シタルコト等）ヲ充シタル場合ニ限リ當該通信士ヲシテ航空機上ニ於ケル業務ヲ行フコトヲ許可スルコトヲ爲スコトヲ得

第十一條　指揮者ノ權限

一　移動局ノ無線電氣業務ハ移動局ヲ有スル船舶、航空機其ノ他ノ各運輸機ノ指揮者又ハ責任者ノ最上權ノ下ニ置ク

二　右指揮者又ハ責任者竝ニ無線電報ノ本文、單ニ其ノ電報ノ存在又ハ無線電氣業務ニ依リ得タル報道ヲ知リ得ル者ハ通信ノ祕密ヲ確保スル義務ヲ負フ

第十二條　局ノ檢査

〔海軍〕

一　(一)　移動局ガ立寄ル國ノ權限アル政府又ハ主管廳ハ許可書ノ呈示ヲ要求スルコトヲ得移動局ノ通信士又ハ該局ノ責任者ハ右檢査ヲ容易ナラシムルコトヲ要ス許可書ハ遲滯ナク呈示シ得ル樣之ヲ保管スルコトヲ要ス尤モ許可書ノ呈示ハ之ヲ交付シタル官憲ノ認證アル許可書ノ謄本ヲ局内ニ揭示シ置クコトヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

(二)　許可書ガ呈示セラレザリシ場合又ハ明白ナル違例ガ認メラレタル場合該政府又ハ主管廳ハ無線電氣設備ガ本規則ノ規定ニ適合スルヤヲ確ムル爲該設備ノ檢査ヲ行フコトヲ得

(三)　尙檢査吏員ハ通信士ノ證明書ノ呈示ヲ要求スルコトヲ得尤モ職務上ノ知識ノ證明ハ之ヲ要求スルコトヲ得ズ

二　(一)　政府又ハ主管廳ガ本條第一項ニ規定スル處置ニ出ヅルコトヲ必要トシタルトキ又ハ通信士ノ證明書ガ呈示セラレザリシトキハ直ニ該移動局ノ屬スル政府又ハ主管廳ニ其ノ旨ヲ通知ス尙場合ニ依リ第十三條ニ規定スル如ク處置ス

(二)　局ヲ檢査シタル政府又ハ主管廳ノ吏員ハ該局ヲ去ル前其ノ調査ノ結果ヲ指揮者若ハ責任者（第十一條）又ハ其ノ代理者ニ通告スルコトヲ要ス

三　許可書ヲ有スル移動局ガ國際無線通信業務ニ付具備スルコトヲ要スル技術上及經營上ノ條件ニ關シ締約政府ハ臨時其ノ領水内ニ在リ又ハ臨時其ノ領域上ニ在ル外國ノ移動局ニ對シ本規則ニ規定スル條件ヨリ重キ條件ヲ課セザルコトヲ約ス右規定ハ航海又ハ航空ニ關スル國際協定ノ範圍ニ屬スルガ爲本規則ニ於テ決定セラレザル事項ニ對シ影響ヲ及ボスコトナシ

第十三條　違反ノ通告

一　條約又ハ無線通信規則ニ對スル違反ハ之ヲ認メタル局ヨリ其ノ屬スル主管廳ニ之ヲ報告ス該報告ハ附錄第三號ニ揭グル樣式ニ依ル

二　局ガ重大ナル違反ヲ爲シタル場合ニ於テハ該局ノ屬スル國ノ主管廳ニ對シ申告ヲ爲スコトヲ要ス

三　主管廳ガ其ノ許可シタル局ノ一ニ於テ條約又ハ規則ノ違反アリタルコトヲ知リタルトキハ事實ヲ調査シ責任ヲ定メ且必要ナル處置ヲ執ル

第十四條　呼出符號

一　(一)　公衆通信ノ國際業務ヲ取扱フ一切ノ局竝ニ私設實驗局、素人局及私設無線通信局ハ左ノ分配表ニ於テ各國ニ割當テタル國際識別符字ニ基キ作成シタル呼出符號ヲ有スルコトヲ要ス該表中呼出符號ノ最初ノ一文字又ハ二文字ハ局ノ國籍ヲ示ス

(二)　固定局ガ國際業務ニ於テ二箇以上ノ周波數ヲ使用スルトキハ各周波數ハ當該周波數ニ對シテノミ使用スル別箇ノ呼出符號ニ依リ之ヲ指示ス

呼出符號ノ分配表

國	符字
「チリ」國	CAA－CEZ
「カナダ」	CFA－CKZ
「キユバ」國	CLA－CMZ
「モロツコ」國	CNA－CNZ
「キユバ」國	COA－COZ
「ボリヴイア」國	CPA－CPZ
「ボルトガル」殖民地	CQA－CRZ
「ボルトガル」國	CSA－CUZ
「ウルグアイ」國	CVA－CXZ
「カナダ」	CYA－CZZ
獨逸國	D
西班牙國	EAA－EHZ
「アイルランド」自由國	EIA－EIZ
「リベリア」共和國	ELA－ELZ
「ペルシア」國	EPA－EQZ
「エストニア」國	ESA－ESZ
「エテイオピア」國	ETA－ETZ
「ザール」地方	EZA－EZZ
佛蘭西國並ニ殖民地及保護領	F
「グレート、ブリテン」國	G
「ハンガリー」國	HAA－HAZ
瑞西聯邦	HBA－HBZ
「エクアドル」國	HCA－HCZ
「ハイテイ」共和國	HHA－HHZ
「ドミニカ」共和國	HIA－HIZ
「コロンビア」共和國	HJA－HKZ
「パナマ」共和國	HPA－HPZ
「ホンデユラス」共和國	HRA－HRZ
暹羅國	HSA－HSZ
「ヴアティカン」市	HVA－HVZ
「ヘヂアーズ」國	HZA－HZZ
伊太利國及殖民地	I
日本國	J
「アメリカ」合衆國	K
諾威國	LAA－LNZ
「アルゼンテイン」共和國	LOA－LWZ

〔海軍〕

〔海軍〕

「ルクセンブルグ」國	LXA－LXZ
「リスアニア」國	LYA－LYZ
「アルガリア」國	LZA－LZZ
「グレート、ブリテン」國	M
「アメリカ」合衆國	N
「ペルー」國	OAA－OCZ
墺地利國	OEA－OEZ
「フインランド」國	OFA－OHZ
「チエツコスロヴアキア」國	OKA－OKZ
白耳義國及殖民地	ONA－OTZ
丁抹國	OUA－OZZ
和蘭國	PAA－PIZ
「キユラサオ」	PJA－PJZ
蘭領印度	PKA－POZ
「ブラジル」國	PPA－PYZ
「スリナム」	PZA－PZZ
（略語）	Q
「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦	R
瑞典國	SAA－SMZ
「ポーランド」國	SOA－SRZ
「エジプト」國	STA－SUZ
希臘國	SVA－SZZ
「トルコ」國	TAA－TCZ
「アイスランド」國	TFA－TFZ
「グアテマラ」國	TGA－TGZ
「コスタ・リカ」國	TIA－TIZ
佛蘭西國並ニ殖民地及保護領	TKA－TZZ
「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦	U
「カナダ」	VAA－VGZ
「オーストラリア」聯邦	VHA－VMZ
「ニユー、フアンドランド」	VOA－VOZ
英領殖民地及保護領	VPA－VSZ
英領印度	VTA－VWZ
「カナダ」	VXA－VYZ
「アメリカ」合衆國	W
「メキシコ」國	XAA－XFZ
中華民國	XGA－XUZ
英領印度	XYA－XZZ

「アフガニスタン」國	YAA－YAZ
佛領印度	YBA－YHZ
「イラーク」國	YIA－YIZ
「ニュー、ヘブライグ」	YJA－YJZ
「ラトヴィア」國	YLA－YLZ
「ダンチッヒ」自由市	YMA－YMZ
「ニカラグア」國	YNA－YNZ
「ルーマニア」國	YOA－YRZ
「サルヴァドル」共和國	YSA－YSZ
「ユーゴースラヴィア」國	YTA－YUZ
「ヴェネズエラ」國	YVA－YWZ
「アルバニア」國	ZAA－ZAZ
英領殖民地及保護領	ZBA－ZJZ
「ニュー、ジーランド」	ZKA－ZMZ
「パラグアイ」國	ZPA－ZPZ
南「アフリカ」聯邦	ZSA－ZUZ

二　呼出符號ハ左ノモノヨリ成ル

(イ)　陸上局ノ場合ニ於テハ三文字

(ロ)　固定局ノ場合ニ於テハ三文字又ハ三文字及次ニ一數字（〇及一ヲ除ク）

(ハ)　船舶局ノ場合ニ於テハ四文字

(ニ)　航空機局ノ場合ニ於テハ五文字

(ホ)　國際聯盟ノ職務ニ關スル輸送ヲ行フ航空機局ノ場合ニ於テハ五文字及其ノ前後ニ「字下線」ニ相當スル「モールス」字號ノ符號

(ヘ)　他ノ移動局ノ場合ニ於テハ四文字及次ニ一數字（〇及一ヲ除ク）

(ト)　私設實驗局、素人局及私設無線通信局ノ場合ニ於テハ一文字又ハ二文字及一數字（〇及一ヲ除ク）次ニ最大限三文字ノ集合尤モ〇及一ナル數字ノ使用ノ禁止ハ素人局ニ對シテハ之ヲ適用セズ

三　(一)　無線航空業務ニ於テハ完全ナル呼出符號（第二項(ニ)及(ホ)參照）ヲ以テ通信連絡ヲ取リタル後航空機局ハ左ノモノヨリ成ル略符號ヲ使用スルコトヲ得

(イ)　無線電信ニ於テハ五文字ノ完全呼出符號ノ最初及最後ノ文字

(ロ)　無線電話ニ於テハ航空機ノ所有者（會社又ハ個人）ノ名ノ全部又ハ一部次ニ登錄記號ノ最後ノ二文字

(二)　國際聯盟ノ職務ニ關スル業務ヲ行フ航空機ニ付テハ「Societas Nationa」ナル語辭ヲ以テ航空機ノ所有者ノ名ニ代フ

〔海軍〕

四　(一)　「アルファベット」ノ二十六文字竝ニ第二項ニ規定シタル場合ノ數字ハ呼出符號ノ組成ニ使用スルコトヲ得音符ヲ附シタル文字ハ之ヲ除ク

(二)　尤モ左ノ文字ノ組合セハ呼出符號トシテ使用スルコトヲ得ズ

(イ)　「A」又ハ「B」ヲ以テ始マル組合セ　右二文字ハ國際通信書ノ地理ノ部ノ爲ニ之ヲ留保ス

(ロ)　國際通信書ノ第二部中ニ使用セラレタル組合セ

(ハ)　遭難信號又ハ同種ノ他ノ信號ト混同セラレ易キ組合セ

(ニ)　無線通信業務ニ於テ使用スベキ略語ノ爲ニ留保セラレタル組合セ

五　(一)　各國ハ自國ニ割當テラレタル國際識別符字ニ基キ其ノ局ノ呼出符號ヲ選定シ其ノ局ニ附シタル呼出符號ヲ聯合事務局ニ通告ス

(二)　聯合事務局ハ同一呼出符號ガ二回以上附セラレザル樣又遭難信號若ハ同種ノ他ノ信號ト混同セラレ易キ呼出符號ガ附セラレザル樣注意ス

第十五條　業務書類

一　聯合事務局ハ左ノ業務書類ヲ作成刊行ス

(イ)　國際識別符字ニ基キ作成シタル呼出符號ヲ有シ且公衆通信ヲ取扱ヒ若ハ取扱ハザル一切ノ陸上局、移動局、固定局ノ局名錄　特別業務ヲ行フ局、無線放送局、固定地點間無線通信局ノ局名錄

(ロ)　周波數表　本表ニハ常規ノ業務ヲ行フコトヲ目的トシ且國際的混信ヲ生ジ易キ局ニ割當テラレタル一切ノ周波數ヲ揭グ

(ハ)(ニ)(ホ)　國際業務ヲ取扱フ電信局及陸上局ノ局名錄

公衆通信ヲ取扱フ海岸局ノ地圖

海岸局及船舶局局名錄ノ附錄タルベキ表及地圖ニシテ第二種船舶局ノ執務ノ時間及地帶ヲ示スモノ（附錄第四號及第五號參照）

(ヘ)　(イ)ニ揭グル局ニシテ國際識別符字ニ基キ作成シタル呼出符號ヲ有スル局ノ呼出符號ヲ「ABC」順ニ排列シタル表

(ト)　本表ハ國籍ニ關係ナク之ヲ作成ス本表ニハ第十四條ニ揭グル呼出符號ノ分配表ヲ卷頭ニ附ス

無線通信ノ一般統計表

二　(一)　局名錄（第一項(イ)ハ左ノ通分冊刊行ス

第一　海岸局及船舶局ノ局名錄

第二　航空局及航空機局ノ局名錄

第三　特別業務ヲ行フ局ノ局名錄

第四　固定局ノ局名錄（現用固定局ノ周波數表ノ索引）

第五　無線放送局ノ局名錄

(二)　第一、第二及第三ノ局名錄中ニ於テ各種類ノ局ハ各別ノ部門ニ排列ス

三　各種ノ局名錄及周波數表ノ樣式ハ附錄第六號ニ之ヲ揭グ此等ノ書

〔海軍〕

類ノ作成ニ關スル詳細ナル事項ハ其ノ序文、各欄ノ冒頭及說明記事中ニ之ヲ揭グ

四　主管廳ハ毎月一回附錄第六號ニ揭ゲタルモノト同一ノ樣式ニ依リ前記書類ニ對スル追加、修正及削除ヲ聯合事務局ニ通告ス

五　(一)　海岸局及船舶局局名錄竝ニ航空局及航空機局局名錄ハ六月毎ニ改版シ其ノ間ニ追加ヲ發行セズ特別業務ヲ行フ局ノ局名錄及無線放送局局名錄ニ付テハ聯合事務局ハ該局局名錄ノ改版ノ時期ヲ決定ス

(二)　特別業務ヲ行フ局ノ局名錄ニ付テハ三月毎ニ又無線放送局局名錄ニ付テハ六月毎ニ再錄追加ヲ發行ス

(三)　周波數表竝ニ現用固定局ニ對スル周波數表ノ索引タル固定局局名錄ハ毎年各別ニ改版ス右周波數表及局名錄ハ各別ニ發行スル月刊追加ニ依リ常ニ現行トス

六　(一)　海岸局及航空局ノ名稱ハ次ニ夫々「RADIO」及「AERADIO」ナル語ヲ附ス

(二)　無線羅針局及無線標識ノ名稱ハ次ニ夫々「GONIO」及「PHARE」ナル語ヲ附ス

七　附錄第七號ハ局ノ業務ノ種類及範圍ヲ表ス爲書類中ニ使用スル記號ヲ揭グ

八　移動局ノ備付クベキ業務書類ハ附錄第八號ニ之ヲ揭グ

(註一)(註二)

第十六條　移動業務ニ於ケル無線電信ノ一般手續

一　(一)　移動業務ニ於テハ第二十二條(註一)(註二)ノ規定ヲ適用スベキ遭難呼出又ハ遭難通信ノ場合ヲ除キ左ノ手續ニ依ルコトヲ要ス

(二)　無線通信ノ交換ニ付テハ移動業務ノ局ハ附錄第九號ノ略語ヲ使用ス

二　(一)　送信前一切ノ局ハ自局ノ通信圈內ニ行ハルル傳送ニ有害ナル混信ヲ惹起セザルコトヲ確ムルコトヲ要ス期カル混信ヲ生ズル虞アルトキハ該局ハ其ノ妨害スルコトアルベキ傳送ノ最初ノ中止ヲ待ツベシ

(二)　尤モ右ノ如ク行動スルモ該局ノ發射ガ既ニ行ハレツツアル無線電氣傳送ニ混信ヲ及ボストキハ左ノ規定ヲ適用スベシ

(イ)　公衆通信ノ業務ヲ取扱フ陸上局又ハ各種ノ航空局ノ通信圈內ニ於テハ局ニシテ其ノ發射ガ混信ヲ生ズルモノハ右陸上局又ハ航空局ヨリ要求アリタルトキハ直ニ發射ヲ中止スルコトヲ要ス

(ロ)　二船舶局間ニ於テ既ニ行ハレツツアル無線電氣通信ガ他ノ船舶ノ發射ニ依リ妨害セラルル場合ハ後者ハ二船舶局ノ何レカノ要求アリタルトキハ直ニ發射ヲ中止スルコトヲ要ス

(ハ)　右中止ヲ要求スル局ハ其ノ發射ヲ中止セシメラルル局ノ概定ノ可待時間ヲ指示スルコトヲ要ス

〔海軍〕

三　船舶局ヨリ傳送スル一切ノ種類ノ無線電報ニハ異リタル各陸上局ニ毎日送信スル最初ノ無線電報ヲ第一號トシテ毎日ノ連續番號ヲ附ス

四　局ノ呼出及通信ノ準備符號

(一)　呼出手續

呼出ハ左ノ如ク構成ス

被呼局ノ呼出符號三回以下

「DE」ナル語

呼出局ノ呼出符號三回以下

(二)　呼出及準備符號ニ使用スル電波

呼出ヲ爲シ竝ニ準備符號ヲ傳送スル爲呼出局ハ被呼局ノ聽守電波ヲ使用ス

(三)　通信ニ使用スル電波ノ指示

前記第一節ニ指示スル如キ呼出ハ次ニ呼出局ガ通信ノ傳送ニ使用セントスル周波數又ハ電波ノ型式ヲ示ス成規ノ略語ヲ伴フコトヲ要ス

本規定ノ例外トシテ呼出ノ次ニ通信ニ使用スル電波ノ指示ヲ伴ハザルトキハ

(イ)　呼出局ガ陸上局ナルトキ　該局ガ局名錄ニ揭ゲラレタル通常通信電波ヲ通信ニ使用セントスルコトヲ示ス

(ロ)　呼出局ガ移動局ナルトキ　通信ニ使用スル電波ハ被呼局ニ於テ選定スベキコトヲ示ス

(四)　電報ノ通數又ハ連續傳送ノ指示

呼出局ガ被呼局ニ對シ傳送スベキ無線電報二通以上ヲ有スルトキハ前記準備符號ノ次ニ成規ノ略語及無線電報ノ通數ヲ示ス數字ヲ傳送ス

尙呼出局ガ右無線電報ヲ連續送信センコトヲ欲スルトキハ被呼局ノ同意ヲ得ル爲成規ノ略語ヲ附シテ其ノ旨ヲ指示ス

五　呼出ニ對スル應答及通信ノ準備符號

(一)　呼出ニ對スル應答手續

呼出ニ對スル應答ハ左ノ如ク構成ス

呼出局ノ呼出符號三回以下

「DE」ナル語

被呼局ノ呼出符號

(二)　應答電波

呼出及準備符號ニ對スル應答ノ傳送ニハ被呼局ハ呼出局ノ聽守電波ヲ使用ス

本規定ノ例外トシテ移動局ガ一四三kc/s(二一〇〇m)ノ電波ニ依リ海岸局ヲ呼出ス場合ニハ海岸局ハ局名錄ニ揭ゲラルル一〇〇乃至一六〇kc/s(三〇〇〇乃至一八七五m)ノ周波數帶ノ通常通信電波ヲ以テ呼出ニ對スル應答ヲ傳送ス

(三) 通信ニ使用スル電波ノ協定

イ 被呼局ガ呼出局ニ合意ナルトキハ左ノモノヲ傳送ス

(イ) 呼出ニ對スル應答

(ロ) 呼出局ニ依リ通知セラレタル周波數又ハ電波ノ型式ヲ以テ爾後聽取ヲ爲スコトヲ示ス成規ノ略語

(ハ) 場合ニ依リ第四節ニ規定スル指示

(ニ) 被呼局ガ呼出局ノ通信ヲ受信スル準備整ヒタルトキハ「R」ナル文字

(ホ) 場合ニ依リ有用ナルトキハ受信符號ノ强サヲ示ス成規ノ略語及數字(附錄第十號參照)

ロ 局ガ合意ナラザルトキ又ハ通信ニ使用スル電波ヲ選定スベキトキハ左ノモノヲ傳送ス

(イ) 呼出ニ對スル應答

(ロ) 要求スル周波數又ハ電波ノ型式ヲ示ス成規ノ略語(※)

(ハ) 場合ニ依リ第四節ニ規定スル指示

呼出局ガ通信ニ使用スベキ電波ニ關シ合意成立スルトキハ被呼局ハ應答中ノ事項ノ次ニ「R」ナル文字ヲ傳送ス

(四) 連續傳送ノ要求ニ對スル應答

被呼局ガ無線電報ノ連續傳送(第四項第四節)ヲ要求スル呼出局ニ對シ應答スルトキハ成規ノ略語ヲ以テ其ノ拒絕又ハ受諾ヲ表示シ

受諾スル場合ニハ必要アラバ一連續トシテ受信セントスル無線電報ノ通數ヲ指示ス

(五) 受信ノ困難

(イ) 被呼局ガ受信シ得ザルトキハ前記第三節ニ規定スル呼出ニ應答スルモ「R」ナル文字ノ代リニ ▬▪▬▪▬ (可待)ナル符號ヲ送リ次ニ概定ノ可待時間ヲ分時ニテ示シタル數ヲ附ス此ノ概定時間ガ十分時(航空ノ移動業務ニテハ五分時)ヲ超ユルトキハ可待ノ理由ヲ附スルコトヲ要ス

(ロ) 局ガ自局ニ對スル呼出ナルコト確實ナラザル呼出ヲ受信シタルトキハ該局ハ呼出ガ反覆セラレ且了解セラルル迄應答ヲ爲スコトヲ得ズ又局ガ自局ニ對スル呼出ヲ受信シタルモ呼出局ノ呼出符號ニ疑アルトキハ呼出局ノ呼出符號ノ代リニ成規ノ略語ヲ使用シ直ニ應答スルコトヲ要ス

六 通信ノ傳送

(一) 通信電波

(イ) 移動業務ノ各局ハ原則トシテ呼出ガ行ハレタル周波數帶ニ對シ局名錄ニ掲ゲラルル該局ノ通信電波ノ一ヲ使用シテ其ノ通信ヲ傳送ス

(ロ) 各局ハ局名錄ニ於テ太字ヲ以テ印刷シタル其ノ通常通信電波ノ外第十九條第一項第十節ノ規定ニ從ヒ同一電波帶內ノ補助電

〔海軍〕

波ヲ使用スルコトヲ得

(ハ) 通信ニ對スル呼出電波ノ使用ハ第十九條ニ之ヲ規定ス

(二) 長文無線電報

(イ) 百語ヲ超過スル一切ノ無線電報ハ原則トシテ一連續ヲ構成スルモノト之ヲ看做シ又ハ傳送中ノ一連續ヲ終結セシム

(ロ) 長文ノ無線電報ハ普通語電報タルト隱語又ハ祕語ノ電報タルトヲ問ハズ通則トシテ一區切ヅヽ傳送ス各區切ハ普通語ノ場合ニ於テハ五十語隱語又ハ祕語ノ場合ニ於テハ二十語又ハ二十集合トス

(ハ) 各區切ノ末尾ニ「此ノ所迄無線電報ヲ良好ニ受信シタリヤ」ヲ意味スル ▪▬▪▬▪▬▪ (?) ナル符號ヲ傳送ス一區切ヲ正確ニ受信シタルトキハ受信局ハ「R」ナル文字ヲ以テ應答シ無線電報ノ傳送ハ繼續セラル

(三) 通信ノ中止

移動業務ノ局ガ陸上局ノ通信電波ヲ以テ傳送シ之ニ依リ該陸上局ニ混信ヲ生ゼシムル場合ニ於テ該陸上局ヨリ要求アルトキハ其ノ通信ヲ中止スルコトヲ要ス

七 傳送及通信ノ終了

(一) 傳送ノ終信符號

(イ) 無線電報ノ傳送ハ ▪▬▪▬▪ (終信)ナル符號ヲ以テ送信局ノ

呼出符號及「R」ナル文字ヲ以テ終ル

(ロ) 連續傳送ノ場合ニ於テハ各無線電報ノ終了ハ ▪▬▪▬▪ ナル符號又連續ノ終了ハ送信局ノ呼出符號及「R」ナル文字ヲ以テ之ヲ示ス

(二) 受信證

(イ) 無線電報ノ受信證ハ「R」ナル文字次ニ無線電報ノ番號ヲ傳送シテ之ヲ示ス受信證ノ前ニハ左ノ順序ニ依ル事項ヲ傳送ス傳送ヲ爲シタル局ノ呼出符號、「DE」ナル語、受信ヲ爲シタル局ノ呼出符號

(ロ) 一連續ノ無線電報ノ受信證ハ「R」ナル文字次ニ最後ニ受信シタル無線電報ノ番號ヲ傳送シテ之ヲ示ス此ノ受信證ノ前ニハ前記ノ順序ニ依ル事項ヲ傳送ス

(ハ) 受信證ハ呼出ノ應答ニ對スルモノト同一ノ電波ヲ以テ受信局ヨリ之ヲ傳送ス(前記第五項第二節參照)

(三) 通信ノ完了

(イ) 二局間ノ通信ノ完了ハ二局ノ雙方ヨリ ▪▪▬▪▪▬▪▪ (通信完了)ナル符號次ニ自局ノ呼出符號ヲ送リテ之ヲ指示ス

(ロ) 此ノ符號ニ對シテハ送信局ニ於テハ通信電波又受信局ニ於テハ呼出ニ對スル應答電波ノ使用ヲ繼續ス

(ハ) ▪▪▬▪▪▬▪▪ (通信完了)ナル符號ハ又一般情報ノ無線電

報、氣象報及一般安全通報ノ傳送ヲ完了スルトキ並ニ後續受信證ヲ要シ又ハ受信證ヲ要セザル長距離無線通信業務ニ於テ傳送ヲ完了スルトキ之ヲ使用ス

八　通信ノ時間

(一)(イ)　海上移動業務ニ於テハ如何ナル場合ニ於テモ五〇〇kc/s（六〇〇m）ニ依ル通信ハ十分時ヲ超過スルコトヲ得ズ

(ロ)　航空移動業務ニ於テハ如何ナル場合ニ於テモ三三三kc/s（九〇〇m）ニ依ル通信ハ五分時ヲ超過スルコトヲ得ズ

(二)　五〇〇kc/s（六〇〇m）及三三三kc/s（九〇〇m）以外ノ他ノ周波數ニ於テハ通信ノ時間ノ長サハ左ノ通之ヲ決定ス

(イ)　陸上局及移動局間ノ場合ハ陸上局之ヲ決定ス

(ロ)　移動局相互間ノ場合ハ受信局之ヲ決定ス

九　試驗

呼出ヲ傳送スル前送信機ヲ調整スル爲又ハ受信機ヲ調整スル爲試驗符號ヲ傳送スル要アルトキハ右符號ハ十秒時ヲ超エ繼續スルコトヲ得ズ又右符號ハ「VVV」ノ連續ヨリ成ルコトヲ要シ次ニ試驗發射ヲ行フ局ノ呼出符號ヲ附ス

（註一）　此ノ手續ハ能フ限リ短波ニモ適用ス

（註二）　第二項及第八項ノ規定ハ移動業務ノ無線電話傳送ニ適用ス

（略）　被呼局ニ於テ通信ニ使用スル電波ヲ選定スベキ場合ニ於テ

例外トシテ被呼局ガ相當ノ表示ヲ爲サザルトキハ通信ハ呼出ニ使用シタル電波ヲ以テ之ヲ行フ

第十七條　「各局宛」一般呼出

一　二種ノ「各局宛」呼出符號ヲ認ム

第一　「K」ナル文字ヲ伴フ「CQ」ナル呼出、第二項及第三項參照）

第二　「K」ナル文字ヲ伴ハザル「CQ」ナル呼出（第四項參照）

二　局ガ移動業務ノ局ト通信ヲ爲サンコトヲ欲スルモ右局中自局ノ通信圈内ニ在ルモノノ局名不明ナルトキハ呼出手續中被呼局ノ呼出符號ノ代リニ「CQ」ナル探呼符號ヲ使用スルコトヲ得此ノ手續ノ次ニ「K」ナル文字ヲ附ス（一切ノ移動局ニ對スル一般呼出ニシテ應答ヲ要スルモノ）

三　通信ノ輻輳スル地域ニ於テハ「K」ナル文字ヲ伴フ「CQ」ナル呼出ノ使用ハ緊急信號ト併用スル場合ヲ除クノ外之ヲ禁ズ

四　「K」ナル文字ヲ伴ハザル「CQ」ナル呼出（一切ノ局ニ對スル一般呼出ニシテ應答ヲ要求セザルモノ）ハ受信シ得ル何人ニ依リテモ判讀又ハ利用セラルルコトヲ目的トスル一切ノ種類ノ情報ノ傳送ノ前ニ之ヲ使用ス

第十八條　呼出

一　(一)　通則トシテ移動局ハ陸上局ト通信連絡ヲ取ルコトヲ要ス移動局ハ陸上局ノ通信圈内ニ入リタル後ニ非ザレバ之ガ爲該局ヲ呼出ス

〔海軍〕

コトヲ得ズ

(二)　尤モ在圈ヲ通知セザル移動局ニ對シ電報ヲ有スル陸上局ハ右移動局ガ自局ノ通達距離内ニ在リ且聽取ヲ行ヒツツアリト認ムルトキハ該局ヲ呼出スコトヲ得

二　(一)　尙陸上局ハ其ノ呼出ヲ現ニ有スル電報ノ著信局タル一切ノ移動局ノ呼出符號ヨリ成ル「呼出表」ノ形式ニ依リ關係政府間ノ協定ニ依リ定ムベキ少クトモ二時間ノ間隔アル一定ノ時間ニ傳送スルコトヲ得五〇〇kc/s（六〇〇m）ノ電波ヲ以テ其ノ呼出ヲ傳送スル陸上局ハ該呼出ヲ「呼出表」トシテ現ニ有スル電報ノ著信局タル移動局ニシテ其ノ通信圈内ニ在ルモノノ呼出符號ノミヲ之ニ挿入シ「ABC」順ニ傳送ス該陸上局ハ傳送ニ使用セント欲スル通信電波ヲ指示スル略語ヲ自局ノ呼出符號ニ附加ス三六五乃至五一五kc/s（八二二乃至五八三m）ノ周波數帶以外ノ持續電波ヲ使用スル陸上局ハ其ノ最使利トスル順序ニ於テ此ノ呼出符號ヲ傳送ス

(二)　陸上局ニ於テ呼出表ヲ傳送スベキ時刻竝ニ此ノ目的ニ使用スル周波數及電波ノ型式ハ局名錄ニ之ヲ揭載スルコトヲ要ス

(三)　呼出表ノ傳送中自局ノ呼出符號ヲ認メタル移動局ハ應答シ得ルニ至ルヤ直ニ或ルベク喚呼セラレタル順序ニ遵ヒ應答ヲ爲スコトヲ要ス

(四)　通信ヲ直ニ行フコトヲ得ザルトキハ陸上局ハ各關係移動局ニ對シ通信ヲ開始シ得ベキ概定ノ時刻竝ニ必要アラバ該移動局トノ通信ニ使用スベキ周波數及電波ノ型式ヲ通知ス

三　陸上局ガ殆ド同時ニ數多ノ移動局ヨリ呼出ヲ受ケタルトキハ該局ハ此等移動局ガ該陸上局ニ其ノ電報ヲ傳送シ得ベキ順序ヲ決定ス此ノ決定ハ單ニ各呼出局ヲシテ自局ト能フ限リ多數ノ無線電報ノ交換ヲ爲サシムル必要ニ基キ之ヲ爲スコトヲ要ス

四　(一)　一切ノ移動局ハ陸上局ト最初ニ通信ヲ設定スルニ當リ混同ノ虞アルニ由リ有用ト認ムルトキハ局名錄ニ揭載セラルル名稱ヲ全部文字ヲ以テ傳送スルコトヲ得

(二)　陸上局ハ移動局ニ對シ「PRB」ナル略語ニ依リ左ノ事項ヲ通知センコトヲ要求スルコトヲ得

(イ)　海里ニ於ケル概定ノ距離及陸上局ヨリノ方位又ハ經緯度ニ依リ示シタル位置

(ロ)　最近ノ立寄地

(三)　第二節ニ定ムル指示ハ移動局ヲ有スル船舶ノ指揮者又ハ責任者ノ許可ヲ受ケタル後且陸上局ノ要求アリタル場合ニ限リ之ヲ供給ス

五　陸上局及移動局間ノ通信ニ於テ移動局ハ傳送ノ順序及時刻、周波數（波長）又ハ電波ノ型式ノ選定及通信ノ中止ニ關スル一切ノ事項ニ付陸上局ノ與フル指示ニ從フ此ノ規定ハ遭難ノ場合ニ之ヲ適用セ

〔海軍〕

ズ

六　移動局間ノ交信ニ於テハ遭難ノ場合ヲ除クノ外被呼局ハ前記第五項ニ示ス通通信ノ指示ヲ爲ス

七　(一)　二分時ノ間隔ヲ以テ三回發スル呼出ニ對シ被呼局ガ應答セザルトキハ呼出ハ之ヲ中止スルコトヲ要シ十五分時（航空ノ移動業務ノ場合ハ五分時）ノ後ニ非ザレバ再ビ之ヲ爲スコトヲ得ズ呼出ヲ再開スル前呼出局ハ被呼局ガ現ニ他局ト通信中ニ非ザルコトヲ確ムルコトヲ要ス

(二)　呼出ハ現ニ行ハレツツアル通信ニ混信ヲ來ス虞ナキトキニ限リ短時間內ニ反覆スルコトヲ得

八　移動局ノ經營者ノ名稱及居所ガ局名錄ニ揭載ナキトキ又ハ局名錄揭載ノ事項ト符號セザルニ至リタルトキハ該異動局ハ右ニ關シ必要ナル一切ノ事項ヲ相當略語ヲ使用シテ自局ガ電報ヲ傳送スル陸上局ニ通知スルコトヲ要ス

第十九條　移動業務ニ於ケル電波ノ使用

一　(一)　三六五乃至五一五 kc/s（八二二乃至五八三 m）ノ周波數帶ニ於テ型式Bニ對シ許可セラレタル電波左ノ如シ

三七五、四一〇、四二五、四五四及五〇〇 kc/s（八〇〇、七三〇、七〇五、六六〇及六〇〇 m）

(二)　三六五乃至五一五 kc/s（八二二乃至五八三 m）ノ許可周波數帶ニ於テ無線電信ヲ以テ操作スル一切ノ船舶局及一切ノ海岸局並ニ海岸局又ハ船舶局ト通信センコトヲ欲スル航空機ガ使用スベキ一般呼出電波ハ五〇〇 kc/s（六〇〇 m）（A一、A二又ハB）ノ電波トス

(三)　三三三 kc/s（九〇〇 m）ノ電波ハ第九條第十項第二節ニ規定スル場合ヲ除クノ外航空業務ノ國際呼出電波トス

(四)　一四三 kc/s（二一〇〇 m）（型式A一ニ限ル）ノ電波ハ一〇〇乃至一六〇 kc/s（三〇〇〇乃至一八七五 m）ノ周波數帶ニ於ケル長距離移動業務ノ通信ニ使用スル國際呼出電波トス

(五)　五〇〇 kc/s（六〇〇 m）ノ電波ハ國際遭難ノ電波トス該電波ハ右目的ノ爲海上業務ノ救助ヲ要求スル船舶局及航空機局ニ依リ使用セラルル通則トシテ右電波ハ呼出及應答並ニ遭難通信、緊急及安全ノ信號及通報ニ對シテノミ之ヲ使用スルコトヲ得

(六)　尤モ五〇〇 kc/s（六〇〇 m）ノ電波ハ遭難、緊急、安全、呼出及應答ノ信號ヲ妨害セザルコトヲ條件トシテ左ノ目的ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得

(注)

(イ)　通信ノ輻輳スル地域ニ於テ一通ノ短文無線電報ノ傳送

(ロ)　其ノ他ノ地域ニ於テ相當ノ注意ヲ以テ他ノ目的

(七)　五〇〇 kc/s（六〇〇 m）ノ電波ヲ除クノ外四八五乃至五一五 kc/s（六二〇乃至五八三 m）ノ一切ノ型式ノ電波ノ使用ハ之ヲ禁ズ

〔海軍〕

(八)　一四三 kc/s（二一〇〇 m）ノ電波ヲ除クノ外一四〇乃至一四六 kc/s（二一四三乃至二〇五五 m）ノ一切ノ電波ノ使用ハ之ヲ禁ズ

(九)　三六五乃至五一五 kc/s（八二二乃至五八三 m）ノ許可周波數帶ニ於テ働作スル海岸局及船舶局ハ五〇〇 kc/s（六〇〇 m）ノ電波ノ外少クトモ一ノ電波ヲ使用シ得ルコトヲ要ス附加電波ガ局名錄ニ於テ太字ヲ以テ印刷セラルルトキハ該電波ハ該局ノ通常通信電波トス海岸局ニ對シ斯ク選定セラレタル附加電波ハ航行局ノ附加電波ト同一又ハ別異ナルコトヲ得一切ノ場合ニ於テ海岸局ノ通信電波ハ附近ノ局トノ混信ヲ避ケ得ル樣之ヲ選定スルコトヲ要ス

(十)　局名錄ニ於テ太字ヲ以テ印刷セラレタル通常通信電波ノ外陸上局及航行局ハ許可周波數帶ニ於テ補助電波ヲ使用スルコトヲ得補助電數ハ局名錄ニ於テ普通文字ヲ以テ記載ス尤モ三六五乃至三八五 kc/s（八二二乃至七七九 m）ノ周波數帶ハ無線羅針業務ニ之ヲ留保ス該周波數帶ハ第七條ニ揭グル留保ノ下ニ於テノミ無線電信通信ノ爲移動業務ニ依リ使用セラルルコトヲ得

(十一)　(イ)　一般呼出電波（第一項第二節參照）ニ依リ發射セラルル呼出ニ對スル應答電波ハ呼出電波ト同一即三三三 kc/s（九〇〇 m）ノ電波トス

(ロ)　呼出ニ對スル應答電波ハ三一五乃至三六五 kc/s（九五二乃至八二二 m）ノ周波數帶ニ於テ働作スル航空機局及航空局

〔海軍〕

ニ付テハ呼出電波ト同一即三三三 kc/s（九〇〇 m）ノ電波トス

(八)　一四三 kc/s（二一〇〇 m）ノ國際呼出電波（第一項第四節參照）ニ依リ發射セラルル呼出ニ對スル應答電波ハ左ノ如シ

移動局ニ付テハ一四三 kc/s（二一〇〇 m）ノ電波

海岸局ニ付テハ其ノ通常通信電波トス

二　(一)　海上（船舶）及海ノ上空（航空機）ニ於ケル人命ノ安全ヲ期スル爲三六五乃至五一五 kc/s（八二二乃至五八三 m）ノ許可周波數帶內ノ電波ニ於テ通常聽取スル海上移動業務ノ一切ノ局ハ其ノ執務時間中一時間ニ付二回「グリニッヂ」標準時ニ依ル每時ノ十五分及四十五分ヨリ三分間遭難電波「五〇〇 kc/s（六〇〇 m）」ヲ以テ聽取ヲ行フ爲有用ナル處置ヲ執ルコトヲ要ス

(二)　第二十二條（第二十二項乃至第二十八項）ニ規定スル發射ヲ除キ右時間中ニ於テ

イ　四六〇乃至五五〇 kc/s（六五二乃至五四五 m）ノ周波數帶內ノ發射ヲ中止スルコトヲ要ス

ロ　右周波數帶外ニ於テハ

(イ)　型式Bノ電波ノ發射ヲ禁ズ

(ロ)　移動業務ノ局ノ他ノ發射ハ之ヲ繼續スルコトヲ得海上移動業務ノ局ハ本項第一節ニ規定スル如ク先ヅ遭難電波ニ依ル聽守ヲ確保スルコトノ明カナル留保ノ下ニ右發射ヲ聽取スルコ

トヲ得

三　三六五乃至五一五kc/s（八二二乃至五八三m）及三一五乃至三六五kc/s（九五二乃至八二二m）ノ許可周波數帶內ニ於ケル呼出ガ國際呼出電波（前記第一項第二節及第三節）ヲ以テ通常行ハルルニ依リ公衆通信ノ業務ヲ取扱ヒ且其ノ通信ニ對シ右周波數帶內ノ電波ヲ使用スル移動業務ノ局ハ其ノ聽守時間中其ノ業務ノ呼出電波ヲ以テ聽守スルコトヲ要ス此等ノ局ハ第十九條第二項第一節及第二節竝ニ第四項ニノ規定ニ遵フベキモノトシ他ノ電波ヲ以テ通信中ノ場合ニ限リ右聽守ヲ爲サザルコトヲ得

四　左ノ規定ハ一〇〇乃至一六〇kc/s（三〇〇〇乃至一八七五m）ノ周波數帶ノ型式A一ノ電波ヲ使用スル移動業務ノ局ノ運用上之ヲ遵守スルコトヲ要ス

イ　（イ）右電波ノ一ヲ以テ通信ヲ行フ一切ノ海岸局ハ局名錄ニ別段ノ表示ナキ限リ一四三kc/s（二一〇〇m）ノ電波ニ於テ聽取ヲ爲スコトヲ要ス

（ロ）海岸局ハ自局ニ特ニ割當テラレタル一箇又ハ數箇ノ電波ヲ以テ其ノ一切ノ電報ヲ傳送ス

（ハ）一二五乃至一五〇kc/s（二四〇〇乃至二〇〇〇m）ノ周波數帶內ノ一箇又ハ數箇ノ電波ヲ割當テラレタル海岸局ハ右一箇又ハ數箇ノ電波ニ關シ優先權ヲ有ス

（ニ）移動業務ノ他ノ一切ノ局ニシテ此等ノ一箇又ハ數箇ノ電波ヲ以テ公衆通信ヲ傳送シ之ニ因リ前記海岸局ニ混信ヲ及ボスモノハ該海岸局ノ要求アルトキハ其ノ通信ヲ中止スルコトヲ要ス

ロ　（イ）移動局ガ他ノ移動業務ノ局ト右電波ノ一ヲ以テ通信連絡ヲ取ランコトヲ欲スルトキハ該局ハ局名錄ニ別段ノ表示ナキ限リ一四三kc/s（二一〇〇m）ノ電波ヲ使用スルコトヲ要ス

（ロ）一般呼出電波タル右電波ハ北大西洋ニ於テハ專ラ左ノ目的ノ爲ニ之ヲ使用スルコトヲ要ス

第一　箇箇ノ呼出及之ニ對スル應答ノ傳送

第二　電報ノ傳送ニ先ツ符號ノ傳送

ハ　移動局ガ一四三kc/s（二一〇〇m）ノ一般呼出電波ヲ以テ他ノ移動業務ノ局ト通信連絡ヲ取リタル後ニ於テハ成ルベク許可周波數帶內ノ他ノ何レカノ電波ニ於テ其ノ電報ヲ傳送スルコトヲ要ス但シ他局ノ行ヒツツアル通信ヲ妨害セザルコトヲ條件トス

ニ　一〇〇乃至一六〇kc/s（三〇〇〇乃至一八七五m）ノ周波數帶ノ型式A一ノ電波ニ於ケル業務ノ爲ニ裝置セラレタル一切ノ移動局ハ他ノ電波ヲ以テ通信中ニ非ザルトキハ通則トシテ他ノ移動業務ノ局ト電報ノ交換ヲ爲シ得ル爲該局ノ屬スル種別ニ從ヒ定メラルル時間中「グリニッヂ」標準時ニ依ル每時ノ三十五分ヨリ五分間一四三kc/s（二一〇〇m）ノ電波ニ每時復歸スルコトヲ要ス

【海軍】

ホ　（イ）陸上局ハ成ルベク呼出表ノ形式ニ依リ呼出ヲ傳送スルコトヲ要ス此ノ場合該局ハ一〇〇乃至一六〇kc/s（三〇〇〇乃至一八七五m）ノ周波數帶ニ於テ自局ニ割當テラレタル一箇又ハ數箇ノ電波ヲ以テ局名錄ニ公表シタル一定ノ時刻ニ其ノ呼出表ヲ傳送ス但シ一四三kc/s（二一〇〇m）ニ於テハ之ヲ傳送セズ

（ロ）尤モ陸上局ハ事情ニ從ヒ又ハ該局ガ行フベキ通信ニ從ヒ呼出表傳送ノ爲定メラレタル時刻以外ノ他ノ一切ノ時刻ニ於テ箇箇ニ移動局ヲ呼出スコトヲ得

（ハ）一四三kc/s（二一〇〇m）ノ電波ハ箇箇ノ呼出ノ爲使用スルコトヲ得且此ノ目的ノ爲成ルベク第四項ニ揭グル時間中之ヲ使用スベシ

五　航空局及航空機局ノ無線通信ハ原則トシテ左ノ方法ニ依リ之ヲ交換ス

（一）航空機局ニ付テハ

（イ）搭乘者中ニ無線電信通信士ヲ有セザル航空機局ニ付テハ無線電話（呼出及通信）

（ロ）搭乘者中ニ無線電信通信士ヲ有スル航空機局ニ付テハ持續電波ニ依ル無線電信

呼出　型式A二ノ電波

通信　型式A一ノ電波（型式A二ハ短波ニ依ル通信ノ場合ニ之ヲ許ス）

（二）航空局ニ付テハ

（イ）局ガ搭乘者中ニ無線電信通信士ヲ有セザル航空機局ト通信スルコトヲ要スルトキハ無線電話（呼出及通信）

（ロ）局ガ搭乘者中ニ無線電信通信士ヲ有スル航空機局ト通信スルコトヲ要スルトキハ無線電信

型式A一ノ電波（呼出及通信）

型式A二ノ電波ハ短波ニ依ル場合ニ之ヲ許ス（呼出及通信）

（註）通信ノ輔翼スル地域ハ海岸局名錄ニ之ヲ揭グ該地域ハ五〇〇kc/s（六〇〇m）ニ依ル通信ヲ取扱ハザルモノトシテ記載セラレタル海岸局ノ通信圈ヨリ成ル（附錄第七號參照）

第二十條　混信

一　（一）無用ナル符號又ハ通信ノ交換ハ一切ノ局ニ對シ之ヲ禁ズ

（二）試驗及實驗ハ他局ノ業務ヲ妨害セザル限リ移動局ニ於テ之ヲ行フコトヲ得移動局以外ノ局ニ關シテハ試驗及實驗ヲ許可スル以前ニ於テ各主管廳ハ施行セントスル試驗又ハ實驗ガ他局ノ業務ヲ妨害スル慮アルヤ否ヤヲ判定ス

二　公衆通信ニ關係スル電報ハ型式A二ノ電波ヨリモ型式A一ノ電波ニ依リ又型式Bノ電波ヨリモ型式A二ノ電波ニ依リ傳送スルヲ可トス

【海軍】

三　移動業務ノ一切ノ局ハ良好ナル通信ヲ行フニ必要ナル最低限ノ輻射電力ヲ以テ電報ヲ交換スルコトヲ要ス

四　遭難ノ場合ヲ除キ航行局相互間ノ通信ハ陸上局ノ通信ヲ妨害セザルコトヲ要ス右通信ガ妨害セラルル場合妨害ヲ爲ス航行局ハ關係陸上局ノ要求アルトキハ直ニ傳送ヲ中止シ又ハ電波ヲ變更スルコトヲ要ス

五　試驗及調整ノ符號ハ本規則又ハ國際通信書ニ依リ定メラレタル特別ノ意義ヲ有スル符號、略語等ト混同セザル樣之ヲ選定スルコトヲ要ス

六　(一)　試驗及調整符號ヲ發射スル必要アリ且附近ノ陸上局ノ業務ヲ妨害スル虞アルトキハ該發射ヲ行フニ先チ該陸上局ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

(二)　何レノ局ト雖試驗、調整又ハ實驗ノ爲ニ發射ヲ爲ストキハ其ノ發射中慶間隔ヲ置キテ其ノ呼出符號又ハ必要アルトキハ其ノ名稱ヲ傳送スルコトヲ要ス

七　混信ニ關シ申告ヲ爲ス主管廳又ハ企業ハ該申告ヲ支持及證明スル爲左ノ處置ヲ爲スコトヲ要ス

(イ)　認メタル混信ノ特性(周波數、調整ノ變化、妨害局ノ符號等)ヲ明ニスルコト

(ロ)　混信ヲ受ケタル局ガ自局ニ對當テラレタル周波數ヲ正確ニ使用スルコトヲ宣言スルコト

(ハ)　關係業務ノ一般實務上使用セラルル最良ノ型式ト同等ノ型式ノ受信機ヲ當時使用スルコトヲ證明スルコト

八　主管廳ハ無線通信ノ許可セラレタル業務ニ重大ナル混信ヲ生ジ易キ電氣機器ガ斯カル妨害ヲ避クル樣使用セラルル爲有用ト認メ且國內法令ニ適應スル處置ヲ執ル

第二十一條　補助設備

一　海上ニ於ケル人命ノ安全ニ關スル條約ハ如何ナル船舶ガ補助設備ヲ有スルコトヲ要スルヤヲ決定シ且右設備ノ具備スベキ條件ヲ定ム

二　補助設備ノ使用ニ付テハ本規則ノ一切ノ規定ヲ遵守スルコトヲ要ス

第二十二條　遭難ノ信號及通信、警急信號、緊急信號及安全信號

イ　通則

一　本規則ノ規定ニ拘ラズ遭難ノ移動局ハ注意ヲ喚起シ、其ノ狀況ヲ通報シ及救助ヲ受クル爲一切ノ手段ヲ執ルコトヲ得

二　(一)　遭難、緊急又ハ安全ノ場合ノ電信ノ送信速度ハ原則トシテ一分時ニ付十六語ヲ超過スルコトヲ得ズ

(二)　警急信號ノ送信速度ハ第二十一項第一節ニ之ヲ掲グ

ロ　遭難ノ場合ニ使用スベキ電波

【海軍】

三　(一)　船舶　遭難ノ場合ニ使用スベキ電波ハ國際遭難電波即五〇〇kc/s(六〇〇m)トス(第十九條參照)該電波ハ成ルベク型式A二又ハBニ於テ使用セラルルコトヲ要ス國際遭難電波ヲ以テ發射シ得ザル船舶ハ其ノ通常呼出電波ヲ使用ス

(二)　航空機　一切ノ遭難航空機ハ救助ヲ爲シ得ベキ固定局又ハ移動局ノ聽守電波即海上業務ノ局ニ對シテハ五〇〇kc/s(六〇〇m)航空業務ノ局ニ對シテハ三三三kc/s(九〇〇m)(第九條第十項第二節ニ規定セラルル場合ヲ除ク)ヲ以テ遭難ノ呼出ヲ傳送スルコトヲ要ス使用スベキ電波ハ型式A二又ハA三トス

ハ　遭難信號

四　(一)　無線電信ニ於テハ遭難信號ハ ･･･ ― ― ･･･ ナル集合トス無線電話ニ於テハ遭難信號ハ「MAYDAY」ナル話サレタル文句(「m'aider」ナル文句ノ佛蘭西語ノ發音ニ相當スルモノ)トス

(二)　右遭難信號ハ之ヲ發スル船舶、航空機又ハ他ノ一切ノ運輸機ガ急迫シタル重大ナル危難ニ瀕シ即時ノ救助ヲ要求スルコトヲ示ス

ニ　遭難呼出

五　(一)　遭難呼出ハ無線電信ニ依リ五〇〇kc/s(六〇〇m)ヲ以テ發セラルルトキハ通則トシテ第二十一項第一節ニ定ムル警急信號ヲ直前ニ附ス

(二)　事情ノ許ストキハ遭難信號ノ發射ハ二分時ノ沈默ヲ以テ警急信號ノ終尾ヲ以テ之ヲ分離ス

(三)　遭難呼出ハ左ノモノヨリ成ル

三回傳送スル遭難信號

「DE」ナル語及

三回傳送スル遭難移動局ノ呼出符號

(四)　右呼出ハ他ノ傳送ニ對シ絕對先順位ヲ有ス之ヲ聞キタル一切ノ局ハ遭難ノ通信ニ妨害ヲ生ジ易キ一切ノ傳送ヲ直ニ中止シ且遭難呼出ノ發射電波ニ於テ聽取スルコトヲ要ス右呼出ハ特定ノ局ニ之ヲ宛ツルコトヲ得ズ且之ニ受信證ヲ要セズ

ホ　遭難通報

六　(一)　遭難呼出ノ次ニハ成ルベク速ニ遭難通報ヲ傳送スルコトヲ要ス該通報ハ遭難呼出次ニ遭難ノ船舶、航空機又ハ運輸機ノ名稱、其ノ位置、遭難ノ種類及要求スル救助ノ種類ニ關スル事項竝ニ場合ニ依リ右救助ヲ容易ナラシムベキ他ノ一切ノ事項ヨリ成ル

(二)　航空機ハ其ノ遭難通報ノ傳送後其ノ位置ヲ示シ得ザルトキハ無線羅針局ヲシテ該航空機ノ位置ヲ決定スルコトヲ得シムル爲十分ナル時間其ノ呼出符號ヲ發射スルコトニ努ムベシ

七　(一)　通則トシテ海上ニ於ケル船舶又ハ航空機ハ緯度及經度(グリニッヂ)ヲ以テ其ノ位置ヲ表示ス右表示ニハ「NORTH」又ハ「SOUTH」ナル語ノ一及「EAST」又ハ「WEST」ナル語ノ一ヲ伴フ度及分ニ

對スル數字ヲ使用ス度ト分トハ點ヲ以テ之ヲ分離ス場合ニ依リ著名ナル地理上ノ地點ヨリノ眞方位及海里ニ於ケル距離ヲ示スコトヲ得

(二) 通則トシテ陸上ヲ航行スル航空機ハ最近キ地ノ名稱ヲ以テ其ノ位置ヲ表示シ及該地ヨリノ概定ノ距離ヲ表示ス距離ニハ場合ニ從ヒ「NORTH」、「SOUTH」、「EAST」若ハ「WEST」ナル語ノ一又ハ場合ニ依リ中間ノ方向ヲ示ス語ヲ附ス

八　遭難呼出及遭難通報ハ移動局ヲ有スル船舶、航空機又ハ他ノ一切ノ運輸機ノ指揮者又ハ責任者ノ命令アル場合ニ限リ之ヲ送信ス

九　(一) 遭難通報ハ應答ヲ受クル迄殊ニ第十九條第二項ニ規定スル沈默時間中間隔ヲ置キテ之ヲ反覆スルコトヲ要ス

(二)(三) 警急信號モ亦必要アラバ反覆スルコトヲ得

尤モ間隔ハ應答セントスル局ニ其ノ送信機ヲ動作セシムル時間ヲ與フル爲十分長キコトヲ要ス

(四) 遭難航行局ガ五〇〇kc/s(六〇〇m)ノ電波ヲ以テ傳送シタル遭難通報ニ對シ應答ヲ受ケザル場合ニ於テ通報ハ使用シ得ベキ他ノ一切ノ電波ニシテ之ニ依リ注意ガ喚起セラレ得ベキモノヲ以テ之ヲ反覆スルコトヲ得

十　尙他ノ移動局ノ遭難シ居ルコトヲ知リタル移動局ハ左ノ場合ニ遭難通報ヲ傳送スルコトヲ得

(イ) 遭難ノ局ガ自ラ遭難通報ヲ傳送シ得ザルトキ

(ロ) 仲介ヲ爲シ得ル局ヲ有スル船舶、航空機其ノ他ノ運輸機ノ指揮者(又ハ其ノ代理者)ガ他ノ救助ヲ必要ト認ムルトキ

十一　(一) 附近ニ在ルコト疑ナキ移動局ヨリノ遭難通報ヲ受信シタル局ハ該遭難通報ニ對シ他局ノ行フ受信證ノ傳送ヲ妨害セザル樣注意シ直ニ受信證ヲ與フルコトヲ要ス(第十八項及第十九項參照)

(二) 附近ニ在ラザルコト疑ナキ移動局ヨリノ遭難通報ヲ受信シタル局ハ遭難移動局ニ一層近キ局ヲシテ混信ナク應答シ且受信證ヲ與フルコトヲ得シムル爲自ラ受信證ヲ與フルニ先チ僅少ノ時間ヲ經過セシムルコトヲ要ス

ヘ　遭難通信

十二　遭難通信ハ遭難移動局ニ必要ナル即時ノ救助ニ關スル一切ノ通報ヲ包含ス

十三　遭難通信ノ一切ノ無線電報ハ額表ノ前ニ傳送セラルル遭難信號ヲ有スルコトヲ要ス

十四　遭難通信ノ指揮ハ遭難ノ移動局又ハ第十項(イ)ノ規定ノ適用ニ依リ遭難呼出ヲ發シタル移動局ニ屬ス右局ハ他局ニ遭難通信ノ指揮ヲ委ヌルコトヲ得

十五　(一) 遭難ノ船舶、航空機又ハ運輸機ノ附近ニ在ル移動業務ノ一切ノ局ハ必要ト認ムルトキハ圈內ニ在ル移動業務ノ一切ノ局又ハ遭難通信ニ混信ヲ生ズルコトアルベキ局ヲ沈默セシムルコトヲ得

〔海軍〕

右何レノ場合ニ於テモ成規ノ略語(QRT)ヲ使用シ次ニ「DEIREGO」ナル語ヲ附ス場合ニ從ヒ右指示ハ「各局」又ハ單ニ一局ニ之ヲ宛ツ

(二) 遭難局ガ他局ヲ沈默セシメント欲スルトキハ右手續ニ依リ「DEIREGO」ナル語ニ代フルニ遭難信號 ▬▬ ▬▬ ▬▬ ヲ使用ス

十六　(一) 遭難呼出ヲ開キタル一切ノ局ハ第五項第四節ノ規定ニ從フコトヲ要ス

(二) 遭難通信ヲ知リタル移動業務ノ一切ノ局ハ之ニ參加セザル場合ト雖右通信ヲ聽取スルコトヲ要ス

(三) 遭難通信ノ繼續時間中左ノ事項ハ該通信ヲ知リ且之ニ參加セザル一切ノ局ニ對シ之ヲ禁ズ

(イ) 遭難電波(五〇〇kc/s(六〇〇m))又ハ遭難通信ガ行ハルル電波ヲ使用スルコト

(ロ) 型式B ノ電波ヲ使用スルコト

(四) 移動業務ノ局ニシテ其ノ知リタル遭難通信ヲ聽取スルト共ニ其ノ通常業務ヲ繼續シ得ルモノハ遭難通信ガ良好ニ行ハルルニ至リタルトキハ左ノ條件ニ於テ右ノ業務ヲ繼續スルコトヲ得

(イ)(ロ) 第三節ニ揭グル電波ノ使用ハ之ヲ禁ズ
型式A 一ノ電波ノ使用ハ遭難通信ヲ妨害スルコトアルベキ

電波ヲ除キ之ヲ許ス

(ハ) 型式A 二及A 三ノ電波ノ使用ハ移動業務ニ劃當テラレタル周波數帶ニシテ遭難通信ニ使用スル周波數(五〇〇kc/s(六〇〇m))附近ノ周波帶數ハ三八五乃至五五〇kc/s(七七九乃至五四五mニ及ブ)ヲ包含セザルモノニ於テノミ之ヲ許ス

〔海軍〕

十七　沈默ノ遵守ガ必要ナキニ至リタルトキ又ハ遭難通信ガ終了シタルトキハ遭難通信ノ指揮ヲ爲シタル局ハ遭難電波及必要アラバ右遭難通信ニ使用シタル電波ヲ以テ遭難通信ガ終了シタルコトヲ示ス「各局宛」通報ヲ傳送ス右通報ハ左ノ樣式ニ依ル

「CQ」ナル各局宛呼出符號(三回)
「DE」ナル語
通報ヲ傳送スル局ノ呼出符號
遭難信號
通報ノ受付時刻
遭難シタル移動局ノ名稱及呼出符號
「Trafic détresse terminé」ナル語
ト　遭難通報ノ受信證

大　遭難通報ノ受信證ハ左ノ樣式ヲ以テ之ヲ傳送ス

遭難移動局ノ呼出符號(三回)

「DE」ナル語
受信證ヲ傳送スル局ノ呼出符號(三回)
「HRH」ナル集合
遭難信號

九　(一)　遭難通報ノ受信證ヲ傳送スル一切ノ移動局ハ指揮者又ハ其ノ代理者ノ命令ニ依リ成ルベク速ニ左ノ順序ニ依ル事項ノ名稱ヲ通知スルコトヲ要ス
其ノ名稱
第七項ニ示ス樣式ニ於ケル其ノ位置
遭難船舶(航空機又ハ其ノ他ノ運輸機)ニ向ケ赴キ得ル其ノ最大速力
(二)　局ハ右通報傳送前遭難局ニ即時ノ救助ヲ與フルニ一層利便ナル位置ニ在ル他ノ局ノ發射ヲ妨ゲザルコトヲ確ムルコトヲ要ス
チ　遭難呼出又ハ遭難通報ノ反復
二十　(一)　移動業務ノ一切ノ局ニシテ救助ヲ與フルコトヲ得ズ且直ニ受信證ヲ與ヘラレザル遭難通報ヲ聞キタルモノハ救助ヲ與ヘ得ル位置ニ在ル移動業務ノ局ノ注意ヲ喚起スル爲能フ限リノ處置ヲ執ルコトヲ要ス
(二)　右ノ目的ノ爲遭難呼出又ハ遭難通報ハ該局ノ責任者ノ許可ヲ得テ之ヲ反復スルコトヲ得此ノ反復ハ遭難電波又ハ遭難ノ場合ニ使用シ得ル電波(本條第三項)ノ一ニ依リ空電力ヲ以テ之ヲ爲スト同時ニ有效ニ仲介シ得ベキ機關ニ通知スル爲必要ナル一切ノ處置ヲ執ル
(三)　遭難呼出又ハ遭難通報ヲ反復スル局ハ其ノ次ニ「DE」ナル語及三回傳送スル自局ノ呼出符號ヲ附ス
リ　自働警急信號
二十一　(一)　警急信號ハ一分間ニ傳送セラルル十二線ノ一聯集ヨリ成ル各線ノ長サハ四秒時トシテ二線間ノ間隔ノ長サハ一秒時トス右信號ハ手又ハ自働機ニ依リ發射スルコトヲ得
(二)　右特別信號ハ急ヲ報ズル自働機器ヲ動作セシムルコトノミヲ目的トス右信號ハ遭難信號又ハ遭難通報ガ次ニ送ラルベキコト又「サイクロン」ノ緊急通報ノ傳送セラルベキコトヲ報ズル爲ニノミ使用セラルルコトヲ要ス後ノ場合ニ於テハ右信號ハ政府ニ依リ正當ニ許可セラレタル海岸局ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得
(三)　遭難ノ場合ニ於ケル警急信號ノ信用ハ第五項第一節ニ之ヲ掲グ「サイクロン」ノ緊急通報ノ場合ニ於テハ此ノ通報ノ傳送ハ警急信號ノ終了後二分時ニ非ザレバ之ヲ始ムルコトヲ得ズ
(四)　警急信號ノ受信ニ用ウル自働機ハ左ノ條件ニ適合スルコトヲ要ス
第一　多數ノ局ガ通信中ナル場合又ハ空電ノ妨害アル場合ト雖

〔海軍〕

警急信號ヲ感受スルコト
第二　空電ニ依リ又ハ警急信號以外ノ强力ナル信號ニ依リ動作セザルコト
第三　同一空中線ニ接續シタル鑛石檢波受信器ノ感度ニ等シキ感度ヲ有スルコト
第四　其ノ動作ニ狂ヲ生ジタルトキハ之ヲ表示スルコト
(五)　警急自働受信機ガ船舶上ノ使用ニ對シ承認セラルルニ先チ該船舶ノ屬スル主管廳ハ適宜ノ混信狀態ニ於テ行フ實驗ニ依リ該機ガ本規則ノ規定ニ適合スルコトヲ確認スルコトヲ要ス
(六)　第一節ニ掲グル警急信號ノ型式ノ採用ハ主管廳ガ前記條件ニ適合シ且遭難信號 ‥‥ ——— ‥‥ ニ依リ動作スル自働機ノ使用ヲ許可スルコトヲ妨ゲズ
ヌ　緊急信號
二十二　(一)　無線電信ニ於テハ緊急信號ハ「XXX」ナル集合ノ三回ノ反覆ヨリ成ル但シ各集合ノ文字及各集合ハ明ニ分離シテ之ヲ傳送ス
右信號ハ呼出ノ前ニ之ヲ傳送ス
(二)　無線電話ニ於テハ緊急信號ハ「PAN」ナル文句(「Pænne」ナル語ノ佛國西語ノ發音ニ相當スルモノ)ノ三回ノ反復ヨリ成ル右通信ハ呼出ノ前ニ之ヲ傳送ス(註)
(三)　緊急信號ハ呼出局ガ船舶、航空機其ノ他ノ運輸機ノ安全又ハ何人タルヲ問ハズ船舶等ノ搭乘者若ハ船舶等ヨリ目擊セラルル人ノ安全ニ關スル緊急ノ通報ヲ傳送セントスルコトヲ示ス
(四)　特ニ航空機ガ危難ニ遭遇シ已ムコトヲ得ズ著陸(若ハ著水)セントスルモ即時ノ救助ヲ必要トセザルコトヲ示ス通報ヲ傳送セントスルトキハ其ノ通報ノ前ニ緊急信號ヲ附ス
(五)　航空機ニ依リ發セラレ且通報ヲ伴ハザル緊急信號ハ航空機ガ著陸(又ハ著水)ノ已ムナキニ至リ通報ヲ傳送スルコトヲ得ザルモ即時ノ救助ヲ必要トセザルコトヲ示ス
(六)　緊急信號ハ遭難ノ通信ヲ除キ他ノ一切ノ通信ニ對シ先順位ヲ有ス又該信號ヲ聞キタル一切ノ移動局又ハ陸上局ハ緊急信號ニ次グ通報ノ傳送ニ混信ヲ與ヘザル樣注意スルコトヲ要ス
(七)　緊急信號ガ移動局ニ依リ使用セラルル場合ニ於テ該信號ハ通則トシテ之ヲ特定ノ局ニ宛ツルコトヲ要ス
二十三　緊急信號ガ使用セラルルトキハ之ヲ前置スル通報ハ船舶相互間又ハ船舶ト海岸局間ニ交換セラルル醫事通報ノ場合ヲ除キ通則トシテ普通語ヲ以テ記載セラルルコトヲ要ス
二十四　(一)　緊急信號ヲ聞キタル移動局ハ少クトモ三分間聽取ヲ繼續スルコトヲ要ス右時間經過シ且緊急ノ通報ヲ聞カザルトキハ右局ハ其ノ通常業務ヲ再開スルコトヲ得
(二)　尤モ緊急信號及之ニ次グ呼出ノ傳送ニ對シ使用セラルル電波

〔海軍〕

以外ノ電波ヲ以テ通信中ナル陸上局及航行局ハ中止スルコトナク其ノ通常業務ヲ繼續スルコトヲ得

二五　(一)緊急信號ハ移動局ヲ有スル船舶、航空機又ハ他ノ一切ノ運輸機ノ指揮者又ハ責任者ノ許可アル場合ニ限リ之ヲ傳送スルコトヲ得

(二)陸上局ノ場合ニ於テハ緊急信號ハ責任アル機關ノ承認アル場合ニ限リ之ヲ傳送スルコトヲ得

ル　安全信號

二六　(一)無線電信ニ於テハ安全信號ハ「TTT」ナル集合ノ三回ノ反覆ヨリ成ル但シ各集合ノ文字及各集合ハ明ニ分離シテ之ヲ傳送ス此ノ信號ノ次ニ「DE」ナル語及三回傳送スル送信局ノ呼出符號ヲ附ス右信號ハ該局ガ航行ノ安全ニ關スル通報又ハ重要ナル氣象警報ヲ傳送セントスルコトヲ示ス

(二)無線電話ニ於テハ三回反復スル「SÉCURITÉ」ナル語(「SECURITE」ナル語ノ佛蘭西語ノ發音ニ相當スルモノ)ヲ安全信號トシテ使用ス

二七　安全信號及之ニ次グ通報ハ遭難電波又ハ場合ニ依リ遭難ノ場合ニ使用シ得ル電波ヲ以テ之ヲ傳送ス(本條第三項參照)

二八　(一)海上移動業務ニ於テハ一定時刻ニ傳送セラルル通報ノ外安全信號ハ最近ノ沈默時間(第十九條第二項)ノ終末ニ之ヲ傳送スルコトヲ要シ通報ハ沈默時間ノ直後ニ之ヲ傳送ス第三十條イ第四項第三節及第五項第一節並ニロ第七項ニ規定スル場合ニ於テハ安全信號及之ニ次グ通報ハ成ルベク速ニ之ヲ傳送シ且前記ノ如ク最近ノ沈默時間ニ之ヲ反覆スルコトヲ要ス

(二)安全信號ヲ聞キタル一切ノ局ハ之ニ依リ示サレタル通報ガ終了スル迄安全信號ノ傳送セラルル電波ニ於テ聽取ヲ繼續スルコトヲ要ス尙該局ハ該通報ニ混信ヲ生ジ易キ一切ノ電波ニ付沈默ヲ守ルコトヲ要ス

(三)前記ノ規定ハ航空ニ對シ少クトモ同等ノ保護ヲ確保スル地域的協定ト牴觸セザル範圍ニ於テ之ヲ航空業務ニ適用ス

(註)航空業務ニ於テハ「PAN」ナル信號ハ現ニ無線電信ノ緊急信號ニモ使用セラル此ノ場合ニ於テ「AN」ナル字號ガ「PAN」ナル字號ニ變ズルコトナカラシムル爲右三文字ハ之ヲ明ニ分離スルコトヲ要ス

第二十三條　移動業務ノ局ノ執務時間

一　聽守時間ニ關シ左ノ規定ヲ適用シ得ル爲移動業務ノ一切ノ局ハ正確ナル時計ヲ有シ且該時計ガ「グリニッヂ」標準時ニ正確ニ調整セラルル樣適當ナル措置ヲ執ルコトヲ要ス

イ　陸上局

二　(一)陸上局ノ執務ハ成ルベク無休(晝夜)トス尤モ或ル陸上局ハ限定時間ノ執務ヲ爲スコトヲ得各主管廳又ハ之ガ爲正當ニ許可セラレタル私企業ハ其ノ管下ノ陸上局ノ執務時間ヲ定ム

(二)陸上局ニシテ其ノ執務ガ無休ニ非ザルモノハ左ノ事務ノ終了

前閉鎖スルコトヲ得ズ

第一　遭難呼出ニ基ク一切ノ通信

第二　其ノ通信圖内ニ在リ且通信ノ實際終了前在圖ヲ通知シタル諸移動局ヨリ發シ又ハ之ニ著スル一切ノ無線電報ノ交換

(三)航空局ノ執務ハ當該局ガ無線通信業務ヲ行フ航空路ノ區間内ニ於ケル航空ノ全時間中之ヲ繼續ス

ロ　船舶局

三　(一)公衆通信ノ國際業務ニ付船舶局ハ其ノ屬スル主管廳ノ國内規則ニ從ヒ之ヲ三種ニ分類ス

第一種局　此ノ局ハ無休ノ執務ヲ爲ス

第二種局　此ノ局ハ第二節ニ規定スル限定時間ノ執務ヲ爲ス

第三種局　此ノ局ハ第二種局ノ執務ヨリ一層限定セラレタル時間ノ執務又ハ時間ガ本規則ニ依リ定メラレザル執務ヲ爲ス

(二)(イ)第二種ノ船舶局ハ少クトモ附錄第四號ニ於テ割當テラレタル時間中執務ヲ爲スコトヲ要ス此ノ時間ハ許可書ニ之ヲ記載ス

(ロ)短距離航海ニ於テハ該局ハ其ノ屬スル主管廳ニ依リ定メラレタル時間中執務ヲ爲ス

(三)場合ニ依リ第三種船舶局ノ執務時間ハ局名錄ニ之ヲ揭グルコトヲ得

(四)海岸局ガ一定ノ聽守時間ヲ有セザル第三種船舶局ニシテ該海岸局ノ通信圖内ニ在リト推定セラルルモノニ對スル通信ヲ有スルトキハ通則トシテ該海岸局ハ附錄第四號ノ規定ニ從ヒ八時間ノ執務ヲ爲ス第二種船舶局ノ第一及第三ノ聽守時間ノ初ノ三十分間ニ於テ該船舶局ニ對シ呼出ヲ爲ス

四　(一)船舶局ニ對シテハ本條第二項第二節ノ規定ハ遭難ノ業務ニ關スル限リ嚴格ニ又同節第二ノ規定ハ其ノ精神ニ從ヒ能フ限リ之ヲ適用ス

(二)自國ノ國内規則ヲ考慮シ必要ナル員數ノ通信士ヲ自國ノ船舶局ニ乘組マシメ該局ニ於テ有效ナル業務ヲ確保スルコトハ各締約政府ニ屬ス

ハ　航空機局

五　公衆通信ノ國際業務ニ付航空機局ハ其ノ屬スル主管廳ノ國内規則ニ從ヒ之ヲ二種ニ分類ス

第一種局　此ノ局ハ無休ノ執務ヲ爲ス

第二種局　此ノ局ハ本規則ニ依リ定メラレザル限定執務ヲ爲ス

ニ　共通規定

六　(一)一定ノ執務時間ヲ有セザル移動局ハ連絡陸上局ニ對シ其ノ執務ノ終了時刻及再開時刻ヲ通知スルコトヲ要ス

(二)(イ)一切ノ移動局ニシテ到著ノ爲其ノ執務ヲ休止セントスル

モノハ最近ノ陸上局及必要アラバ一般ニ其ノ通信スル他ノ陸上局ニ對シ其ノ旨通知スルコトヲ要ス該移動局ハ現ニ存スル通信ヲ處理シタル後ニ非ザレバ閉局スルコトヲ得ズ

(ロ) 右移動局ハ其ノ出發ニ際シ前記陸上局ニ對シ其ノ再開ヲ通知スルコトヲ要ス

(ホ) 通信士ノ階級及最少限ノ員數

七　移動局ノ公衆通信ノ國際業務ニ關シ該局ノ職員ハ少クトモ左ノ者ヨリ成ルコトヲ要ス

第一　第一種船舶局ニ付テハ第一級無線電信通信士證明書ヲ有スル通信士一名

第二　第二種船舶局ニ付テハ第一級又ハ第二級無線電信通信士證明書ヲ有スル通信士一名

第三(イ)　第三種船舶局ニ付テハ第二級無線電信通信士證明書ニ對スル試驗ニ合格シタル通信士一名但シ(ロ)及(ハ)ニ規定スル場合ヲ除ク

(ロ) 國際協定ニ依リ無線電信設備ヲ課セラレザル船舶局ニ付テハ第十條二第六項第一節ノ條件ニ適合スル特別證明書ヲ有スル通信士一名

(ハ) 小電力ノ無線電話設備ヲ裝置スル航空機局ニ付テハ第十條ホ第七項ノ條件ニ適合スル無線電話通信士證明書ヲ有スル通信士一名

第二十四條　移動業務ニ於ケル通信ノ先順位ノ順位

移動業務ニ於ケル無線通信ノ先順位ノ順位左ノ如シ

第一　遭難呼出、遭難通報及遭難通信

第二　緊急信號ヲ前置スル通信

第三　安全信號ヲ前置スル通信

第四　無線羅針測定ニ關スル通信

第五　先順位權ヲ拋棄セザル無線官報

第六　他ノ一切ノ通信

第二十五條　無線電報ノ發信局ノ表示

一　局名ガ同一ナル爲局名ノ次ニ該局ノ符號ガ附セラルルトキハ該符

〔海筆〕

通信士一名

第四(イ)　航空機局ニ付テハ該局ノ屬スル政府ノ執リタル國內的措置ニ從ヒ第一級又ハ第二級無線電信通信士證明書ヲ有スル通信士一名但シ(ロ)及(ハ)ニ規定スル場合ヲ除ク

(ロ) 國際協定ニ依リ無線電信設備ヲ課セラレザル航空機局ニ付テハ第十條ニ第六項第一節ノ條件ニ適合スル特別證明書ヲ有スル通信士一名

(ハ) 小電力ノ無線電話設備ヲ裝置スル航空機局ニ付テハ第十條ホ第七項ノ條件ニ適合スル無線電話通信士證明書ヲ有スル通信士一名

第二十四條　移動業務ニ於ケル通信ノ先順位ノ順位

移動業務ニ於ケル無線通信ノ先順位ノ順位左ノ如シ

第一　遭難呼出、遭難通報及遭難通信

第二　緊急信號ヲ前置スル通信

第三　安全信號ヲ前置スル通信

第四　無線羅針測定ニ關スル通信

第五　先順位權ヲ拋棄セザル無線官報

第六　他ノ一切ノ通信

第二十五條　無線電報ノ發信局ノ表示

一　局名ガ同一ナル爲局名ノ次ニ該局ノ符號ガ附セラルルトキハ該符號ハ簡除線ヲ以テ局名ヨリ之ヲ分離ス

例　Oregon/OZOC (Oregonoso トセズ) Rose/DDOR (Rosedi トセズ)

二　移動局ヨリ受信シタル無線電報ヲ一般ノ通信線路术上ニ傳送スルトキハ陸上局ハ發信局トシテ無線電報ノ發信移動局名ヲ局名綠ニ揭載シアル通傳送シ次ニ該陸上局名ヲ附ス

三　陸上局ハ有用ト認ムルトキハ同名ノ電信局又ハ固定局トノ混同ヲ避クル爲發信移動局名ノ表示ヲ「pavire」、「arion」又ハ「dirigeole」ナル語ヲ以テ補足スルコトヲ得此ノ語ハ該發信局名ノ前ニ之ヲ記載ス

第二十六條　無線電報ヲ傳送スベキ方向

一　(一)　三六五乃至五一五kc/s(八二二乃至五八三m)ノ周波數帶內ニ包含セラルル型式A二、A三又ハBノ電波ヲ使用スル移動局ハ通則トシテ其ノ無線電報ヲ最近ノ陸上局ニ傳送ス尤モ無線電報ノ傳送ヲ迅速又ハ容易ナラシムル爲該局ハ他ノ移動局ニ對シ該電報ヲ傳送スルコトヲ得該移動局ハ斯ク受信シタル無線電報ヲ自局ニ頼信セラレタルモノトシテ處理ス(尙追加規則第七條參照)

(二)　尤モ移動局ガ殆ド同一ノ距離ニ在ル數箇ノ陸上局中ヨリ選擇ヲ爲シ得ル場合ニ於テハ該移動局ハ其ノ無線電報ノ著信國又ハ通常ノ中繼國ノ領域ニ在ル陸上局ヲ選定スルコトヲ要ス選定セラレタル陸上局ガ最近ナラザル場合ニ於テ移動局ハ自局ノ通信ガ實際最近ナル關係業務ノ陸上局ノ通信ニ混信ヲ與フル旨ヲ以テ該陸上局ヨリ要求アリタルトキハ直ニ其ノ通信ヲ中止シ又ハ發射ノ型式若ハ周波數ヲ變更スルコトヲ要ス

二　型式A一ノ電波又ハ三六五乃至五一五kc/s(八二二乃至五八三m)ノ周波數帶外ニ於テ型式A二若ハA三ノ電波ヲ使用スル移動局ハ通則トシテ著信國又ハ無線電報ノ中繼ヲ當然行フベキモノト認メラルル國ノ領域ニ在ル陸上局ヲ選定スルコトヲ要ス

三　移動局ニ於テ受付ケタル無線電報ノ發信人ガ其ノ無線電報ノ傳送セラルルコトヲ欲スル陸上局ヲ指定シタルトキハ該移動局ハ指定セラレタル陸上局ニ右傳送ヲ行フ爲場合ニ依リ前諸項ニ規定セラルル條件ガ充サルル迄待ツコトヲ要ス

第二十七條　無線電報ノ計算

イ　計算書ノ作成

一　原則トシテ陸上局料及移動局料ハ國際電信計算ニ之ヲ算入セズ

二　政府ハ計算ニ關スル他ノ措置ヲ採用シ殊ニ陸上局料及移動局料ガ電信計算ノ手續ニ依リ一國ヨリ一國ヘ無線電報ヲ追隨スル方法ヲ成ルベク採用スル爲政府相互間及關係私企業ト特別ノ協定ヲ爲ス權能ヲ留保ス

三　第二項ノ規定ニ依ル特別ノ協定ナキトキハ右料金ニ關スル計算書ハ陸上局ノ屬スル主管廳ニ於テ每月之ヲ作成シ且該主管廳ヨリ關係

〔海筆〕

主管廳ニ之ヲ送付ス

四　陸上局ノ經營者ガ其ノ國ノ主管廳ニ非ザル場合ニ於テハ右經營者ハ計算ニ關シ該國ノ主管廳ニ代ハルコトヲ得

五　航行局發無線電報ニ付テハ陸上局ノ屬スル主管廳ハ陸上局料、一般ノ電氣通信線路系ノ經過ニ對スル料金以下電信料ト稱ス返信料前納ニ對シ徵收シタル總料金、照校ニ對シ徵收シタル陸上局料及電信料、別使又ハ郵便若ハ航空郵便ニ依ル交付ニ對シ徵收シタル料金及同文電報ノ謄寫ニ對シ徵收シタル料金ヲ發信航行局ノ屬スル主管廳ノ借方ニ記入ス電信通信線路上ノ傳送ニ付テハ無線電報ハ計算ニ關シ電信規則ニ從ヒ之ヲ取扱フ

六　陸上局ノ屬スル國以遠ノ國ニ著スル無線電報ニ付テハ前記規定ニ從ヒ精算スベキ電信料ハ國際電信通信ニ關スル料金表又ハ隣接國主管廳間ニ締結セラレ且該主管廳ニ於テ公表シタル特別協定ニ基ク料金トシ電報一通ノ最低限料金ヲ適用シ又ハ如何ナル方法ニ依ルヲ問ハズ電報一通ノ料金ヲ全數ト爲ス方法ヲ適用シテ徵收セラルルコトアルベキ料金ニ非ズ

七　航行局ニ著スル無線電報ニ付テハ發信局ノ屬スル主管廳ハ陸上局ノ屬スル主管廳ニ依リ直接ニ陸上局料及移動局料竝ニ照校ニ對スル陸上局料及移動局料ヲ以テ借方ニ記入セラル但シ無線電報ガ航行局ノ屬スル主管廳ノ借方ニ記入スル場合ニ限リ尤モ追加規則第九條第四項ニ揭グル場合ニ於テハ發信局ノ屬スル主管廳ハ陸上局ノ屬スル主管廳ニ依リ陸上局料ヲ以テ借方ニ記入セラル發信局ノ屬スル主管廳ハ電信計算ノ手續ニ依リ場合ニ依リ各國順次ニ且陸上局ノ屬スル主管廳ニ依リ返信料前納ニ對スル總料金及照校ニ對スル電信料ヲ以テ常ニ借方ニ記入セラル電信料竝ニ郵便又ハ航空郵便ニ依ル交付及同文電報ノ謄寫ニ對スル料金ニ付テハ電信上ノ計算ノ關スル限リ通常ノ電信上ノ手續ニ依リ之ヲ處理ス陸上局ノ屬スル主管廳ハ無線電報ガ傳送セラレタルトキハ(イ)移動局料(ロ)場合ニ依リ中繼航行局ニ屬スル料金、返信料前納ニ對シ徵收シタル總料金、照校ニ對スル移動局料、同文電報ノ謄寫ニ對シ徵收シタル料金及郵便又ハ航空郵便ニ依ル交付ニ對シ徵收シタル料金ヲ著信航行局ノ屬スル主管廳ノ貸方ニ記入ス

八　課金事務報竝ニ返信料前納無線電報ニ對スル返信ハ移動業務ノ計算ニ於テハ一切ノ點ニ於テ他ノ無線電報ト同樣ニ之ヲ取扱フ

九　航行局間ニ交換セラルル無線電報ニ付

(イ)　一箇ノ陸上局ノ中繼ニ依ル場合ニ於テハ

陸上局ノ屬スル主管廳ハ陸上局料、場合ニ依リ領土電信料及著信航行局ノ料金ヲ發信航行局ノ屬スル主管廳ノ借方ニ記入シ又著信航行局ニ屬スル移動局料ヲ該局ノ屬スル主管廳ノ貸方ニ記入ス

(ロ)　二箇ノ陸上局ノ中繼ニ依ル場合ニ於テハ

第一ノ陸上局ノ屬スル主管廳ハ徵收セラレタル總料金中ヨリ發信航

〔海軍〕

行局ニ屬スル料金ヲ控除シタルモノヲ該局ノ屬スル主管廳ノ借方ニ記入ス第二ノ陸上局ニ屬スル主管廳ハ著信移動局ヘノ傳送ニ對スル料金ヲ直接ニ第一ノ陸上局ノ屬スル主管廳ノ借方ニ記入ス但シ此ノ傳送ガ行ハレタル場合ニ限ル

十　發信人ノ請求ニ依リ一箇又ハ二箇ノ中繼移動局ヲ經由シテ傳送セラルル無線電報ニ付テハ各中繼航行局ハ中繼ニ對シ自局ニ屬スル移動局料ヲ無線電報ガ航行局著ノ場合ニ於テハ著信航行局ノ又無線電報ガ航行局發ノ場合ニ於テハ發信航行局ノ借方ニ記入ス

ロ　計算書ノ交換、檢査及精算

十一　原則トシテ航行局間ノ交換ニ對スル精算ハ著信局ノ屬スル經營者ニ於テ發信局ノ屬スル經營者ヲ借方トシ該局ノ經營者間ニ直接ニ之ヲ爲ス

十二　原則トシテ本條ニ揭グル無線電報ノ計算ノ基礎ヲ爲スベキ月次計算書ハ成ルベク附錄第十一號ニ規定スル樣式ノ表ヲ使用シ航行局別ニ同一陸上局ト交換シタル同一發同一著ノ無線電報ノ月次語數ニ從ヒ之ヲ作成ス計算書ハ計算ノ關係スル月ヨリ三月ノ期間內ニ之ヲ送付ス

十三　計算書ノ承認又ハ之ニ關スル注意ノ通告ハ計算書發送ノ日ヨリ起算シ六月ノ期間內ニ之ヲ爲ス

十四　陸上局及其ノ屬スル主管廳間ニ於ケル書類ノ郵便送達ニ特別ノ困

〔海軍〕

難アルトキハ前二項ニ揭グル期間ハ所定ノ期間ヲ超過スルコトヲ得然レドモ計算書ガ其ノ關係スル無線電報ノ受付ノ日ヨリ十八月ヲ經タル後提出セラレタルトキハ其ノ精算及整理ハ借方主管廳ニ於テ之ヲ拒絕スルコトヲ得

十五　反對ノ協定アルニ非ザレバ左ノ規定ハ本條ニ揭グル無線電信計算ニ之ヲ適用ス

(一)　月次計算書ハ貸方主管廳ノ計算書ノ金額ガ十萬「フラン」(一〇〇〇〇〇「フラン」)ヲ超過セザル場合ニ於テ關係二主管廳ノ作成シタル計算書間ノ差異ガ貸方主管廳ノ計算書ノ金額ノ百分ノ一ヲ超過セザルトキハ訂正ヲ爲スコトナクシテ之ヲ承認ス貸方主管廳ノ作成シタル計算書ノ金額ガ十萬「フラン」(一〇〇〇〇〇「フラン」)ヲ超過スル場合ニ於テハ右差異ハ左ノ金額ヨリ成ル合計額ヲ超過セザルコトヲ要ス

第一　計算書ノ金額ノ最初ノ十萬「フラン」(一〇〇〇〇〇「フラン」)ノ百分ノ一

第二　超過額ノ百分ノ〇・五

尤モ差異ガ二十五「フラン」(二五「フラン」)ヲ超過セザルトキハ計算ハ之ヲ承認スルコトヲ要ス

(二)　關係二主管廳間ノ注意ノ交換ニ因リ差異ガ本項第一節ニ定ム

ル最高限ヲ超過セザル儘ニ下リタルトキハ訂正ハ之ヲ中止ス

七　(一)　三箇月期ノ最後ノ月ニ屬スル計算書ノ承認後貸方主管廳ハ關係二主管廳間ニ反對ノ協定アルニ非ザレバ直ニ三箇月期ノ全體ニ對スル精算差額ヲ示ス三箇月期ノ計算書ヲ作成シ其ノ二通ヲ借方主管廳ニ送付ス借方主管廳ハ之ヲ檢査シタル後二通ノ內一通ニ承認ノ旨ヲ記載シ之ヲ返送ス

(二)　同一三箇月期ノ月次計算書ノ何レカガ該計算ノ關係スル三箇月期ニ次グ第六月ノ滿了前ニ承認ナカリシ場合ト雖貸方主管廳ハ假精算ヲ爲ス爲三箇月期ノ精算書ヲ作成スルコトヲ得借方主管廳ハ本條第十八項ニ規定スル條件ニ於テ右假精算ヲ爲ス義務アリ爾後必要ナリト認メラレタル訂正ハ次ノ三箇月期ノ精算ニ於テ之ヲ爲ス

八　每三箇月期ノ計算書ハ借方主管廳ガ之ヲ受領シタル日ヨリ起算シ六週日ノ期間內ニ之ヲ檢査シ且其ノ金額ヲ支拂フコトヲ要ス此ノ期間ヲ經過スルトキハ一主管廳ヨリ他ノ主管廳ニ支拂フベキ金額ニハ該期間滿了ノ日ノ翌日ヨリ起算シ年六分ノ割合ニ於テ利子ヲ生ズ

九　(一)　反對ノ協定アルニ非ザレバ三箇月期ノ精算差額ハ借方主管廳ヨリ貸方主管廳ニ金ヲ以テ又ハ金「フラン」ニテ表示スル精算差額ノ價値ニ相當スル額ニ對シ作成シタル小切手又ハ一覽拂ノ手形ヲ以テ之ヲ支拂フ

(二)　小切手又ハ手形ヲ以テ支拂ヲ爲ス場合ニ於テ此等ノ證券ハ中央發行銀行又ハ他ノ公立發行機關ガ法令又ハ政府トノ協定ニ依リ決

定シタル一定ノ率ニテ自國貨幣ト引換ヘニ金又ハ金證券ヲ賣買スル國ノ貨幣ヲ以テ之ヲ表示ス數國ノ貨幣ガ此ノ條件ニ適合スルトキハ貸方主管廳ハ自國ニ便宜ナル貨幣ヲ指示ス換算ハ金貨ノ純分比價ニ依リ之ヲ爲ス

(三)　貸方國ノ貨幣ガ第二節ニ規定スル條件ニ適合セザル場合ニ於テ二國間ニ之ニ關スル協定アルトキハ小切手又ハ手形ハ赤貸方國ノ貨幣ヲ以テ之ヲ表示スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ精算差額ハ金貨ノ純分比價ニ依リ之ヲ前記ノ條件ニ適合スル國ノ貨幣ニ換算ス次ニ其ノ得タル結果ハ小切手又ハ手形買入註文日ニ於ケル借方國ノ首府又ハ商業地ノ取引相場ニ依リ之ヲ借方國ノ貨幣ニ換算シ更ニ貸方國ノ貨幣ニ換算ス

十　支拂ノ費用ハ借方主管廳ニ於テ之ヲ負擔ス

十一　無線電報ノ原書及關係計算書類ハ祕密ヲ保護スル爲必要ナル一切ノ用意ヲ以テ關係計算ノ精算迄又一切ノ場合ニ於テ其ノ無線電報ノ額信ニ次グ月ヨリ起算シ少クトモ十月間之ヲ保存ス

第二十八條　公衆通信ノ航空無線業務

特別ノ協定(條約第十三條)ナキ限リ無線通信ノ交換及計算ノ手續ヲ定ムル本規則ノ規定ハ一般的ニ公衆通信ノ航空無線業務ニ之ヲ適用ス

第二十九條　小電力ノ移動無線電話局ノ業務(註)

一　左ノ規定ハ一五三〇乃至二〇〇〇kc/s(一九六・一乃至一五〇m)

【後掲】

周波數帶內ニ於テ空中線ニ於ケル一〇〇「ワット」ヲ超エザル(本規則第十條第七項第四節ニ定ムル地域的協定アル場合ヲ除ク)搬送波ノ實力ノ移動無線電話局ノ業務ノミニ關ス

二　斯カル局ノ業務ハ無線電話通信士證明書ヲ有スル通信士ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ要ス(本規則第十條第七項)

三　(一)　海岸局ヲ呼出スニハ海岸局及船舶局名錄又ハ特別業務ヲ行フ局ノ局名錄ニ揭グル呼出符號又ハ場所ノ地理的名稱ヲ無線電話呼出符號トシテ使用スルコトヲ得

(二)　船舶局ヲ呼出スニハ船舶ノ名稱又ハ本規則第十四條ニ從ヒ定メラレタル呼出符號ヲ無線電話呼出符號トシテ使用スルコトヲ得

(三)　船舶ノ名稱及國籍ヲ確知シ得ザル場合ニハ呼出符號又ハ名稱ノ前ニ所有者ノ名稱ヲ附ス

四　(一)　一六五〇kc/s(一八二m)ノ電波ハ移動無線電話業務ニ對スル呼出電波トス該電波ハ第七條第七項(表、註(十一)及(十三))ニ定ムル條件ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得此ノ規定ハ主管廳ノ指定スル海岸局又ハ船舶局トノ無線電話業務ニ對シ主管廳ガ定メ得ル他ノ周波數ヲ使用スルコトヲ妨ゲズ

(二)　一六五〇kc/s(一八二m)ノ呼出電波ヲ使用スル海岸局及船舶局ハ一五三〇乃至二〇〇〇kc/s(一九六・一乃至一五〇m)ノ周波數帶ニ於テ少クトモ他ノ一電波ヲ使用シ得ルコトヲ要ス此ノ第二ノ電波ハ

【後掲】

該局ノ通常通信電波ナルコトヲ示ス爲局名錄ニ於テ太字ヲ以テ之ヲ印刷スベシ此等ノ局ノ通信電波ハ他ノ無線通信局トノ混信ヲ避クル樣之ヲ選定スルコトヲ要ス

(三)　海岸局及船舶局ハ其ノ通常通信電波ノ外右周波數帶ニ於テ補助電波ヲ使用スルコトヲ得此等ノ電波ハ局名錄ニ於テ普通文字ヲ以テ之ヲ記載ス

五　(一)　遭難ノ場合ニ於テ無線電話ニ對シ五〇〇kc/s(六〇〇m)ノ一般遭難電波ヲ使用シ得ザルトキハ一六五〇kc/s(一八二m)ノ電波ヲ遭難ノ呼出及通信ニ使用スルコトヲ得局ハ又注意ヲ喚起シ其ノ位置ヲ通知シ救助ヲ得ル爲他ノ一切ノ電波ヲ使用スルコトヲ得

(二)　無線電話ノ遭難信號ハ「MAYDAY」ナル話サレタル文句(「Mayday」ナル文句ノ佛蘭西語ノ發音ニ相當スルモノ)トス

六　無線電信業務ニ關スル規定特ニ混信、遭難、緊急、安全ノ業務、執務ノ終了及呼出ニ關スル規定(本規則第十六條、第二十條、第二十二條、第二十三條及第十八條)ハ實際的且妥當ナル範圍內ニ於テ移動無線電話業務ニ之ヲ適用ス

七　小電力ノ移動無線電話局ノ業務ニ於テ本規則附錄第十二號ニ揭グル手續ヲ適用スルコトヲ得

(註)　此等ノ規定ハ場合ニ依リ航空機局ニ之ヲ適用スルコトヲ得

第三十條　特別業務

イ　氣　象

一　氣象通報ハ左ノモノヲ包有ス

(イ)　公ニ氣象豫報竝ニ航海及航空ノ保護ニ任ズル氣象業務ニ宛ツル通報

(ロ)　右氣象業務ノ通報ニシテ特ニ左ノモノヲ目的トスルモノ

第一　海上業務ノ移動局

第二　航空業務ノ保護

第三　公衆

此等ノ通報ニハ左ノ情報ヲ包含スルコトヲ得

第一　一定ノ時刻ニ於ケル觀測

第二　危險ナル現象ノ通報

第三　豫報及警報

第四　一般氣象狀況報

二　(一)　各國氣象業務ハ最適當ナル位置ニ在ル送信局ヲ其ノ受持得ル廣キ地域ノ利益ノ爲ニ利用スル樣發射ノ共同番組作成ノ爲協定ス

(二)　前記第一項(イ)及(ロ)第一、第二ノ種類ニ含マルル氣象觀測ハ移動局ニ依リ傳送セラルルト又ハ之ニ宛テラルルトヲ問ハズ原則トシテ國際氣象略號ニ依リ之ヲ記載ス

三　公ノ氣象業務ニ宛ツル觀測通報ハ概況氣象及航空氣象專用ノ電波ノ使用ニ付關係業務ニ依リ定メラルル地域的協定ニ從ヒ該專用電波ノ割當ニ因ル利便ヲ享ク

四　(一)　特ニ海上業務ノ移動局ノ總體ニ宛ツル氣象報ハ原則トシテ一定ノ時間割ニ從ヒ且成ルベク該局中一名ノ通信士ノミヲ有スル局ニ於テモ受信シ得ル時刻ニ之ヲ傳送シ傳送ノ速度ハ第二級ノ證明書ノミヲ有スル通信士ト雖符號ノ通覺ヲ爲シ得ル樣之ヲ選定ス

(二)　移動業務ノ局ニ宛ツル氣象報ノ「各局宛」傳送中移動業務ノ一切ノ局ニシテ其ノ傳送ガ右氣象報ノ受信ヲ妨害スルモノハ右氣象報ヲ受信セント欲スル一切ノ局ヲシテ之ヲ受信スルコトヲ得シムル爲沈默ヲ守ルコトヲ要ス

(三)　氣象警報ハ直ニ之ヲ傳送シ且最近ノ沈默時間(第十九條第二項)ノ終了後之ヲ反覆スルコトヲ要ス右警報ハ海上移動業務ニ割當テラレタル電波ヲ以テ之ヲ傳送スルコトヲ要ス此ノ傳送ニハ安全信號ヲ前置ス

(四)　前記各節ニ規定スル常時ノ通報業務ノ外尙主管廳ハ或局ヲシテ要求アラバ移動業務ノ局ニ氣象報ヲ通知スルコトヲ擔當セシムル爲必要ナル處置ヲ執ル

(五)　前記ノ規定ハ航空ニ對シ少クトモ同等ノ保護ヲ確保スル一層精確ナル地域的協定ニ反セザル範圍內ニ於テ航空業務ニ之ヲ適用ス

五　(一)　移動局ヨリ發スル通報ニシテ熱帶「サイクロン」ノ存在ニ關スル事項ヲ含ムモノハ成ルベク速ニ附近ノ他ノ移動局及連絡ヲ取リ得ル沿岸ノ最初ノ地點ノ權限アル機關ニ之ヲ傳送スルコトヲ要ス此ノ傳送ニハ安全信號ヲ前置ス

(二)　一切ノ移動局ハ他ノ移動局ニ依リ傳送セラルル氣象觀測ガ一國ノ氣象業務ニ宛テラルル場合ト雖之ヲ自己ノ用途ノ爲聽取スルコトヲ得一國ノ氣象業務ニ宛ツル氣象觀測ヲ傳送スル移動業務ノ局ハ此等ノ觀測ヲ反覆スル義務ナシ尤モ要求ニ依リ天候ニ關スル情報ノ交換ヲ爲スコトハ移動局間ニ之ヲ許ス

ロ　報時信號、航行者ヘノ通報

六　前記第四項ノ規定ハ報時信號及航行者ヘノ通報ニ之ヲ適用ス但シ報時信號ニ關シテハ(イ)第四項第三節ノ規定ヲ適用セズ

七　危險ナル洗氷、危險ナル漂流物又ハ其ノ他航行ニ對スル一切ノ急迫ノ危險ノ存在ニ關スル事項ヲ含ムモノハ成ルベク速ニ附近ノ他ノ移動局及連絡ヲ取リ得ル沿岸ノ最初ノ地點ノ權限アル機關ニ之ヲ傳送スルコトヲ要ス此ノ傳送ニハ安全信號ヲ前置スルコトヲ要ス

八　主管廳ハ有用ト認ムルトキハ發信人ガ同意スルコトヲ條件トシテ海損及海難ニ關スル情報又ハ航海ニ對シ一般的利益アル情報ヲ其ノ認メタル海事通信社ニ主管廳ノ定メタル條件ニ從ヒ通知スルコトヲ得

ハ　無線羅針局ノ業務

九　無線羅針局ノ屬スル主管廳ハ不正確ナル方位測定ノ結果ニ關シ何等ノ責ニ任ゼズ

十　右主管廳ハ特別業務ヲ行フ局ノ局名錄ニ掲載ノ爲各無線羅針局ノ特性ヲ方位測定ガ通常正確ナル「セクター」ト共ニ通告ス右事項ニ關スル變更ハ洵ニ之ヲ公表スルコトヲ要ス變更ガ永久的性質ナルトキハ聯合事務局ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

十一　(一)　無線羅針ノ通常電波ハ三七五kc/s(八〇〇m)ノ電波トス一切ノ海岸無線羅針局ハ原則トシテ右電波ヲ使用シ得ルコトヲ要ス(註)右羅針局ハ尙特ニ遭難、警急及緊急ノ信號ノ方位測定ノ爲五〇〇kc/s(六〇〇m)ニ於テ爲サルル發射ノ方位測定ヲ爲シ得ルコトヲ要ス

(二)　方位ノ測定ヲ得ント欲スル航空機局ハ之ヲ要求スル爲三三三kc/s(九〇〇m)ノ電波ヲ以テ又航空機ガ航行スル航空路ニ割當テラレタル電波ヲ以テ呼出スコトヲ要ス航空機局ガ海岸局ノ附近ニ在リテ方位ノ測定ヲ得ンガ爲右局ヲ呼出ス一切ノ場合ニ於テ航空機局ハ右海岸局ノ聽守周波數ヲ使用スルコトヲ要ス

十二　無線羅針業務ニ於ケル手續ハ附錄第十三號ニ之ヲ掲グ

ニ　無線標識局ノ業務

十三　(一)　主管廳ガ航海及航空ノ爲ニ無線標識業務ヲ組織スルヲ有用ト認メタルトキハ此ノ目的ノ爲左ノモノヲ使用スルコトヲ得

(イ) 陸上又ハ常ニ繫留スル船舶上ニ設置シタル固有ノ無線標識　其ノ發射ハ無指向式又ハ指向式トス

(ロ) 移動局ノ要求ニ應ジ無線標識トシテノ業務ヲ行フコトヲ指定セラレタル固定局、海岸局又ハ航空局

(二) 固有ノ無線標識ハ左ノ電波ヲ使用ス

(イ) 歐羅巴地域ニ於テハ海上無線標識ニ對シ二九〇乃至三二〇kc/s(一〇三四乃至九三八m)ノ周波數帶ノ電波又航空無線標識ニ對シ三五〇乃至三六五kc/s(八五七乃至八二二m)ノ周波數帶ノ電波竝ニ國際航空機關ノ選定シタル二五五乃至二九〇kc/s(一一七六乃至一〇三四m)ノ周波數帶內ノ或電波

(ロ) 其ノ他ノ地域ニ於テハ海上無線標識ニ對シ二八五乃至三一五kc/s(一〇五三乃至九五一m)ノ周波數帶ノ電波及航空無線標識ニ對シ一九四乃至三六五kc/s(一五四六乃至八二二m)ノ周波數帶內ヨリ選定シタル電波

(ハ) 尙歐羅巴、「アフリカ」、亞細亞ニ於テハ指向式無線標識(海上及航空)ハ第七條第二十項ニ定ムル條件ニ於テ一五〇〇乃至一六三〇kc/s(二〇〇乃至一八四m)及一六七〇乃至三五〇〇kc/s(一七九・六乃至八五・七一m)ノ周波數帶ノ電波ヲ使用スルコトヲ得

(ニ) 固有ノ無線標識ニ對シテハ型式Bノ電波ノ使用ヲ禁ズ

(三) 他ノ局ニシテ無線標識トシテ通告セラレタルモノハ其ノ通常周波數及其ノ通常發射型式ヲ使用ス

十四 無線標識ノ發射スル符號ハ正確且明確ナル照合ヲ爲シ得ルモノタルコトヲ要ス右符號ハ二箇又ハ數箇ノ無線標識間ノ區別ニ關シ疑惑ナカラシムル樣之ヲ選定スルコトヲ要ス

十五 無線標識業務ヲ組織シタル主管廳ハ無線標識ニ依リ得タル不正確ナル方位測定ノ結果ニ關シ何等ノ責ニ任ゼズ

十六 (一) 主管廳ハ特別業務ヲ行フ局ノ局名錄ニ掲載ノ爲各固有ノ無線標識及無線標識トシテモ業務ヲ行フコトヲ指定セラレタル各局ノ特性ヲ必要アラバ方位測定ガ通常正確ナル「セクター」ノ指示ト共ニ通告ス

(二) 無線標識業務ニ生ズル運用上ノ一切ノ變更又ハ一切ノ支障ハ遲滯ナク之ヲ公表スルコトヲ要ス運用上ノ變更又ハ支障ガ永久的性質ナルトキハ聯合事務局ニ之ヲ通告スルコトヲ要ス

(註) 或現在局ガ此ノ電波ヲ使用シ得ザルコトヲ認ムルモ一切ノ新設局ハ三七五kc/s(八〇〇m)及五〇〇kc/s(六〇〇m)ヲ以テ測定ヲ爲シ得ルコトヲ要ス

第三十一條　國際無線通信諮問委員會(C.C.I.R.)

一 國際無線通信諮問委員會ハ無線電氣ノ技術上ノ問題及解決ガ主トシテ技術的方面ノ考察ニ關ル問題ニシテ主管廳及無線電氣經營會社ヨリ付議セラルルモノヲ研究スルコトヲ任務トス

〔海軍〕

二 (一) 諮問委員會ハ其ノ議事ニ參加セント欲スル旨ヲ宣言シ且其ノ會合ノ共同費用ヲ平等ノ割合ヲ以テ分擔スルコトヲ約スル主管廳及各自ノ政府ニ依リ認メラレタル無線電氣經營會社又ハ同會社ノ集合ノ專門家ヲ以テ之ヲ組織ス右宣言ハ前回ノ主管廳會議ヲ開催シタル國ノ主管廳ニ之ヲ宛ツ

(二) 無線電氣ノ研究ニ關係アル國際機關ニシテ前回ノ全權委員ノ會議又ハ主管廳會議ニ依リ指定セラレ且前節ニ示セル如ク會合ノ費用ヲ分擔スルコトヲ約スルモノモ亦其ノ參加ヲ許可ス

(三) 各主管廳、會社、會社ノ集合又ハ國際機關ハ各自其ノ專門家ノ個人的經費ヲ負擔ス

三 原則トシテ國際無線通信諮問委員會ノ會合ハ五年每ニ之ヲ開催ス尤モ定メラレタル會合ハ十箇ノ參加主管廳ノ請求アリ且審議スベキ問題ノ數及性質ガ之ヲ正當トスルトキハ該會合ヲ召集シタル主管廳ニ於テ之ヲ繰上ゲ又ハ繰下グルコトヲ得

四 (一) 總會、委員會及小委員會ニ於テ使用セラルル國語及投票方法ハ前回ノ全權委員ノ會議又ハ主管廳會議ニ依リ採用セラレタル國語及方法トス

(二) 尤モ一國ガ主管廳ノ代表ヲ派遣セザルトキハ此ノ國ニ依リ認メラレタル經營會社ノ專門家ハ其ノ全體ノ爲ニ且其ノ數ヲ問ハズ一箇表決權ヲ有ス

五 聯合事務局ノ長又ハ其ノ代表者及他ノ國際諮問委員會卽國際電信諮問委員會、國際電話諮問委員會ノ代表者ハ表決ニ加ハラザルモ發言ヲ爲シ得ルモノトシテ國際無線通信諮問委員會ノ會合ニ參加スル權利ヲ有ス

六 國際無線通信諮問委員會ノ內部組織ハ本規則附錄第十四號ノ規定ニ依ル

第三十二條　聯合事務局ノ費用

一 聯合事務局ノ無線通信業務ニ對スル共同費用ハ一年二十萬金「フラン」ノ金額ヲ超過スルコトヲ得ズ

二 尤モ一年間ニ各種ノ印刷又ハ文書ニ例外的ニ多額ノ費用ヲ生ジ且同一年間ニ之ニ相當スル收入ヲ得ザリシトキハ事務局ハ右場合ニ限リ規定ノ經費ノ最高限額ヲ超ユルコトヲ許可セラルル但シ次年度ニ對スル經費ノ最高限額ハ右超過額ニ等シキ額ヲ減額スルコトヲ條件トス

三 二十萬金「フラン」ノ金額ハ一切ノ締約當事者ノ同意ヲ得テ將來之ヲ變更スルコトヲ得

第三十三條　一般規則ノ施行

本一般規則ハ千九百三十四年一月一日ヨリ之ヲ施行スベシ

右證據トシテ各全權委員ハ西班牙國政府ノ記錄ニ寄託保存セラルベキ本一般規則ノ一通ニ署名シタリ其ノ謄本一通ハ各政府ニ交付セラルベシ

千九百三十二年十二月九日「マドリッド」ニ於テ之ヲ作成ス

（各國全權委員記名省略）

附錄第一號　周波數許容偏差及不安定度表　（第六條參照）

第一　周波數ノ許容偏差トハ局ニ割當テラレタル周波數ト實際發射周波數トノ間ニ許容セラルル偏差ノ最大限トス

第二　右偏差ハ左ノ三種ノ誤差ヨリ生ズ

(イ)　使用スル無線周波計又ハ周波數表示器ノ誤差

(ロ)　機器調整ノ際ノ誤差

(ハ)　發射機ノ周波數ノ緩漫ナル變動

第三　周波數ノ許容偏差ニハ變調ヲ考慮セズ

第四　周波數ノ不安定度トハ前記(ハ)ニ揭グル誤差ノミニ依ル偏差ヲ許容セラルル最大限トス

周波數許容偏差及不安定度表

		千九百三十三年後ノ新設發射機ニ對シテ許容セラルベキ許容偏差	千九百三十三年後ノ新設發射機ニ對シテ許容セラルベキ不安定度	直ニ許容セラルベキ許容偏差	直ニ許容セラルベキ不安定度
イ	一〇乃至五五〇 kc/s（三〇〇〇乃至五四五m）				
	(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ) 固定局	± 〇・一%	± 〇・五%	± 〇・一%	± 〇・五%
	(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ) 陸上局	± 〇・一%（註一）〇・五%		± 〇・一%（註一）〇・五%	
	(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ) 指定シタル周波數ヲ使用スル移動局	± 〇・三 kc/s		± 〇・三 kc/s	
	(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ) 周波數帶內ノ一電波ヲ使用スル移動局	± 〇・一%		± 〇・一%	
	(ホ)(ニ)(ハ)(ロ)(イ) 無線放送局	± 〇・〇五 kc/s			
ロ	五五〇乃至一五〇〇 kc/s（五四五乃至二〇〇m）	± 〇・一%			
	(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ) 固定局	± 〇・一%	± 〇・五%	± 〇・一%	± 〇・五%
	(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ) 陸上局	± 〇・一%（註一）〇・五%		± 〇・一%（註一）〇・五%	
	(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ) 指定シタル周波數ヲ使用スル移動局	± 〇・〇五 kc/s		± 〇・〇五 kc/s	
	(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ) 周波數帶內ノ一電波ヲ使用スル移動局	± 〇・〇四 kc/s			
	(ホ)(ニ)(ハ)(ロ)(イ) 無線放送局	± 〇・一%			

〔後掲〕

		千九百三十三年後ノ新設發射機ニ對シテ許容セラルベキ許容偏差	千九百三十三年後ノ新設發射機ニ對シテ許容セラルベキ不安定度	直ニ許容セラルベキ許容偏差	直ニ許容セラルベキ不安定度
ハ	一五〇〇乃至六〇〇〇 kc/s（二〇〇乃至五〇m）				
	(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ) 固定局	± 〇・一%	± 〇・五%	± 〇・一%	± 〇・五%
	(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ) 陸上局	± 〇・一%（註一）〇・五%		± 〇・一%（註一）〇・五%	
	(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ) 指定シタル周波數ヲ使用スル移動局	± 〇・〇五 kc/s		± 〇・〇五 kc/s	
	(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ) 周波數帶內ノ一電波ヲ使用スル移動局	± 〇・〇四 kc/s			
	(ホ)(ニ)(ハ)(ロ)(イ) 固定及移動業務共用周波數帶內ニテ運用スル小電力（空中線電力二五〇「ワット」迄）ノ固定局及陸上局	± 〇・一%			
ニ	六〇〇〇乃至三〇〇〇〇 kc/s（五〇乃至一〇m）				
	(イ)(ロ)(ハ) 固定局	± 〇・一%（共用周波數帶內ノ周波數ニ付テハ〇・〇四%）	± 〇・五%	± 〇・一%	± 〇・五%
	(イ)(ロ)(ハ) 陸上局	± 〇・一%			
	(イ)(ロ)(ハ) 指定シタル周波數ヲ使用スル移動局	± 〇・一%			
	(ホ)(ニ) 周波數帶內ノ一電波ヲ使用スル移動局	± 〇・〇五 kc/s	五 kc/s	± 〇・〇二 kc/s	五 kc/s
	(ホ)(ニ) 無線放送局	± 〇・〇三%		（註二）	
ホ	三〇〇〇〇乃至三〇〇〇〇〇 kc/s（一〇乃至一m）	± 〇・〇五%	三 kc/s	± 〇・〇五%	三 kc/s
	(イ)(ロ)(ハ) 固定局	± 〇・一%		（註二）	
	(イ)(ロ)(ハ) 陸上局	± 〇・一%	± 〇・一%		± 〇・一%
	(イ)(ロ)(ハ) 指定シタル周波數ヲ使用スル移動局	± 〇・一%			
	(ホ)(ニ) 周波數帶內ノ一電波ヲ使用スル移動局	± 〇・〇三%			
	(ホ)(ニ) 無線放送局	± 〇・一%			

〔後掲〕

（ヘ）固定及移動業務共用周波數帶内ニ於テ働作スル小電力（空中線電力二五〇「ワット」迄）ノ固定局及陸上局

（註一）本業務ニハ此ノ條件ヲ充シ得ザル火花式發射機及簡單ナル自動式發射機ガ多數存スルコトヲ認ム

（註二）許容セラルル許容偏差ヲ示シ居ラザルヲ以テ主管廳ハ出來得ル限リ縮少シタル許容偏差ヲ定ムベシ

註　主管廳ハ周波數許容偏差及不安定度ノ純關ヲ漸次縮少スル爲技術ノ進歩ヲ利用スルコトニ努ムベシ

附錄第二號　發射ニ依リ占有セラルル周波數帶ノ幅ノ表（第六條參照）

技術ノ現狀ニ於テハ原則トシテ種種ノ送信型式ニ依リ有效ニ使用セラルル周波數帶左ノ如シ

送信型式	周波數帶ノ幅 一秒時ノ「サイクル」（兩側波帶ヲ含ム）
電信　一分時ニ百語ノ速度ノ「モールス」字號（一秒時ニ四十短點）	八〇乃至二四〇（基本操作周波數及其ノ第三高調波ニ相當ス）
變調セラレザル持續電波ニ依ル場合	右ト同ジ値ニ變調周波數ノ二倍ヲ加ヘタル値
變調持續電波ニ依ル場合	大體ニ於テ傳送スベキ影像ノ點素（註）ノ數ト傳送ニ必要ナル秒時ノ數トノ比 例　100000：100＝1000
固定影像ノ傳送	大體ニ於テ影像ノ點素（註）ノ數ト一秒時ニ傳送セラルル影像ノ數トノ積 例　10000×20＝200000
電覺	約六〇〇〇
商業無線電話	

【海軍】

高級無線電話

例ヘバ無線放送ニ於ケル如キモノ

（註）一「サイクル」ハ白及黑ノ二點素ヨリ成ル從テ變調周波數ハ一秒時ニ傳送セラルル點素ノ數ノ二分ノ一トス

附錄第三號　電氣通信條約又ハ無線通信規則ノ違反ノ報告（第十三條參照）

規則ニ違反シタル局ニ關スル細項	
一　名稱（印刷體ニテ記載ス）（備考（イ））	約一〇〇〇〇乃至二〇〇〇〇
二　呼出符號（印刷體ニテ記載ス）	
三　國籍	
四　使用電波（kc/s又ハm）	
五　方式（備考（ロ））	
違反ヲ報告スル局ニ關スル細項	
六　名稱（印刷體ニテ記載ス）	
七　呼出符號（印刷體ニテ記載ス）	
八　國籍	
九　概略ノ位置（備考（ハ））	
違反ノ細項	
十　違反ヲ行ヒタル局ト通信シタル局ノ名稱	

【海軍】

第二十九類　國際電氣通信條約

（備考二）

十一　違反ヲ行ヒタル局ト通信シタル局ノ呼出符號

十二　時（備考ホ）及日附

十三　違反ノ種類（備考ヘ）

十四　報告ヲ支持スベキ日誌ノ抜萃及其ノ他ノ文書（必要アラバ裏面ヘ續ケスベシ）時

十五　證明

前記ノ報告ハ余ノ知ル限リ事件ノ完全ニシテ正確ナル調査ナルコトヲ證明ス

日附　千九百　年　月　日　（※）

（※）本報告ニハ違反ヲ報告スル通信士之ニ署名シ且船舶若ハ航空機ノ指揮者又ハ陸上局ノ長ニ於テ之ニ署名スルコトヲ要ス

本樣式記入上ノ注意

備考（イ）各報告ニハ一箇ノ船舶又ハ一箇ノ局ノミニ付記載スベシ（備考ニ參照）

備考（ロ）型式A一、A二、A三又ハB

備考（ハ）船舶及航空機ニノミ適用ス緯度及經度（グリニッヂ）ニ依リ又ハ著名ノ地點ヨリノ真方位及海里若ハキロメートルニ於ケル距離ニ依リ表示スルコトヲ要ス

備考（ニ）通信スル二局ガ規則ニ違反シタルトキハ此等ノ各局ニ對シ別別ニ報告ヲ作成スベシ

【海軍】

備考（ホ）數字四箇ノ集合（〇〇〇一乃至二四〇〇）ヲ以テ「グリニッヂ」標準時ヲ示スコトヲ要ス違反ガ長時間ニ亙リテ行ハレタルトキハ其ノ時間ヲ第十四號ノ餘白ニ示スコトヲ要ス

備考（ヘ）各違反事項ニ對シ別別ニ報告ヲ要ス但シ違反ガ明ニ同一人ニ依リテ行ハレ且短時間内ニ起リタルニ過ギザルトキハ此ノ限ニ在ラズ一切ノ報告ハ二通迄付スルコトヲ要ス又成ルベク「メイプライメー」ヲ以テ作成スルコトヲ要ス（消エザル鉛筆及發蝕紙ヲ使用スルコトヲ得）

主管廳專用欄

一　申告ヲ爲サレタル局ノ設備ノ管理ヲ爲ス會社

二　規則違反ノ責ニ任ズル通信士ノ名

三　執リタル處置

【海軍】

附錄第四號　第二種船舶局ノ執務時間（附錄第五號ノ圖表及地圖竝ニ第十五條及第二十三條參照）

地帶	西端	東端	執務時間（「グリニッヂ」標準時）
			八時間（H8）	十六時間（H16）
A 東部大西洋、地中海、北海、「バルチック」海	西經三十度ノ子午線「グリーンランド」海岸	「アフリカ」海岸ノ南方東經三十度ノ子午線、地中海、黒海及「バルチック」海ノ東端、諾威ノ北方東經三十度ノ子午線	自八時 至十六時 自十二時 至二十時 自十六時 至二十四時	自零時 至十六時 自八時 至二十四時 自十六時 至二十二時
B 西部印度洋、東部北氷洋	A地帶ノ東端	東經八十度ノ子午線「アダムス、ブリッヂ」ニ至ル錫蘭ノ西部海岸「アダムス、ブリッヂ」ヨリ印度海岸ニ沿ヒテ西方ニ及ブ	自四時 至十六時 自八時 至二十時 自十二時 至二十四時 自十六時 至二十時	自零時 至十二時 自四時 至十六時 自八時 至二十時 自十二時 至二十四時

C 東部印度洋、支那海、西部太平洋	B地帶ノ東端	東經百六十度ノ子午線	自零時至二時 自十時至十六時 自十八時至二十四時	自零時至六時 自十時至十四時 自十八時至二十二時
D 中部太平洋	C地帶ノ東端	西經百四十度ノ子午線	自零時至二時 自四時至十時 自十二時至二十時	自零時至二時 自八時至十二時 自十六時至二十時
E 東部太平洋	D地帶ノ東端	「アメリカ」海岸ノ南方西經七十度ノ子午線、「アメリカ」ノ西部海岸	自零時至四時 自十時至十六時 自二十時至二十四時	自零時至六時 自八時至十四時 自十六時至二十二時
F 西部大西洋及「メキシコ」灣	「アメリカ」海岸ノ南方西經七十度ノ子午線、「アメリカ」ノ東部海岸	西經三十度ノ子午線、「グリーンランド」海岸	自零時至二時 自十時至十六時 自二十時至二十四時	自零時至四時 自十時至十八時 自二十時至二十二時

【後章】

【後章】

附錄第五號
第二條關係
第二十五類ノ規定ニ依リ國際電氣通信ニ使用スル周波數ノ帶ニ關スル豫報
（附錄第四號第二十五類ノ規定ニ依リ國際電氣通信ニ使用スル周波數ノ帶ニ關スル豫報ヲ參照スルコト）

附錄第六號　業務書類（第十五條參照）

第一卷　海岸局及船舶局局名錄

甲部　海岸局ノ「ABC」順目次

局名	呼出符號	乙部參照頁
一	二	三

乙部　海岸局ノ明細表

（局名）「ABC」順ニ依ル）

局名	呼出符號	電波 周波數（註一）kc/s（波長）（m）	電波 型式	發射空中線ノ正確ナル地理的位置（註二）	業務 空中線電力（註三）kw	業務 種類	業務 執務時間（註四）	料金（註五）（註六）	備考（註七）
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十

（註一）通常通信電波ハ太字ヲ以テ之ヲ印刷ス

（註二）「グリニッヂ」子午線

（註三）指向性空中線ノ場合ニ於テハ指向性及方位ヲ示スベシ

（註四）「グリニッヂ」標準時

（註五）海岸局ノ屬スル國ノ國內電信料及該國ガ隣接國宛電報ニ適用スル料金ハ本局名錄附錄ニ之ヲ掲ゲ

（註六）料金計算ガ私企業ニ依リ精算セラルルトキハ場合ニ依リ該私企業ノ名稱及所在地ヲ記載スベシ

（註七）呼出表等ノ備考ニ對スル呼出時刻ニ關スル特別事項

丙部　船舶局ノ明細表

此等ノ局ニ關スル事項ハ左ノ順序ニ依リ二行又ハ三行ニ之ヲ記載ス

第一行

呼出符號　其ノ下ニ船舶料ヲ記載シ次ニ料金計算書ヲ宛ツベキ主管廳又ハ私企業ヲ示ス參照ヲ附ス經營者ノ所在地ノ變更ノ場合ニハ料金ノ次ニ第二ノ參照ヲ附シ新所在地及該變更ノ施行期日ヲ示スベシ

船舶ノ名稱　國籍ヲ考慮セズ「ABC」順ニ排列シ同名ノモノアル場合ニハ次ニ呼出符號ヲ附ス此ノ場合ニハ名稱及呼出符號ハ簡除線ヲ以テ分離ス次ニ×、△等ノ記號ヲ附ス同一國籍ノ二箇又ハ數箇ノ船舶ガ同一ノ名稱ヲ有スル場合竝ニ料金計算書ヲ直接船舶ノ所有者ニ宛ツベキ場合ニハ參照ニ於テ船舶ノ屬スル航海會社又ハ船主ノ名稱ヲ記載ス

「キロワット」ニ於ケル空中線電力

「メートル、アムペア」括弧ヲ以テ圍ム

「メートル、アムペア」ノ積ヲ算出スルニハ滿載吃水線ヨリノメートルニ於ケル實效電流ヲ乘ズ

業務ノ種類

執務時間　業務用記號又ハ參照ヲ以テ之ヲ示ス業務用記號以外ノ樣式ニ依リ表示セラルル時間ハ「グリニッヂ」標準時ヲ以テ示スコトヲ要ス

第二行

（料金ニ付テハ第一行參照）

第二十九類　國際電氣通信條約

局ノ屬スル國（略語ヲ以テ記載ス）

型式及

調整セラレタル發射周波數（波長）通常通信電波ハ太字ヲ以テ之ヲ印刷ス

第三行

要約シタル參照及備考

第二卷　航空局及航空機局局名錄

甲部　航空局ノ「ABC」順目次

局名	呼出符號	乙部參照頁
一	二	三

乙部　航空局ノ明細表

（國名）「ABC」順ニ依ル）

（局名）

一	局名	呼出符號	電波					空中線電力 kw（註三）	業務ノ種類		料金（註五）（註六）	備考
			送信用		受信用							
			周波數（波長）kc/s（m）（註一）	型式	周波數（波長）kc/s（m）	型式	發射空中線ノ正確ナル地理的位置（註二）		種類	執務時間（註四）		
二												
三												
四												
五												
六												
七												
八												
九												
十												
十一												
十二												

（繼續）

（註一）通常通信電波ハ太字ヲ以テ之ヲ印刷ス

（註二）「グリニッヂ」子午線

（註三）指向性空中線ノ場合ニ於テハ指向性及方位ヲ示スベシ

（註四）「グリニッヂ」標準時

（註五）航空局ノ屬スル國ノ國內電信料及該國ガ隣接國宛電報ニ適用スル料金ハ本局名錄附錄ニ之ヲ掲グ

（註六）料金計算ガ私企業ニ依リ精算セラルルトキハ場合ニ依リ該私企業ノ名稱及所在地ヲ記載スベシ

丙部　航空機局ノ明細表

局ハ國籍ヲ考慮セズ呼出符號ノ「ABC」順ニ之ヲ排列ス

呼出符號	局名又ハ國籍及登錄記號	電波 周波數（波長）（註）kc/s（m）	型式	空中線電力 kw	業務ノ種類	料金	計算書ヲ送付スベキ主管廳又ハ企業ノ名稱及所在地	通常ノ航空路（定置場）ノ型式及裝備	備考
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十

（繼續）

（註）通常通信電波ハ太字ヲ以テ之ヲ印刷ス

第三卷　特別業務ヲ行フ局ノ局名錄

甲部　局ノ「ABC」順目次

局名	呼出符號	乙部參照頁

乙部　局ノ明細表

第一　無線羅針局

（國名「ABC」順ニ依ル）

一	二	三
局名	左ノ正確ナル地理的位置（註一） (イ)羅針局ノ受信空中線 (ロ)羅針局ノ發射空中線 (ハ)第八欄ニ掲ゲル局ノ發射ノ空中線	呼出符號

四	五	六	七	八	九	十
電波ノ型式	周波數（波長） 羅針局ニ對シ測定ニ必要ナル信號ノ傳送用 kc/s（m）	羅針局ニ依ル測定ノ傳送用 kc/s（m）	發射機ノ空中線電力 kw	局ニ發射セラルベキ局ノ名稱及呼出符號	料金	備考 (イ)通常正確ナル測定ノ「セクター」及標識ニ關スル國內又ハ國際ノ刊行物ニ關スル參照（註二） (ロ)執務時間等

（註一）「グリニッヂ」子午線

（註二）「グリニッヂ」標準時

第二　無線標識局

無線標識ハ左ノ二部ニ之ヲ排列ス

(イ)　海上業務

(ロ)　航空業務

（國名「ABC」順ニ依ル）

一	二	三
局名	無線標識ノ發射空中線ノ正確ナル地理的位置（註一）	無線標識ノ特殊符號

四	五	六	七	八	九	十	十一
必要アラバ無線標識ノ呼出符號	周波數（波長） kc/s（m）	型式	必要アラバ變調周波數 c/s	通常到達距離（註二）	無線標識ノ發射ノ請求ガ傳送セラレ得ル局ノ名稱及呼出符號	呼出電波ノ周波數（波長） kc/s（m）	備考 (イ)通常正確ナル「セクター」及標識ニ關スル國內又ハ國際ノ刊行物ニ關スル參照 (ロ)執務時間等（註三） (ハ)料金等

（註一）「グリニッヂ」子午線

（註二）到達距離ハ海上業務ノ局ニ付テハ海里ヲ以テ又航空業務ノ局ニ付テハキロメートルヲ以テ之ヲ示スベシ

（註三）「グリニッヂ」標準時

第三　報時信號ヲ傳送スル局

（國名「ABC」順ニ依ル）

一	二	三
局名	呼出符號	電波 周波數（波長） kc/s（m）

四	五	六
電波 型式	傳送時劃（註一）	方法（註二）

（註一）「グリニッヂ」標準時

（註二）報時信號ニ關スル一般的指示

第四　常時氣象報ヲ傳送スル局

（國名）「ABC」順ニ依ル）

局名	呼出符號	電波 周波數（波長）kc/s（m）	電波 型式	運轉時劃（註一）	備考（註二）
一	二	三	四	五	六

（註一）「グリニッヂ」標準時

（註二）氣象報ニ關スル一般的指示

第五　航行者ヘノ通報ヲ傳送スル局

（國別ノ局名、必要ナル事項ヲ附記ス）

（イ）（ロ）海上無線業務

航空無線業務

第六　各局（CQ）宛新聞電報ヲ傳送スル局

（國名……）

（局名、必要ナル事項ヲ附記ス）

第七　醫事通報ヲ傳送スル局

第八　標準電波ヲ發射スル局

第九　（必要アラバ其ノ他ノ種類ノ局）

第四卷　固定局局名錄

（現用固定局ニ對スル周波數表目次）

左ノ排列ニ依ル局ノ「ABC」順目次

（イ）局別

局	呼出符號（註）	電波 周波數（波長）kc/s（m）
一	二	三

（ロ）國別

局	呼出符號（註）	電波 周波數（波長）kc/s（m）	備考
一	二	三	四

（註）各周波數ノ各別ノ呼出符號ハ當該周波數ト相對シテ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第五卷　無線放送局局名錄

甲部　局ノ「ABC」順目次

局名	呼出符號	乙部參照頁
一	二	三

乙部　局ノ明細表

（國名又ハ局名）「ABC」順ニ依ル）

局名符號	呼出周波數（波長）kc/s（m）	發射空中線ノ正確ナル地理的位置（註）	空中線電力 kw	發射ヲ行フ主管廳又ハ企業ノ名稱及所在地	備考
一	二	三	四	五	六	七

（註）「グリニッヂ」子午線

周波數表

一　通則

（イ）固定局、陸上局及無線放送局ニ關シテハ主管廳ハ此等ノ局ニ割當テラレタル各周波數ニ對スル完全ナル明細表ヲ聯合事務局ニ通告ス（第七條第五項參照）

（ロ）移動局ニ關シテハ完全ナル明細表ヲ示サズ各國ニ對シ各種類ノ局（船舶局、航空機局、其ノ他ノ運轉機局）ニ付此等ノ局ニ留保セラレタル周波數帶中右局ハ割當テラレタル周波數ヲ示スニ止ム

例

5525 kc/s(54.30m) station de navire Etats-Unis d'Amérique.

5690 Kc/s(52,72m) station d' aéronef Brésil.

（ハ）特別業務ヲ行フ局竝ニ素人局及私設實驗局ニ割當テラレタル周波數ハ國別ニ各種類ノ局ニ付一括シテ之ヲ記載ス

【例　3500 à 4000 Kc/s (85,71 à 75m) stations d'amateur (Canada)】

（ニ）周波數表ノ使用ヲ容易ナラシムル爲聯合事務局ハ各員ニ記載セラルル周波數ニ相當スル分配表ノ周波數帶ヲ其ノ頁ニ記載ス

【後略】

【例　7300 à 8200 kc/s (41,10 à 36, 50m) services fixes】

（ホ）周波數表中ニ於テ使用セラルル技術上ノ術語及表示ニ付テハ國際無線通信諮問委員會ノ意見ヲ參照センコトヲ主管廳ニ勸告ス

二　通告

（イ）第三欄(イ)ニ記載スベキ周波數ノ通告ノ日附ハ聯合事務局ガ當該國ノ一局ニ對スル該周波數ノ最初ノ通告ノ際該局ト相對シテ第三欄(ロ)ニ該新設局ト相對シテ前記ノ最初ノ通告ノ日附ヲ記載シ第三欄(ロ)ニ該新設局ノ日附ヲ記載ス

本周波數表ニ於テ國トハ其ノ境域内ニ局ノ設置セラレタル國ヲ謂フ

（ロ）一國ノ一局ニ對スル一周波數ノ最初ノ通告ノ際該局ト相對シテ第三欄(ロ)ニ記載スベキ日附ハ第三欄(イ)ニ掲グル日附ト同一トス爾後同一國ノ他ノ局ニ同一周波數ヲ割當ツルトキハ第三欄(イ)ニ該新設局ト相對シテ前記ノ最初ノ通告ノ日附ヲ記載ス

（ハ）通告（第三欄(ロ)）後二年ヲ經テ通告周波數ガ其ノ割當テラレタル局ニ依リ使用セラルルニ至ラザルトキハ關係記事ハ之ヲ抹消ス但シ關係主管廳ガ前記期間ノ滿了六月前ニ於テ聯合事務局ニ依リ義務的ニ協議ヲ受ケ其ノ存續ヲ請求シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ此ノ場合ニ於テハ第三欄(イ)及(ロ)ニ記載セラレタル通告ノ日附ハ之ヲ存置ス

局ノ名稱及地理的位置（A一、二、三、A四、特別ニ對スル周波數ノ最初ノ通告）	呼出符號	日附 近似 當該國ノ第五欄ニ掲グル局名ヲ揭ケタル局ニ對スル該周波數ノ最初ノ通告	日附 正確 當該國ノ第五欄ニ掲グル局名ヲ揭ケタル局ニ對スル該周波數ノ最初ノ通告	發射空中線ノ正確ナル地理的位置（註一）A一、二、三、A四及特別ニ對スル通常ノ最大變調周波數（註二）	空中線電力 發射ヲ行フ主管廳又ハ企業ノ名稱及所在地	發射型式（註三）「ポー」ニ於ケル業務ノ種類及通信ノ性質	周波數ノ容認サレタル變調度	第五欄ニ局名ヲ揭グル局ニ關シ主管廳又ハ會社ノ定ムル周波數ノ使用（註四）	備考
局ノ名稱及地理的位置（A一、二、三、A四、特別）	呼出符號	當該國ノ第五欄ニ掲グル局名ヲ揭ケタル局ニ對スル該周波數ノ最初ノ通告ノ日附	當該國ノ第五欄ニ掲グル局名ヲ揭ケタル局ニ對スル該周波數ノ最初ノ通告ノ日附	發射空中線ノ正確ナル地理的位置（註一）A一、二、三、A四及特別ニ對スル通常ノ最大變調周波數（註二）	空中線電力 kw 發射ヲ行フ主管廳又ハ企業ノ名稱及所在地	發射型式（註三）「ポー」ニ於ケル業務ノ種類及通信ノ性質	周波數ノ容認サレタル變調度 %	第五欄ニ局名ヲ揭グル局ニ關シ主管廳又ハ會社ノ定ムル周波數ノ使用（註四）	備考
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十

一	二	(イ) (ロ) 三	四	五	六	(イ) (ロ) 七	八	九	十	十一	十二	十三	十四

(註一)「グリニッヂ」子午線

(註二) 第九欄ニ掲ゲル數字ハ傳送ニ依リ占有セラルル周波數帶ノ幅ヲ決定スルコトヲ得シムルモノタルコトヲ要ス
傳送ガ兩側波帶ヲ使用スルトキハ數字ノ前ニ何等ノ記號ヲ附セズ傳送ガ一側波帶ノミヲ使用スルトキハ數字ノ前ニ「十」(搬送周波數ヨリ大ナル側波帶)又ハ「－」(搬送周波數ヨリ小ナル側波帶)ナル記號ヲ附シテ之ヲ示ス

(註三) 國際「モールス」字號ニ對スル「ポー」ニ於ケル速度ハ大體
0.03×－分ニ相當　ニ等シ

(註四) 主管廳ハ周波數表ニ完全ナル明細表ガ記載セラルル周波數ノ使用開始ヲ遲滯ナク聯合事務局ニ通告ス

附錄第七號　業務記號(第十五條及第十九條第一項第六節(イ)參照)

K	軍艦又ハ軍用航空機上ノ局
△	移動局上ノ無線羅針
■	第十九條第一項第六節(イ)ニ從ヒ五〇〇kc/s(六〇〇m)ニ依ル通信ノ制限セラルル通信輻輳地域ニ在ルモノトシテ區別セラレタル局
D30°	三十度(時計ノ針ノ方向ニ於テ眞北ヨリノ零乃至三百六十度ヲ以テ示ス)ノ最大輻射方向ノ指向性空中線
DR	反射裝置ヲ有スル指向性空中線
FA	航空局
FO	海岸局

【海軍】

FR	一般ノ電氣通信操縱系ニ接續セラレタル受信ノミヲ爲ス局
FS	人命ノ安全ノ唯一ノ目的ヲ以テ設置シタル陸上局
FX	固定地點間ノ無線通信業務ヲ行フ局
H24	晝夜無休ニ執務ヲ爲ス局
H16	十六時間ノ執務ヲ爲ス第二種船舶局
H8	八時間ノ執務ヲ爲ス第二種船舶局
HJ	日出ヨリ日沒マデ執務スル局(晝間執務)
HX	一定ノ執務時間ヲ有セザル局
CO	官用通信ノミヲ取扱フ局
CP	公衆通信ヲ取扱フ局
CR	制限公衆通信ヲ取扱フ局
CV	私企業ノ通信ノミヲ取扱フ局
FC	無指向式無線標識
RD	指向式無線標識
RG	無線羅針局
RT	回轉式無線標識
RV	可變指向式無線標識

附錄第八號　移動局ノ備付クベキ書類(第三條、第十條、第十二條、第十五條及附錄第六號參照)

イ　無線電信設備ヲ義務的ニ裝置スル船舶上ノ船舶局

第一　無線電氣許可書

第二　通信士ノ證明書

第三　記錄簿(無線電氣業務日誌)ニハ一切ノ種類ノ業務上ノ事件竝ニ陸上局又ハ移動局ト交換シタル通信ニシテ海難ノ通報ニ關スルモノヲ其ノ生ジタルトキニ記載ス船舶ノ規則ガ許ストキハ一日一回船舶ノ位置ヲ該記錄簿ニ記載スベシ

第四　「ABC」順ノ呼出符號表

第五　海岸局及船舶局局名錄

第六　特別業務ヲ行フ局ノ局名錄

第七　條約及附屬規則

第八　局ガ最頻繁ニ受付ヲ爲ス無線電報ノ著スル國ノ電信料金表

ロ　其ノ他ノ船舶局

イ號中ノ第一乃至第五ニ揭グル書類

ハ　航空機局

第一　イ號中ノ第一、第二及第三ニ揭グル書類

第二　航空局及航空機局局名錄

第三　場合ニ依リ關係國ノ權限アル航空機關ニ於テ業務ノ執行上局ニ必要アリト認ムル書類

附錄第九號　無線通信用略語表(第十六條參照)

一　「Q」略　語

(註一)(註二)

一切ノ業務ニ於テ使用スル略語

(註一)　略語ハ其ノ次ニ問符ヲ附スルトキハ問ノ樣式トナル

(註二)　QA, QB, QC, QD, QE, QF ノ符號ノ連續ハ特別航空略語ニ之ヲ留保ス

【海軍】

略語	問	答又ハ通知
QRA	貴局名如何	當局名ハ、、、、ナリ
QRB	汝ハ當局ヨリ幾何ノ概略距離ニ在リヤ	貴我兩局間ノ概略距離ハ、、、、海里(又ハ、、、、キロメートル)ナリ
QRC	何私企業(又ハ主管廳)ガ貴局ノ料金計算ヲ精算スルヤ	當局ノ料金計算ハ、、、、私企業(又ハ、、、、主管廳)之ヲ精算ス
QRD	汝ハ何處ニ行クヤ又何處ヨリ來レルヤ	我ハ、、、、ニ行ク又、、、、ヨリ來レリ
QRG	kc/s(又ハm)ニ於ケル我ガ正確ナル周波數(波長)ヲ我ニ示サルルヤ	汝ノ正確ナル周波數(波長)ハ、、、、kc/s(又ハ、、、、m)ナリ
QRH	我周波數(波長)ハ變化スルヤ	汝ノ周波數(波長)ハ變化ス
QRI	我發射ノ音調ハ正常ナリヤ	汝ノ發射ノ音調ハ變化ス
QRJ	汝ハ我ヲ受信スルニ困難ナリヤ我符號弱キヤ	我ハ汝ヲ受信シ難シ汝ノ符號弱キニ過グ
QRK	汝ハ我ヲ良好ニ受信スルヤ我符號ハ良好ナリヤ	我ハ汝ヲ良好ニ受信ス汝ノ符號ハ良好ナリ
QRL	汝ハ通信中ナリヤ	我ハ通信中ナリ(又ハ我ハ、、、、ト通信中ナリ)混信ヲ與フル勿レ
QRM	汝ハ混信ヲ受クルヤ	我ハ混信ヲ受ク
QRN	汝ハ空電ニ妨ゲラルルヤ	我ハ空電ニ妨ゲラル
QRO	我ハ電力ヲ增加スベキヤ	電力ヲ增加セラレヨシ

QRP	我ハ電力ヲ減少スベキヤ	電力ヲ減少セラレタシ
QRQ	我ハ一層速ニ送信スベキヤ	一層速ニ送信セラレタシ(一分時ニ付、、、、語)
QRS	我ハ一層緩ク送信スベキヤ	一層緩ク送信セラレタシ(一分時ニ付、、、、語)
QRT	我ハ送信ヲ中止スベキヤ	送信ヲ中止セラレタシ
QRU	汝ハ我ニ傳送スベキモノヲ有スルヤ	我ハ汝ニ傳送スベキモノヲ有セズ
QRV	汝ハ用意整ヒタリヤ	我ハ用意整ヒタリ
QRW	汝ガ、、、、kc/s(又ハ、、、、m)ヲ以テ、、、、ヲ喚呼シツツアルコトヲ我ヨリ彼ニ通知スベキヤ	我ガ、、、、kc/s(又ハ、、、、m)ヲ以テ、、、、ヲ喚呼シツツアルコトヲ彼ニ通知セラレタシ
QRX	我ハ待ツベキヤ、汝ハ何時再ビ我ヲ喚呼スルヤ	待タレタシ(又ハ我ガ、、、、トノ通信ヲ完了スル迄待タレタシ)我ハ、、、、時ニ(又ハ間モ無ク)再ビ汝ヲ喚呼スベシ
QRY	我順位如何	汝ノ順位ハ第、、、番(又ハ他ノ一切ノ指示ニ依ル)ナリ
QRZ	誰カ我ヲ喚呼シ居ルヤ	汝ハ、、、ヨリ喚呼セラレツツアリ
QSA	我符號ノ强サ如何(一乃至五)	汝ノ符號ノ强サハ、、、(一乃至五)ナリ
QSB	我符號ノ强サハ變化スルヤ	汝ノ符號ノ强サハ變化ス
QSD	我電鍵ノ操作ハ正確ナリヤ、我符號ハ明瞭ナリヤ	汝ノ電鍵ノ操作ハ不正確ナリ、汝ノ符號ハ不良ナリ
QSG	我ハ電報ヲ一度ニ、、、、通(又ハ一通)送信スベキヤ	電報ハ一度ニ、、、、通(又ハ一通)送信セラレタシ
QSJ	、、、、宛一語ニ付幾敎スベキ料金ハ汝ノ國內電信料ヲ合	、、、、宛一語ニ付幾敎スベキ料金ハ我國內電信料ヲ合

〔海軍〕

QSK	我ハ我一切ノ電報ノ送信ヲ繼續スベキヤ我ハ我符號ノ間ニ汝ヲ聽取シ得	シ、、、、「フラン」ナリ 汝ノ一切ノ電報ノ送信ヲ繼續セラレタシ我ハ必要アラバ汝ヲ中止スベシ
QSL	汝ハ我ニ受信證ヲ送リ得ルヤ	我ハ汝ニ受信證ヲ送ル
QSM	我ハ汝ニ送信シタル最後ノ電報ヲ反覆スベキヤ	汝ガ我ニ送信シタル最後ノ電報ヲ反覆セラレタシ
QSO	汝ハ、、、、ト直接(又ハ、、、、ノ中繼ニ依リ)通信シ得ルヤ	我ハ、、、、ト直接(又ハ、、、、ノ中繼ニ依リ)通信スルコトヲ得
QSP	汝ハ無料ニテ、、、、へ中繼セラルルヤ	我ハ無料ニテ、、、、へ中繼スベシ
QSR	、、、、ヨリ受ケタル遭難呼出ハ處理セラレタルヤ	、、、、ヨリ受ケタル遭難呼出ハ、、、、ニ依リ整理セラレタリ
QSU	我ハ、、、、kc/s(又ハ、、、、m)又ハ型式A一、A二、A三若ハBノ電波ニ於テ送信(又ハ應答)スベキヤ	、、、、kc/s(又ハ、、、、m)又ハ型式A一、A二、A三若ハBノ電波ニ於テ送信(又ハ應答)セラレタシ
QSV	我ハ「VVV」ノ連續ヲ傳送スベキヤ	「VVV」ノ連續ヲ傳送セラレタシ
QSW	汝ハ、、、、kc/s(又ハ、、、、m)又ハ型式A一、A二、A三若ハBノ電波ニ於テ送信セラルルヤ	我ハ、、、、kc/s(又ハ、、、、m)又ハ型式A一、A二、A三若ハBノ電波ニ於テ送信セントス(又ハ送信スベシ)
QSX	汝ハ、、、、kc/s(又ハ、、、、m)ニ於テ、、、、(呼出符號)ヲ聽取セラルルヤ	我ハ、、、、kc/s(又ハ、、、、m)ニ於テ、、、、(呼出符號)ヲ聽取ス
QSY	我ハ電波ノ型式ヲ變更セズ、、、、kc/s(又ハ、、、、m)ニ於ケル送信ニ移ルベキヤ	電波ノ型式ヲ變更セズ、、、、kc/s(又ハ、、、、m)ニ於ケル送信ニ移ラレタシ

〔海軍〕

	又ハ
QSZ	我ハ他ノ電波ニ於ケル送信ニ移ルベキヤ
QTA	我ハ各語又ハ各集合ヲ二回傳送スベキヤ
	我ハ第、、、號電報ヲ傳送セラレザリシモノトシテ取消スベキヤ
QTB	汝ハ我語數計算ニ同意スルヤ
QTC	汝ハ傳送スベキ電報ヲ何通有スルヤ
QTE	汝ヨリノ我眞方位如何
	又ハ
	、、、、(呼出符號)ヨリノ我眞方位如何
	又ハ
	、、、、(呼出符號)ヨリノ眞方位如何
QTF	汝ノ管理スル無線羅針局ノ爲シタル測定ニ基ク當局ノ位置ヲ我ニ示サルルヤ
	我ニ於テ汝ノ無線羅針方位ヲ測定シ得ル爲汝ハ、、、、(又ハ、、、、、、m)ニ於テ五十秒間汝ノ呼出符號ヲ終ニ十秒間他ノ電波ニ於ケル送信ニ移ラレタシ
	各語又ハ各集合ヲ二回傳送セラレタシ
	第、、、、號電報ヲ傳送セラレザリシモノトシテ取消サレタシ
	我ハ汝ノ語數計算ニ同意セズ我ハ各語ノ最初ノ文字及各數ノ最初ノ數字ヲ反覆ス
	我ハ汝ヘノ(又ハ、、、、、ヘノ)電報、、、、通ヲ有ス
	我ヨリノ汝ノ眞方位ハ、、、、度ナリ
	又ハ
	、、、、(呼出符號)ヨリノ汝ノ眞方位ハ、、、、(時)ニ於テ、、、、度ナリ
	又ハ
	、、、、(呼出符號)ヨリノ、、、、(呼出符號)ノ眞方位ハ、、、、(時)ニ於テ、、、、度ナリ
	我管理スル無線羅針局ノ爲シタル測定ニ基ク貴局ノ位置ハ緯度、、、、經度、、、、ナリ
	汝ガ我無線羅針方位ヲ測定シ得ル爲我ハ、、、、kc/s(又ハ、、、、m)ニ於テ五十秒間我呼出符號ヲ終ニ十秒間

〔海軍〕

QTH	秒間ノ線ヲ附シ傳送セラルルヤ
	緯度及經度ニ於ケル(又ハ他ノ一切ノ指示ニ依ル)汝ノ位置如何
QTI	汝ノ眞針路如何
QTJ	汝ノ速力如何
QTM	我ヲシテ我方位及我距離ヲ決定セシムル爲無線電氣符號及水中音響符號ヲ傳送セラレタシ
QTO	汝ハ岸壁(又ハ港)ヨリ出デタルヤ
QTP	汝ハ岸壁(又ハ港)ニ著カントスルヤ
QTQ	汝ハ國際通信書ニ依リ當局ト通信シ得ルヤ
QTR	正確ナル時刻如何
QTU	當局ノ執務時間如何
QUA	汝ハ、、、、(移動局ノ呼出符號)ノ消息ヲ知ルヤ
QUB	汝ハ、、、、(觀測地)ノ視界、雲ノ高サ、地上ノ風ニ關スル情報ヲ右順序ニ於テ我ニ通報シ得ルヤ
QUC	汝カ、、、、(移動局ノ呼出符號)ヨリ受信シタル最後ノ電報ハ何ナルヤ
QUD	汝ハ、、、、(移動局ノ呼出符號)カ發リタル緊急信號ノ線ヲ附シ傳送セントス
	我ハ位置ハ緯度、、、、、經度、、、、(又ハ他ノ一切ノ指示ニ依ル)ナリ
	我眞針路ハ、、、、度ナリ
	我速力ハ一時間ニ付、、、、「ノット」(又ハ、、、、キロメートル)ナリ
	汝ヲシテ汝ノ方位及汝ノ距離ヲ決定セシムル爲無線電氣符號及水中音響符號ヲ傳送ス
	我ハ岸壁(又ハ港)ヨリ出デタリ
	我ハ岸壁(又ハ港)ニ著カントス
	我ハ國際通信書ニ依リ貴局ト通信セントス
	正確ナル時刻ハ、、、、ナリ
	當局ノ執務時間ハ、、、、ヨリ、、、、迄ナリ
	、、、、(移動局ノ呼出符號)ノ消息ハ左ノ如シ
	請求セラレタル情報ハ左ノ如シ
	、、、、
	我ノ、、、、(移動局ノ呼出符號)ヨリ受信シタル最後ノ電報ハ、、、、ナリ
	我ハ、、、、(時)ニ(、、、、移動局ノ呼出符號)カ送リタル緊急信號ヲ

〔海軍〕

QUF	受信シタリヤ
	汝ハ、、、、(移動局ノ呼出符號)ガ送リタル遭難信號ヲ受信シタリヤ
QUG	汝ハ著水(又ハ著陸)ヲ餘儀ナクセラレントスルヤ
QUH	汝ハ海面ニ於ケル現在ノ氣壓ヲ我ニ示サルルヤ
QUJ	汝ハ我ガ貴方ニ向フ爲無風ニ於テ採ルベキ眞針路ヲ我ニ示サルルヤ

二　諸種ノ略語

略語	意義
QUF	受信シタリヤ 汝ハ、、、、(移動局ノ呼出符號)ガ送リタル遭難信號ヲ受信シタリヤ
QUG	汝ハ著水(又ハ著陸)ヲ餘儀ナクセラレントスルヤ 我ハ、、、、(場所)ニ著水(又ハ著陸)ヲ餘儀ナクセラル
QUH	汝ハ海面ニ於ケル現在ノ氣壓ヲ我ニ示サルルヤ 海面ニ於ケル現在ノ氣壓ハ、、、、(單位)ナリ
QUJ	汝ハ我ガ貴方ニ向フ爲無風ニ於テ採ルベキ眞針路ヲ我ニ示サルルヤ 汝ガ當方ニ向フ爲無風ニ於テ採ルベキ眞針路ハ、、、、(時)ニ於テ、、、、度ナリ
QUF	我ハ、、、、(時ニ)、、、、(移動局ノ呼出符號)ガ送リタル遭難信號ヲ受信シタリヤ 我ハ、、、、(時)ニ、、、、(移動局ノ呼出符號)ガ送リタル遭難信號ヲ受信シタリ
QUG	我ハ、、、、(場所)ニ著水(又ハ著陸)ヲ餘儀ナクセラレントスルヤ 我ハ、、、、(場所)ニ著水(又ハ著陸)ヲ餘儀ナクセラル
QUH	海面ニ於ケル現在ノ氣壓ハ、、、、(單位)ナリ 汝ガ當方ニ向フ爲無風ニ於テ採ルベキ眞針路ハ、、、、(時)ニ於テ、、、、度ナリ
QUJ	汝ハ我ガ貴方ニ向フ爲無風ニ於テ採ルベキ眞針路ヲ我ニ示サルルヤ 汝ガ當方ニ向フ爲無風ニ於テ採ルベキ眞針路ハ、、、、(時)ニ於テ、、、、度ナリ
QUF	受信シタリヤ 汝ハ、、、、(移動局ノ呼出符號)ガ送リタル遭難信號ヲ受信シタリヤ
QUG	汝ハ著水(又ハ著陸)ヲ餘儀ナクセラレントスルヤ 我ハ、、、、(場所)ニ著水(又ハ著陸)ヲ餘儀ナクセラル
QUH	汝ハ海面ニ於ケル現在ノ氣壓ヲ我ニ示サルルヤ 海面ニ於ケル現在ノ氣壓ハ、、、、(單位)ナリ
QUJ	汝ハ我ガ貴方ニ向フ爲無風ニ於テ採ルベキ眞針路ヲ我ニ示サルルヤ 汝ガ當方ニ向フ爲無風ニ於テ採ルベキ眞針路ハ、、、、(時)ニ於テ、、、、度ナリ

【海軍】

BQ	BQニ對スル返信
CL	我ハ閉局セントス
CS	呼出符號(呼出符號ヲ請求シ又ハ之ガ反覆ヲ請求スル爲使用スルコト)
DB	我ハ汝ニ方位ヲ示スコトヲ得ズ汝ハ當局ノ目盛シタル「セクター」內ニ在ラズ
DC	我ノ符號ノ最低限ハ方位ノ測定ニ適ス
DF	、、、、(時)ニ於ケル汝ノ方位ハ當局ノ疑ハシキ「セクター」內ニ於テ、、、、ナリ但シ二度ノ誤差アルヤモ知レズ
DG	通知シタル方位ニ誤差ヲ發見シタルトキハ通知アリタシ
DI	汝ノ符號不良ナル爲方位疑ハシ
DJ	混信ノ爲方位疑ハシ
DL	、、、、(時)ニ於ケル汝ノ方位ハ當局ノ疑ハシキ「セクター」內ニ於テ、、、、度ナリ
DO	方位疑ハシ後刻又ハ、、、、(時)ニ再ビ測定ヲ要求アレ
DP	五十哩ヲ超ユルトキハ測定ノ誤差ハ二度ニ達スルコトアルベシ
DS	汝ノ送信機ヲ調整セヨ汝ノ符號ノ最低限ハ幅廣キニ過グ
DT	我ハ汝ニ方位ヲ示スコトヲ得ズ汝ノ符號ノ最低限ハ幅廣キニ過グ
DY	我ハ變方向式ナリ汝ノ當局ニ對スル概略方向ハ何度ナリヤ
DZ	汝ノ方位ノ測定ハ相互的ナリ(無線羅針局關ノ中央局ガ同一關ニ屬スル他ノ局ト通信スルトキニノミ使用スルコト)
ER	當方ハ、、、、(線路ノ指示ノ傳送上移動局名ノ前ニ附シテ使用スルコト)
GA	傳送ヲ再開セヨ(昨ニ固定業務ニ於テ使用スルコト)
JM	我ヨリ傳送ヲ爲シ得ルトキハ長點ノ連續ヲ傳送セヨ、我傳送ヲ止メントスルトキハ短點ノ連續ヲ傳送セヨ(五〇〇

【海軍】

MN	kc/s 即六〇〇m ニ於テハ使用セザルコト）
NW	分時　（可待時間ヲ示ス爲使用スルコト）
OK	我ハ傳送ヲ再開ス（殊ニ固定業務ニ於テ使用スルコト）
RQ	我ハ同意ス
SA	請求ノ表示
SF	航空機局ノ名稱ノ表示（通路ノ指示ノ傳送上使用スルコト）
SN	航空局ノ名稱ノ表示
SS	海岸局ノ名稱ノ表示
TR	船舶局ノ名稱ノ表示（通路ノ指示ノ傳送上使用スルコト）
UA	移動局ニ關スル事項ノ傳送
WA	同意ナリヤ
WB	、、、、ノ次ノ語（反覆ヲ請求スル爲問符ノ次ニ附シテ使用スルコト）
XS	、、、、ノ前ノ語（反覆ヲ請求スル爲問符ノ次ニ附シテ使用スルコト）
YS	空電
ABV	貴局發事務報參照
ADR	略體ニテ數字ヲ反覆セヨ（又ハ我ハ略體ニテ數字ヲ反覆ス）
CFM	名宛（反覆ヲ請求スル爲問符ノ次ニ附シテ使用スルコト）
COL	確認セヨ又ハ我ハ確認ス
	照校セヨ又ハ我ハ照校ス

【後筆】

ITP	句讀點算入
MSG	船舶業務ニ關スル電報ノ表示（前置符號トシテ使用スルコト）
NIL	我ハ汝ニ傳送スベキモノヲ有セズ（實同ニ對スル回答ガ否定的ナルコトヲ示ス爲「NIL」略語ノ次ニ使用スルコト）
PBL	領表（反覆ヲ請求スル爲問符ノ次ニ附シテ使用スルコト）
REF	、、、、ニ關シ（又ハ、、、、ヲ參照セヨ）
RPT	反覆セヨ又ハ我ハ反覆ス（電報ノ全部又ハ一部ノ反覆ヲ請求スル爲又ハ反覆ヲ爲ス爲本略語ノ次ニ該當ノ表示ヲ附シテ使用スルコト）
SIG	署名（反覆ヲ請求スル爲問符ノ次ニ附シテ使用スルコト）
SVC	私報ニ關スル局報ノ表示（前置符號トシテ使用スルコト）
TFC	電報
TXT	本文（反覆ヲ請求スル爲問符ノ次ニ附シテ使用スルコト）

【後筆】

附錄第十號　符號ノ强サヲ表スニ使用スル標準（第十六條參照）

一　－　辛フジテ聞ユ　讀ミ得ズ

二　－　弱シ　時時讀ミ得

三　－　稍良好　讀ミ得ルモ困難ナリ

四　－　良好　讀ミ得

五　－　極メテ良好　完全ニ讀ミ得

附錄第十一號（第二十七條參照）

……国際ノ為替局ト交換セラレタル無線電信ノ報告表

……年

……月　　陸上局……

符号	局名	通信ノ無線電信ノ種類	語数	料金ノ主ナル方面				摘要
				金「フラン」	「チャンチーム」	金「フラン」	「チャンチーム」	
一	二	三	四	五				六
s/s Ile de France	合衆国ノ一地帯		九〇					至急　一通十三語
s/s Paris	アトランタル		六五					
s/s Paris	日本		一九					
s/s France	s/s Espagne		四六					至急　二通十五語

附表第十二號　小電力ノ為替無線電局ノ業務ニ於ケル手順（第二十九條參照）

一　手順ノ例左ノ如シ（注一）

第一　「A」局ヘ呼出

Allo B, allo B, A appelle, A appelle radiotélégramme pour vous, radiotélégramme pour vous, commutez (over).

第二　「B」局ヘ應答

Allo A, allo A, B répond, B répond, envoyez votre radiotélégramme envoyez votre radiotélégramme, commutez (over).

〔裏面〕

〔裏面〕

第三　「A」局ヘ應答

Allo B, A répond, radiotélégramme commence, de····n°···· nombre de mots ···· jour ···· heure ···· adresse ···· texte····signature·····,

transmission du radiotélégramme terminée, je répète, radiotélégramme commence de ···· n° ···· nombre de mots·····jour ···· heure ···· adresse ···· texte ···· signature ····, radiotélégramme terminé, commutez (over).

第四　「B」局ヘ應答

Allo A, B répond votre radiotélégramme commence, de ···· n° ···· nombre de mots ···· jour ···· heure ···· adresse ···· texte ···· signature·····.

votre radiotélégramme terminé, commutez (over).

第五　「A」局ヘ應答

Allo B, A répond, exact, exact, coupant.

第六　茲ニ於テ「A」局ヘ通信通信ヲ終了シ他局ヘ應答ノ準備ヲ爲ス

備考　通信通信ヘ初ニ於テ呼出手順ヘ呼出局及被呼局トモニ同之ヲ行フ通信ガ成立シタルノチ呼出手順ヘ一回ノミ之ヲ行フ

二　呼出符號、通信用語及語數ヘ第一ニ掲ケタル表ニ從ヒ之ヲ爲スベシ

指示スベキ數字（注二）	當ムベキ文字	當ニ方ニ使用スベキ語	當ムベキ文字	當ニ方ニ使用スベキ語
1	A	Amsterdam	N	New York
2	B	Baltimore	O	Oslo
3	C	Casablanca	P	Paris

4	D　Danemark
5	E　Edison
6	F　Florida
7	G　Gallipoli
8	H　Havana
9	I　Italia
0	J　Jérusalem
小數點	K　Kilogramme
除線	L　Liverpool
	M　Madagascar
	Q　Québec
	R　Roma
	S　Santiago
	T　Tripoli
	U　Upsala
	V　Valencia
	W　Washington
	X　Xanthippe
	Y　Yokohama
	Z　Zürich

三　受信局ガ無線電報ヲ正確ニ受信シタルコトヲ確信スルトキハ第一項第四ニ揭グル反覆ハ照校無線電報ニ關セザル限リ其ノ必要ナシ反覆ヲ省クトキハ「B」局ハ左ノ樣式ニ依リ傳送スル無線電報ノ受信證ヲ送ル

Allo A, B répond, bien reçu votre radiotélégramme, commutez (cover).

（註一）　歐羅巴電話業務ニ於テハ「Allo」ナル語ノ使用ヲ禁ズ

（註二）　一切ノ數字ノ傳送ハ二回反覆スル「en nombre」ナル語ヲ以テ豫告シ且終了ス

附錄第十三號　無線羅針方位測定（第三十條參照）

一　一般心得

イ　移動局ニ於テ方位測定ノ請求ヲ爲サントスルトキハ一箇又ハ數箇ノ無線羅針局ヲ呼出ス前局名錄ニ記キ左ノ事項ヲ調査スルコトヲ要ス

第一　無線羅針方位測定ヲ求メンガ爲呼出スベキ局ノ呼出符號

第二　無線羅針局ガ聽守スル電波及測定ヲ行フ一箇又ハ數箇ノ電波

〔海軍〕

第三　呼出スベキ無線羅針局ト特別線條ニ依ル連絡ニ依リ一團ト爲リ得ベキ無線羅針局

ロ　移動局ノ執ルベキ手續ハ各場合ニ依リ異ル一般ニ左ノ事項ヲ考慮スルコトヲ要ス

第一　數箇ノ無線羅針局ガ測定ヲ行フ爲ノ電波タルト其ノ他ノ電波タルトヲ問ハズ同一ノ電波ニ於テ聽守セザルトキハ測定ハ各局又ハ一定ノ電波ヲ使用スル局ノ各集合ニ對シ別別ニ之ヲ請求スルコトヲ要ス

第二　關係無線羅針局ノ全部ガ同一ノ電波ニ於テ聽守シ共通ノ電波聽守電波以外ノ他ノヲ以テ測定ヲ行ヒ得ルトキハ唯一ノ電波ヲ用ヰルコトヲ得發射ニ依リ此等ノ局ニ於テ同時ニ測定ヲ爲シ得ル爲其ノ全部ヲ一緒ニ呼出スコトヲ要ス

第三　數箇ノ無線羅針局ガ特別線條ニ依リ一團ヲ爲ストキハ各局ガ送信機ヲ有スル場合ニ於テモ其ノ中ノ一局ノミヲ呼出スコトヲ要ス然レドモ此ノ場合移動局ハ必要アラバ呼出中ニ自局ガ測定ヲ求メントスル無線羅針局ヲ呼出符號ニ依リ示スコトヲ要ス

二　手續

イ　移動局ハ無線羅針局ヲ局名錄ニ其ノ聽守電波トシテ示サレタル電波ヲ以テ呼出ス該移動局ハ左ノ意義ヲ有スル「Q」符ナル略語ヲ傳送ス

〔海軍〕

「我ガ喚呼シツツアル無線羅針局ヨリノ我無線羅針方位ヲ知リタシ」

又ハ

「汝ノ呼出符號ノ局ヨリノ我無線羅針方位ヲ知リタシ」

又ハ

「汝ノ管理スル無線羅針局團ヨリノ我無線羅針方位ヲ知リタシ」

汝ニ必要ナル呼出符號ヲ送リ終ニ必要アラバ測定ヲ行フ爲使用セントスル電波ヲ示ス然ル後移動局ハ指示ヲ待ツ

ロ　被呼無線羅針局ハ測定ヲ行フ準備ヲ爲ス該局ハ必要アラバ連絡無線羅針局ニ通知ス無線羅針局ノ準備整ヒタルトキハ其ノ中ノ送信機ヲ有スル局ハ其ノ呼出符號ノ「ABC」順ニ依リ移動局ノ呼出ニ應答ス此ノ場合ニ於テ自局ノ呼出符號ノ次ニ「M」ナル文字ヲ附ス無線羅針局團ノ場合ニ於テハ被呼局ハ團中ノ他ノ局ニ先通報ヲ爲シ此等ノ局ニ於ケル測定ノ準備整ヒタルトキハ直ニ移動局ニ通知ス

ハ　移動局ハ必要アラバ新傳送電波ノ準備ヲ爲シタル後測定ヲ行フニ十分ナル時間自局ノ呼出符號場合ニ依リ他ノ符號ヲ之ニ附シタルモノヲ傳送シテ應答ス

ニ　無線羅針局ニ於テ測定ノ結果良好ナリト認ムルトキハ測定時刻次ニ「QTE」（汝ノ我ヨリノ眞方位ハ、、、、度ナリ）ナル符號其ノ次ニ無線羅針局ヨリノ移動局ノ眞方位ヲ度ヲ以テ示ス數字三箇（0

〇〇乃至三五九〇ノ集合ヲ傳送ス

無線羅針局ガ測定ノ結果不良ト認ムルトキハ移動局ニ對シ　ハ　ニ揭グル發射ノ反復ヲ求ム

ホ　移動局ガ測定ノ結果ノ通報ヲ受ケタルトキハ直ニ無線羅針局ニ對シ之ヲ反覆ス然ルトキハ無線羅針局ハ反復ノ正確ナルコトヲ通知シ又ハ場合ニ依リ右通報ヲ反覆シテ校正ス無線羅針局ニ於テ移動局ガ右通報ヲ正確ニ受ケタルコトヲ確知スルトキハ「通信終了」ノ符號ヲ傳送ス此ノ符號ハ測定ノ終了シタル表示トシテ移動局之ヲ反覆ス

ヘ　左ノ事項ハ之ヲ局名錄ニ揭グ

(イ)　方位ヲ得ル爲使用スベキ符號

(ロ)　移動局ノ行フベキ發射ノ時間

(ハ)　當該無線羅針局ノ使用スベキ時

附錄第十四號　國際無線通信諮問委員會內部規則（第三十一條參照）

第一條

管理主管廳トハ國際無線通信諮問委員會ノ會合ヲ組織スルコトヲ任務トスル主管廳ヲ謂フ管理主管廳ハ前回ノ會合ノ閉會ヨリ五月後ニ諮問委員會ノ事務ヲ行フコトヲ開始ス該主管廳ノ職務ハ其ノ組織シタル會合ノ閉會ヨリ五月後ニ滿了ス

第二條

管理主管廳ハ其ノ組織ヲ委任セラレタル會合ノ場所及確定期日ヲ定ム管理主管廳ハ右期日ノ少クトモ六月前ニ國際電氣通信聯合ノ一切ノ主管廳並ニ此等ノ主管廳ノ媒介ニ依リ會社、會社ノ集合及一般無線通信規則第三十一條ニ揭グル國際無線電氣機關ニ右會合ニ對スル招請狀ヲ發ス

第三條

一　第一回ノ總會ハ管理主管廳之ヲ開ク該總會ハ必要ナル委員會ヲ設置シ審議スベキ問題ヲ其ノ種類ニ從ヒ委員會ニ分配ス該總會ハ又國際無線通信諮問委員會ノ議長及副議長並ニ各委員會ノ議長及一人又ハ數人ノ副議長ヲ指名ス

二　國際無線通信諮問委員會ノ議長ハ總會ヲ主宰シ且會合ノ議事ノ一般的指揮ヲ爲ス副議長ハ議長ヲ補佐シ且議長不在ノ場合ニ於テハ之ニ代ル

第四條

國際無線通信諮問委員會ノ會合ノ書記局ハ聯合事務局ト協力シ管理主管廳ニ於テ之ヲ確保ス

第五條

原則トシテ議事錄及報告ハ代表委員ノ陳述ヲ其ノ要點ノミニ付採錄ス尤モ各代表委員ハ遲クトモ會議終了ノ翌朝迄ニ正文ヲ提出スルコトヲ

〔海軍〕

條件トシテ其ノ爲シタル一切ノ陳述ノ摘要又ハ全部ヲ議事錄又ハ報告ニ揭載スルコトヲ請求スル權利ヲ有ス

第六條

一　重大ナル理由ニ因リ會議ニ出席スルコト能ハザル代表部ハ其ノ表決權ヲ他ノ代表部ニ委任スル權能ヲ有ス尤モ此ノ場合ニ於テ同一ノ代表部ハ自己ノ表決權ヲ合シ二箇ヲ超ユル代表部ノ表決權ヲ合シ行使スルコトヲ得ズ

二　提案ハ爲サレタル投票ノ絕對多數ヲ得タル場合ニ限リ之ヲ採擇ス賛否同數ノ場合ニ於テハ提案ハ之ヲ棄却ス議事錄ニハ提案ニ賛成投票ヲ爲シタル代表部ノ數及反對投票ヲ爲シタル代表部ノ數ヲ記載ス

三　投票ハ擧手ニ依リ又ハ一代表部ノ請求アルトキハ參加國ノ佛蘭西語名ノ「アルファベット」順ニ於ケル指名點呼ニ依リ之ヲ行フ指名點呼ノ場合ニ於テ議事錄ニハ提案ニ賛成投票ヲ爲シタル代表部及反對投票ヲ爲シタル代表部ヲ記載ス

第七條

一　總會ニ依リ設置セラレタル委員會ハ之ヲ小委員會ニ又小委員會ハ之ヲ小小委員會ニ分ツコトヲ得

二　各委員會ノ議長ハ各小委員會及各小小委員會ノ議長ノ選任ヲ所屬委員會ノ承認ニ附ス各委員會、小委員會及小小委員會ハ各自其ノ報告者ヲ任命ス

第二十九類　國際電氣通信條約

三　各委員會ノ發表スル意見ニハ該意見ガ投票者ノ全部ノ一致ヲ以テ發セラレタルトキハ「全部ノ一致ヲ以テ」ナル用語ヲ附シ又該意見ガ多數決ヲ以テ採擇セラレタルトキハ「多數決ヲ以テ」ナル用語ヲ附スルコトヲ要ス

第八條

聯合事務局ハ主管廳ノ用ニ供スル一般的文書ノ集中及刊行ノ爲國際無線通信諮問委員會ノ各種ノ議事ニ參加ス

第九條

一　最終總會ニ於テ議長ハ意見表、未決問題表及各委員會ヨリ提出セラレタル新問題表ヲ報告ス

二　議長ハ場合ニ依リ發表サレタル意見ノ最終的採擇ヲ承認ス總會ニ於テ表決ヲ爲ストキハ「全部ノ一致ヲ以テ」又ハ「多數決ヲ以テ」ナル用語ヲ該表決ニ適用ス

三　未決問題及新問題ハ之ヲ研究セシムルコトニ會議ノ意見一致シタルトキハ議長之ヲ記錄ス次デ議長ハ何レノ主管廳ガ該問題ニ關スル提案ノ準備ニ當ルコトヲ希望スルヤ及他ノ何レノ主管廳又ハ無線電氣經營企業ガ該準備ニ協力セントスルヤヲ問フ其ノ答辯ニ從ヒ議長ハ次回會合ノ日程ニ揭載スベキ正式問題表ヲ作成シ之ニ主宰主管廳並ニ協力スベキ主管廳及無線電氣經營私企業ヲ指示ス該表ハ之ヲ會議ノ議事錄ニ記載ス

四　國際無線通信諮問委員會ハ同總會ニ於テ關係代表部ノ提議又ハ承諾ニ依リ次回會合ヲ招集スベキ主管廳及該會合ノ概略ノ期日ヲ指定ス

第十條

一　會合ノ閉會後研究ニ附セラレタル問題ノ準備ハ次回會合組織ノ爲指定セラレタル主管廳（新管理主管廳）ニ之ヲ委託ス之ニ反シ未了ノ事務ハ舊管理主管廳ニ之ヲ委託シ該主管廳ハ聯合事務局ト協力シテ其ノ決了ニ當ル

二　舊管理主管廳ハ遲クトモ該會合ノ閉會ヨリ五月後ニ新管理主管廳ニ書類ヲ送付ス

第十一條

會合終了後主管廳及無線電氣經營會社ガ諮問委員會ニ付議スルコトヲ希望スル他ノ一切ノ問題ハ新管理主管廳ニ之ヲ提出ス該主管廳ハ該問題ヲ次回會合ノ日程ニ掲載ス尤モ如何ナル問題ト雖少クトモ會合ノ期日ヨリ六月前ニ之ヲ管理主管廳ニ通知セザルトキハ該日程ニ之ヲ掲載スルコトヲ得ズ

第十二條

一　會合前ニ管理主管廳ニ送付セラレ又ハ會合中ニ提出セラレタル會合ニ關スル一切ノ書類ハ聯合事務局ニ於テ管理主管廳ノ協力ニ依リ之ヲ印刷シ且配布ス

二　問題ノ研究ガ主宰主管廳ニ委託セラレタルトキハ問題ノ研究ヲ行フニ必要ナル處置ヲ執ルコトハ該主管廳ニ屬ス協力スベキ主管廳及無線電氣經營會社ハ主宰主管廳ガ其ノ一般報告及提案中ニ於テ考慮スルコトヲ得ル爲國際無線通信諮問委員會ノ會合ノ期日ヨリ六月前ニ該問題ニ關スル各自ノ報告書ヲ直接該主管廳ニ送付スルコトヲ要ス

三　尤モ主管廳及無線電氣經營會社ハ其ノ報告ガ聯合事務局ノ斡旋ニ依リ一切ノ關係主管廳及會社ニ直接且別箇ニ通知セラルルコトヲ希望スルトキハ又該報告書ノ謄本ヲ聯合事務局ニ送付スルノ自由ヲ有ス

第十三條

管理主管廳ハ諮問委員會ノ事務ニ協力シ得ベキ主管廳及認メラレタル無線電氣經營會社ト直接通信スルコトヲ得管理主管廳ハ書類ノ謄本少クトモ一通ヲ聯合事務局ニ送付ス

（備考）

國際電氣通信條約附屬一般無線通信規則

目次

第一條　定義
第二條　無線通信ノ祕密
第三條　許可書
第四條　機器ノ選擇
第五條　發射ノ種別
第六條　發射ノ質
第七條　周波數（波長）及發射型式ノ分配及使用
第八條　素人局及私設實驗局
第九條　移動局ノ具備スベキ條件
第十條　通信士ノ證明書
第十一條　指揮者ノ權限
第十二條　局ノ檢査
第十三條　違反ノ通告
第十四條　呼出符號
第十五條　業務書類
第十六條　移動業務ニ於ケル無線電信ノ一般手續
第十七條　「各局宛」一般呼出
第十八條　呼出
第十九條　移動業務ニ於ケル電波ノ使用
第二十條　混信
第二十一條　補助設備
第二十二條　遭難ノ信號及通信、警急信號、緊急信號及安全信號
第二十三條　移動業務ノ局ノ執務時間
第二十四條　移動業務ニ於ケル先順位ノ順位
第二十五條　無線電報ノ發信局ノ表示
第二十六條　無線電報ヲ傳送スベキ方向
第二十七條　無線電報ノ計算
第二十八條　公衆通信ノ航空無線業務
第二十九條　小電力ノ移動無線電話局ノ業務
第三十條　特別業務
第三十一條　國際無線通信諮問委員會（C. C. I. R.）
第三十二條　聯合事務局ノ費用
第三十三條　一般規則ノ施行
附錄第一號　周波數許容偏差及不安定度表
附錄第二號　發射ニ依リ占有セラルル周波數帶ノ幅ノ表
附錄第三號　電氣通信條約又ハ無線通信規則ノ違反報告
附錄第四號　第二種船舶局ノ執務時間
附錄第五號　第二種船舶局ノ執務時間
附錄第六號　業務書類
附錄第七號　業務記號
附錄第八號　移動局ノ備付クベキ書類
附錄第九號　無線通信用略語表
附錄第十號　符號ノ强サヲ表スニ使用スル標準
附錄第十一號　無線電報ノ計算ニ對スル總括表ノ樣式
附錄第十二號　小電力ノ移動無線電話局ノ業務ニ於ケル手續

（海軍）

附錄第十三號　無線羅針方位測定

附錄第十四號　國際無線通信諮問委員會內部規則

國際電氣通信條約附屬一般無線通信規則最終議定書

國際電氣通信條約附屬一般無線通信規則ノ署名ニ際シ下ニ署名スル全權委員ハ左ノ宣言ヲ承認ス

第一

獨逸國ノ全權委員ハ其ノ政府ガ無線電話ニ依リ爲サルル若干ノ特別新聞業務ノ爲一〇五kc/s（二八五七m）及一一七・五kc/s（二五五三m）ノ電波ノ使用ヲ存續スル權利ヲ留保スルコトヲ正式ニ宣言ス

第二

蘭領印度ノ全權委員ハ其ノ政府ガ傳送ヲ迅速又ハ容易ナラシムル唯一ノ目的ヲ以テ無線電報ヲ最近ノ陸上局ニ傳送セズシテ一移動局ノ媒介ニ依リ再送スルコトニ關スル一般規則第二十六條第一項第一節ノ終ノ二段ノ規定ヲ適用スルコトヲ自國ノ移動局ニ許サザル權利ヲ留保スルコトヲ正式ニ宣言ス

第三

「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ノ全權委員ハ其ノ政府ガ左ノ周波數帶ヲ下ニ列擧スル業務ノ爲使用スル權利ヲ留保スルコトヲ正式ニ宣言ス

一五〇乃至　二八五kc/s（二〇〇〇乃至一〇五三m）無線放送

二八五乃至　三一五kc/s（一〇五三乃至九五二m）無線標識

三一五乃至　三四〇kc/s（九五二乃至八八二m）航空業務及無線羅針

三四〇乃至　四二〇kc/s（八八二乃至七一四m）無線放送

五一五乃至　五五〇kc/s（五八三乃至五四五m）航空業務

九六〇〇乃至　九七〇〇kc/s（三一・二五乃至三〇・九三m）無線放送

一一七〇〇乃至一一九〇〇kc/s（二五・六四乃至二五・二一m）固定業務

一二一〇〇乃至一二三〇〇kc/s（二四・七九乃至二四・三九m）無線放送

一五三五〇乃至一五四五〇kc/s（一九・五四乃至一九・四二m）無線放送

一七八〇〇乃至一七八五〇kc/s（一六・八五乃至一六・八一m）無線放送

二一五五〇乃至二一七五〇kc/s（一三・九二乃至一三・七九m）無線放送

第四

本議定書中ニ於テ或周波數帶ノ使用ニ關シ「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ノ全權委員ニ依リ爲サレタル宣言ニ關聯シ中華民國ノ全權委員ハ其ノ政府ガ前記「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦政府ノ留保ノ施行ニ因リ惹起セラルルコトアルベキ一切ノ混信ニ對シ其ノ無線通信ヲ保護スル爲場合ニ依リ必要ナカルベキ一切ノ處置ヲ執ル權利ヲ留保スルコトヲ正式ニ宣言ス

第五

「ハンガリー」國ノ全權委員ハ其ノ政府ガ一般無線通信規則第七條（周波數ノ分配及使用）ニ關スル「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ノ留保ニ因リ其ノ政府ガ「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ニ依リ設置セラレタル局ノ發射ガ「ハンガリー」國ノ局ノ發射ヲ甚シク妨害スル場合ニ於テハ同條第五項第二節ノ規定ヲ適用セザル權利ヲ留保スルコトヲ正式ニ宣言ス

第六

本議定書中ニ於テ或周波數帶ノ使用ニ關シ「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦全權委員ニ依リ爲サレタル宣言ニ關聯シ日本國ノ全權委員ハ其ノ政府ガ前記「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦政府ノ留保ノ施行ニ因リ惹起セラルベキ一切ノ混信ニ對シ其ノ無線通信ヲ保護スル爲場合ニ依リ必要ナルベキ一切ノ處置ヲ執ル權利ヲ日本、朝鮮、臺灣、樺太、關東州租借地及日本國ノ委任統治ノ下ニ在ル南洋群島ノ爲ニ留保スルコトヲ正式ニ宣言ス

第七

「ポーランド」國及「ルーマニア」國ノ全權委員ハ或周波數帶ノ使用ニ關シ既ニ爲サレタル留保ニ鑑ミ滿足ナル地域的協定（歐羅巴會議）又ハ特別協定ガ成立セザル場合ニ於テハ前記留保ノ施行ニ因リ惹起セラルルコトアルベキ一切ノ妨害ニ對シ航空業務ノ基本的必要ヲ保護スル爲其ノ各政府ガ關係隣接國ト協議ノ上一般無線通信規則第七條ニ依リ割當テラレタル周波數帶以外ノ或周波數ヲ航空業務ニ使用スルコトニ關シ場合ニ依リ反則ヲ爲シ及特ニ同條第五項第二節ニ定ムル期間ヲ待タザル權利ヲ留保スルコトヲ正式ニ宣言ス

右證據トシテ下ノ全權委員ハ本議定書ヲ作成シ西班牙國政府ノ記錄ニ保存セラルベキ右議定書ノ一通ニ署名シタリ其ノ謄本一通ハ前記議定書ニ署名シタル各政府ニ交付セラルベシ

千九百三十二年十二月九日「マドリッド」ニ於テ之ヲ作成ス

（各國全權委員記名省略）

●國際電氣通信條約附屬追加無線通信規則

昭和八年十二月二十八日
遞信省告示第二千九百二十四號

昭和八年十二月十二條約第十號「マドリッド」締結國際電氣通信條約附屬追加無線通信規則左ノ如シ

國際電氣通信條約附屬追加無線通信規則

第一條　無線通信ニ對スル電信規則及電話規則ノ適用

一　電信規則及電話規則ノ規定ハ無線通信規則ニ別段ノ規定ナキ限リ無線通信ニ之ヲ適用ス

二　（一）無線電報ハ左ノ各條ニ規定スル例外ヲ除クノ外電信規則ニ於テ電報ニ關シ定メラルル規定ニ從ヒ記載セラレ且取扱ハル

（二）國際通信書ノ文字ノ集合ノ使用ハ船舶ト交換スル無線電報ニ

之ヲ許可ス

三　「RADIO」又ハ「AERADIO」ナル語ハ夫々局名錄ニ於テ無線電報ノ名宛中ニ記載セラルル陸上局名ニ常ニ附記セラルルヲ以テ此ノ語ハ無線電報ノ傳送上額表ノ始ニ局用記事トシテ附セザルコトヲ要ス

第二條　料金

一　移動局ヨリ發シ若ハ之ニ著スル無線電報又ハ移動局間ニ交換セラルル無線電報ノ料金ハ場合ニ從ヒ左ノモノヨリ成ル

(イ)(ロ)(ハ)　發信若ハ著信ノ移動局又ハ此ノ兩局ニ屬スル移動局料
傳送ニ關與スル陸上局ニ屬スル陸上局料(第三項第二節參照)
通常ノ規則ニ從ヒ計算スル一般ノ電氣通信線路系上ノ傳送ニ對スル料金

(ニ)　發信人ノ請求ニ依ル特別取扱ニ對スル料金

二　(一)　陸上局料及移動局料ハ最低限料金ヲ徵收スルコトナク單純ナル一語ニ對スル料金ニ從ヒ之ヲ定ム

(二)　陸上局料ノ最高限ハ一語ニ付六十「サンチーム」(〇「フラン」六〇)トシ移動局料ノ最高限ハ一語ニ付四十「サンチーム」(〇「フラン」四〇)トス

(三)　未タ局名錄ニ揭載セラレザル局ニ關スル無線電報ニ對スル陸上局料又ハ移動局料ハ課金スル局ニ於テ職權ヲ以テ之ヲ右最高限ニ定ムルコトヲ得

(四)　尤モ各主管廳ハ設備又ハ經營上例外的ニ多額ノ費用ヲ要スル陸上局又ハ航空機局ノ場合ニ於テハ右最高限ヲ超過スル陸上局料又ハ移動局料ヲ定メ又ハ之ヲ認可スル權能ヲ留保ス

(五)　隘語無線電報ノ無線電信料ハ該無線電報ノ電信料ト同一ノ割合ヲ以テ之ヲ低減ス

(六)　直接又ハ一海岸局ノ媒介ニ依ル船舶局間ノ通信ニ於テハ隘語無線電報ニ適用スベキ料金ハ常ニ金額料金ノ十分ノ六トス

(七)　許與セラレタル料金低減ハ常ニ無線電信中繼料ニ之ヲ適用ス

(八)　電信規則第二十六條第三項(イ)ニ規定スル五語ノ料金ニ等シキ徵收最低限料金ハ無線電報ノ無線電信ノ經過ニ之ヲ適用セズ

三　(一)　陸上局ガ移動局間ノ媒介トシテ使用セラルルトキハ一箇ノ陸上局料ノミヲ徵收ス送信ノ移動局トノ交換ニ適用セラルル陸上局料ガ受信ノ移動局トノ交換ニ適用セラルル陸上局料ト異ル場合ニ於テ徵收スベキ料金ハ右二料金中高額ノモノトス尙電氣通信線路上ノ傳送ニ對シ適用セラルルモノトシテ左記第五項ニ揭グル料金ト同額ノ領土電信料ヲ徵收スルコトヲ得

(二)　發信人ノ請求ニ依リ二箇ノ陸上局ガ二箇ノ移動局間ノ媒介トシテ使用セラルルトキハ各局ノ陸上局料竝ニ二局間ノ經過ニ對スル電信料ヲ徵收ス

【後章】

四　中繼業務及中繼料ハ本規則第七條ニ之ヲ定ム

五　(一)　一國ヨリ發シ又ハ之ニ著スル無線電報ガ直接ニ其ノ國ノ陸上局ト交換セラルル場合ニ於テ其ノ國ノ國內電氣通信線路上ノ傳送ニ適用スベキ電信料ハ原則トシテ最低限料金ヲ徵收スルコトナク單純ナル一語ニ對スル料金ニ從ヒ之ヲ計算ス此ノ料金ハ陸上局ノ屬スル主管廳ヨリ聯合事務局ニ金「フラン」ヲ以テ之ヲ通告ス

(二)　一國ノ國內電氣通信采ガ政府ニ依リ運用セラレザルニ因リ該國ガ徵收最低限料金ノ適用ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ旨聯合事務局ニ通知スルコトヲ要シ同局ハ局名錄中一語料金ノ表示ノ次ニ此ノ最低限料金額ヲ記載ス此ノ記載ナキトキハ適用スベキ料金ハ最低限料金ノ徵收ナキ單純ナル一語ニ對スル料金トス

六　移動局及他國間ノ無線電報ノ交換ニ對シ媒介ヲ爲ス陸上局ヲ領土內ニ設置スル國ハ電信料ノ適用上之ヲ該無線電報ノ發信國又ハ著信國ト看做シ中繼國ト看做サズ

七　無線電報ノ總料金ハ左ノモノヲ除クノ外之ヲ發信人ヨリ徵收ス

第一　著信ノ際徵收スベキ別使ノ費用(電信規則第六十二條第五項第二節)

第二　著信局又ハ著信移動局ノ認メタル許可セラレザル語辭ノ聯集又ハ變改ニ適用スベキ料金(電信規則第二十三條第一項)

該料金ハ受信人ヨリ之ヲ徵收ス

八　傳送上及國際計算上發信局ノ語辭ノ計算ハ移動局著無線電報ニ關シ確定的ノモノトシ發信移動局ノ語辭ノ計算ハ移動局發無線電報ニ關シ確定的ノモノトス尤モ無線電報ガ移動局發ノ場合ニ於テ著信國ノ國語ノ一ヲ以テ又移動局著ノ場合ニ於テ移動局ノ屬スル國ノ國語ノ一ヲ以テ全部又ハ一部記載セラレ且該國語ノ用法ニ反スル語辭ノ聯集又ハ變改ヲ包有スルトキハ場合ニ從ヒ著信局又ハ著信移動局ハ未徵收ノ料金額ヲ受信人ヨリ取立ツル權能ヲ有ス支拂拒絕ノ場合ニ於テハ無線電報ハ之ヲ交付セザルコトヲ得

九　移動業務ニ於ケル無線電氣經過ニ對スル料金ハ直接ニ一般ノ利益ニ關スル無線電報ニシテ左ノ種類ニ屬スルモノニ對シ之ヲ徵收セズ

(イ)　遭難ノ通報及之ニ對スル返信

(ロ)　洗氷、遭棄物及浮流水雷ノ存在又ハ「サイクロン」及暴風ヲ通報スル移動局發通知

(ハ)　航空ニ危險ナル突發的現象又ハ飛行場ニ於ケル突發的障碍ノ通知

(ニ)　浮標ノ位置又ハ燈臺若ハ標識等ノ動作ノ突發的變化ヲ通報スル移動局發通知

(ホ)　移動業務ニ關スル事務報

十　(一)　陸上局料及移動局料ハ船舶局發陸地著新聞無線電報ニ對シテハ百分ノ五十ヲ低減ス該無線電報ハ新聞電報ニ關シ國際電信規則ノ

【後章】

規定スル許可條件ニ依ル陸上局所屬國內ニ宛ツル新聞無線電報ニ對シ徵收スベキ電信料ハ通常無線電報ニ適用スベキ電信料ノ半額トス

(二) 陸上局所屬國以外ノ國ニ宛ツル新聞無線電報ハ陸上局所屬國及著信國間ニ施行セラルル新聞料金ノ適用ヲ受ク

十一 (一) (イ) 氣象無線電報ニ適用スベキ陸上局料及移動局料ハ一切ノ關係ニ於テ少クトモ百分ノ五十ヲ低減ス

(ロ) 陸上局ニ對シ右規定ノ施行セラルル期日ハ主管廳及經營會社ト關係スル公ノ氣象業務トノ間ノ協定ニ依リ之ヲ定ム

(二) (イ) 氣象無線電報トハ公ノ氣象業務又ハ斯ノ如キ業務ト公ノ關係ニ在ル局ヨリ發シ右ノ業務又ハ局ニ宛テ專ラ氣象觀測又ハ氣象豫報ヲ包含スル無線電報ヲ謂フ

(ロ) 右無線電報ハ名宛ノ始ニ必ズ＝〇三〇＝ナル課金指定ヲ包有ス

(三) 發信人ハ請求アルトキハ其ノ無線電報ノ本文ガ前記條件ニ適合スルコトヲ宣言スルコトヲ要ス

十二 移動局ハ無線電報ノ課金ニ必要ナル料金ノ知識ヲ有スルコトヲ要ス尤モ該局ハ場合ニ依リ陸上局ニ問合セヲ爲スコトヲ得陸上局ノ指示スル料金額ハ金「フラン」ニ依リ之ヲ表ス

十三 (一) 一切ノ新料金、料金ニ關スル全部又ハ細目ノ一切ノ變更ハ聯合事務局ニ依ル其ノ通告ヨリ十五日(發送ノ日ヲ含マズ)後ニ於テノミ之ヲ施行シ且該期間滿了ノ日ニ次グ一日又ハ第十六日ヨリノミ之ヲ適用ス

(二) 尤モ料金ノ變更ハ移動局發無線電報ニ對シテハ第一節ニ定ムル期限ヨリ一月後ニ於テノミ之ヲ施行ス

(三) 前諸節ノ規定ハ例外ヲ許サズ

第三篇　移動業務ニ於ケル通信ノ先順位ノ順位

一般規則第二十四條第六ニ揭グル無線通信ノ先順位ノ順位ハ原則トシテ左ノ如シ

第一　無線官報

第二　船舶ノ航海、行動及要求、航空業務ノ安全及順調ニ關スル無線電報竝ニ公ノ氣象業務宛天候觀測ノ通報

第三　無線電氣業務ノ運用又ハ先ニ交換シタル無線電報ニ關スル無線事務報

第四　公衆通信ノ無線電報

第四篇　無線電報ノ類信時刻

一　移動局發無線電報ノ傳送上該局類信ノ日附及時刻ハ類表中ニ之ヲ表示ス

二　移動局ニ於テ受付タル無線電報ノ類信時刻ヲ示ス爲當務者ハ「グリニッヂ」標準時ニ依リ且二十四時間制ニ依ル表示方法ヲ使用ス此ノ時刻ハ常ニ數字四箇(〇〇〇一乃至二四〇〇)ニ依リ之ヲ表示シ且

【後略】

傳送ス

三　尤モA地帶(附錄第五號)外ニ在ル國ノ主管廳ハ其ノ國ノ沿岸ヲ航行スル船舶ノ局ニ數字四箇ノ集合ニ依リ類信時刻ヲ表示スル爲時區ノ時ノ使用ヲ許可スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該集合ノ次ニ「Z」ナル文字ヲ附スルコトヲ要ス

第五篇　無線電報ノ名宛

一　(一) 移動局著無線電報ノ名宛ハ成ルベク完全ナルコトヲ要ス右名宛ハ左ノ如ク記載スルコトヲ要ス

(イ) 受信人ノ名又ハ資格　場合ニ依リ補足事項ヲ之ニ添フ

(ロ) 相當局名錄ニ揭載セラルル通ノ船舶局名又ハ他ノ移動局ノ場合ニ於テハ呼出符號

(ハ) 局名錄ニ揭載セラルル通ノ傳送ヲ爲スベキ陸上局名

(二) 尤モ第一項第一節(ロ)ニ規定スル局名及呼出符號ハ發信人ノ危險ニ於テ移動局ノ發著港名又ハ之ニ相當スル他ノ一切ノ記事ニ依リ決定セラルル該局ノ經過線路ノ表示ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

(三) 名宛ニ於テ相當局名錄ニ揭載セラルル通記載セラレタル移動局名及陸上局名ハ一切ノ場合ニ於テ其ノ長サニ拘ラズ之ヲ一括シテ一語ト計算ス

二　(一) 電信局名錄ヲ備付ケザル移動局ハ著信電信局名ノ次ニ地方區劃名及場合ニ依リ著信國名ヲ附記スルコトヲ得但シ該移動局ニ於テ

【後略】

此ノ附記ナキトキハ送達ガ遲滯ナク行ハルルヤニ付疑ヲ有スル場合ニ限ル

(二) 電信局名及補足事項ハ此ノ場合ニ於テハ之ヲ一語トシテ計算シ且課金ス無線電報ヲ受信シタル陸上局ノ吏員ハ無線電報ヲ正當著信地ニ傳送スル爲必要又ハ十分ナリヤニ從ヒ該補足事項ヲ存置若ハ抹消シ又ハ著信局名ヲ變更ス

第六篇　疑ハシキ受信、重複傳送、長距離無線通信

一　(一) 移動業務ニ於テ通信ガ困難トナリタルトキハ通信中ノ二局ハ傳送中ノ無線電報ノ交換ノ完了ニ努ムルコトヲ要ス受信局ハ受信ノ疑ハシキ無線電報ノ反覆ヲ二回迄請求スルコトヲ得此ノ三回ノ傳送ガ效果ナキトキハ無線電報ハ一時之ヲ留置キ傳送ヲ完了シ得ベキ適當ノ機會ヲ待ツ

(二) 送信局ハ二十四時間內ニ受信局ト通信ヲ再開スルコト能ハズト認ムルトキハ左ノ通處置ス

(イ) 送信局ガ移動局ナルトキ

送信局ハ右ノ無線電報ガ傳送セラレザル事由ヲ直ニ發信人ニ通知ス然ルトキハ發信人ハ左ノ要求ヲ爲スコトヲ得

第一　無線電報ヲ他ノ陸上局ノ中繼ニ依リ又ハ他ノ移動局ノ中繼ニ依リ傳送スルコト

第二　無線電報ヲ料金ノ增額ナク傳送シ得ル迄留置クコト

第三　無線電報ヲ取消スコト

（ロ）　送信局ガ陸上局ナルトキ

送信局ハ本規則第九條ノ規定ヲ無線電報ニ適用ス

二　移動局ガ後ニ至リ右ノ如ク留置キタル無線電報ヲ之ヲ不完全ニ受信シタル陸上局ニ傳送スルトキハ此ノ新ナル傳送ハ無線電報ノ額表中ニ「ampliation」ナル局用記事ヲ有スルコトヲ要ス又該無線電報ヲ同一主管廳若ハ同一私企業ニ屬スル他ノ陸上局ニ傳送スルトキハ此ノ新ナル傳送ハ「ampliation via……」（無線電報ガ最初ニ傳送セラレタル陸上局ノ呼出符號ヲ記載ス）ナル局用記事ヲ有スルコトヲ要ス該主管廳又ハ私企業ハ一回ノ傳送ニ對スル料金ノミヲ請求スルコトヲ得無線電報ノ送達ノ爲ニ中繼ヲ爲シタル右「他ノ陸上局」及著信局間ノ一般ノ通信線路系上ニ於ケル無線電報ノ傳送ニ依ル增料金ハ前記「他ノ陸上局」ヨリ發信移動局ニ對シ之ヲ請求スルコトヲ得

三　無線電報ノ名宛ノ記載ニ從ヒ之ガ傳送ヲ爲スベキ陸上局ニ於テ著信移動局ト連絡シ得ズ且該移動局ガ該陸上局ノ屬スル主管廳又ハ私企業ノ他ノ陸上局ノ通信圈內ニ在リト認メタルトキハ該陸上局ハ增料金ノ徵收ヲ要セザル限リ無線電報ヲ右ノ他ノ陸上局ニ轉送スルコトヲ得

四　（一）　移動業務ノ局ハ無線電報ヲ受信シタルモ通常ノ狀態ニ於テ其ノ受信證ヲ與フルコトヲ得ザルトキハ之ヲ與フル爲最初ノ適當ナル機會ヲ捉フルコトヲ要ス

（二）　移動局及陸上局間ニ交換セラレタル無線電報ノ受信證ヲ直接與フルコトヲ得ザル場合ニ於テ他ノ移動局又ハ陸上局ガ該無線電報ヲ傳送シタル局ト通信スルコトヲ得ルトキハ受信證ハ該局ノ中繼ニ依リ之ヲ傳送ス之ニ依リ增料金ヲ生ゼザルコトヲ要ス

五　（一）　主管廳ハ陸上局及移動局間ニ後廻受信證ヲ要シ又ハ受信證ヲ要セザル長距離無線通信業務ヲ組織スル權能ヲ留保ス

（二）　右方法ノ孰カニ依リ傳送セラレタル無線電報ノ一部ガ不正確ナル疑アルトキハ受信人ニ交付スベキ送達紙ニ「réception douteuse」ナル記事ヲ記載シ且疑ハシキ語辭又ハ語辭ノ集合ニハ字下線ヲ附ス語辭ガ脫落シタルトキハ語辭ノ在ルベキ箇所ヲ空白トス

（三）　後廻受信證ヲ要スル長距離無線通信業務ニ於テ送信陸上局ガ其ノ傳送シタル無線電報ノ受信證ヲ五日ノ期間內ニ受ケザルトキハ該局ハ其ノ旨該無線電報ノ發信局ニ通知ス陸上局料及移動局料ノ還付ハ發信後一月ノ期間內ニ受信證ノ到達セザルコトヲ發信局ガ關係陸上局ニ確ムル迄之ヲ延期スルコトヲ要ス

第七條　移動業務ノ局ノ中繼

イ　發信人ノ請求ニ依ル中繼

一　移動業務ノ局ハ發信人ノ請求アルトキハ他ノ移動業務ノ局ヨリ發シ又ハ之ニ著スル無線電報ノ交換ニ對シ中繼ヲ爲スコトヲ要ス

〔海軍〕

尤モ中繼移動業務ノ局ノ數ハ二箇ヲ超ユルコトヲ得ズ

二　中繼ニ對スル料金ハ中繼ガ二箇ノ局ニ依リ行ハルルト一箇ノ局ニ依リ行ハルルトヲ問ハズ最低限料金ヲ徵收スルコトナク單純ナル一語ニ付均一ニ四十「サンチーム」（〇「フラン」四〇）トス二箇ノ移動業務ノ局ガ中繼ヲ爲ストキハ該料金ハ二局間ニ之ヲ等分ス

三　前記ノ如ク傳送セラルル無線電報ハ名宛ノ前ニ＝RM＝（中繼）ナル課金指定ヲ有スルコトヲ要ス

ロ　職權ニ依ル中繼

四　（一）　陸上局ニ於テ發信人ガ中繼料ヲ支拂ハザリシ無線電報ノ著信移動局ト連絡スルコトヲ得ザルトキハ該陸上局ハ無線電報ヲ其ノ著信局ニ到達セシムル爲他ノ移動局ノ同意ヲ得テ該局ノ中繼ニ依ルコトヲ得此ノ場合無線電報ハ該移動局ニ傳送ス該局ノ中繼ハ無料トス

（二）　右規定ハ必要アルトキハ移動局ヨリ陸上局ヘノ傳送ノ場合ニ於テモ亦之ヲ適用ス

（三）　斯ク傳送セラレタル無線電報ガ著信局ニ到達シタルモノト看做サルル爲ニハ右中繼ニ依リタル局ハ場合ニ從ヒ無線電報ノ著信局タル移動局ヨリ又ハ該電報ノ傳送ヲ受クベキ陸上局ヨリ直接又ハ間接ニ成規ノ受信證ヲ受クルコトヲ要ス

第八條　不交付ノ事務報

一　原因ノ如何ヲ問ハズ移動局發陸地著無線電報ヲ受信人ニ交付スルコト能ハザルトキハ該無線電報ヲ受信シタル陸上局ニ宛テ不交付ノ事務報ヲ發送ス右陸上局ハ名宛ヲ檢査シ出來得ベクバ此ノ事務報ヲ移動局ニ再送ス此ノ場合ニ於テ必要アラバ當時ノ事情若ハ場合ニ依リ特別協定ガ許ス限リ同一國又ハ隣國ノ陸上局ヲ經由セシムルコトヲ得

二　移動局著無線電報ヲ交付スルコト能ハザルトキハ該局ハ事務報ヲ以テ發信局又ハ發信移動局ニ其ノ旨通知ス陸地發無線電報ノ場合ニ於テハ此ノ事務報ハ成ルベク該無線電報ヲ中繼シタル陸上局、必要アラバ當時ノ事情若ハ場合ニ依リ特別協定ガ許ス限リ同一國又ハ隣國ノ他ノ陸上局ニ之ヲ傳送ス

第九條　陸上局ニ於ケル無線電報ノ保管期間

一　（一）　海上船舶著無線電報ノ發信人ハ海岸局ニ於テ船舶ノ爲該無線電報ヲ保管スルコトヲ要スル日數ヲ定ムルコトヲ得

（二）　此ノ場合ニ於テハ發信人ハ名宛ノ前ニ無線電報ノ頼信ノ日ヲ包含スル右日數ヲ指示スル「x jours」又ハ＝Jx＝ナル課金指定ヲ記載ス

二　（一）　無線電報ヲ宛ツル移動局ガ發信人ノ指定スル期間內ニ又ハ斯カル指定ヲ缺クトキハ頼信ノ日ニ次グ第三日ノ朝迄ニ其ノ在圈ヲ陸上局ニ通知セザルトキハ陸上局ハ其ノ旨發信局ニ通知シ發信局ハ發

〔海軍〕

信人ニ之ヲ通知ス發信人ハ該陸上局ニ宛ツル電信又ハ郵便ノ課金事務報ヲ以テ續信ノ日ヨリ(續信ノ日ヲ含マズ)第十四日ノ滿了迄其ノ無線電報ヲ保管スルコトヲ請求スルコトヲ得右課金事務報ヲ受ケザルトキハ該無線電報ハ第七日(續信ノ日ヲ含マズ)ノ終ニ於テ之ヲ廢棄ス

(二)　尤モ陸上局ハ移動局ガ近ク自局ノ通信圈ニ入ルコトヲ確知スルトキハ前記期間ノ滿了ニ拘ラズ無線電報ヲ保管スルコトヲ得

三　(一)　又陸上局ハ航行中ノ移動局ガ既ニ確實ニ其ノ通信圈ヲ去リ又ハ通信圈ニ入ラザルコトヲ確知スルトキハ期間ノ滿了ヲ待ツコトヲ要セズ陸上局ハ其ノ屬スル主管廳又ハ私企業ノ他ノ陸上局ガ何レモ該移動局ト連絡ヲ有セズ又ハ連絡ヲ有スルニ至ラズト認ムル場合ハ自局及移動局間ノ經過ニ關スル限リ無線電報ヲ取消シ其ノ旨發信局ニ通知シ發信局ハ發信人ニ之ヲ通知ス反對ノ場合ニ於テハ陸上局ハ移動局ト連絡ヲ有スト認メラルル陸上局ニ向ケ該無線電報ヲ傳送ス但シ之ガ爲何等ノ增料金ヲ要セザル場合ニ限ル

(二)　有線電信ニ依リ再送ヲ爲ス陸上局ハ無線電報ノ名宛ヲ變更シテ移動局名ノ次ニ傳送ヲ爲スベキ新陸上局名ヲ附シ且類表ノ終ニ無線電報ノ一切ノ經過上傳送セラルルコトヲ要ス「Retransmis de M…」ナル局用記事ヲ記載ス

四　移動局ガ陸上局ニ近キ港ニ到著シタル爲該移動局ニ無線電報ヲ傳送シ得ザルトキハ右陸上局ハ場合ニ依リ無線電報ヲ他ノ通信方法ニ依リ移動局ニ送達シ事務報ヲ以テ該交付ヲ發信局ニ通知スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ陸上局料ハ陸上局ノ屬スル主管廳ニ於テ之ヲ保有シ移動局料ハ發信局ノ屬スル主管廳ヨリ發信人ニ之ヲ還付ス

第十條　通常郵便又ハ航空郵便線路ニ依リ送達スベキ無線電報

一　各主管廳ハ其ノ管轄スル移動業務ノ局間ノ關係ニ於テ其ノ適當ト認ムル規則及課金ノ條件ニ於テ通常郵便又ハ航空郵便線路ニ依リ再送スル無線電報業務ヲ組織スルコトヲ得場合ニ依リ他ノ主管廳ノ右業務ニ對スル參加ハ特別協定ヲ以テ之ヲ定ム

二　右無線電報ニ對シテハ移動業務ニ於ケル無線電信中繼ヲ取扱ハズ

第十一條　特別無線電報

一　關係主管廳ガ之ヲ受理スル留保ノ下ニ左ノモノニ限リ之ヲ許可ス

第一　返信料前納無線電報(※)

第二　照校無線電報

第三　別便ニ依リ交付スベキ無線電報

第四　郵便ニ依リ交付スベキ無線電報

第五　同文無線電報

第六　受信報知無線電報　但シ陸上局ガ移動局宛無線電報ヲ該移動局ニ傳送シタル日附及時刻ノ通知ニ關スルモノニ限ル

〔海軍〕

第七　課金事務報　但シ反復又ハ通知ヲ請求スルモノヲ除ク尤モ右請求ノ課金事務報ハ無線電報ヲ傳送シタル陸上局ヲ經由スルトキハ同線ニ之ヲ許可ス一切ノ課金事務報ハ一般ノ電氣通信線路系上ニ於テハ之ヲ許可ス

第八　至急無線電報　但シ一般ノ電氣通信線路系上ニ限ル

第九　移動局發陸地著新聞無線電報

第十　氣象無線電報(OMM)

二　無線電報ハ後還及書信電報トシテ之ヲ許可セズ

(※)　船舶上ニ於テ發行シタル返信料前納證券ハ其ノ價格ノ範圍內ニ於テ任意ノ書信地ニ無線電報ヲ發送スル權能ヲ付與ス但シ該證券ヲ發行シタル船舶局ヨリ發スル場合ニ限ル

第十二條　同報無線通信

一　(一)　主管廳ハ無線電信又ハ無線電話ニ依リ同報無線通信ノ傳送ノ業務ヲ組織スル權能ヲ留保ス

(二)　前記ノ業務ハ關係主管廳ガ特ニ定メタル規定及條件ヲ充ス發信人及受信人ニ限リ之ヲ利用セシム

(三)　右無線通信ハ政治、商業等ノ報道及新聞事項ニ依リ構成セラルルコトヲ要シ私的性質ヲ有スル何等ノ拿句、廣告又ハ通信ヲ包有スルコトヲ得ズ

二　(一)　(イ)　發信人ハ發信圈主管廳ニ受信人ノ名宛ヲ通知スルコトヲ要ス該主管廳ハ他ノ主管廳ニ對シ其ノ領土ニ在ル受信人ノ名宛ヲ通知ス

(ロ)　發信圈主管廳ハ尙此等ノ各受信人ニ關シ最初ノ受信ニ付定メタル日附竝ニ發射局名及發信人ノ名宛ヲ通知ス諸主管廳ハ發信人及受信人ノ數及名宛ノ異動ヲ相互ニ通知ス

(二)　發信人ノ指定シタル受信人ニ對シ無線通信ノ受領ヲ許否スルコトハ受信圈主管廳ニ屬ス該主管廳ハ發信圈主管廳ニ必要ナル通知ヲ爲ス

(三)　各主管廳ハ右特別通信業務ニ付許可セラレタル局ニ限リ該無線通信ニシテ自局ニ宛テラレタルモノノミヲ利用スルコトヲ確保スル爲成ルベク適當ナル手段ヲ執ル條約第二十四條ノ電氣通信ノ祕密ニ關スル規定ハ右無線通信ニ之ヲ適用ス

三　(一)　右無線通信ハ一定時刻ニ送信セラレ且名宛トシテ本文ノ直前ニ一箇ノ略號ヲ有ス

(二)　右無線通信ハ發信圈及受信局主管廳ノ決定ニ從ヒ普通語又ハ暗語ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ得關係主管廳間ニ特別ノ協定アル場合ヲ除クノ外普通語トシテ許可スル國語ハ佛關西語、發信圈ノ指定スル國語ノ一箇又ハ受信圈中ノ一國ノ國語ノ一箇ニ限ル發信圈及受信圈主管廳ハ使用セラルル暗語書ノ寄託ヲ請求スル權利ヲ留保ス

四　(一)　發信人ヨリ徵收スベキ料金ハ發信圈主管廳之ヲ定ム

〔海軍〕

(二)　右無線通信ノ受信人ニ對シテハ其ノ國ノ主管廳ハ私設受信局ノ設置及經營ニ關シ定メタル賦課ノ外該主管廳ノ定ムル金額及形式ニ依リ電信料又ハ電話料ヲ課スルコトヲ得

(三)　右無線通信ノ料金ハ之ヲ國際計算ニ算入セズ

第十三條　追加規則ノ施行

本追加規則ハ千九百三十四年一月一日ヨリ之ヲ施行スベシ

右證據トシテ各全權委員ハ西班牙國政府ノ記錄ニ寄託保存セラルベキ本規則ノ一通ニ署名シタリ其ノ謄本一通ハ各政府ニ交付セラルベシ

千九百三十二年十二月九日「マドリッド」ニ於テ之ヲ作成ス

(各國全權委員記名省略)

(備考)

國際電氣通信條約附屬追加無線通信規則

目次

第一條　無線通信ニ對スル電信規則及電話規則ノ適用
第二條　料金
第三條　移動業務ニ於ケル通信ノ先順位ノ順位
第四條　無線電報ノ賴信時刻
第五條　無線電報ノ名宛
第六條　疑ハシキ受信、重複傳送、長距離無線通信
第七條　移動業務ノ局ノ中繼
第八條　不交付ノ事務報
第九條　陸上局ニ於ケル無線電報ノ保管期間
第十條　通常郵便又ハ航空郵便線路ニ依リ送達スベキ無線電報
第十一條　特別無線電報
第十二條　同報無線通信
第十三條　追加規則ノ施行

〔海軍〕

第七款　雜

●膃肭獸保護條約

明治四十四年十二月十四日
條約第十三號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ亞米利加合衆國華盛頓ニ於テ帝國外三國全權委員ノ署名調印シタル膃肭獸保護條約ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

(總理、外務大臣副署)

亞米利加合衆國、大不列顛愛蘭聯合王國大不列顛海外領土皇帝印度皇帝陛下、日本國皇帝陛下及全露西亞國皇帝陛下ハ北太平洋ノ洋海ニ來集スル膃肭獸ノ保存及保護ノ爲有效ナル手段ヲ採ラムコトヲ欲シ之カ爲ニ條約ヲ締結スルコトニ決定シ

亞米利加合衆國大統領ハ合衆國商働務卿チヤールス、ネーゲル及國務省參事官チヤンドラー、ビー、アンダーソンヲ

大不列顛國皇帝陛下ハ其ノ亞米利加合衆國駐劄特命全權大使「ゼ、オーダー、オフ、メリット」ゼ、ライト、オノラブル、ジエームス、ブライス及加奈陀外事次官「コンマンダー、オフ、ローヤル、ヴイクトリアン、オーダー、エンド、コンパニオン、オフ、ゼ、オーダー、オフ、セント、マイケル、エンド、セント、ジヨージ」ジヨセフ、ボーブヲ

日本國皇帝陛下ハ其ノ亞米利加合衆國駐劄特命全權大使從三位勳一等男爵內田康哉及農商務省水產局長正四位勳三等道家齊ヲ

全露西亞國皇帝陛下ハ其ノ摩洛哥國駐劄特命全權公使「チヤンバレーン、オフ、ヒズ、マジエスチース、コート」ピエール、ポットキン及外務省員男爵ボリス、ノールドヲ

各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條　各締約國ハ相互ニ左ノ事項ヲ約ス

各締約國ノ人民又ハ臣民及凡テ其ノ法令條約ニ服從スヘキ者竝其ノ船舶カ本條約ノ有效期間白令海、勘察加海、「オコック」海及日本海ヲ包含スル北緯三十度以北ノ北太平洋ノ洋海ニ於テ膃肭獸ノ海上獵獲ヲ爲スヲ禁止スヘキコト

右ノ禁止ヲ犯シタル者及船舶ハ各締約國ノ海軍將校其ノ他相當ノ權限アル官吏ニ於テ之ヲ拿捕抑留スルヲ得ルコト但シ拿捕ハ他ノ締約國ノ領海內ニ非サル場合ニ限ル

拿捕抑留セラレタル者又ハ船舶ハ成ルヘク速ニ拿捕地最近ノ地點其ノ他互ニ協定スルコトアルヘキ場所ニ於ケル其ノ所屬國ノ當該官吏ニ引渡スヘキコト

右ノ犯罪ヲ審判シ之ニ刑罰ヲ科スルノ權ハ獨リ犯罪者又ハ船舶ノ所屬國官憲ノミ之ヲ有スルコト

右犯罪立證ノ爲必要ナル證人及證據ニシテ苟モ締約國ノ宰領內ニア

〔海軍〕

ルモノハ成ルヘク速ニ其ノ犯罪審判ノ管轄權ヲ有スル當該官憲ニ之ヲ提供スヘキコト

第二條　各締約國ハ自國ニ於ケル何レノ港灣タルト其ノ領土內ニ於ケル何レノ場所タルトヲ問ハス第一條ニ揭クル保護區域內ノ洋海ニ於ケル膃肭獸海上獵獲ノ作業ニ關聯スル目的ノ爲何人ニモ又如何ナル船舶ニモ之ヲ使用セシメサルコトヲ約ス

第三條　各締約國ハ第一條ニ揭クル保護區域內ノ北太平洋ノ洋海ニ於テ獲取セラレタル膃肭獸皮及獸群ノ蕃殖地ヲ領有スル締約國各自ノ權內ニ於テ獲取セラレ官ニテ記號ヲ附シ其ノ旨ヲ證明シタルモノヲ除クノ外米、露若ハ日本ノ獸群ニ屬シ「カロルヒヌス、ウルシヌス」若ハ「カロルヒヌス、クリレンシス」ト稱スル種族ト看做サレタル膃肭獸皮ハ何レノ締約國ノ版圖內ニモ之ヲ輸入又ハ移致セシメサルコトヲ約ス

第四條　各締約國ハ第一條ニ揭クル洋海ノ沿岸ニ棲息スル印甸人、「アイノ」人、「アリュート」人其ノ他ノ土人カ他船ヲ以テ運搬セラレ又ハ他船ト相關聯シテ使用セラレサル「カヌー」艇ニシテ專ラ橈櫂ノ類又ハ帆ヲ用ヰテ推進シ一隻ノ乘員五人ヲ超過セサルモノニ依リ從來慣行ノ方法ニ從ヒ銃器ヲ使用スルコトナクシテ膃肭獸ノ海上獵獲ヲ行フ場合ニ付本條約ノ規定ヲ適用セサルコトヲ約ス但シ右ハ該土人カ他人ニ使用セラレス又其ノ獲取シタル獸皮ヲ他人ニ引渡スノ契約ヲ爲ササル場合ニ限ル

第五條　各締約國ハ其ノ人民若ハ臣民又ハ船舶ニ對シ本條約第一條ニ揭クル洋海ノ何レノ部分タルヲ問ハス其ノ領土ノ海岸線ヨリ三海里外ニ於テ獵虎ノ濫殺、捕獲又ハ追躡ヲ許ササルコトヲ約ス

第六條　各締約國ハ前數條ノ規定ヲ有效ナラシムルニ必要ナル法令ヲ制定施行シ且其ノ違反ニ對スル相當ノ罰則ヲ付スヘキコトヲ約ス

第七條　合衆國、日本國及露西亞國ハ保護ニ付特ニ利害關係ヲ有スル膃肭獸群ノ來集スル洋海ニ於テ前數條ノ規定ヲ實施スルニ必要ナル限リ各自警衞又ハ巡邏ノ設備ヲ爲スヘキコトヲ約ス

第八條　各締約國ハ第一條ニ揭クル禁獵區域內ニ於ケル膃肭獸ノ海上獵獲ヲ防止スル爲適當ニシテ且有用ナル措置ヲ執ルニ付相互ニ協力スヘキコトヲ約ス

第九條　本條約ニ於テ海上獵獲ト稱スルハ如何ナル方法ヲ以テスルヲ問ハス海上ニ於テ膃肭獸ノ獵殺、捕獲又ハ追躡ヲ爲スヲ謂フ

第十條　合衆國ハ「プリビロフ」島又ハ第一條ニ揭クル洋海ニ在リ將來膃肭獸群ノ來集スルコトアルヘキ同國所屬ノ他ノ島嶼及海岸ニ於テ同國ノ權內ニ於テ年々獲取スル膃肭獸皮ノ總數中數量及價格ノ孰レヨリスルモ之カ百分ノ十五ニ相當スルモノヲ加奈陀政府ノ公認代表者ニ、同上總數量及價格ノ百分ノ十五ニ相當スルモノヲ日本國政府ノ公認代表者ニ、毎獵季ノ終ニ「プリビロフ」島ニ於テ引渡スヘキコトヲ約ス但シ

【海單】

トヲ約ス但シ此ノ規定ハ合衆國カ何時ニテモ其ノ管轄內ニ在リテ膃肭獸群ノ保護保存又ハ蕃殖ニ必要ナリト認ムル島嶼又ハ海岸ニ於テ膃肭獸皮ヲ獲取スルコトヲ全然停止スルノ權利竝何レノ獵季ヲ問ハス獸皮ノ獲取數及獵獲ノ方法時期場所ニ關シ獸群ノ保護保存又ハ蕃殖ニ必要ナリト認ムル制限及規定ヲ設クルノ權利ニ對シ何等ノ拘束ヲ加フルモノニ非ス

第十一條　合衆國ハ日英兩國カ本條約ノ規定ニ依リ各自受領ノ權利ヲ有スル膃肭獸皮ノ各二十萬弗ニ相當スヘキ數量ニ代ヘテ前拂金トシテ本條約實施ノ際大不列顚國ニ二十萬弗日本國ニ二十萬弗ヲ支拂フヘキコトヲ約ス而シテ獸皮ハ前拂ノ報償トシテ合衆國之ヲ保留スヘシ右ノ計算ハ獸皮ノ引渡ヲナスヘキ際ニ於ケル未精製品ノ倫敦市價（「プリビロフ」島ヨリノ運賃ヲ引去ル）ニ基キ之ヲ爲スヘク若シ該市價ニ付爭議ヲ生シタルトキハ其ノ場合ノ如何ニ依リ或ハ合衆國ト大不列顚國ト或ハ合衆國ト日本國トノ間ニ協定スル審判官之ヲ決定スヘキモノトス

合衆國ハ其ノ獸群ヨリ獲取シタル獸皮中本條約ノ規定ニ依リ大不列顚國及日本國ノ各自受領スヘキ配分額カ每年一千枚ヲ下ラサルヘキコトヲ約ス此ノ數量カ其ノ年ニ於ケル公定獵殺數ノ百分ノ十五ヲ超過スル場合ト雖亦同シ合衆國カ島嶼ニ棲息スル土人ノ衣食用又ハ船用ノ外如何ナル目的タルヲ問ハス膃肭獸ノ獵殺ヲ絕對ニ禁止シタル

年ニ於テハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ合衆國ハ其ノ禁獵年間獸皮ノ配分ニ代ヘテ大不列顚國及日本國ニ對シ年々各一萬弗ヲ支拂フヘキ事ニ約ス而シテ大不列顚國及日本國ハ獵殺再始後兩國各自ノ受領額ヨリ前項ノ規定ニ依リ前拂金回收ノ爲合衆國カ保留スヘキ獸皮ヲ引去リタル後尙右兩國ノ受領額カ各特定ノ最小限タル一千枚ヲ超過シタル年ニ於テハ合衆國カ該超過獸皮ヲ更ニ保留シテ本項ニ規定スル支拂金ノ回收ニ充當スルノ權利ヲ有スル事ニ同意ス但シ右更ニ保留スヘキ獸皮ノ數量ハ其ノ前項規定ノ市價ニ基キテ算出セラレタル金額カ右支拂金ノ總額ニ年四分ノ利子ヲ加ヘタルモノニ相當スルヲ限度トス

然レトモ合衆國島嶼ニ來集スル膃肭獸ノ總數カ官ノ調査上十萬頭以內ニ下リタル年ニ於テハ膃肭獸ノ獵殺ハ其ノ數カ官ノ調査上再ヒ十萬頭ヲ超過スルニ至ル迄獸皮ノ配分又ハ之ニ相當スル金額ノ支拂ヲ爲スコトナクシテ前記土人ノ生計ニ必要ナル少量ノ供給ヲ除クノ外一切之ヲ停止スルコトヲ得

第十二條　露西亞國ハ「コンマンダー」島又ハ第一條ニ揭クル洋海ニ在リ將來膃肭獸群ノ來集スルコトアルヘキ同國所屬ノ他ノ島嶼及海岸ニ於テ年々獲取スル膃肭獸皮ノ總數中數量及價格ノ孰レヨリスルモ之カ百分ノ十五ニ相當スルモノヲ加奈陀政府ノ公認代表者ニ同上總數量及價格ノ百分ノ十五ニ相當スルモノヲ日本國政府ノ公認代表者ニ每獵季ノ終ニ「コンマンダー」島ニ於テ引渡スヘキコトヲ約ス但シ

【海單】

此ノ規定ハ露西亞國カ本條約期間ノ最初ノ五年間何時ニテモ其ノ管轄內ニ在リテ膃肭獸群ノ保存保護又ハ蕃殖ニ必要ナリト認ムル島嶼又ハ海岸ニ於テ膃肭獸皮ヲ獲取スルコトヲ全然停止スルノ權利竝本條約ノ有效期間何レノ獵季ヲ問ハス獸皮ノ獲取數及獵獲ノ方法時期場所ニ關シ獸群ノ保存保護又ハ蕃殖ニ必要ナリト認ムル制限及規定ヲ設クルノ權利ニ對シ何等ノ拘束ヲ加フルモノニ非ス尤モ露西亞國ハ本條約期間ノ最後ノ十年間年々其ノ膃肭獸蕃殖地又集合地ニ於ケル膃肭獸總數ノ百分ノ五ヲ下ラサル數ヲ獵殺スヘキコトヲ約ス但シ右ハ上記百分ノ五カ其ノ年ニ上陸スル三歲ノ牡獸ノ百分ノ八十五ヲ超過セサル場合ニ限ル

然レトモ露西亞國島嶼ニ來集スル膃肭獸ノ總數カ官ノ調査上一萬八千頭以內ニ下リタル年ニ於テハ其ノ數カ官ノ調査上再ヒ一萬八千頭ヲ超過スルニ至ル迄前掲獸皮ノ配分ヲ爲サス且島嶼ニ棲息スル土人ノ生計ニ必要ナルモノヲ除クノ外一切ノ膃肭獸ハ獵殺ヲ停止スルコトヲ得

第十三條　日本國ハ海豹島又ハ第一條ニ掲クル洋海ニ在リ將來膃肭獸群ノ來集スルコトアルヘキ同國所屬ノ他ノ島嶼及海岸ニ於テ年々獲取スル膃肭獸皮ノ總數中數量及價格ノ孰レヨリスルモ之カ百分ノ十ニ相當スルモノヲ合衆國政府ノ公認代表者ニ、同上總數量及價格ノ百分ノ十ニ相當スルモノヲ加奈陀政府ノ公認代表者ニ又同上總數量及價格ノ百分ノ十ニ相當スルモノヲ露西亞國政府ノ公認代表者ニ毎獵季ノ終ニ海豹島ニ於テ引渡スヘキコトヲ約ス但シ此ノ規定ハ日本國カ本條約期間ノ最初ノ五年間何時ニテモ其ノ管轄內ニ在リテ膃肭獸群ノ保存保護又ハ蕃殖ニ必要ナリト認ムル島嶼又ハ海岸ニ於テ膃肭獸皮ヲ獵取スルコトヲ全然停止スルノ權利竝本條約ノ有效期間何レノ獵季ヲ問ハス獸皮ノ獲取數及獵獲ノ方法時期場所ニ關シ獸群ノ保存保護又ハ蕃殖ニ必要ナリト認ムル制限及規定ヲ設クルノ權利ニ對シ何等ノ拘束ヲ加フルモノニ非ス尤モ日本國ハ本條約期間ノ最後ノ十年間年々其ノ膃肭獸蕃殖地及集合地ニ於ケル膃肭獸總數ノ百分ノ五ヲ下ラサル數ヲ獵殺スヘキコトヲ約ス但シ右ハ上記百分ノ五カ其ノ年ニ上陸スル三歲ノ牡獸ノ百分ノ八十五ヲ超過セサル場合ニ限ル

然レトモ日本國島嶼ニ來集スル膃肭獸總數カ官ノ調査上六千五百頭以內ニ下リタル年ニ於テハ其ノ數カ官ノ調査上再ヒ六千五百頭ヲ超過スルニ至ル迄前掲獸皮ノ配分ヲ爲サス且島嶼ニ棲息スル土人ノ生計ニ必要ナルモノヲ除クノ外一切ノ膃肭獸ノ獵殺ヲ停止スルコトヲ得

第十四條　大不列顚國ハ第一條ニ掲クル洋海ニ在ル同國所屬ノ島嶼及海岸ニ將來膃肭獸群ノ來集スルコトアル場合ニ於テハ本條約期間右獸群ヨリ年々獲取スル膃肭獸皮ノ總數中數量及價格ノ孰レヨリスルモ之カ百分ノ十ニ相當スルモノヲ合衆國政府ノ公認代表者ニ同上總數量及價格ノ百分ノ十ニ相當スルモノヲ日本國政府ノ公認代表者ニ又同上總數量及價格ノ百分ノ十ニ相當スルモノヲ露西亞國政府ノ公認代表者ニ毎獵季ノ終ニ引渡スヘキコトヲ約ス

〔海軍〕

第十五條　合衆國及大不列顚國ハ千九百十一年二月七日兩國間ニ締結シタル膃肭獸ニ關スル條約ノ規定ニシテ本條約ノ規定ト牴觸又ハ重複スル部分ニ付テハ本條約ノ規定ヲ以テ之ニ代フヘキコトヲ約ス

第十六條　本條約ハ千九百十一年十二月十五日ヨリ之ヲ實施シ同日ヨリ十五年間及其ノ後締約國中ノ或者ヨリ爾餘ノ締約國ニ對シ爲シタル十二月前ノ書面通告ヲ以テ廢棄セラルル迄引續キ效力ヲ有ス右ノ通告ハ十四年ヲ經過シタルトキ又ハ其ノ後何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得又本條約終了前何時ニテモ締約國中ノ一國ヨリ請求アルトキハ各締約國ハ直ニ代表者ヲ會合セシメ本條約ノ期間延長及若シ必要アラハ之ト共ニ追加修正ヲ協議シ成ルヘク之ニ同意スヘキコトヲ約ス

第十七條　本條約ハ亞米利加合衆國大統領(元老院ノ協贊ヲ經テ)、大不列顚國皇帝陛下、日本國皇帝陛下及全露西亞國皇帝陛下ニ於テ批准セラルヘク批准書ハ成ルヘク速ニ華盛頓ニ於テ之ヲ交換スヘシ

右證據トシテ各全權委員本條約四通ニ署名調印ス

明治四十四年七月七日卽西曆千九百十一年七月七日華盛頓ニ於テ

（各國全權委員署名調印省略）

〔海軍〕

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕明治四十四年七月七日亞米利加合衆國華盛頓ニ於テ帝國外三國全權委員ノ署名調印シタル膃肭獸保護條約ヲ閲覽點檢シテ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇卽位紀元二千五百七十一年明治四十四年十一月六日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣　子爵　內田康哉

明治四十五年四月二十二日
法律第二十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臘虎膃肭獸獵獲禁止ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム(總理、農商務大臣副署)

第一條　白令海、勘察加海、「オコツク」海及日本海ヲ包含スル北緯三十度以北ノ北太平洋ニ於テハ膃肭獸ノ獵獲ヲ爲スコトヲ得ス

帝國ノ海岸ヨリ三海里ヲ超ユル前項ノ海面ニ於テハ臘虎ノ獵獲ヲ爲スコトヲ得ス

第二條　膃肭獸ノ陸上獵獲及帝國ノ海岸ヨリ三海里ヲ超エサル範圍內ニ於ケル臘虎ノ獵獲ハ政府ニ專屬ス

第三條　獵虎獵鹿獵獸又ハ其ノ獸皮ハ之ヲ帝國内ニ輸入又ハ移致スルコトヲ得ス但シ命令ヲ以テ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　海軍艦艇乗組將校、警察官吏、港務官吏、稅關官吏其ノ他特ニ命令ヲ受ケタル官吏ハ必要アリト認ムルトキハ船舶店舗其ノ他ノ場所ニ臨檢シ、帳簿物件ヲ檢査シ又ハ本法ニ違反スル行爲アリト認ムルトキハ船舶船具獵具船籍證書若ハ獵獲物ヲ差押ヘ、船員ヲ抑留シ若ハ之ヲ相當官吏ニ引致スルコトヲ得

第五條　第一條ノ規定ニ違反シ又ハ私ニ第二條ノ獵獲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ犯罪若ハ其ノ準備ノ爲土地家屋船舶其ノ他ノ物件ヲ使用シ若ハ使用セシメタル者又ハ第三條ノ規定ニ違反シタル者ハ罰前項ニ同シ

第六條　前條第一項ノ犯罪行爲ニ供シタル船舶船具獵具及本法ニ違反シテ獵獲檢入又ハ移致シタル獵虎獵鹿獵獸又ハ其ノ獸皮ニシテ犯人ノ所有スルモノハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價格ヲ追徵ス

第七條　第四條ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

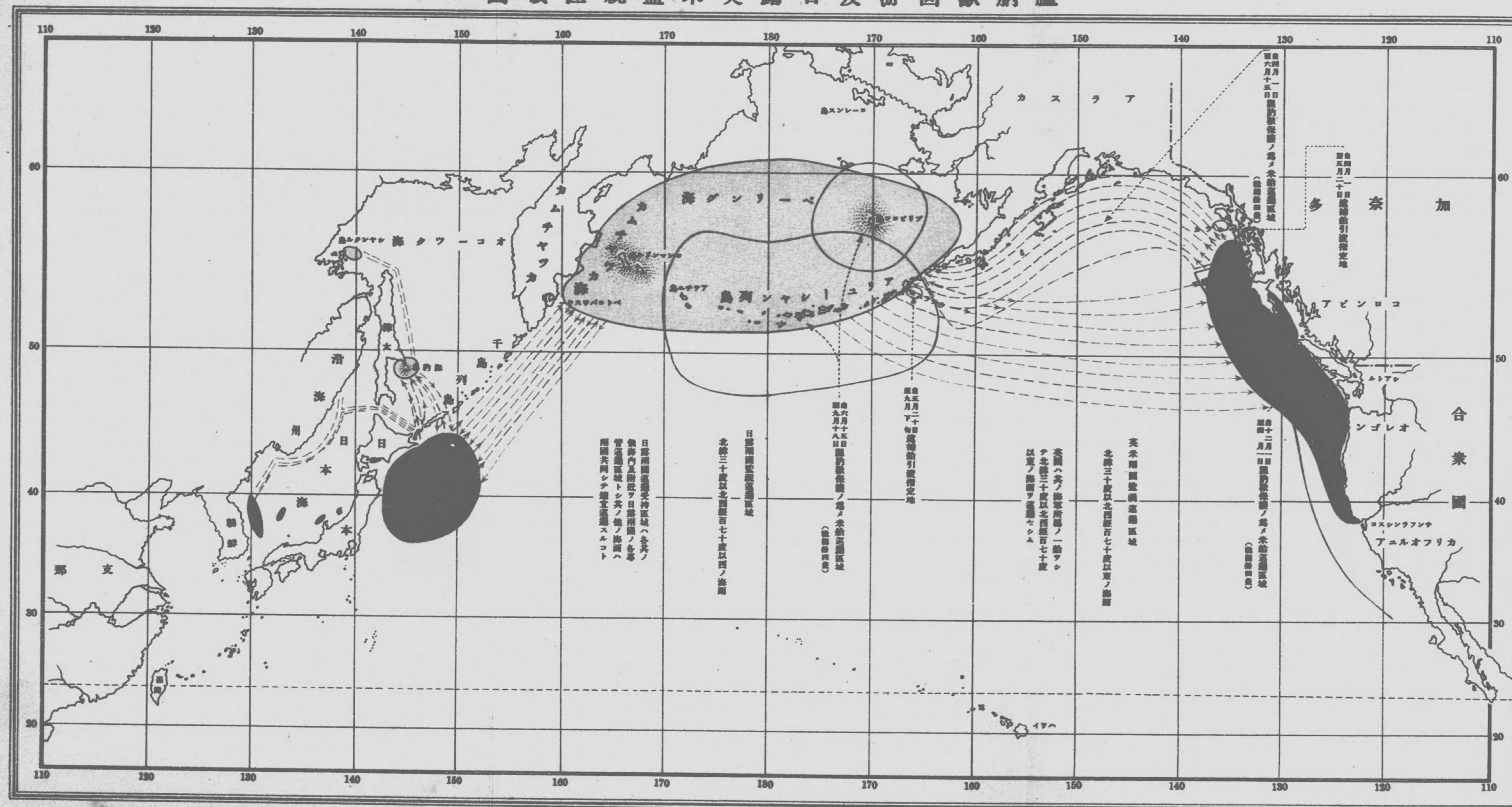
第八條　本法ハ命令ノ定ムル所ニ依リ「アイノ」人ニ之ヲ適用セサルコトヲ得

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

獵虎獵鹿獵獸獵法ハ之ヲ廢止ス

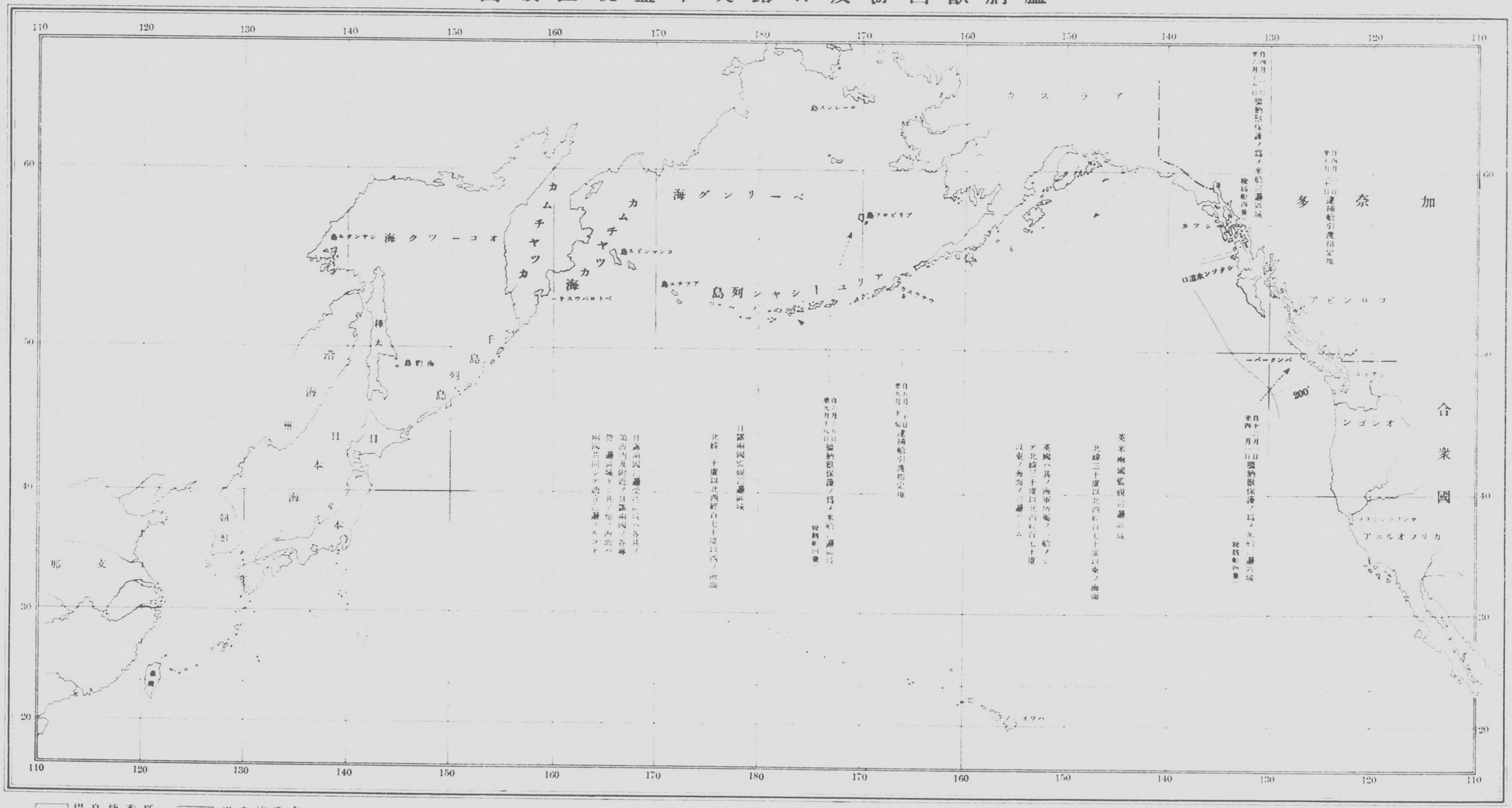
膃肭獸回游及日露英米監視區域圖



夏季棲息場　　冬季棲息場　　此線以北ニ於テハ棲息セズ

北上游路　　南下游路　　境界線

膃肭獸回游及日露英米監視區域圖



夏季棲息場　北上游路

冬季棲息場　南下游路

此線以北ニ於テハ棲息セズ

境界線

●無海岸國ノ船旗ニ關スル權利ヲ承認スル宣言書

大正十三年二月二十日
條約第二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大正十年四月二十日西班牙國「バルセロナ」ニ於テ帝國全權委員カ關係各國全權委員ト共ニ署名シタル無海岸國ノ船旗ニ關スル權利ヲ承認スル宣言書ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理、外務大臣副署）

正當ノ委任ヲ受ケタル下名ハ其ノ代表スル國カ海岸ヲ有セサル國ノ船舶ニシテ其ノ版圖內ノ或一定ノ地ニ於テ登錄セラレタルモノノ揭揚スル國旗ヲ承認スルコトヲ宣言ス其ノ地ハ之ヲ其ノ船舶ノ船籍港ト看做ス

千九百二十一年四月二十日「バルセロナ」ニ於テ本書一通ヲ作成シ英吉利語及佛蘭西語ノ本文ヲ以テ正文トス

（各國全權委員署名省略）

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕大正十年四月二十日西班牙國「バルセロナ」ニ於テ帝國全權委員カ關係各國全權委員ト共ニ署名シタル無海岸國ノ船旗ニ關スル權利ヲ承認スル宣言書ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百八十三年大正十二年十二月二十四日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

攝政名

外務大臣　男爵　伊集院彥吉

●佛蘭西、瑞典、諾威及丁抹國中立規則

大正二年八月十九日
官房第二二六三號

佛蘭西、瑞典、諾威及丁抹國中立規則制定方ノ件ニ付別紙ノ通外務大臣ヨリ移牒ニ接セリ此旨心得ヘシ

（別紙）

大正二年三月一日送第五一號（外務大臣ヨリ海軍大臣宛）

佛蘭西、瑞典、諾威及丁抹國中立規則制定方通知ノ件移牒

佛蘭西、瑞典、諾威及丁抹ノ四箇國ハ過般其ノ港及領水ニ於ケル交戰軍艦ノ取扱ニ關シ新ニ法規ヲ制定發布シ一九〇七年海牙ニ於テ締結セル海戰ノ場合ニ於ケル中立國ノ權利義務ニ關スル條約第二十七條ニ從ヒ該法令ヲ和蘭政府ニ送付シタル趣ヲ以テ今般本國政府ノ訓令ニ基キ

在本邦和蘭國公使ヨリ右法令寫ヲ添ヘ帝國政府ニ移牒致越候條此段及御通報候也

海戰ノ場合ニ於ケル中立規定ヲ定ムルノ勅令

（千九百十二年十月十八日附）

佛國大統領ハ

佛國ノ港、泊地及領海ニ於テ海戰ノ場合ニ於ケル中立國ノ權利義務ニ關スル第十三海牙條約第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十九條及第二十三條ヲ實施スル爲

海戰ノ場合ニ於ケル中立國ノ權利義務ニ關スル千九百七年十月十八日附第十三海牙條約ヲ佛國ニ於テ實施スルコトニ關スル千九百十年十二月二日附勅令ニ鑑ミ

內閣議長外務大臣及海軍大臣ノ提案ニ依リ

左ノ通布告ス

第一條　兩國間ニ戰爭アルニ當リ佛蘭西共和國政府ニ於テ局外中立ヲ守ルヘキコトヲ決シタル場合ニハ共和國ニ屬シ又ハ其ノ管轄ノ下ニ在ル港、泊地、領海ノ全區域內ニ於テ左ノ規定ヲ適用スヘキモノトス

第二條　千九百七年十月十八日附第十三海牙條約ノ規定ヲ實施スル爲ニ

佛國領海ハ一切ノ沿岸及之ニ屬スル露出堆ニ沿ヒ並潛沒シタル堆ノ限界ヲ定ムル定置立標ノ周圍ニ於テ低潮線ヨリ六海里（一萬千百十一「メートル」）ニ至ル限界內ニ及フモノトス灣ニ付テハ十一「キロメートル」ノ區域ハ灣口ニ最モ近キ部ニ於テ其ノ入口六海里ヲ超ヘサル最初ノ地點ヨリ灣ヲ橫リテ引キタル直線ヨリ起算ス佛國ノ沿岸又ハ堆ヨリ外國ノ沿岸又ハ堆ノ最近ノ地點ニ至ル距離二十二「キロメートル」ニ達セサルトキハ佛國領海ハ兩國沿岸又ハ堆間ノ中央迄トス

第三條　交戰國軍艦即チ戰艦、巡洋戰艦、保護巡洋艦、武裝運送船又ハ偵察艦ニシテ同時ニ佛國ノ一港又ハ一泊地ニ在ルコトヲ得ヘキ最大隻數ハ四隻トス

第四條　前條ノ外尙驅逐艇、艇艇、驅逐艦、水雷艇及潛水艇ハ其ノ固有編制ニ依リ編隊ノ儘入港スルコトヲ得但シ其ノ數ハ十二隻ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條　交戰國軍艦ハ專ラ宗教博愛又ハ學術上ノ任務ニ從事スルモノヲ除クノ外佛國ノ港、泊地又ハ領海內ニ七十二時間以上滯留スルコトヲ得ス右期間中ニハ燃料ヲ搭載スル前ニ當リテ買入ノ手續ヲ行フ爲又ハ供給者ト談判スル爲必要ナル時間ヲ包含スルモノトス

第六條　共和國政府ニ於テ戰鬪開始ノ通知ヲ受ケタル後又ハ戰鬪狀態カ一般ニ知レ渡リタル後ニ於テ交戰國軍艦佛國ノ港又ハ泊地又ハ領

〔海軍〕

海內ニ在ルトキハ同軍艦ニ對シテ右通知ノ時ヨリ起算シテ七十二時間ノ期間內ニ出港スヘキコトヲ通告スヘシ

第七條　交戰國軍艦ハ破損ノ爲海上ノ狀態ニ因ル場合ヲ除クノ外法定期間以上共和國ノ港ニ於ケル碇泊ヲ延長スルコトヲ得ス同軍艦ハ遲延ノ原因止ムトキハ直ニ出港スヘシ

第八條　交戰國艦艇ハ其ノ平時ニ於ケル通常搭載量ヲ補充スル場合ニ限リ糧食及消耗物件ヲ搭載スルヲ得燃料ニ關シテハ交戰國艦艇ハ其ノ燃料艙ノ全容量ヲ補充スルコトヲ許サルヘシ

第九條　交戰國艦艇ハ公許水先人ヲ使用スルコトヲ許サルヘシ

第十條　捕獲セラレタル船舶ハ其ノ護送セラルルト否トヲ問ハス國際捕獲審檢所檢定アル迄之ヲ拘留スル爲引致セラレタルトキハ佛國ノ港及泊地ニ入ルコトヲ許サルヘシ

第十一條　外務大臣及海軍大臣ハ各自其ノ所管事務ニ關シテ本令實施ノ責ヲ負フ

宣言

瑞典、丁抹及諾威政府ハ海牙ニ於テ調印セラレタル條約ノ條項ニ適合スル同樣ノ中立規則ヲ定ムル爲協議ヲ開始シ關係三國政府ニ依リ各別ニ制定セラレタル別紙規定ノ條項カ之ヲ證スル如ク一切ノ主要ナル點ニ付テ一致ヲ得タルヲ以テ且幸ニ現存スル一致ハ等シク將來ニ於テモ之ヲ保持スルノ重要ナルコトヲ眞實ニ考慮シ三國政府ノ執レニ於テモ該件ニ就キ意見ノ交換ヲ爲シ得ル爲メ成ル可ク速ニ他ノ兩政府ニ豫告シタル後ニアラサレハ其ノ採用シタル規則ニ變更ヲ加ヘサルヘキコトヲ協定セリ

右證トシテ之カ爲各其ノ政府ヨリ正式ノ委任ヲ受ケタル下名ハ本宣言書ニ記名調印セリ

千九百十二年十二月二十一日ストツクホルムニ於テ本書三通ヲ作ル

アルバルト、エルレンスウアルド

オー、セー、スカヴニウス

ブランショルスト

瑞典

千九百十二年十二月二十日附勅令ヲ以テ定メラレタル中立規則

第一章

交戰國軍艦ハ王國ノ港、泊地及其ノ他ノ領水ニ入ルコトヲ得但シ此許可ハ次ノ例外、制限及條件ニ從フヘキモノトス

第一節　(イ)交戰國軍艦ハ軍港ト告示セラレタル港及泊地ニ入ルコトヲ得ス

(ロ)交戰國軍艦ハ敷設水雷又ハ其ノ他ノ防禦手段ニ依リ港口ヲ閉鎖セラレタル內水ニ入ルコトヲ禁ス

〔海軍〕

(ハ)國王ハ交戰者雙方ニ對シテ均等ノ條件ヲ以テ特別ノ場合ノ爲メ又王國ノ主權及ヒ其ノ中立ノ維持ヲ保護スル爲メ其ノ他ノ瑞典國ノ港及泊地又ハ其ノ他ノ瑞典國內水ノ一定ノ水域ニ入ルヲ禁スルコトヲ留保ス

本號前號及ヒ下記第六節(イ)號ニ規定スル內水トハ港、港口、泊地、灣竝島嶼小島及連續的ニ水中ニ沒セサル岩礁ノ間又ハ其ノ以內ニ在ル水面ヲ包含ス海峽ニ於テハ港及ヒ港口ニ限リ內水中ニ包含スト認ムヘキモノトス

(ニ)國王ハ王國當該官憲ノ定メタル規則及命令ヲ遵守スルコトヲ怠リ又ハ王國ノ中立ヲ侵害シタル交戰國軍艦ニ對シ王國ノ港及泊地ニ入ルヲ禁スルコトヲ留保ス

第二節　(イ)交戰國軍艦ハ王國ノ主權ヲ尊重シ且其ノ中立ニ違反スルニ至ルヘキ一切ノ行爲ヲ避クルコトヲ要ス

(ロ)王國領水ニ於テハ中立船舶ニ對スルト敵國國旗ヲ揭揚スル船舶ニ對スルトヲ問ハス捕獲及臨檢搜索權ノ行使其ノ他一切ノ敵對行爲ヲ行フコトヲ嚴禁ス船舶カ王國領水ニ於テ捕獲セラレタルトキハ右捕獲セラレタル船舶ハ其ノ職員及載貨ト共ニ之ヲ解放スヘシ

第三節　交戰國軍艦及其ノ捕獲シタル船舶カ單ニ王國領水ヲ通過スルコトハ此等艦船ノ該領水ニ入ルヲ許サレタル程度ニ限リ許可セラルヽモノトス(上記第一節參照)

第四節　(イ)交戰國軍艦ハ破損ノ爲若ハ海上ノ狀態ニ因ル場合又ハ次ノ(ハ)號及(ニ)號ノ規定ニ基ク場合ヲ除クノ外二十四時間以上王國ノ港、泊地又ハ其ノ他ノ泊水ニ碇泊スルコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ右軍艦ハ遲延ノ原因止ムトキハ直ニ出發スヘキモノトス碇泊ノ制限ニ關スル規定ハ專ラ宗教學術博愛ノ任務ヲ有スル軍艦及軍用病院船ニ之ヲ適用セス

(ロ)王國ノ港又ハ泊地ノ一ニ同時ニ滯在シ得ヘキ各交戰國ノ軍艦ノ數ハ三隻ヲ超ユルコトヲ得ス

(ハ)交戰國雙方ノ軍艦カ同時ニ王國ノ港又ハ泊地ノ一ニ在ルトキハ一方ノ交戰國軍艦ノ出港ト他方ノ軍艦ノ出港トノ間ニ少クモ二十四時間ヲ經過セシムルコトヲ要ス出發ノ順序ハ到著ノ順序ニ依テ之ヲ定ム但シ最初到著シタル軍艦ニシテ碇泊ノ期間ノ延長ヲ許可セラルヽ場合ニハ此ノ限ニ在ラス

(ニ)交戰國軍艦ハ其ノ對手國ノ國旗ヲ揭クル商船カ王國ノ港又ハ泊地ヲ出發シタル後二十四時間內ニ出發スルコトヲ得ス時宜ニ依リ地方官憲ハ軍艦ノ碇泊期間ヲ延長スルノ必要ヲ避クル爲商船ノ出發期ヲ左右スルコトニ努ムヘキモノトス

第五節　(イ)交戰國軍艦ハ王國ノ港及泊地ニ於テ航海ノ安全ニ缺クヘカラサル程度以上ニ其ノ破損ヲ修理シ且如何ナル方法ニ依ルヲ問ハス其ノ戰鬪力ヲ增加スル事ヲ得ス王國官憲ハ實行スヘキ修理ノ範圍ヲ定メ爲シ得ル限リ速ニ之ヲ行ハシムヘシ

(ロ)交戰國軍艦ハ其ノ軍需品又ハ武裝ヲ更新又ハ增加スル爲及其ノ艦員ヲ補充スル爲王國ノ港、泊地及領水ヲ使用スルコトヲ得ス

(ハ)交戰國軍艦ハ平時ニ於ケル軍需品ノ通常搭載量ヲ補充スル場合ニ限リ王國ノ港又ハ泊地ニ於テ其ノ積入ヲ爲スコトヲ得

(ニ)交戰國軍艦ハ王國ノ港及泊地ニ於テ軍艦ノ液體燃料貯藏槽其ノ他固有ノ燃料艙ノ全容積ヲ補充スルニ必要ナル程度ニ限リ燃料ヲ積入ルルコトヲ得交戰國軍艦ニシテ王國ノ港又ハ泊地ノ一ニ於テ燃料ヲ積入レタルモノハ三月ヲ經過スルニ非レハ王國ノ港及泊地ニ於テ再ヒ其ノ積入ヲ爲スコトヲ得ス

第六節　(イ)交戰國軍艦ハ瑞典國內水ニ於テハ平時軍艦ノ遵守シ又ハ遵守スヘキモノト同一ノ規定ニ依リ王國ノ公許水先人ヲ使用セサルヘカラス然レトモ其ノ他ノ場合ニ於テハ海難ニ際シ緊急ナル海上ノ危險ヲ免ルル爲ノ外該水先人ヲ使用スルコトヲ得ス

(ロ)交戰國軍艦ハ王國ノ衞生、水先、稅關、港務及警察ニ關スル諸規則ヲ遵守尊重セサルヘカラス

第二章

私掠船ハ王國ノ港、泊地及其ノ他ノ領水ニ入ルコトヲ得ス

第三章

第一節　捕獲シタル船舶ハ航海ノ不能海上ノ險惡又ハ燃料若ハ糧食ノ缺乏ノ事由ニ因ルニ非サレハ之ヲ王國ノ港及泊地ニ引致スルコトヲ得ス捕獲シタル船舶ニシテ右事由ノ一ニ因リ王國ノ港及泊地ニ引致セラレタルモノハ其ノ事由止ミタルトキハ直ニ出發スルモノトス

第二節　交戰者ハ王國ノ領土內又ハ其ノ領水ニ在ル船舶內ニ捕獲審檢所ヲ設クルコトヲ得ス又捕獲シタル船舶ヲ王國ノ港又ハ泊地ノ一ニ於テ賣却スルコトヲ得ス

第四章

第一節　交戰者ハ王國ノ港及領水ヲ以テ敵ニ對スル海軍作戰根據地ト爲スコトヲ得ス

交戰者ハ殊ニ無線電信局又ハ陸上若ハ海上ニ於ケル交戰國兵力トノ通信ノ用ニ供スヘキ一切ノ器械ヲ王國ノ領土內又ハ領水ニ設置スルコトヲ得ス

第二節　交戰者ハ王國ノ領土內又ハ其ノ領水ニ在ル船舶內ニ燃料貯藏所ヲ設クルコトヲ得ス

第三節　王國ト平和關係ヲ有スル國ニ對シ巡邏ノ用ニ供シ又ハ敵對行爲ニ加ルヘキ一切ノ船舶ハ王國ノ管轄內ニ於テ之ヲ艤裝又ハ武裝スルコトヲ得ス又巡邏ノ用ニ供シ又ハ敵對行爲ニ加ルヘキ船舶ニシテ王國ノ管轄內ニ於テ全部又ハ一部戰爭ノ用途ニ適合セシメタルモノ

ハ總テ其ノ管轄外ニ出發スルコトヲ得ス

諾威

千九百十二年十二月十八日附勅令ヲ以テ定メラレタル中立規則

第一章

交戰國軍艦ハ王國ノ港、泊地及其ノ他ノ領水ニ入ルコトヲ得但シ此ノ許可ハ次ノ例外、制限及條件ニ從フヘキモノトス

第一節　(イ)交戰國軍艦ハ軍港ト告示セラレタル港及泊地ニ入ルコトヲ得ス

(ロ)交戰國軍艦ハ敷設水雷又ハ其ノ他ノ防禦手段ニ依リ港口ヲ閉鎖セラレタル內水ニ入ルコトヲ禁ス

(ハ)國王ハ交戰者雙方ニ對シテ均等ノ條件ヲ以テ特別ノ場合ノ爲又王國ノ主權及其ノ中立ノ維持ヲ保護スル爲其ノ他ノ諾威國ノ港及泊地又ハ其ノ他ノ諾威國內水ノ一定ノ水域ニ入ルヲ禁スルコトヲ留保ス

內水トハ港、港口、泊地及灣ノ外島嶼、小島又ハ連續的ニ水中ニ沒セサル岩礁ノ間又ハ其ノ以內ニ在ル領水ヲ包含ス

(ニ)國王ハ王國當該官憲ノ定メタル規則及命令ヲ遵守スルコトヲ怠リ又ハ王國ノ中立ヲ侵害シタル交戰國軍艦ニ對シ王國ノ港及泊地ニ入ルヲ禁スルコトヲ留保ス

第二節　(イ)交戰國軍艦ハ王國ノ主權ヲ尊重シ且其ノ中立ニ違反スルニ至ルヘキ一切ノ行爲ヲ避クルコトヲ要ス

(ロ)王國領水ニ於テ中立船舶ニ對スルト敵國國旗ヲ揭揚スル船舶ニ對スルトヲ問ハス捕獲及臨檢搜索權ヲ行使スルコト其ノ他一切ノ敵對行爲ヲ行フコトヲ嚴禁ス船舶カ王國領水ニ於テ捕獲セラレタルトキハ右捕獲セラレタル船舶ハ其ノ職員船員及貨ト共ニ之ヲ解放スヘシ

第三節　交戰國軍艦及其ノ捕獲シタル船舶カ單ニ王國領水ヲ通過スルコトハ當該艦船ノ該領水ニ入ルヲ許サレタル程度ニ限リ許可セラルルモノトス(上記第一節參照)

第四節　(イ)交戰國軍艦ハ破損ノ爲若ハ海上ノ狀態ニ因ル場合又ハ次ノ(ハ)號及(ニ)號ノ規定ニ基ク場合ヲ除クノ外二十四時間以上王國ノ港、泊地又ハ其ノ他ノ領水ニ碇泊スルコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ右軍艦ハ遲延ノ原因止ムトキハ直ニ出發スヘキモノトス碇泊ノ制限ニ關スル規定ハ專ラ宗教學術博愛ノ任務ヲ有スル軍艦及軍用病院船ニ之ヲ適用セス

(ロ)王國ノ港又ハ泊地ノ一ニ同時ニ滯在シ得ヘキ各交戰國ノ軍艦ノ數ハ三隻ヲ超ユルコトヲ得ス

(ハ)交戰國雙方ノ軍艦カ同時ニ王國ノ港又ハ泊地ノ一ニ在ルトキハ一方ノ交戰國軍艦ノ出港ト他方ノ軍艦ノ出港トノ間ニ少クモ二十四時間ヲ經過セシムルコトヲ要ス出發ノ順序ハ到著ノ順序ニ依テ之ヲ定ム但シ最初到著シタル軍艦ニシテ碇泊ノ期間ノ延長ヲ許可セラルル場合ニハ此ノ限ニ在ラス

(ニ)交戰國軍艦ハ其ノ對手國ノ國旗ヲ揭クル商船カ王國ノ港又ハ泊地ヲ出發シタル後二十四時間內ニ出發スルコトヲ得ス時宜ニ依リテ地方官憲ハ軍艦ノ碇泊ノ期間ヲ延長スルノ必要ヲ避クル爲商船ノ出發期ヲ左右スルコトニ努ムヘキモノトス

第五節　(イ)交戰國軍艦ハ王國ノ港及泊地ニ於テ航海ノ安全ニ缺クヘカラサル程度以上ニ其ノ破損ヲ修理シ且如何ナル方法ニ依ルヲ問ハス其戰鬪力ヲ增加スル事ヲ得ス王國官憲ハ實行スヘキ修理ノ範圍ヲ定メ爲シ得ル限リ速ニ之ヲ行ハシムヘシ

(ロ)交戰國軍艦ハ其ノ軍需品又ハ武裝ヲ更新又ハ增加スル爲及其ノ艦員ヲ補充スル爲王國ノ港、泊地及領水ヲ使用スルコトヲ得ス

(ハ)交戰國軍艦ハ平時ニ於ケル軍需品ノ通常搭載量ヲ補充スル場合ニ限リ王國ノ港又ハ泊地ニ於テ其ノ積入ヲ爲スコトヲ得

(ニ)交戰國軍艦ハ王國ノ港及泊地ニ於テ軍艦ノ液體燃料貯藏槽(タンク)其ノ他固有ノ燃料給ノ全容積ヲ補充スルニ必要ナル程度ニ限リ燃料ヲ積入ルコトヲ得交戰國軍艦ニシテ王國ノ港又ハ泊地ノ一ニ於テ燃料ヲ積入レタルモノハ三月ヲ經過スルニ非サレハ王國ノ港及泊地ニ於テ再ヒ其ノ積入ヲ爲スコトヲ得ス

第六節　(イ)交戰國軍艦ハ港及泊地ノ出入ニ際シテハ王國ノ公許水先人ヲ使用スルコトヲ要ス然レトモ其ノ他ノ場合ニハ海難ニ際シ緊急ナル海上ノ危險ヲ免ルル爲ノ外該水先人ヲ使用スルコトヲ得ス

(ロ)交戰國軍艦ハ王國ノ衞生、水先、稅關、港務及警察ニ關スル諸規則ヲ遵守尊重セサルヘカラス

第二章

私掠船ハ王國ノ港、泊地及其ノ他ノ領水ニ入ルコトヲ得ス

第三章

第一節　捕獲シタル船舶ハ航海ノ不能、海上ノ險惡又ハ燃料若ハ糧食ノ缺乏ノ事由ニ因ルニ非サレハ之ヲ王國ノ港及泊地ニ引致スルコトヲ得ス捕獲シタル船舶ニシテ右事由ノ一ニ由リ王國ノ港及泊地ニ引致セラレタルモノハ其ノ事由止ミタルトキハ直ニ出發スヘキモノトス

第二節　交戰者ハ王國ノ領土內又ハ其ノ領水ニ在ル船舶內ニ捕獲審檢所ヲ設クルコトヲ得ス捕獲シタル船舶ヲ王國ノ港又ハ泊地ノ一ニ於テ竇却スルコトヲ得ス

第四章

第一節　交戰者ハ王國ノ港及領水ヲ以テ敵ニ對スル海軍作戰根據地ト爲スコトヲ得ス

交戰者ハ殊ニ無線電信局又ハ陸上若ハ海上ニ於ケル交戰國兵力トノ通信ノ用ニ供スヘキ一切ノ器械ヲ王國ノ領土內又ハ領水ニ設置

【海軍】

スルコトヲ得ス

第二節　交戰者ハ王國ノ領土內又ハ其ノ領水ニ在ル船舶內ニ燃料貯藏所ヲ設クルコトヲ得ス

第三節　王國ノ平和關係ヲ有スル國ニ對シ巡邏ノ用ニ供シ又ハ敵對行爲ニ加ルヘキ一切ノ船舶ハ王國ノ管轄內ニ於テ之ヲ艤裝又ハ武裝スルコトヲ得ス又巡邏ノ用ニ供シ又ハ敵對行爲ニ加ルヘキ船舶ニシテ其ノ管轄ニ於テ全部又ハ一部戰爭ノ用途ニ適合セシメタルモノハ總テ其ノ管轄外ニ出發スルコトヲ得ス

丁　抹

千九百十二年十二月二十日附勅令ヲ以テ定メラレタル中立規則

第一章

交戰國軍艦ハ王國ノ港、泊地及其ノ他ノ領水ニ入ルコトヲ得但シ此ノ許可ハ次ノ例外制限及條件ニ從フヘキモノトス

第一節　(イ)交戰國軍艦ハ「コッペンハーゲン」港及泊地ニ入ルコトヲ得ス

(ロ)交戰國軍艦ハ敷設水雷又ハ其ノ他ノ防禦手段ニ依リ港口ヲ閉鎖セラレタル內水ニ入ルコトヲ禁ス

(ハ)王國ハ交戰者雙方ニ對シテ均等ノ條件ヲ以テ特別ノ場合ノ爲又王國ノ主權及其ノ中立ノ維持ヲ保護スル爲其ノ他ノ丁抹國ノ港及泊地又ハ其ノ他ノ丁抹國內水ノ一定ノ水域ニ入ルヲ禁スルコトヲ留保ス

(ニ)國王ハ王國當該官憲ノ定メタル規則及命令ヲ遵守スルコトヲ怠リ又ハ王國ノ中立ヲ侵害シタル交戰國軍艦ニ對シ王國ノ港及泊地ニ入ルヲ禁スルコトヲ留保ス

第二節　(イ)交戰國軍艦ハ王國ノ主權ヲ尊重且其ノ中立ニ違反スルニ至ルヘキ一切ノ行爲ヲ避クルコトヲ要ス

(ロ)王國領水ニ於テハ中立船舶ニ對スルト敵國國旗ヲ揭揚スル船舶ニ對スルトヲ問ハス捕獲及臨檢搜索權ノ行使其ノ他一切ノ敵對行爲ヲ行フコトヲ嚴禁ス船舶カ王國領水ニ於テ捕獲セラレタルトキハ右捕獲セラレタル船舶ハ其ノ職員船員及載貨ト共ニ之ヲ解放スヘシ

第三節　交戰國軍艦及其ノ捕獲シタル船舶カ單ニ王國領水ヲ通過スルコトハ此等艦船ノ該領水ニ入ルヲ許サレタル程度ニ限リ許可セラルルモノトス(上記第一節參照)

第四節　(イ)交戰國軍艦ハ破損ノ爲若ハ海上ノ狀態ニ因ル場合又ハ次ノ

【海軍】

保ス

內水トハ港、港口、泊地、灣ノ外島嶼小島及連續的ノ水中ニ沒セサル岩礁ノ間又ハ其ノ以內ニ在ル水面ヲ包含ス北海ト接續的海トノ間ニ於ケル自然的航路ヲ形成スル Kattegat, Sund 及大小 Belt ノ丁抹領水內ニ於テハ港及港口ニ限リ內水中ニ包含スト認ムヘキモノトス

(ハ)號及(ニ)號ノ規定ニ基ク場合ヲ除ク外二十四時間以上王國ノ港、泊地又ハ其ノ他ノ領水ニ碇泊スルコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ右軍艦ハ遲延ノ原因止ムトキハ直ニ出發スヘキモノトス碇泊ノ制限ニ關スル規定ハ專ラ宗教學術博愛ノ任務ヲ有スル軍艦及軍用病院船ニ之ヲ適用セス

(ロ)王國ノ港又ハ泊地ノ一ニ同時ニ滯在シ得ヘキ各交戰國ノ軍艦ノ數ハ三隻ヲ超ユルコトヲ得ス

(ハ)交戰國雙方ノ軍艦カ同時ニ王國ノ港又ハ泊地ノ一ニ在ルトキハ一方ノ交戰國軍艦ノ出港ト他方ノ軍艦ノ出港トノ間ニ少クモ二十四時間ヲ經過セシムルコトヲ要ス出發ノ順序ハ到著ノ順序ニ依テ之ヲ定ム但シ最初到著シタル軍艦ニシテ碇泊ノ期間ノ延長ヲ許可セラルル場合ニハ此ノ限ニ在ラス

(ニ)交戰國軍艦ハ其ノ對手國ノ國旗ヲ揭クル商船カ王國ノ港又ハ泊地ヲ出發シタル後二十四時間內ニ出發スルコトヲ得ス時宜ニ依リ地方官憲ハ軍艦ノ碇泊期間ヲ延長スルノ必要ヲ避クル爲商船ノ出發期ヲ左右スルコトニ努ムヘキモノトス

第五節　(イ)交戰國軍艦ハ王國ノ港及泊地ニ於テ航海ノ安全ニ缺クヘカラサル程度以上ニ其ノ破損ヲ修理シ且如何ナル方法ニ依ルヲ問ハス其ノ戰鬪力ヲ增加スルコトヲ得ス王國官憲ハ實行スヘキ修理ノ範圍ヲ定メ爲シ得ル限リ速ニ之ヲ行ハシムヘシ

(ロ)交戰國軍艦ハ其ノ軍需品又ハ武裝ヲ更新又ハ增加スル爲及其ノ艦員ヲ補充スル爲王國ノ港泊地及領水ヲ使用スルコトヲ得ス

(ハ)交戰國軍艦ハ平時ニ於ケル軍需品ノ通常搭載量ヲ補充スル場合ニ限リ王國ノ港又ハ泊地ニ於テ其ノ積入ヲ爲スコトヲ得

(ニ)交戰國軍艦ハ王國ノ港及泊地ニ於テ軍艦ノ液體燃料貯藏槽其ノ他固有ノ燃料艙ノ全容積ヲ補充スルニ必要ナル程度ニ限リ燃料ヲ積入ルルコトヲ得交戰國軍艦ニシテ王國ノ港又ハ泊地ノ一ニ於テ燃料ヲ積入レタルモノハ三月ヲ經過スルニ非サレハ王國ノ港及泊地ニ於テ再ヒ其ノ積入ヲ爲スコトヲ得ス

第六節　(イ)交戰國軍艦ハ丁抹國內水ニ於テハ平時軍艦ノ遵守シ又ハ遵守スヘキモノト同一ノ規定ニ依リ王國ノ公許水先人ヲ使用セサルヘカラス然レトモ其ノ他ノ場合ニ於テハ海難ニ際シ緊急ナル海上ノ危險ヲ免ルル爲ノ外該水先人ヲ使用スルコトヲ得ス

(ロ)交戰國軍艦ハ王國ノ衞生、水先、稅關、港務及警察ニ關スル諸規則ヲ遵守尊重セサルヘカラス

第二章

私掠船ハ王國ノ港、泊地及其ノ他ノ領水ニ入ルコトヲ得ス

第三章

第一節　捕獲シタル船舶ハ航海ノ不能、海上ノ險惡又ハ燃料若ハ糧食ノ缺乏ノ事由ニ因ルニ非サレハ之ヲ王國ノ港及泊地ニ引致スルコ

【海軍】